

て、羽張秀吉が柴田勝家を破った戦。  
しずかねうじ(志津兼氏)(名)「人」吉刀  
の名工。正宗四下首の一人。坊名包氏。大和國に  
住した後、美濃國多郡志津村に移る。よつて志津三  
郎と稱した。信長、愛刀・清正の十字槍等は兼氏の  
作といふ。興暦五年(一〇〇四)没。年六十七。

しずく(溜)(名)水のしたたり。点滴。一も  
「ずくま(溜)」。ゆゆま。しずくも  
しずく(溜)(動)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずく(溜)(名)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずく(溜)(名)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずく(溜)(名)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずく(溜)(名)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずく(溜)(名)水(自動、カ四)水中に洗んだ  
物が透りて見える。水が下つて見える。(古語)  
しずく(溜)(名)「平合(平合)」。自動、ハ  
四)雪が落ちあふ。露が滴りあふ。(古語)  
しずく(溜)(名)文字を集め立てること。  
又その物。

しずかーしせど  
システム(System)(名)組立。組織。②系統。

シストマ(Sistoma)(名)「動吸虫類の一。人  
牛馬羊などの肝臓又は脾臓などに寄生し、病源を  
なす。雌雄二口鼻。雌雄同體で、腸と腸壁の區別  
がない。體は扁平で、木葉狀。舌状をなすもの多く、  
小さな圓狀・圓盤狀を呈する。大きなものは一〇個位、  
小さなものは十分の一程度。體の前端と腹面に各一箇  
の吸盤を有し、寄生生活を營む。サストマ。

しずと(溜)(名)「動鳥(鳥)」。動はとととす。(古語)  
しずな(溜)(指)馬を繋ぐ綱。(古語)  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。  
しずぬ(溜)(名)「倭文幣(幣)」。倭文につくたぬき。

しずまき(溜)(倭文纏)(名)倭文でまとつたこ  
と。又、その物。(古語)  
しずます(溜)(爲)濟す(他動サ四)しと  
げな。なし送ける。なし果す。なし終る。(古語)  
しずまつ(溜)(間)月(名)陰曆五月の異稱。  
しずまり(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。  
しずまる(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

(名)「土堤防又は海岸の修築に用ひる材。長さ二米  
位の太い丸木を四隅に柱木として立て、之に貫木を  
挿み、小材を櫓の如く並べ、底部にも小材を敷設し、  
その中に圓石を填めて水中に沈下するもの。  
しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

しずめ(溜)(鏝)返る(自動ラ四)甚だし  
くである。鏝  
返る(自動ラ四)甚だし  
くである。

命富貴作(天とある)人の生死は天命で、人力ではどうするこゝろもない。

しせい(氏姓)名 せいに(姓氏)。  
しせい(四姓)名 四家の名族。●源氏平氏藤原氏橘氏。源平藤橘の四種姓の素姓。一のつづかい(四姓使)名 中古以後、伊勢神宮へ遣はされた奉幣使の稱。王氏の五位以上の人を平定して使す。即ち正使と、之中臣(中臣忌部)下(下)部の三姓の人を隨從させたり。

しせい(四聲)名 文漢字の韻の四種別で、平聲上聲去聲入聲をいふ。平聲に屬する文字を平字と上入に屬する文字を仄字と稱し併せて平仄(ひだ)と呼ぶ。又、平字書で、□又は○の内の向かって左下隅に●又は○を打つて上平の符號とし左上隅のは上右隅のは去、右下隅のは入と定めて。下平には符號を用ひない。又詩では、白韻を以て平字を示し、黒韻を以て仄字を示す。四聲の存在が意識せられたのは、簡の「釋義志」に始まるといふ。

しせい(四聲詩)名 文 全句悉く平聲を用ひた平聲詩と平聲と上聲とを隔句に用ひた平上聲詩と平聲と去聲とを隔句に用ひた平去聲詩と、平聲と入聲とを隔句に用ひた平入聲詩との稱。

しせい(市井)名 (支那の)上代に、井又は井田のある所に、人が集居したから、人家の集まるところ。まち。いち。一の臣句(孟)子の萬章下篇に出づ市井の人民。市井の俗人。

しせい(市政)名 自治團體の市の行政。  
しせい(市制)名 自治團體の市の組織機關權限等に関する規則。明治二十一年發布。

しせい(施政)名 政治の施行。  
しせい(資性)名 生まれつき。天性。  
しせい(詩聖)名 傑出した詩人。詩仙。  
しせい(熾盛)名 大勢の強いこと。●氣勢の盛んなること。

しせい(姿勢)名 からだのさま。からだつき。  
しせい(私生)名 夫婦でない男女の間に生まれること。私通して子を産むこと。一し(私生子)

(名) ●夫婦でない男女間に生まれた子。てたなしこと。●法(法律)上、夫でない男女間に生まれて子が、その父の認知を得ないで、母方の戸籍に編入せられるもの。父の認知を得れば庶子となる。  
しせい(私生兒)名 せいに。一しは(私生兒保護)名(法)私生子の虐待を防止する施設及び制度。即ち母子の乗容救護父親の捜索、養子及び里子取締、戸籍登錄、母親年金法相續權の認知等。

しせい(私製)名 私人の製作。一は(私製業書)名 私人の製作發行する郵便業書。其の寸方紙質は、政府發行のものに標準とし、之を發送するには、政府發行のものと同額の郵便切手を貼附せねばならぬ。

しせい(紙製)名 紙を原料として製作したもの。  
しせい(試製)名 試みに製作すること。  
しせい(稟盛)名 稟(稟は素稟)盛は器に盛る意)神に供へる穀物。供物。

しせい(至正)名 極めて正しいこと。少しも邪曲なきこと。  
しせい(至性)名 至て善良な性質。  
しせい(至聖)名 この上もなく智慧のすぐれたこと。又、その人。

しせい(至精)名 至て精しいこと。●粹なきこと。  
しせい(至靜)名 至て靜かなこと。  
しせい(至純)名 至て純潔なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。  
しせい(至誠)名 至て誠なること。

しせい(辭世)名 此の世を辭すこと。死ぬこと。●死ぬ際(際)に遺す詩歌のこと。絶命の辭。  
しせい(自製)名 自己の感情や欲望を抑制すること。一しん(自制心)名 自制しようとする心。一りりよく(自制力)名 自制する力。自制し得る力。「止」のてづくり。せい。

しせい(自製)名 自ら製すること。自らつくこと。●人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(磁性)名 理(Magnetic)磁石に吸引せられる性質。又は鐵片を吸引する性質。一ざんか(磁性酸化鐵)名(化)Magnetite(oxide of iron)鐵の酸化鐵。鐵を酸素で熱するが、赤熱せる鐵屑に水蒸氣を通ずる時に生ずる黒色物で磁性を有するもの。天然には鐵鐵として存在する。一ざん磁性體)名(理)磁性體の如く、すべて磁氣的作用を受け、磁性をあらはす物體。

しせい(辭世)名 此の世を辭すこと。死ぬこと。●死ぬ際(際)に遺す詩歌のこと。絶命の辭。  
しせい(自製)名 自己の感情や欲望を抑制すること。一しん(自制心)名 自制しようとする心。一りりよく(自制力)名 自制する力。自制し得る力。「止」のてづくり。せい。

しせい(自製)名 自ら製すること。自らつくこと。●人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。

しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。  
しせい(自生)名 人為によらず自然に生ずること。









しそこのうち(名) (損) (為損) (他動、ハ)

しそす(古語) (為損) (他動、サ) (變) しそす

しそつ(古語) (為損) (他動、サ) (變) しそつ

しそむ(古語) (為損) (他動、マ) (下) しそむ

しそめ(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

しそり(為初) (名) (は) (はじめ) (て) (は) (じめ) (江)

りとして取る。物品。まき。まへ。一夫。①用

の行列が、庶民に土下座を促した掛巻土下座。諸侯

も又下座に居よとの意。一に違る(句) 物を

買ふ時、代價の一部に充てる為、不用品を拂渡さ

す。一に居る(句) うづくまる。ひざまづく。土下座

にする。一へも置かず(句) 嚴重に取扱って下

座にも置かない。一行く水(句) 物に飲はれた下

座に流れる水。一結ぶ紐(句) したひも下紐。

した(五) ①動物の口腔の下端にある肉質

の扁平長楕圓形の器官。人類のは運動自在で咀嚼し

又は言語を調節し味覚を掌る。横紋筋。粘腺組織

から成る。②とは。言語。一がまはる(句) 舌

どみくしる。一長し(句) 多辯である(句) おし

べりである。一の剣は命を絶つ(句) 口から

出た言葉でも身を滅ぼし、又、腹を、人の滅ぼせ

かに。一延ぶ(句) 舌長し。一は禍の根(句)

(老子に「舌禍之門」とあるに基き、禍は多く言

語から起るものである。一も引かず(句) まだ

言ひ終らない。一柔かなり(句) 言葉の達者な

ことな。一を喰ふ(句) 舌を増ふ切つて死

ぬ。一を出す(句) ①除でさふる。②一枚に使

ふ(句) 言葉を重んず。前後のあはれない。若しくは

相手次第で異なる言葉を發する。一を羅す

(句) 大いに驚くまに。いふ。一を捧ふ(句) 驚き

怖れるふ。①驚き怖れる。一を巻く(句) 驚き

怖れる。②心中で待つ。した(心) (名) 心。心底。一に待つ(句)

した(簧) (名) 音(舌の意) 簧。簧。簧などの吹

奏楽器の管中に装置する薄片。簧のは多く銅製

で作り、簧葉は簧で製し、その一端を固定し、他端

を遊離せしめて自由に振動するやうにしたもの。吹

けば、鼓動して音を發する。した(菌菜) (名) 種

手菌類の植物の總稱。葉は

多く地下にあり、葉は概れ羽狀複葉。子葉は葉菜に生

じ胞子を産する。①うしろ(裏)

白。一がさ白(菌菜飾) (名) 新年に、菓白を七五三に挿入

として飾ること。一かわは(菌菜草) (名) 聖地に

聖地に聖菜の葉の形を白く染めた花。したが

は、白く染めた花。とき。一を延

じた(自己) (名) 自分と他人と。我と人と。①

徳自力と他力も。②あれとこれと。③(文法) 自動

詞と他動詞と。じた(耳采) (名) ①みみたぶ。②ウメ。

一に觸る

したあご(下唇) (名) 下部のあご。上唇の對)

と上唇とのぶつかり放題(句) 口の動く

したい(四體) (名) ①頭。脚。手足。即ち全身。②

文佛句の四種別。即ち雅體。野體。俗體。鄙體。

苦諦集諦。滅諦。道諦の併稱。人は苦の果報に就

て生れたこと。集は苦果を集めた過去の煩惱の感

業。滅は迷ひの苦果を滅した果。道は滅度の因たる

正道。戒・定・慧の三學を修めること。したい(肢體) (名)

身體の四肢。即ち手足。④四肢と五體。即ち手足と身體。

したい(施體) (名) 身體の上に施し行ふこと。一

のけい(死體刑) (名) 身體刑。したい(死體屍體) (名) 身體刑。

けんあん(死體檢案) (名) 法醫師の治療を受

けて死したる死體に就て、致死の原因正

確死等の區別を検査する。したい(死胎) (名) 死した胎兒。

したい(詩體) (名) 詩の體裁。

したい(詞態) (名) すがた。かたち。

したい(文態) (名) 文章での思想の表現法。

したい(枝隊) (名) 本隊から分派せられた部隊。

したい(四大) (名) 佛の萬物生成の根源たる

地水火風。①人の身體。地水・火・風から成立す

るから。②老子の第二十五章に「道大天大、地

四大、地・水・火・風の四因は、空に歸す(句) (假に形を成せる

四大即ち人の身體が、もとの空に歸する意形が消

えてなくなる。死て。一本來空(句) 地水・火・風

の四大は因縁によつて成つてくるのだが、その本

體は空である。したい(進退) (名) ①しんたいの略。(古語)

したい(去) (名) 極めて去ること。

したい(詩題) (名) 詩の題。作詩の題材。

したい(次第) (名) ①土・事情のならび。ついで

順序。②手つづき。由來。③事情。④能て、役者が

舞臺に現れて、出場の由來を述べる時又は始めに、

特別の舞の始め。⑤する時に諸七五の文句。

⑥能て由來を述べる役者が舞臺に現れる時の大鼓

小鼓の鳴り。⑦おくり(次第笠) (名) 順おくり。

順次に或物のめぐり来ること。一がき(次

第書) (名) 由來若しくは順序を書いた文書。一

がら(次第柄) (名) なりゆき。わけがら。一

がら(次第食) (名) 順次門前に物を乞ひあ

るくじき(次第乞食) (名) 昔、祭の次第

を掌て道の往來・行列などを定めたり。又、儀式な

どの時身分などの次第を亂れぬやうに掌たり人。又

行等々に路次の行列の次第を掌たり人。一し(次

第紙) (名) 一種の厚紙。奈良縣の産。一し(次

第) (名) 次第の第一。一し(次) (名) だんだん

に。一だか(次第高) (名) 経價格などに順

に高くなる行くこと。一だな(次第期) (名) 床

間書院などの脇に用ひる一種の欄。一な(次第

名) ①兄弟の順序を追うて附けた。太郎次郎

三郎の類。一に(次第に) (副) 階段に。順次に。

おひにおに。順を追う。一はばき(次第脛巾)

(名) 昔、下駄の者の用ひた脛巾。一ふどう(次

第不同) (名) 順序の正しくないこと。一し(次

第) (名) 接尾。①事のなりゆきに任せる意

①。●事の終るや否やの意の時「成就」。

じたい【自體】(名) 自分の中から。それ自身そのもの。

じたい【辭退】(名) へりくだっていなむこと。とわくを避けること。辭して身をひくこと。

じたい【時態】(名) 時勢の状態。

じたい【事態】(名) 事柄のありさま。事の體裁。事の次第。

じたい【字體】(名) 文字のかたち。字畫のありさま。●文字のかけ方。楷書・行書・草書等。

じたい【地體】(名) 副もとより。本来。根本から。

じたい【自體】(名) 副もとより。「たい。元來。じたい【自大】(名) 自ら尊大にほりたがふこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。●じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

じたい【時代】(名) 多き。●現代。●現代。●時を以て古色又はまがひつたこと。

南風潮と相違してゐること。一まきえ。一「時代時繪」(名) 古色の生じた時繪。一「まつり」(時代祭) (名) 神宮に奉進する毎年十二月二十二日の舉行で、明治二十八年の創始。歴代時代の盛時から明治維新までの各時代の風俗の變遷を示す行列。概れ第一組維新勤王隊山國隊、第二組豊公參列の弓筋組、第三組徳川城使上洛列、第四組豊公參列の第五組織田公上洛列、第六組楠公上洛列、第七組城内流鏝馬、第八組原直文官參列、第九組延暦武官參列、第十組延暦文官參列の順序で、神樂の前驅をなす。一「時代の對」(名) 多くの時代を経たもの。古物。●昔の歴史上の事柄を仕組んだ院本又は淨瑠璃。(世昔の對) 一「もうやう」(時代模倣) (名) 昔行はれた模倣。一「もうやう」(時代渡) (名) 古くわつて来たもの。古渡り。一「魔兒」(句) 時代に適合した事業をなし大成功を収めた人。

じだい【事大】(名) 孟子の梁の惠王爵に「惟智者能及小事大」とある。爾小のものが、強大なものに従ひ事へること。一「しゆき」(事大主義) (名) 一定の主義を有せず、勢力の強大なものに附隨して、自己の存立を維持する主義。一「とうり」(事大黨) (名) 事大主義を奉ずる黨派。

じだい【地代】(名) 地代「四大」の一。水・火・風と共に、萬物を構成するといふ元素。

じだい【地主】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

じだい【地代】(名) 借地料。ぢらふ。●「地」(名) 土地に拂ふ借りたもの。●「地」(名) 土地所有者。●「地」(名) 土地所有者。

が代表的ものである。

しだいあん【施耐庵】(名) 支那元の武林の作家。水滸傳の作者と稱せられる。

しだいかい【四大海】(名) 佛須彌山の四方にあるといふ海。

しだいきしよ【四大奇書】(名) 支那の小説。曲中・水滸傳・三國演義・西遊記を指す。●「四大奇書」(名) 支那の小説。曲中・水滸傳・三國演義・西遊記を指す。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

しだい【四大師】(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。●「四大師」(名) 佛。

仕事の全部又は一部をその人から請負ふこと。

したうち【舌打】(名) 舌を上顎にあててはじき鳴らすこと。物を玩味する時又は思ひのままにならぬ時などに用ひる。したづつみ。くちづつみ。

したち【舌打】(名) 舌を上顎にあててはじき鳴らすこと。物を玩味する時又は思ひのままにならぬ時などに用ひる。したづつみ。くちづつみ。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。

したえ【下枝】(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。●「したえ」(名) した。









したぶとところ(下懐)(名)うちぶとと。
したぶり(舌振)(名)ものいひさま。(古語)
したぶるい(舌振)(名)驚き怖れて舌を振らすこと。

したべ(下方下邊)(名)よみじ(黄泉)。
したほう(うけ)は(下延ぶ)(自動)八下(二)下に延ぶ。心が其の方に傾く。心の中に深く戀し思ふ。(古語)

したま(地册)(名)その土地に産する卵。
したま(下前)(名)衣服の前を合はせて着る時その下に穿く方(うは前の對)

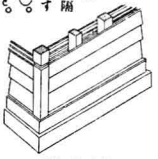
したま(下町)(名)低い所にある町。東京市では淺草、下谷、神田、日本橋、京橋、芝、深川、本所等の稱。(山手の對)
したま(下町)(名)低い所にある町。東京市では淺草、下谷、神田、日本橋、京橋、芝、深川、本所等の稱。(山手の對)

したまつ(心待つ)(他動)夕四(心)の事を掌るなり。地位低く拙い役者。いなりまら。
したま(下)(名)心待つ。心待つに待つ。(古語)

したみ(酒)(名)したむこと。したみさけ。
したみ(酒)(名)酒。拵(なぐさ)をたからしたつて濁った酒。したみ。

したみ(下見)(名)家の外部の壁を敵に横板張りで、各板が少しく重なりあつて取附けたもの。その上に薄い板を之と直角に半米乃至一米の間隔に堅に打つておさへとする。したみやみ(下見)。

したみ(下見板)(名)下見に張つた板。
したみ(下身)(名)組上に置いた魚肉の、組に接したみ。



(見下)

した片側。(うは名の對)
したみ(地溜)(名)金銀粉を貯けたり漆を塗ること。一ふて(地溜筆)(名)地溜に用ひる筆。
したみ(古短盤)(名)足を掛ける所の普通より短い盤。(古長盤の對)「ゆく水。したみずり(下水)(名)物の下を流れる水。したみだれ(下流)(名)心の中で思ひみだれる。物のながれ。したみち(下道)(名)山がけ木かげ花かげなどしたむ(む)の(溜む)溜む(他動)四(液)なしたらす。しつを残りなくたす。水など布帛に浸込ませて拭取る。したむき(下向)(名)下方向に向ふこと。衰退に赴くこと。軽物價の下落に向ふこと。したむす(下結)(名)下方で結ぶこと。又、その結び方。

したむせ(下明)(名)或物の下でむせぶこと。
しため(下目)(名)下方を見る目つき。(うは目の對)他人を侮て見ること。みさけること。蔑視。に見る(句)みさける。軽んずる。あなどる。したも(下裳)(名)女の衣の下に着る裳(古語)したも(湯盆)(名)ゆも(湯盆)したも(下想)(名)したも(略)古したも(下萌)(名)地中から芽さすこと。「語したも(下燃)(名)舌が自由に動かぬ爲に、舌のさわやかならぬこと。したもの(下物)(名)下等で安値なもの。したも(下紅葉)(名)下葉のみちりしたも(下)地中から萌え出る。したも(下)下葉のみちりしたも(下)地中から萌え出る。したも(下)下葉のみちりしたも(下)地中から萌え出る。

したや(下家)(名)母屋(ま)に屬する小さな家。
したや(下谷)(名)地(東京市下町の一區)
したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に

したや(下谷)一番(名)江戸時代の頼山陽にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷にちばさん三人合一番(一)一番いのは下谷に











を擔保して取つて、金銀の貸附をして、利子の収益を目的とする營業をいふ。

しちやかまし (七喧し) (形、二) 「やまし」を強めていふ。口語。

しち (形) しちやかまし。口語。

しち (七) (名) 藤原支那の戦國時代に於ける秦楚燕齊趙魏韓魏の七國。今川義元・武田信玄・上杉謙信・北條氏康・豊臣秀吉の稱。

しちゆう (四) (名) (書籍の周官篇に出づ) 仲春・仲夏・仲秋。

しちゆう (市) (名) 市のうち。まちなか。

しちゆう (死) (名) 死地にあること。一に活を求む (句) (後漢書宋本傳の句) 死なうとする程の處合に臨た時、生るべき方法を求める。一に生を求む (句) (晋書呂光載記の句) 同上。

しちゆう (仔) (名) (動) 昆蟲が孵化して、また成蟲に變態しない間の稱。まなき(稱)。

しちゆう (支) (名) (柱) まさへる柱。つかひばしら。つばしら。一いこん(支柱根) (名) (植) 地上草が、生じた不平根の一種。伸長下階して土中にへり、主幹の支柱となる。「たのき」紅樹類に有するもの。

しちゆう (四) (名) (造) しちゆう(つくり) (造) 一「うくり」 (四) 造 (名) (建) 屋根の形式の一名

しちゆう (至) (名) (極) 極めて惡義な。しちゆう (至) (名) 西洋料理の名。牛肉・豚肉・雞肉等、々々其の他の香辛料を加へ、刻入た馬鈴薯・胡蘿蔔・玉葱等を入れたる火で煮詰めたもの。

しちゆう (次) (名) 第二位の忠義。至極の忠義と稱し難し。

しちゆう (自) (名) (自注) (名) 自分で書き加へた註

しちゆう (時) (名) (兼中) 自分で書き加へた註の官名。秦の時に丞相の屬官であつたが、漢に至つて



(造注四)

天子の乘輿・服飾を掌り、又、禁外に出て事あれば召されし官となり、後漢には、學識・德行ある儒臣で、天子の諮詢に與る職となり、南北朝には宰相の實權を握る官となつたが、宋代には死後贈官となり、後、廢官となり、名稱もなくなつた。

しちゆう (寺) (名) (佛) 寺院の中。寺内。大寺の總門の中にある配下の寺。たつちやう(塔頭)。

しちゆう (始) (名) (始) 始中終(名) 副ははじめとながらなはらひ、はじめからなり。

しちゆう (七) (名) (日) 月と火・水・木・金・土の五に基つて、之を各自に配當し、八日毎に循環復歸すると定めたに據る。一週七日の毎日に七曜を土曜の名稱、即ち日曜・月曜・火曜・水曜・木曜・金曜・土曜の稱。一しち (七曜星) (名) 七曜の星。

しち (七) (名) (星) 七曜星(名) 七曜の星。一れき(七階層) (名) 七曜の位置を記載した天文上の曆書。元日の節會に中務省の陰陽寮をして奏せられたもの。

しち (紙) (名) (紙) 紙製の紋帳。

しち (使) (名) (使) 檢非違使の略。(古語)

しち (支) (名) (支) 本屬に屬し、本屬と分離した地に於いて、事務を執る所。派出の役所。

しち (市) (名) (市) 役所。

しち (視) (名) (視) みること。

しち (弛) (名) (弛) ゆゆるむとはると。一ねしち (弛) (名) (弛) みること。

しち (市) (名) (市) まちのこと。

しち (市) (名) (市) 長官の下の高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (市) (名) (市) 長官の下にある高官の長。次席の職名。

しち (寺) (名) (佛) 寺院より官廳に上る文書。又は寺と寺の間に取交す文書。

しち (持) (名) (持) 輕くしふるまはぬこと。大事をとつて動かぬ。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。

しち (市) (名) (市) 市町村(名) 市と町村と。









行裁判所(名) ①法強制執行機関の一たる裁判所である。②執行をなす地の區裁判所之に當る。③しよん(執行處分) ④法(法)令の定める所により執行する行政處分。⑤強制執行の處分。⑥執行停止 ⑦法(法)強制執行の全部に付き、執行機關との進行を停止すること。⑧執行期間(名) ①法行政處分の違由を強制する目的でその處分に遵はる場合に官廳の課する期その罰は財産利で、二十五日以上の過料とする。將來を強制する性質のもので、既往の法違反の行為を課する刑法上刑罰とは其の趣を異にする。②は外國判決(執行判決) ③法強制執行に關する外圍判決。④は仲裁判斷を我が國の裁判所が違法なりと認め其の執行を許可する判決。⑤ふん(執行文) ⑥法(法)強制執行の爲に原告某又は被告某又は原告某に對し強制執行の爲に原告某又は被告某に付與しと附記する。⑦めいれい(執行命令) ⑧法(法)法を執行する爲に必要事項を規定する目的で發する命令。執行命令。施行令。⑨裁判所が支拂命令に附する假執行の命令。⑩ゆうよ(執行猶豫) ⑪法(法)二年以上の懲役又は禁錮の有罪判決を受け、管て禁錮以上の刑に處せられたるものないに就いて、一定の期間(一年以上五年以下)刑の執行を猶豫し、その猶豫期間を事故なく経過した時は、判決の效力を失はせ、罪刑共に消滅させること。⑫りよく(執行力) ⑬(名)法強制執行をなし得る效力。⑭(名)強制執行の手を持つ。⑮(名)天蓋がたれた下った綱を手に持つ。⑯(名)し。⑰(名)ぬし。漆匠。⑱(名)うるしぬりの職人。ぬりも。⑲(名)實効(名)實際の效力。又は效能。⑳ばりき(實効馬力) ㉑(名)理(理)Effective Horse Power(仕事)使用馬力。⑳(名)正味の馬力。㉒(名)實行(名)實際に行ふこと。實施。⑳(名)計畫着手を経て、その目的の犯罪を實際に施行した所爲。例へば殺人犯で、刀を振上げたまでは

實行に至らないが、刀を振下りて切りつけたのは實行である。㉓(名)きようり(實行教) ㉔(名)は(實行)は實行の意(意)神道一派。戰國時代の末長谷川角行の創唱といふ。造化の三神即ち天御中主神・高皇產靈神・神皇產靈神を主神とし、富士山を崇拜し、團體の無利を祈り、惟神(唯神)の道を章明するを教旨とする。本部を東京市牛込區東五軒町に置き、分屬二百餘箇所を諸國に置く。⑳ういか(實行行爲) ㉕(名)法或勢力を具體的に實現する一切の行為。刑法では罪となるべき事を行ふ意思を外部に實現させる行為をいふ。㉖(名)ちゆうしん(實行中止犯) ㉗(名)法犯罪の實行後、他よりの障礙に基づき、犯人自ら犯罪の結果を生ずることを妨げたもの。例へば人に毒藥を服用させた後、自ら毒殺の意思を中止して其の人に解毒劑を服用させた場合の類。㉘(名)みすりはん(實行未遂犯) ㉙(名)法犯罪は實行したが、他からの障礙の爲に遂行し得ざりしもの。㉚(名)ま(實行豫算) ㉛(名)政(政)施行豫算の範圍内、政府が實際その年度に進行すべき目的で作成する豫算。衆議院の解散等によつて豫算不成立の場合には前年度の豫算を踏襲し、それを施行豫算といふ。㉜(名)しうこう(十講) ㉝(名)佛(佛)ほつじ(法華)十講。⑳(名)講釋(法華の對)しうこう(實講) ㉞(名)滑稽味のなまいじめな(實功) ㉟(名)實際の功力。實際、實効。㊱(名)くわく(桎梏) ㊲(名)佛(佛)眞實に善惡の業果を得ること。又その色。㊳(名)くわく(桎梏) ㊴(名)漆のやうに黒くして光澤あること。又その色。㊵(名)しうく(漆黒) ㊶(名)歴五代(九〇七—九六〇)の時、支那の北漢・西漢及び南齊に興じられた十國、即ち北漢・南漢・南齊・梁・陳・南梁・南陳、外輪山鞍山から伊豆・相模の分水界を南に下り、熱海町に至る山道。眺望の美を以て知られる。十石峠。

しうごさ(名) しつこいこと。又その程度。しうごし(尻脛) ㊷(名)おしとほす意氣。忍耐の根氣。(東京地方の方言)しうごし(形) ㊸(名)濃厚である。あつまりしてゐない。ついでしてゐる。㊹(名)うるさい。⑳(名)執念(名)深い。執拗である。㉑(名)芝居で、善良・悪賢などに扮しなすこと。(ゆれごとくどきの對) ㉒(名)眞剣な感。㉓(名)實事師(名)芝居で事實に扮する俳優。又事實上巧みな俳優。㉔(名)へい(漆胡瓶) ㉕(名)洋風瓶型の漆器。酒の容器に用ひられたもの。㉖(名)たしこと。㉗(名)佛(佛)金剛佛。㉘(名)しうご(實査) ㉙(名)實地について検査すること。㉚(名)しうさ(漆料) ㉛(名)エタール。又はタロワ解性の藥品をアルコール、エタールに水に不溶解ルム等の溶液に加へた製劑。コージュム・トラウマチ・ソールモゲン等はこれに屬するもので、難眼・肝腫瘍等の皮膚病の治療藥。㉜(名)しうさ(質劑) ㉝(名)支那古代の磁通手形で、官が之を發行し、交易の際賣主から買主に與へる取引の證左。㉞(名)しうさい(實際) ㉟(名)まことの場合。㊱(名)まことの有様。まこと。事實。㊲(名)佛(佛)眞如實際の理性。㊳(名)ちんぎん(實際實銀) ㊴(名)購買し得る生活資料の量。㊵(名)一ふうた(實際風袋) ㊶(名)Realist。貨物の總重量中から差引くべき包装物の總量。即ち相袋・袋等の實際の重量。㊷(名)じい(實際地) ㊸(名)佛(佛)眞如の境界。㊹(名)じい(實在) ㊺(名)實(實)Realty) ㊻(名)思惟せられ得るもの。思惟せられ得るのみならず、吾人の思惟認識を離れて存在するもの、即ち主觀以

外に存在するもの。㊼(名)精神の對象たる自然、又は現實。客觀的存在。㊽(名)常性不變、生滅變化のない實體。㊾(名)せい(實在性) ㊿(名)實(實)Realty) ㊽(名)より獨立して存在する觀念性に對し、之の存在。㊾(名)らん(實在論) ㊿(名)實(實)Realty) ㊽(名)觀念論が、認識が存在を可能とせると解説するに對して存在、又は實在が認識を可能とせると解説する論議。實在の解釋によつて、業科の實在論科學的實在論の實在論哲學的實在論等の種別を生ずる。㊿(名)實念論。㊽(名)しうざ(十才子) ㊿(名)支那明代の十人の詩仙。洪武永樂間では、周元鄭定・王傑・唐泰・高禪・王孫・陳亮・王傑(王傑)・林鴻・黃元。弘治・正徳年間では、李夢陽(李夢陽)・何景明・徐禎禎・邊貢・朱應登・顧璘・陳沂(顧璘)・康海・王九思。㊾(名)しうさい(十作) ㊿(名)室町時代初期・中期の名高い能面工十人。日光彌助・夜叉・文藏・龍右衛門・赤鷲・日本・越智・小牛・徳者。㊿(名)しうし(嫉視) ㊿(名)にくんでみること。㊿(名)しうし(執事) ㊿(名)向に當て事務を執行すること。貴人の左右侍して事を執行するもの。㊿(名)天皇の朝に召された内務所別當に次いだ職。㊿(名)司・攝關家で事務を執たもの。㊿(名)武家時代の間注所の長官。又、政所の次官。室町幕府の政所の長官。㊿(名)鎌倉時代の執權の異稱。㊿(名)室町幕府の管領の前稱。㊿(名)若年寄の異稱。㊿(名)貴人の家で家事を扱ふ傭人。

(Ombudsman) 基君故で、敬官の職務を分擔する者。一  
 だい「執事代」(名) 鎌倉幕府の職名。執事に事故  
 ある時、代理を勤めたもの。一べつとう「執事別當」(名) 門跡に仕へた家司の長。「執事」  
 しつじ「執事」(名) とりもつこと。まゐる。しつじ  
 しつじ「執事」(名) 實人を直接に指すこと。懐  
 てい貴人に対する敬稱。  
 しつじ「自己」(名) 自分の生んだ子。まことの子。  
 しつじ「實子」(名) 實子。實の子。  
 しつじ「實地」(名) 實地に施行すること。  
 しつじ「十死」(名) 生きるべき見込なくはめ  
 て危いこと。しつじ「しび」一び「十死日」(名)  
 陰陽道で、遠禱・建禱・申問にむむしといふ日。正  
 四・七十の四箇月は酉の日、二五・八十一の四箇月  
 は巳の日、三六・九十二の四箇月は丑の日といふ。  
 しつじ「十指」(名) 十本の指。又、衆人の指。  
 しつじ「日時」(名) 日と時。「女のみびき」  
 しつじ「實事」(名) まことのこと。事實。①男  
 しつじ「實字」(名) 形象ある物を指示する漢字。  
 天地山川草木の字の類。作詩上、詩歌  
 (五字句では第三字、七字句では第五字) には多く實  
 字を用ひる。(李卓峰等の虚字の對)  
 しつじ「しつし」(名) 十死一生(名) 到底  
 生くべき見込のないこと。一のひ「十死一生」  
 大目(名) 陰陽道で、出生して生還すべき見込のない  
 大目(名) 一日、即ち小月の十日。「電」

實質とした法令。刑法・民法・商法の類。  
 しつじ「實實」(名) 實際でいつはりない  
 さま。①備へ又は防禦あること。  
 しつじ「實質」(名) 實質を基とする。法  
 しつじ「一けんぼう」(名) 實質的憲法の類。  
 統治権の主體と作用とに關する原則を定めた  
 憲法。  
 しつじ「實者」(名) 佛權化でない本體のまま  
 しつじ「實寫」(名) 實實況を高異や活動寫眞  
 につしとすること。一えいが「實寫映畫」  
 (名) 創的要素を含み、風俗習慣・風景・ニュース等  
 の實況を寫した活動寫眞の映畫。目的によつて教化  
 映畫・ニュース映畫・學術映畫等に分類す。  
 しつじ「十種」(名) 十種類。十の種類。一きよ  
 うき「十種競技」(名) Decathlon) 走幅  
 跳・走高橋・棒高橋・砲丸投・圓盤投・槍投・マール  
 百米競走・四百米競走・千五百米競走の十種を二日に  
 わけて一人やるクワリド競技。一こうが  
 しつじ「十種香」(名) じしゅうこう(十種香)。  
 十種類香。  
 しつじ「實收」(名) 實收の收入。總收入中か  
 ら營業費・雜費などを差引いた殘餘の收入。「こと  
 しつじ「實習」(名) 實地について學び習ふ  
 しつじ「十宗」(名) 佛敎教派。俱舍(きそ)成  
 實(じやう)律法相(りつぽう)三論(さんろん)天台(たいたい)眞言  
 淨土の十宗派。  
 しつじ「十種供養」(名) 佛  
 華・瓔珞・抹香・塗香・燻香・幡蓋・衣服・伎樂・合掌  
 を以て諸佛を奉養すること。一のおんきよう  
 しつじ「十種供養御經」(名) 佛法華經。法華經  
 を寫し終ると、十種供養をす。  
 しつじ「しむつ」(名) 蠶繭(まゆ)ほきき。  
 しつじ「濕潤」(名) しめり。うるほひ。「かき」  
 しつじ「深沍」(名) うるして書いたもの。うるし  
 しつじ「疾徐」(名) とくとおそくと。緩急。疾  
 行と徐行。  
 しつじ「漆匠」(名) 漆塗の職人。ぬしや。

しつじ「失失」(名) なかまに堪へないで  
 受了す笑ひ出すこと。ふきだすこと。  
 しつじ「實正」(名) まこと。實際。まち  
 がひない。  
 しつじ「實性」(名) 實際的性質。ほんた  
 しつじ「實證」(名) たしかな證據。確證。  
 ①實證。一ろん「實證論」(名) 實證論。Roby  
 認する一切の形而上學を斥け、經驗的事實のみを承  
 認する。②「康徳」の創始した哲學で、實證は  
 現實・有用・確實の意とする。コントは「吾人は現實  
 の本質を認識するを得ず、ただ觀察と實驗によつて  
 現象間の關係を知り得るのみ。哲學はこれ等の知  
 識を統一組織するものなり」と主張した。  
 しつじ「實情」(名) まことの心。まご  
 しつじ「室女宮」(名) 十二宮  
 の第六位。獅子宮と天秤宮との中間にある。なとめ  
 しつじ「失職」(名) 職業又は官職に離れる  
 こと。失業。①職務上の失職。一ぼけん「失職  
 保險」(名) 失職の際に支給する労働者の窮迫を  
 救済する爲に、定額の金員を支給する目的の保險。  
 しつじ「失書」(名) 失書症。  
 しつじ「失神」(名) 正氣を失ふこと。  
 さけひ。驚心。①驚風(おどろけ)急激な精神感  
 動・恐怖・驚愕等の爲、又は外傷打撃により、反射的  
 に腦血管を來し、一時的に意識の障礙を起すこと。  
 しつじ「濕疹」(名) 皮膚病。皮膚表面の炎  
 症。發生部位は頭部・顔面・身體の屈側部で、症候は  
 發赤・腫脹・灼熱・痒癢を伴ひ、種粒位の微細な小腫  
 起を無數に發生し、頂點は小水泡又は小膿疱に變じ、  
 之を摩擦・掻痒すれば、漿液・膿汁を漏らし、患部が濕  
 潤する。濕疹の名は、これよつて起すこと。  
 しつじ「買人」(名) 支那周代の市場官。  
 しつじ「十進法」(名) 數或位の数  
 の十倍をその上位の一として累進する法。一十百

千萬の類。  
 しつじ「失す」(名) 他動。サ變。うすな  
 しつじ「叱す」(名) 他動。サ變。うする。  
 しつじ「執す」(名) 他動。サ變。深く心  
 につかす。執着する。①執す。②も。  
 しつじ「實數」(名) 數目(Real number) 有理數  
 と無理數との總稱(虚數の對)。「隔地」  
 しつじ「地積」(名) 土地の連續してあるこ  
 しつじ「實畫」(名) 實意のあらん限りを盡  
 くすこと。  
 しつじ「執政」(名) 執政務を執る。又、  
 その職。又、その人。「江戸時代の老中及び諸侯の  
 家老」  
 しつじ「失政」(名) 政治の方法をなまること。  
 しつじ「叱正」(名) 詩文の謬誤を讀み時の謙稱。  
 しつじ「叱責」(名) 日と星と。にせ。しかり  
 とがめること。  
 しつじ「失跡」(名) あとがたのなくなる。行  
 しつじ「實蹟」(名) たしかな形跡。  
 しつじ「實積」(名) まことの功績又は事績。  
 しつじ「實積」(名) 實地の坪數。正味の面積。  
 しつじ「實證」(名) まことの語。虚言ならぬ。  
 しつじ「十刹」(名) 佛敎經宗で、五山に次ぐ十  
 大寺。佛地四年、足利尊氏の時、淨智寺・龍興寺・東勝  
 寺・萬壽寺(以上鎌倉)・聖福寺(室町)・萬壽寺・真如  
 寺・安國寺(以上京都)・長樂寺(上野)・萬壽寺(豐後)  
 と定め、又、應永二年、足利義満の時、禪興寺・東勝寺  
 寺・萬壽寺(以上鎌倉)・聖持寺・真如寺・安國寺  
 (以上京都)・聖福寺(室町)・長樂寺(上野)・萬壽寺  
 (河内)と變更したが、定しなかつた。又、京都や關東に  
 も十刹があつた。  
 しつじ「實戰」(名) 實際の戰爭。(演習の對)  
 しつじ「實線」(名) 實線(直線)の對。  
 しつじ「實法」(名) 實地に履行すること。行爲  
 にあらはし出すこと。一きゆうこう「實





七十四。戯作「除霊両方吉事件」「海中箱入娘」、洒落本「美少女南巫」等の著者がある。  
**しつちん**〔繕字〕(名)「しちん」の訛。  
**しつちん**〔失墜〕(名)おとすと。失ふこと。①むだな費用。浪費。②なく(句)忘れず。あやまらなく。

**しつちう**〔疾病〕(名)なやみやみじむこと。

**しつちう**〔十手〕(名)江戸時代に、捕吏の携帯する器具。長さ一尺五寸餘の鐵棒、手元近くに鉤があり、柄に鐵釘を垂れ、その色に紫、朱、黒等の區別を設けて、捕吏の所管を明らかにし、又、犯罪者を捕縛する時を以て刃を抜き、打擊を加へた。



〔つ〕

**しつてい**〔實體〕(名)じつちう(實直)。  
**しつてい**〔十哲〕(名)哲は智の意。○孔子門下の十人の高弟、即ち顔回・閔子騫・冉伯牛・仲弓・宰我・子貢・冉有・季路(子路)・子游・子夏。○舊魚門下の十人の高弟、即ち榎本其角・服部嵐雪・森川許六・向井去來・各務孝・内藤文享・立花北枝・河合曾良・志田野坡・越智入。

**しつてん**〔質點〕(名)理(Material Point) 力学に於いて、物の運動を論ずるに當つて、物體間の距離が、物體の大きさに比して非常に大なる場合に、大きさをたゞ質量のみを有するものと假定する。その質量の中心に集合した點を質點といふ。故に天體力學、太陽系の力学を論ずる場合に、太陽及び諸惑星を質點として、軌道週期を計算する。

**しつてん**〔質典〕(名)しちいれ(質入)。  
**しつてん**〔失點〕(名)缺點。おちつた。

**しつてん**〔濕田〕(名)地勢上又は排水不良の爲に常に水過多に出る地。

**しつてん**〔電氣〕(名)理「電體を用ひる電池から起る電氣」(「ちてんは」とう)。

**しつちん**〔七頭八倒〕(名)しつちんは

**しつと**〔嫉妬〕(名)ねたまきぬき。りんき。もうらう。嫉妬妄想(名)「醫」嫉妬から起る妄想。早發性癡呆コカイン中毒者老性癡呆酒精中毒に屢あらはれる症状。あり得べからぬこと。と眞實と考へ、配偶者又は他人に往復危害を加へることがある。

**しつと**〔副〕(名)しとの音便。①しつとり。

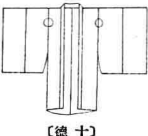
**しつと**〔濕土〕(名)地「濕氣の多い土地」。

**しつと**〔濕度〕(名)理(Wetness) 空氣の濕つてゐる程度。又、大氣中にも含む水蒸氣の割合。一定體積の空氣中にも含む水蒸氣の量と、これと同温度であらば、飽和し得る水蒸氣の量の比。通例百分率であらばす。①けい〔濕度計〕(名)理(Hygrometer) 空氣の濕度を計る計器。毛髮濕度計、自記濕度計等の種類がある。

**しつと**〔執刀〕(名)外科手術の爲に刃物を持つこと。

**しつと**〔執當〕(名)執事別當の略。○東宮坊の長官。○坊官の長官。○佛延庵寺で、講堂の設備、諸役の補任などを掌る役。三綱交代して之に當り又、要帶者かになつた。

**しつと**〔失當〕(名)道理にあらぬこと。適當ならぬこと。不當。不都合。①ふないこと。  
**しつと**〔失徳〕(名)道徳の修らぬこと。品行がよくない。吾の衣服の名。褌襦袢に似て脇を縫ひつけたもの。武士は生絹中間、小者奥昇などの鎌倉時代末に始まつたものだが、室町時代には上下共に、藍着。江戸時代には、儒者・醫師・書師など類聚の禮服に用ひ、絹紗などで作られ、黒色無文、奥切羽斬の短い紐を附け、腰より下に襷紐を著け、袴を略した。ししふばかま



〔徳十〕

**しつと**〔十徳四布袴〕(名)じつとくよのばかま。よのばかま。十徳四布袴(名)十徳を象徴する四布袴をつけた禮服。昔、犬道物の失敗。犬牽、又は馬の口取若しくは鞍馬を昇くものを用ひたもの。

**しつと**〔捨置〕(名)人支那、唐山の奇僧。天台山清淨寺の僧。雙于(名)に養はれ、栗山の親友。寒山と共に寒巖に遁れた。かみさんじつとく(寒山拾得)の條參照。

**しつと**〔濕船渠〕(名)St. Lawrence 船渠の一種。港灣設備の一で、水陸運搬の連絡を計るを目的とする。人工を以て外海の風波を防ぎ、陸地を擁護して水面を作り、岸壁をめぐらし、埠頭・棧橋を備へ、風波・潮位の如何にかかはらず、船舶の入り來つて貨物の積卸をなし得るやうにしたもの。

**しつと**〔副〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。  
**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。  
**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。  
**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。  
**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔名〕(名)しつと。むつたま。しめやか。

**しつと**〔實念論〕(名)智(阿毘達磨)實在論の一種で、特に中世スコラ哲學に於ける概念實在論。概念念即ち普遍は個物に先立つて存在する客觀的存在であるとする説。プラトン哲學を典拠として起り、後、更にアリストテレスの影響を受けて緩和せられ、普通は個物の中に存在する實在であると説くに至つた。前者を極端實念論、後者を緩和實念論又は概念念論といふ。(唯名論の對)

**しつと**〔室間〕(名)しつと。へや。

**しつと**〔叱罵〕(名)しかりのしるのこと。

**しつと**〔十派〕(名)佛の臨濟宗の十流派、即ち、相國寺派・建仁寺派・南禪寺派・天龍寺派・建長寺派・東禪寺派・大徳寺派・圓覺寺派・水滸寺派・妙心寺派。○淨土真宗の十流派、即ち、本願寺派・大谷派・高田派・佛光寺派・興正寺派・善照寺派・證誠寺派・善通寺派・錦輝寺派・誠照寺派。

**しつと**〔十把〕(名)一把の十倍。一絡(句)數は多くても、極めて價値のないもの。  
**しつと**〔失敗〕(名)しそなひ。しくじり。やりそなひ。

**しつと**〔十分〕(名)十分にたつた。①すつぱと。  
**しつと**〔尻拂後擧〕(名)しんがり。あとおぼせ。

**しつと**〔十波羅蜜〕(名)佛菩薩の十種の修行、即ち六波羅蜜に、方便・願力智を加へたもの稱。  
**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。  
**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

**しつと**〔名〕(名)強くはたしめこなへること。

じつばん〔實犯〕(名) 實際に犯罪行為をなした人。又、その人。  
じつばんようがき〔十刑裏書〕(名) 三奉行十人の捺印ある江戸幕府評定所目安裏書。  
しつび〔失費〕(名) つつこ。もいり。いりよう。  
しつび〔栞比〕(名) 栞の齒のやうに糸つきまなく故。

じつび〔實否〕(名) まことなるまことならぬこと。  
じつび〔實費〕(名) 實際に要した費用。いばらぬく。實費類(名) 實費の高金。いばらぬく。  
じつび〔實費拂〕(名) 實費類だけを拂ふこと。いばらぬく。  
しつしやう〔實費辨償〕(名) 實費類をつぐなひかへること。  
しつびつ〔執筆〕(名) 筆を執つて書くこと。書道で、文字を書き写すの持ち方。③連歌俳諧どの會で、文章の用に坐して人の名を備紙に書く。④貴閨官を書き立てておいて、除目(目録)の當日、任官せられた人名をその官の下に書き記した書。

しつぷ〔濕布〕(名) ①湯布綿帯の時疾症の治療に使用する一法。木綿紋羽フランク。ガーゼなど。水又は湯若しくは酒精薬液などに浸して、患部に當て或はまも。油紙を以て之を被ひ、綿帯で全部を固めたるもの。療法。オーストリアの婦夫フリースニオン(Friesen) (1799-1853) の創始。  
じつぷ〔實父〕(名) 血を分けた父。實の父(兼養父)。  
じつぷ〔實否〕(名) じつび。  
じつぷら〔疾風〕(名) ①強風の聲。②疾く吹く風。③毎時六—一〇メートル程の速力を有し、陸上では木の枝を動かす程度の風。④勁草を知る(句) (後漢書王霸傳の光武の語) 勁草を知りて剛強の意をなすものなることを知るの聲。  
しつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

ませる目的の教授。一こうかん(名) ①「實物交換」(名) 經實物の媒介によらず、物と物とを交換して交易を營ふ。需要供給の關係を充たすこと。②物物交換。一こうこう(名) 實物廣告(名) 廣告の全部。又は一部を公衆の眼前に提示して行ふ。一じゆんび(名) ①「實物準備法」(名) ②「兌換券發行」に對する引換準備として、家屋・地所・鑛山等の不動産を備へ置かせる制度。スワットランド人ロー(名) の發案。不便なるを以て行はれない。一せい(名) 實物稅(名) ①「法貨幣」以外の物品を以て納付する租稅。實物經濟時代に行はれたもの。一たひ(名) 實物取引(名) 實物と同等大きさま。一とりひき(名) 實物取引(名) ①「法貨幣」取引所令第九條・第十條の規程によつて設けられた實物市場に於ける取引で、その買賣が、必ず現品の授受を以て決済せられるもの。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。

じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。  
じつぷらうもくろ〔栞風沐雨〕(名) 唐書、狄仁傑傳の語。髪を振り、雨に髪を洗ふ意で、風雨中に曝されて艱難を嘗むる。



〔竹筴〕

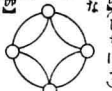
の竹筴を受けること。  
しつべい〔執柄〕(名) ①「執柄」(名) 攝關家の異稱。一け〔執柄家〕(名) 攝關家の異稱。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。鞭を手に執つて馬を御すること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。

しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。

しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。

しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。

しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。  
しつべん〔執鞭〕(名) 鞭を手に執ること。又、その人。御者。③「執鞭之王」亦亦く(名) とあるに基づく御者。



〔七寶〕

〔七寶流〕(名) 七寶流。一やき〔七寶枕〕(名) 七寶の珍寶を練りたやうに美しいと云ふ。又、金・銀の下地に華子を焼きつた。花鳥人物各種の模様をあらはし出したもの。模様は輪郭に針金を用ひたものを用ひないものがたり、前者を有線七寶といひ、後者を無線七寶といふ。慶長年中、朝鮮人から其の製法を傳へられたといふ。西歐のエンメル法と同じもの。  
じつほう〔十方〕(名) ①四方と四隅と上下との併稱。②殊る處なき方處。一くわく〔十方空〕(名) 十方世界の虚空なること。一ぐれ〔十方圓〕(名) 曇り勝てて大空暗く雨の降らぬ天候。③陰陽家で、甲申の相に當る日、十日間。十方の氣がふきかへ、何事も相違はぬといふ。一こうふげんしきしん(名) 十方業現現身(名) 佛十方衆生の業。佛に從つて善く示現する佛菩薩の色々。妙音菩薩・觀音菩薩等。一せかしのじようど(名) 十方淨土(名) 佛十方に無量・無邊に存する諸佛の淨土。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。

じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。

じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。

じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。

じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。  
じつほう〔實法〕(名) 實法。信實。自然のまま。人為の加はらぬこと。かざりけなく、律儀なこと。すなはち正直なこと。

こまやかなま。

【雑務(勤名などの對)】

じつみやう(名) 實名(名) まことの名。本名。

じつむ(執務) 名 事務を執ること。じかん

(執務時間) 名 職務すべき規定の時間。い

らんらん(執務便覧) 名 (Office manual) 事務

の担当者に、事務分掌規程・分掌分掌規程等の一般的

乃至特殊の規定を指示した書。

しつむ(むら) 名 (爲集む) (他動、マ下) な

しあつめりあつめり(爲集む) (古詩) 一

じつむ(實夢) 名 事實と符合するゆめ。まさゆ

じつむ(實務) 名 實際の事務。實地に扱ふ業務

じつむ(實務家) 名 實務に當る人。①實務に

じつむ(實目) 名 まじめ。②熟練した人

じつめい(失明) 名 視力を失ふこと。めくらに

なること。

じつめい(失明) 名 視力を失ふこと。めくらに

なること。

じつめい(失名) 名 氏名のわからぬこと。

じつめい(失名氏) 名 氏名のわからぬ人。ながし

じつめい(實銘) 名 ①まこと。②實直。

じつめい(實名) 名 ①まこと。②實直。

じつめい(實問) 名 疑問又は理由を問ひたす

こと。いけん(質問權) 名 (法) 帝國議會に於い

て、議員が政府に對して政務に關する事項及び所見

に就いて答辯を求める權。いせん(質問書) 名

質問の總旨を記した書面。いせん(質問書) 名

議場などで一方は質問をなし、一方は之に答答す

て、互に勢はよく議論を重ねること。

しつやく(疾疫) 名 ①氣うつさへ疾疫。

しつやく(疾疫) 名 氣うつさへ疾疫。

じつやく(執友) 名 氣のあつた友。親友。

じつやく(實用) 名 實際に必要なこと。實際に

用入ること。實費に役立つこと。いせん(實用)

用園(名) 觀賞、享樂を主とする庭園に對して、花

卉園・蔬菜園・果樹園など、實用的用途を有する庭園

いしやく(實用主義) 名 (哲) フラグマティズ

ム。いたん(實用單位) 名 (理) 理で

G・S單位を實用に通せしめ、爲適當の大きさに變

ぜさせたもの。いしてき(實用的) 名 實用に通

ずること。實際に役立つこと。(義理的の對) い

き(實用向) 名 體裁よりも實用に通ずるを主と

した。

じつやく(實用新案) 名 (文) (Creative

idea) 既存の物品に就いて、その形状・構造・組合

はせで新工夫を加へ、實用上の利便を増進するこ

と。創造の工夫でない點に於いて、發明と區別せら

れ。美術的考慮でない點に於いて、意匠と區別せら

る。いけん(實用新案權) 名 (法) 實用新案

の登録によって發生する私法上の權利。その登録を

受けた物品を製作・使用・販賣、又は譲渡するを得る

權利で、一般の第三者を以て權利者の承諾なくして

はその物品の製作・販賣等をさせぬこと。その存続

期間は十年である。いとうろく(實用新案登録)

名 (法) 特許局に出願し、實用新案原簿に登録

する處分。登録料は二十圓。いほう(實用新案法)

名 (法) 實用新案權の獲得・喪失の條件

とその手續・侵害の制裁・訴訟の審判手續等を規定し

た法律。大正十年法律第九十七號公布。昭和四年一

じつらい(失効) 名 不効。病氣。②部改正。

じつらい(失効) 名 不効。病氣。②部改正。

じつらい(疾害) 名 はげしいかみなり。い

を構ふに及ばず(句) (六筋の軍勢に出づ) 行動

が急激で、助にいとまなきこと。

じつらい(室語) 名 中古。諸客宴婆・移轉・女御

入内其他の禮式の日、廳殿の母屋及び用室に調

度を立てて室内を裝飾すること。列座所。

じつらい(日來) 名 日頃。まじめ。

じつらく(失楽) 名 失樂。失楽。失楽。失楽。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

じつらく(失楽) 名 失樂。失樂。失樂。失樂。

深細な極め、サマンの心理描寫に傑れてゐる。一

六六七年出版。

じつらん(濕爛) 名 (醫) 皮膚面の相接觸する部

分に發する濕疹様皮膚炎。皮膚相互の摩擦と發汗の

浸潤等と刺戟されて、皮膚の發赤・腫爛すること。夏

時に多く、小兒及び肥滿者の頸部・股間等に發する。

亞鉛毒・粉・亞鉛毒汚染等を治療とする。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

じつり(實理) 名 實理。しつり(實理) 名 實理。

作った拂子(羽)のやうなもの。①【種】してやなぎ。②【おけ】①四手桶(名) 指物の。桶の底に、紙を細く切つて四手のやうにして、垂れ、桶の中央に棒をさし貫いたもの。③【おしき】④四手折敷(名) 指物の。①切つて、紙を細く切つて四手のやうにして、垂れ、桶の中央に棒をさし貫いたもの。



【手四】

①【がさ】(四手笠)(名) 指物の。笠の縁から細く紙を切つて垂れ、棒をさしつらぬいたもの。②【ぐるま】(四手車)(名) 指物の。車の輪に紙を細く切つて垂れ、棒をさしつらぬいたもの。③【ざくら】(四手櫻)(名) 【種】してやなぎ。④【しやじん】(四手沙塵)(名) 【種】桔梗科の多年生草本。山野に自生し、高さ六〇釐—一米位。葉は強直性を有し、葉は長卵形又は卵状橢圓形で、細網脈を有し互生する。花は莖頂に繖状花序をなし、花冠は深く五裂し、裂片は線形で、離瓣のやうに見える。紫色の繖状花を開く。⑤【のき】(四手木)(名) 【種】してやなぎ。

【数折手四】

①【やなぎ】(四手柳扶移)(名) 【種】薔薇科の落葉小喬木。高さ七米位、樹皮は滑らかで灰白色。春の末、白を帯びた新葉を生じ、卵状橢圓形鋭頂で鋸歯を有する。葉と同時に、枝梢に繖状花序をなす。五瓣の白花を開く。果實は赤色で小豆大。材は黄白色であり質堅硬緻密、諸種の器具用に供せられる。②【わ】(手輪)(名) 指物の。①細く切つた紙を細く切つたもの。多く垂らし、輪の中央に棒をぬきこしたものだ。



【わで】

①【のたおさ】②【死出田長】(名) 【動】ほととぎす。古語。③【のたひ】(死出旅)(名) 死出の山に赴くこと。死ぬ。④【のやま】(死出山)(名) 【佛】死後に行くべき冥土にある険しい山。閻魔王の園境といふ。

⑤【師弟】(名) 師匠と弟子と。⑥【三世】(句) 師弟の縁は波から前前世からの因縁をさす。⑦【子弟】(名) 子と弟と。⑧【年少者】(父兄して) 【仕丁】(名) (しやう) 【仕丁】 【の對して】(四諦)(名) 佛の四の對して。⑨【私邸】(名) 自分のやしき。官邸の對して。⑩【賜邸】(名) 拜領のやしき。恩賜のやしき。⑪【視聽】(名) (しやう) 【視聽】。【内裏】して) 【紫庭】(名) 【紫】は紫微星の意。だいりして) 【紫庭】(名) それとさし定めること。⑫【行政官廳が法令の定める所に據り、調査の上、或資格を與へること。又、官衙學校會社、私人などが、或ものを特に認めて權利を取得せしめること。⑬【文法事物又は動作状態を指し定める助動詞の用法。】(なり)を名詞に、【なり】を動詞又は名詞に添へて之をあらはす。【交、交たり】は行くなり。【大なり】の類。⑭【おとし】(指定落)(名) 【經】取引所で、購買戻しの整理方法。【取引員が購買戻をする都度、取引員が相殺すべき原建玉の日附を、取引所に申告し、相殺が削除されること。⑮【ごころ】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。⑯【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。⑰【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。⑱【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。⑲【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。⑳【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉑【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉒【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉓【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉔【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉕【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉖【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉗【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉘【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉙【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉚【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉛【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉜【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉝【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉞【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㉟【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊱【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊲【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊳【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊴【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊵【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊶【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊷【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊸【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊹【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊺【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊻【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊼【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊽【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊾【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。㊿【ごうけん】(指定進) 【法】進退、進退又は積替等をなすことを指定せられた進。

①【ねだん】(指定値段)(名) 【經】さしぬ(指値)。②【めだい】(指定命題)(名) 【論】(Predicate Proposition) 主語でいふははされた命題が、明確に指定された命題。全稱命題、單稱命題との区別。③【泥封】(名) (史記高祖紀正義に「天子六風皆以武都泥封」とある) 墓の土に墓の土を封する。④【大帝】(名) 天の天子。⑤【皇太子】(名) 天皇の太子。⑥【耳底】(名) 耳の底。⑦【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑧【志手石】(名) 木又は葉などの化石にして、いちわたり【指定地渡】(名) 【經】買賣したの費用を賣主の指定した土地で受渡すること。運搬上の費用は買主の負擔となる。⑨【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑩【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑪【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑫【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑬【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑭【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑮【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑯【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑰【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑱【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑲【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。⑳【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉑【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉒【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉓【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉔【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉕【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉖【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉗【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉘【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉙【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉚【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉛【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉜【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉝【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉞【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㉟【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊱【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊲【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊳【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊴【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊵【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊶【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊷【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊸【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊹【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊺【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊻【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊼【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊽【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊾【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。㊿【治定】(名) なまめさだめること。をささめさだめること。

①【自適】(名) 何物にし束縛されず、心のままに樂しむこと。心がついでて平くないこと。②【地出来】(名) その地で出来たもの。③【史的現在】(名) 【史】過去の出来事又は歴史上の事跡を、生き生きと描寫する爲に現在の敘すること。④【史的唯物觀】(名) 【史】(唯物論) 唯物史觀。⑤【磁鐵】(名) 【鐵】(Magnetic) 酸化鐵の一種。結晶塊狀をなして岩石中に産する。時として滿洲湖本湖のやうに大鐵床となつて層狀又は塊狀をなし、鐵黑色不透明で脆弱。磁性強く、兩極性を有することもある。鐵の含有量は七二%で、製鐵原料に缺くべからざる寶物。⑥【打つ】(名) 打つこと。つづみ。

①【志手原燒】(名) 兵庫縣有馬郡三輪村志手原から製出する陶器。寶曆・明和の際小西金兵衛の創始。盛期には、青磁・染付・朱赤・赤色繪など多く支那の陶磁器を模したが、現時は莖葉を特徴するに止まり、日用雜器のみを製出してゐる。②【埋葬】(名) 【動】類題目埋葬科の昆蟲の埋葬。體長約三釐。一般に體は近く短く、腹膨脹して、前胸腹間に近く、翅は短く、腹膨脹して、黒色光澤を有し、現上二條の横斑がある。好んで動物の死屍に集まる。幼蟲も腐敗物をお好む。③【シプロスダット】(Siprosdatt)(名) 【理】天體から来る光線を、任意の一定方向に反射させる装置のもの。フランス人フーニーの考案。太陽観測の分光器觀測に用ゐる。④【四季】(名) 四季の天、即ち(春) 春、(夏) 夏、(秋) 秋、(冬) 冬。⑤【佛】(してん) (四天王) ⑥【佛】(してん) (四天王) ⑦【佛】(してん) (四天王) ⑧【佛】(してん) (四天王) ⑨【佛】(してん) (四天王) ⑩【佛】(してん) (四天王) ⑪【佛】(してん) (四天王) ⑫【佛】(してん) (四天王) ⑬【佛】(してん) (四天王) ⑭【佛】(してん) (四天王) ⑮【佛】(してん) (四天王) ⑯【佛】(してん) (四天王) ⑰【佛】(してん) (四天王) ⑱【佛】(してん) (四天王) ⑲【佛】(してん) (四天王) ⑳【佛】(してん) (四天王) ㉑【佛】(してん) (四天王) ㉒【佛】(してん) (四天王) ㉓【佛】(してん) (四天王) ㉔【佛】(してん) (四天王) ㉕【佛】(してん) (四天王) ㉖【佛】(してん) (四天王) ㉗【佛】(してん) (四天王) ㉘【佛】(してん) (四天王) ㉙【佛】(してん) (四天王) ㉚【佛】(してん) (四天王) ㉛【佛】(してん) (四天王) ㉜【佛】(してん) (四天王) ㉝【佛】(してん) (四天王) ㉞【佛】(してん) (四天王) ㉟【佛】(してん) (四天王) ㊱【佛】(してん) (四天王) ㊲【佛】(してん) (四天王) ㊳【佛】(してん) (四天王) ㊴【佛】(してん) (四天王) ㊵【佛】(してん) (四天王) ㊶【佛】(してん) (四天王) ㊷【佛】(してん) (四天王) ㊸【佛】(してん) (四天王) ㊹【佛】(してん) (四天王) ㊺【佛】(してん) (四天王) ㊻【佛】(してん) (四天王) ㊼【佛】(してん) (四天王) ㊽【佛】(してん) (四天王) ㊾【佛】(してん) (四天王) ㊿【佛】(してん) (四天王)。



【しむで】





面。①(古)昔の大學寮に置かれた四學科。即ち紀傳、明經、明法、算道。②(文)交遊の附合の四つの道。即ち通、從、離、逆。③(佛)涅槃經の解説に於て連する四つの道。即ち加行道、無漏道、解脫道、菩提道。——

しとうぐん ①(四)道將軍(名) ②(歴)宗廟天皇の朝、遣はし、人民を巡撫させられた四人の將軍。北陸に遣はされた大彥命、東海に遣はされた武甕河別命、西海に遣はされた吉備津彥命、丹波に遣はされた丹波連主命の各々の稱。——

しとう ①(至)道(名) ②(至)極の稱。——

しとう ①(士)道(名) ②(士)たるもの履み行ふべき道義。——

しとう ①(市)道(名) ②(市)利を競ふ商人の道。——

しとう ①(私)道(名) ②(公)明ならぬ道。わたくしの道。③(私)人専用の道路。私有の道路。——

しとう ①(斯)道(名) ②(の)みち。仁義の道義。——

しとう ①(詩)道(名) ②(作)詩のみち。——

しとう ①(導)道(名) ②(導)むちびくこと。——

しとう ①(指)導原理(名) ②(共)産黨のマルクス主義。又は社民黨の社會民主主義のやうに團體的運動の標準となる理論。③(指)導原理。——

しとう ①(社)社會運動階級闘争等を理論的に指導する(名)。——

しとう ①(祠)堂(名) ②(祖)先の靈位を安んずるところ。たゞ。③(佛)持佛堂。位牌堂。佛堂。寺院。——

しとう ①(佛)堂(名) ②(佛)堂の金。③(佛)堂の建築修繕に寄附する金貨。④(先)祖時代の供養に充てる爲に寺院に寄附する金貨。祠堂錢。長牛錢。——

しとう ①(一)せん(祠)堂(名) ②(祠)堂。③(祠)堂の地。④(祠)堂の地。附屬地として寄附した土地。⑤(寺)院に寄附してその收益を先祖時代の供養に充てる土地。⑥(一)ふ(祠)堂(名) ⑦(佛)菩提寺などに寄附して先祖時代の供養料に充てるもの。——

しとう ①(紫)銅(名) ②(青)銅。からがれ。——

じとう ①(自)黨(名) ②(色)りが爲。なま。——

じとう ①(守)塔(名) ②(寺)院にある塔。——

じとう ①(磁)頭(名) ②(土)頭の頭。③(土)頭の頭。④(莊園)の領主が、土地管理者として設けた私官。⑤(鎌倉)時代に、莊園を管理した職名。租税を徴収してを本所領家國衛に納め、非違の租税を益餘の途ゆへ京都及び鎌倉の警備を掌り、守護の命によつて軍役を勤めた。源頼朝が治元元年勤戦を経て全国に設置して公官となった。⑥(地)頭の用金として徴集した段錢。——

じとう ①(地)頭沙汰(名) ②(鎌倉)時代、人民の頭職を其の地頭が裁断した。③(一)し(く)地頭職(名) ④(地)頭の代官。⑤(やく)地頭役(名) ⑥(地)頭に課した地頭税。——

じとう ①(侍)童(名) ②(貴)人の側に仕へるわらわ。——

じとう ①(五)歳までの人。②(小)學校に學ぶことも。——

じとう ①(あ)い(こ)かい(兒)童愛護會(名) ②(兒)童保護の施設。大正十五年、内務大臣から恩賜金及び義捐金の交付を受け、財団法人として設立された。罹災兒童の保育教育、不就學の兒童生徒の學費補助をなす目的とする。③(が)く(兒)童學(名) ④(教)(Pedagogy) ⑤(兒)童の身體及び精神の發達狀態を研究する學。⑥(ぎ)やく(たい)ほう(し)し(き)よう(兒)童虐待防止事業(名) ⑦(社)見(見)身(見)對する體處得不得取扱を防止し、以てその心身の發育を顧慮させる施設。我が國に於いては、明治四十四年工場法を制定して工場に於ける十六歳未満のもの酷使を禁止し、工場以外の場合には、昭和八年三月帝國議會の協賛を得た法律によつて取締まる。⑧(げ)き(兒)童劇(名) ⑨(兒)童の爲に、兒童自身によつて演ぜられる演劇。兒童本性的遊戯心を心理的に善導することによつて、その智能の啓蒙、心理的陶冶に資し、兒童教育と娛樂とを融合するを目的とするもの。我が國に於いては大正十年、坪内逍遙

の提唱に係る。⑩(けん)き(き)う(し)よ(兒)童研究所(名) ⑪(社)見(見)善(見)教育をなすに必要なる基礎的事實及び方法を發見するを目的とする研究所。⑫(けん)く(ご)そ(だ)ん(し)よ(兒)童健康相談所(名) ⑬(社)見(見)兒(見)及(見)就(見)學兒童の健康増進疾病の豫防の爲に設けられた相談所。⑭(しん)り(が)く(兒)童心理學(名) ⑮(心)理(心)理學の一分科。⑯(せい)の(う)ら(う)だ(ん)(兒)童性相相談(名) ⑰(社)見(見)兒童の性行を調査監別して教育又は職業選擇等の相談に預る事業。——

じとう ①(と)し(よ)か(ん)(兒)童圖書館(名) ②(兒)童室に適切に圖書を提供し、參考圖書の使用法を會得せしめて圖書の趣味を養成する目的の圖書室。③(ほ)こ(じ)き(よう)(兒)童保護事業(名) ④(社)見(見)身上又は境遇に缺陷を有する兒童を保護する社會的施設及び事業。姪姪相談所、乳兒健康相談所、乳兒院、託兒所、吃音矯正院、兒童保養所、療養院、矯正院、兒童性相相談所、兒童職業紹介所等の施設事業。——

じとう ①(自)動(自)働(名) ②(お)つ(づ)か(ら)動(く)こと。おのつからたらくこと。③(お)つ(づ)か(ら)活動すること。④(自)動(自)電話又は自動電話局の略。⑤(文)法動詞の性質。⑥(他)の事物に關係なく、或事物のありはす動作。⑦(花)吹(く)風(吹)く。⑧(吹)く。⑨(吹)く類。(他)の對)⑩(か)い(だ)ん(自)動(自)働(自)働階段(名) ⑪(電)機(電)機。⑫(自)動(自)働(自)働器(名) ⑬(理)Automatic circuit breaker) ⑭(過)大の電流が電路を通過する時自動的に同路を遮断し、危険を防止する装置。單に遮断器ともいふ。⑮(か)き(り)(自)動(自)働火器(Automatic language) ⑯(自)動現象の一種。靜坐法や加特新法など、行者が巫女などが自己催眠狀態中種種のことを口走るやうな。⑰(けん)し(よ)う(自)動現象(名) ⑱(心)理(Automatic)無

意識の狀態、無念無想の狀態、放心狀態、催眠狀態、失神狀態、夢幻狀態等に於いて、自然に種種の幻覺、運動の現れること、運動性自然現象と感覺性自然現象に分ける。運動性自然現象とは、分裂意識が或種の運動となつて現れることで、自動書記や自動言語の類。感覺性自然現象とは、分裂意識が感覺機關を刺激して幻覺を生ずること、幻覺の幻覺又はクリスタルケージングの類。①(ご)かん(き)し(自動)交換機(名) ②(電)話交換機。③(自)動(自)動交換機(名) ④(電)話交換機。⑤(自)動(自)動交換機(名) ⑥(電)話交換機。⑦(自)動(自)動交換機(名) ⑧(電)話交換機。⑨(自)動(自)動交換機(名) ⑩(電)話交換機。⑪(自)動(自)動交換機(名) ⑫(電)話交換機。⑬(自)動(自)動交換機(名) ⑭(電)話交換機。⑮(自)動(自)動交換機(名) ⑯(電)話交換機。⑰(自)動(自)動交換機(名) ⑱(電)話交換機。⑲(自)動(自)動交換機(名) ⑳(電)話交換機。㉑(自)動(自)動交換機(名) ㉒(電)話交換機。㉓(自)動(自)動交換機(名) ㉔(電)話交換機。㉕(自)動(自)動交換機(名) ㉖(電)話交換機。㉗(自)動(自)動交換機(名) ㉘(電)話交換機。㉙(自)動(自)動交換機(名) ㉚(電)話交換機。㉛(自)動(自)動交換機(名) ㉜(電)話交換機。㉝(自)動(自)動交換機(名) ㉞(電)話交換機。㉟(自)動(自)動交換機(名) ㊱(電)話交換機。㊲(自)動(自)動交換機(名) ㊳(電)話交換機。㊴(自)動(自)動交換機(名) ㊵(電)話交換機。㊶(自)動(自)動交換機(名) ㊷(電)話交換機。㊸(自)動(自)動交換機(名) ㊹(電)話交換機。㊺(自)動(自)動交換機(名) ㊻(電)話交換機。㊼(自)動(自)動交換機(名) ㊽(電)話交換機。㊾(自)動(自)動交換機(名) ㊿(電)話交換機。——









しなきれ【品切】(名) 賣り盡くして商品のなくなること。【語】

しなくだり【差降】(名) 差等。等級。品類。(古)

しなくな(名) 副) なくなること。

しなくれ(名) しくなくること。【下の長押】

しなげし(名) 地長押(名) 建) 版扉など、最

しなける(名) 自動) ラ四) うまぐ。

シナゴーク【Synagogue】(名) 宗) ユダヤ人が

しなごころ【品心】(名) すがたを心とす。

しなごん【四脚人】(名) 一條天皇の朝に、納原公

しなさか(名) 品定) (名) よしあし・優秀などを評

しな(爲) 做(名) しら。したり。習慣。

しなし【地無】(名) 全面に滑の模様をかけた

しなしたり【句】損た。しくじ。しまった。

しなしな【弱】(名) 副) しなむむ。し

しなじな【品目】(名) さまざまの品。いろいろ

しなす【自動) サ四) しそ。な。しくじ

しなす【自動) サ四) 寝させる。れむら

しなす【自動) サ四) 寝させる。れむら

しなせことば(名) 粹なことば。わざと丁寧に

しなせぶり(名) しなめいたさま。わざと丁寧

しなせめ【品改】(名) 受取引所の品物が少ない

しなたつ【字謎】(名) 文字を離合して作った謎。

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなたつ【品玉】(名) 玉を空中に投げあげて

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で

しなぬ【科布】(名) 科木の皮の繊維で



(きのなし)





物をま欲求しないことにあるとし、家族・國家の精神からも懸念して、精神の俗的煩累を避くべきであるとし、衣食生活を世俗の汚塵に染まぬ高潔な生活とした。この派は大禁慾主義ストア派の先驅をなし、大禁慾派とも稱せられた。「は時間」。

しにてま(死手間)(名)死ぬについての手数又しにてんころ(死轉業)(名)遊戯的に死ぬこと。死ぬたは(名)死ぬべき時機。

しにどこ(死處)(名)しにところ。「人の」。

しにどころ(死處)(名)しにば。「人の」。

しにのこり(死殘)(名)死にのこること。又そしにのこる(死殘る)(自動)ラ四自分ばかり死なないで生きながらへる。いきのこる。しにおくれ。

しにば(死場)(名)死ぬ場所。①死ぬべき場所。しにば(死恥)(名)死後に殘る恥。死にさ(死恥)の對。

しにばは(死所)(名)しにば。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

しにばは(死所)(名)死人のばへ。「一だち」。

うに少しも活氣のないこと。しにみず(死水)(名)死者の末期に、口に注ぎ入れる水。末期の水。一を取る(句)末期の水を死者の口に注ぐ。轉じて、其の人の末期まで介抱する。「くるみの武者」。

しにむしや(死武者)(名)決死の武者。しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

しにめ(死目)(名)しにさは(死聲)。

無給ない。①利用がない。ききめがない。②園茶で、敷に石園まれて取られる。一はかり(死ぬ)許り(副)死ぬ程に堪へられぬ。一者貧乏(句)生きながら、他の者と同様に、利を得られないのに、死んだ爲に利を得られぬといふ。死んだ子の年を救へる(句)しに役に立たぬこと。死んでの長者より生きての貧乏(句)死んで富者となるよりも、貧乏しても生き残る方が幸福である。死んで花賞がなるものか(句)死んでは何なる場合にも幸福にあはれぬら、命を捨てるとは愚である。人の生存をこひがれふ心の強烈のないいふ。

じぬき(地貫)(名)「地貫」本に平行して柱に取附けた貫。床板の端を承けるもの。

しぬく(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぐ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。

しぬぶ(地貫)「地貫」爲貫く・爲抜く(他動、カ四)つくす。しとける。「語」。



【鼠 地】







しはいしはた 紙製染染備工程の一。捺染板の両面糊を塗付けて乾かす。之に水氣を興へるが、又は薄く溶かした糊糊をひき、その上に捺染すべき布帛を張る。糊のないうちに貼附せる。

しがみ(張紙) 名。地紙する時、布帛を平均に板面に張る爲に布帛を捺染する様二種。統一八種の角をとり厚紙。一。地張木(名)。地紙を敷する時、布帛の裏面糊を塗つて糊を併し、木の板面に密着させる爲の櫻籠等の拍子木形の木の板面に張る程である。二。引幕の襷行。

しはうつり(履移) 名。たび及び所を替へること。しはらび移る。(古語)

しはう(芝浦) 名。地。東京市芝区内で、東京灣に面する海岸一帯をいふ。埋立地で、數箇の島が成り、海運を利用するの河溝がある。沙留貨物専用驛貨物専用海岸鐵道線を敷いた芝浦棧橋があり、海陸の交通が便利なので、東京中央卸賣市場、瓦斯會社、自動車工場、各倉庫、東京高等工學學校等がたつて、京濱工業地帯の北端を形成する。

しはえび(之蝦) 名。動。くまえびに似た「えび」の一種。甲殻は滑、表面に不規則の凹凸があり小毛が生えてある。體長一五〇耗位。體色は灰褐色で、淡黄色の斑點が散在し、扇尾の側葉は先は藍色。乾し又は生で食し、的の餌料とする。

しばおんこ 名。同馬光。しばがき(柴垣) 名。柴を築めて編んだ垣。野趣をすべく、數軒屋建築に用ひる。一。おどり(柴垣) 名。樂垣に合はせて踊る。一。ふし(柴垣) 名。明暦の頃に流行した端唄。もと北國の米春歌であったのが、江戸に傳はつたのだといふ。



[しががはし]

二人立ち聲んで手を打ち胸を打って踊り、又、両手を鼓まてまくり、その鼓で舞を叩いて拍子を取つて歌つたが、後には比呂尼が拍板の音を聽て唄ふものとなつた。

しばかど(柴唐戸) 名。唐戸の入口に設ける兩開の門扉。高さ約一米二〇釐。幅四二釐位。周圍の框を煤合で造り、高さの三分の一の上部を割竹の菱組として彫鑿で結び、以下は萩を縦に並べ、煤竹の押縁をあつたもの。

しばかり(柴刈) 名。柴を刈ること。又その人。しばき(柴木) 名。漢詩の大衆。しばく(詞伯) 名。詩文の大衆。しばく(柴陌) 名。うつくしき道。都のちまた。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。

しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。

しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。

しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。

しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。しばく(柴白) 名。むらさき色と白色。

夏馴(の)人。少時強中に溺れ一兒を救助した逸話がある。神宗の時、翰林學士となる。王安石の新法の害を駁したがり用ひられなかつたので、これより時事を論ずる力を「資治通鑑」の撰述に注いだ。哲宗の時、倫書兵衛射法下侍郎に任ぜられて政を執つたが、八箇月で、元祐元年(一〇八六)歿。年六十八。大御師顯隆を贈り、文正と諡した。

しばこうえん(柴公園) 名。地。東京市芝區にある公園。もと三善山增上寺の境内であったが、明治初年公園となる。面積約四九〇〇アル。西の一半は大古墳の丸山で自然の風致を存した森林公園、東の一半は低地で松林である。中央に増上寺、南に徳川氏(靈廟、東照宮)五重塔がある。

しばこうかん(柴江漢) 名。人。江戸の洋書家。我が國洋書家の祖。字は君毅、通稱安藤君次郎。香波樓不音堂と號した。平賀源内に學び、後長崎に赴いて蘭人イサクチヂシツグに洋書を學び、油繪、銅版畫を描く。花押に洋字を用ひた。文政元年(一七七八)歿。年八十一。

しばさかな(芝魚之着) 名。しと、江戸芝浦邊の漁夫が漁獲したばかりの鰯魚を賣りあつたからいふ。江戸名物の一。種稱取り交ぜた小魚。さかな(鰯魚)。

しばさかもり(芝酒盛) 名。芝生の上での酒宴。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。

しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。

しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。しばし(暫時) 名。副。すこの間。ちうとものま。

ま(下) しはむの口語。しばしようじよ(司馬相如) 名。人。支那前漢の文人。字は長卿。卓王孫の女。文君を妻とし、梁の孝王の客となつて子虛賦、上林賦、武帝に知られる。賦をなすや、縱横自在その辭句は神韻繰舞たるものがあつた。元祐六年(五四四)歿。

しばしろう(柴四朗) 名。人。政治家。舊會津藩士。東海散史と號した。明治十九年、農商務大臣として職に任ぜられ、代議士に當選すること、前後八回。大正十一年(一九二二)歿。年七十一。

しばすけ(芝菅) 名。植。莎草(菅)科の多年生草本。根莖は長い匍枝を有し、葉は三角形。葉は狭長。早春葉頂に穂莖を生じ、その下方に二十三四の雌雄を發生する。雌穂は橢圓形で花を密生し、雄花は短長形で凸頭又は鋭頭を有し、苞は三稜狀倒卵形で短毛を散生する。

しばすけ(柴魚) 名。冬、柴を束れて川などに投げおき、魚がその中に潜んでゐるのを春になつて捕へること。①。茄子を薄く切りに切り、若狭の鹽を振りかけて漬けた漬物。②。多量の糠を多く入れて鹽を振りかけて漬けた漬物。

しばすけ(柴魚) 名。冬、柴を束れて川などに投げおき、魚がその中に潜んでゐるのを春になつて捕へること。①。茄子を薄く切りに切り、若狭の鹽を振りかけて漬けた漬物。②。多量の糠を多く入れて鹽を振りかけて漬けた漬物。

しばすけ(柴魚) 名。冬、柴を束れて川などに投げおき、魚がその中に潜んでゐるのを春になつて捕へること。①。茄子を薄く切りに切り、若狭の鹽を振りかけて漬けた漬物。②。多量の糠を多く入れて鹽を振りかけて漬けた漬物。

しばすけ(柴魚) 名。冬、柴を束れて川などに投げおき、魚がその中に潜んでゐるのを春になつて捕へること。①。茄子を薄く切りに切り、若狭の鹽を振りかけて漬けた漬物。②。多量の糠を多く入れて鹽を振りかけて漬けた漬物。



たが大敗し、越前國北ノ莊に自殺。年六十二(一説に五十四ともいふ)。

しばたきゅうおちう……柴田鳩翁(名)一人

江戸幕末の心学者。名は幸、字は陽方。通稱は謙蔵。京都の人。石田梅庵の心學に悟入し、諸國を巡遊して心學の講義を開く。後、失明し、天保十年(二四九九)歿。年五十七。『感通道話』『續感通道話』『續感通道話』に子武修(名)その談話を筆記したるもの。

しばたせし……柴田是眞(名)一人

龜田(後、順蔵)と稱し、初め坂内寛政に詩翰を學ぶ。後、鈴木雨蘭の門に入つて四條屋の畫を修得し、技法の精巧と趣味の雅麗を以て時人の好尚を博した。明治二十三年、帝室技藝員に擧げられた。明治二十四年(二五一一)歿。年八十四。

しばたたく……(名)「屢叩く」他動、カ

「四」聲は「屢」を履あげた。しきりにまたきをする。

しばたつ……(名)「屢立つ」自動、夕四)しば

しばたつ……(名)「司馬達等」(名)「彫刻家。支那南

梁の人。繼體天皇の十六年來朝し、大和國高市郡坂田に住す。その子多須奈、その孫鞍作止利)、共に佛彫刻家として著れた。

しばたまち……(新發田町)(名)「地」新潟縣北蒲原郡の町。新潟市の東約二町。瀧口氏の舊城下。步兵第六師團の所在地。附近に良質の米を産し羽越本線の一驛。北西方の加治川堤は纒の名所として知られてゐる。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばち……(名)「しば」(芝生)。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばつ……(名)「しばつ」(爲果) (他動、夕下) なるは。

しばのかど……(名)「柴門」(名)「しばのと」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばのと……(名)「柴門」(名)「柴でつくつた粗末な門。むさくるしい家」。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。

しばや……(名)「芝居」(名)「しばのり」の訛。



使し易く、劇形なものは數百に於て致死させる。  
**しはん(屍斑)** (名) 生人の死後、漸次皮膚に變化を來し、通常六時間乃至十二時間後、四肢等の下部に生ずる青紅色の斑點。下部部の靜脈に血液が凝集する。  
**しはん(事犯)** (名) 法刑罰又は懲罰に處せられたい花押。  
**しはん(自判)** (名) 自分で捺した印。又、自分で書いた花押。

**じはん(福押)** (名) ジュマン。  
**じばん(地盤)** (名) 地盤。①工作物其他の基礎となる土地。②(土著)。③物を載せる蓋。④事なす根據地。

**しひ(私費)** (名) ①一個人の負擔。支出する費用。  
[私費の對] ②自己の支出する費用。自費。③「せい」  
[私費生] (名) 私費で修學する生徒。(官費生の對)  
**しひ(市費)** (名) 市の負擔する費用。市の經費。

**しひ(施肥)** (名) 耕作物に肥料を施し與へること。  
**しひ(鮎)** (名) 鮎(まぐろ)の大きなもの。玉鮎。  
**しひ(芝眉)** (名) 他人の顏面の發飾。  
**しひ(鷓眉)** (名) 鶴の顏面の發飾。

**しひ(紫微)** (名) しびえん。  
① **えん** (名) 紫微垣 (名) 天支那天文学の星座の位置の北極の周圍に在り、其中に天帝の居所とい稱せられる星がら成る。その傍に三つ星があるところ。轉じて天子天位に譬へられた。大膽の小膽。カシオペイアケルケウエス其の他の星座に跨りしひ(紫微)の星がら成る。② **しやう** (名) 紫微宮 (名) (しびえん)。  
支那古代の官省。中書省の異名。③ **せい** (名) 紫微



[尾崎]

**しはん—しひれ**

**星** (名) 紫微宮に屬する星。① **ちゆうたい紫**  
**微中星** (名) 皇后星の異稱。② **ないしやう**  
[紫微内省] (名) 孝謙天皇の朝に設けられた官職。兵部を掌り、官位、賜祿の大任に準じたもの。  
**しひ(紫微)** (名) 紫微宮に屬する星。③ **しびえん** (名) 紫微宮に屬する星。④ **しびえん** (名) 紫微宮に屬する星。

**しひ(至微)** (名) 極めて微細なすべし。  
**しひ(自費)** (名) 自分の支出する費用。自辨する費用。  
**しひ(一次)** (名) 正妃に次ぐべき女。① **じひ** (待婢) (名) そとびかへまの女。② **じひ** (慈悲) (名) あはれみ。なまきり。③ **じひ** (慈悲) (名) あはれみ。なまきり。④ **じひ** (慈悲) (名) あはれみ。なまきり。

**しん(慈悲)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。

**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。  
**しん(慈悲心)** (名) 慈悲の心。あはれみの心。なまきり。

**じひ(學尼)** (名) 鳥獸の交尾すること。  
**じひか(耳)** (名) 耳鼻科學 (名) 醫器及び前庭の疾患を研究する學。鼻障及び副鼻障の疾患を研究する學の總稱。  
**じひき(字引)** (名) 漢字を蒐集し、部首によつて分類し、動産の數によつて配列し、その字音と意義とを説明した書物。字書。② 辭書の俗稱。③ **じひき** (字引學問) (名) 調詰を知つてゐるのみで、活用する才のない學問。④ **じひき** (字引) (名) 二字書を引くなら、讀書に努めること。⑤ **じひき** (地引) (名) 海底に網を張つて次第に陸地に引寄せること。⑥ **じひき** (漁地引網) (名) あみ

**しはん—しひれ**

**じひ(地引網)** (名) 漁引網の一種。中央の魚取部の裏と左右より連結する兩翼の網とがなり、引網によつて陸上に引揚げて漁獲するもの。  
**じひ(地曳)** (名) 家屋などの建築で、地障祭の後に施行する儀式。良辰を選んで建築敷地の周圍に繩を敷き、竹を建て、中央に障壁を設け、四方の盛土を整を立て、工匠の長が祭主となつて祝詞を奏すること。② **じまつり** (地曳祭) (名) 祝詞。  
**じひ(自額)** (名) 供儀の要の一。自契の額の如く作り、額帽子を用ひぬ。  
**じひ(尸毗王)** (名) 梵竺(梵) 釋迦が前身で王であつた時、尸毗王に逼られた姫の爲に己の肉を割つて靈に與へ、姫を救助した。尸毗王。

**じひ(史筆)** (名) 歴史を書きあらはす筆づかひ。  
**じひ(紙筆)** (名) かみとふで。  
**じひ(自筆)** (名) 自ら書くこと。又、その書いたもの。① **じしようしよ** (自筆證書) (名) 自分で認めた證書。

**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。

**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。

**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。  
**しんと(死人)** (名) 死んだ人。息の絶えた人。

**しはん—しひれ**

人類の疾病の總稱。佛家の説に人身は地水火風の四つの和合から成り、四大調和を得なければ、四大各百の病を生じ、風水から起る冷病二百、地火から起る熱病二百、併せて四百四病あるといふ。  
**しひ(詩評)** (名) 詩の批評。  
**しひ(四表)** (名) 四方。天下。  
**しひ(紙票)** (名) 紙のふた。カード。  
**しひ(師表)** (名) 人の師となり手本となるもの。  
**しひ(指標)** (名) 數、百、千、万、億の數の常用對數は、その數がより小なれば負であるが、對數の便宜上、正なるようになつて書きたる數對數の Logarithm である。

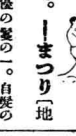
**しひ(死病)** (名) 必ず死ぬと定まつた病。  
**しひ(時評)** (名) その時の批評。又は評判。① **しひ(時事)** (名) 時事に就いての評論。  
**しひ(辭表)** (名) 官職を辭する際、其の旨を書いて差出す文書。

**しひ(時病)** (名) その時代の弊害。時弊。  
**しひ(持病)** (名) 全治しにくく、常にやむを得ぬ病氣。  
**しひ(四拍子)** (名) 嚙子で、笛太鼓(太鼓)の小鼓。② **しひ(音)** (名) 拍子の重畳せるもので、一小節に拍子四つを含み、第一は強聲、第二は弱聲、第三は中等強聲、第四は弱聲なるもの。  
**しひ(地拍子)** (名) 音階の音樂的機構として、文句を拍子に含ませば、き短組。八節拍子本地拍子、片地拍子などの類。

**しひ(禪)** (名) へりく上坐。(古語)  
**しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。① **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。② **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。

**しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。③ **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。④ **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。

**しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。⑤ **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。⑥ **しひ(禪)** (名) しひれ(ひり)の禪。



[網引地]

い(痺)痺(痺) (名) 體長六〇



【鱈 痺】



【鱈 痺】

用する薬劑。クロロホルムの麻酔藥。一なま

ず(引)痺(痺) (名) 動(動) 筋の一種。

アフリカ、ニール河に産する。體長九〇

〇(理)口、三對の觸鬚を有し、脊骨

なく尾端に近く脂肪質の突起を具ふ。

全身の皮下に發電器官を具へ、之に觸

れば電撃を感ずる。一をきらす

(句) 久しく坐つてゐて足にしびれが生

ずる。轉じて待ちどほしく思ふ。待ちく

たびれる。

し(び)れる (動) 痺(痺) (自動、ラ下)

し(び)る (口) 口語

し(ひ)ん (四品) (名) 人の年齢の四區別、即ち六歲以

上を小十六歲以上を少、三十歲以上を壯、五十歲以

上を老といふこと。

し(ひ)ん (資稟) (名) うまれつき。

し(ひ)ん (瘦瘠) (名) しび(び)ん の能。

し(ひ)ん (自覺) (名) 自分の髪を自ら結ぶこと。

し(ひ)ん (能) 能、男子が結婚した時代に、後者の平生の

結果で、舞臺に出た。一もの(自覺者) (名)

能樂で、舞臺動けた。一もの(自覺者) (名)

の前置手の類。

し(ひ)ん (私夫) (名) かくし(と)。ま(と)。

し(ふ) (師傳) (名) かしづいてもらせてる役。も

りやく。支(支)部で、妓女の相手となつて彈奏する男。

し(ふ) (師父) (名) 師匠と父。父の如く親し

し(ふ) (子婦) (名) 子の妻。よめ。

し(ふ) (氏譜) (名) 氏族の系譜。から下した符

し(ふ) (司符) (名) 伊勢大神宮司。遠東大寺司等

し(ふ) (紙布) (名) 經(經)に絹絲・麻絲等を用ひ

し(ふ) (紙布) (名) 織(織)を用ひて織つた織物。宮城縣白石・野間

縣北海の産。かみ。

し(ふ) (詩賦) (名) 詩と賦と、即ち支(支)部の韻文。

し(ふ) (澁) (名) 澁い味。あ(あ)垢。(古語)

し(ふ) (物) 物からし(し)み出る赤黒い液。木を揮つ特有の

し(ふ) (四部) 四(四)つ(四)の部わけ。(佛)し(し)。

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (四部) 一(一)が(一)つ(一)し(一)う(一)し(一) (四部合唱) (名)

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一

し(ふ) (市部) (名) 市に屬する部分。(郡部の對) 一









**しほらう** (一) 厚望 (名) おほひのぞむこと。  
**しほらう** (二) 委託 (名) かまひなち。すがた。  
**しほらう** (三) 市坊 (名) まち。市街。  
**しほらう** (四) 死亡 (名) 死ぬこと。① [法] 自然人がその生命を失ふやうになること。法律上、自然人人が人格即ち一生命的権利能力を喪失すること。② [法] 死した時、其の遺族に給與する金員。その金額は在職最終月俸額の四箇月分。③ [法] 死亡診断書 (名) [法] 醫師が、其の診察を取つた患者が死亡した時に作成する證明書。④ [法] 死亡届を差出す義務ある者。第一主。第二同居者。第三家主。第四土地・家屋の管理人。⑤ ひょうし [法] 死亡表 (名) 人の各年齢に於ける生存と死亡との經過を示した表を保險料算出の基礎となすもの。⑥ 一終身保險。⑦ 一死亡保險 (名) [法] 生命保險の一。死亡者數と一定人口數との比例。一九二九年に於ける人口千に對する死亡率は日本二・〇、イギリス一三・六、アメリカ合衆國一一・九、フランス一八・〇、ドイツ二二・六、イタリヤ一六・一。

**しほらう** (五) 脂肪 (名) [化] 動物及び植物に含まれてゐる不揮発性の油で、グセリンと脂肪酸との結合したものである。當温にて液體のものと同體のものがある。前者を脂肪油、後者を固體脂肪といふ。植物では果實及び種子に存し、動物では結締組織、骨髄、腹腔内の他の諸部に存する。① 一かたしほらう (名) 脂肪過多症 (名) [醫] 脂肪沈着が過多なる爲身軀甚だしく肥滿し、肉體的又は精神的に障礙を起す一病症。其の原因は、體質、過食、運動不足、遺傳等である。② さいほうしほらう (名) 脂肪細胞 (名) [生] 脂肪組織を形成する細胞。圓形又は卵形で、核は胞壁に偏在し、葡萄狀に集合し、結締組織によつて連絡せられる。③ さいん (脂肪酸) (名)

**【Hydrolysis】** 脂肪族鎖狀體の總稱。分子式 C<sub>n</sub>H<sub>2n+2</sub>O<sub>2</sub> 又は C<sub>n</sub>H<sub>2n</sub>O<sub>2</sub> として、油類の主成分をなす外、遊離狀態に於いても、多少油類中に含まれ、油類中の脂肪酸は、一般に鎖狀一鹽基性酸に屬する。用ひに用ひられる。脂肪質・蠟燭・脂類等は之に屬する物質。又、多量の脂肪を含有する組織。① しほらう脂肪腫 (名) [腫] 脂肪組織の構造を有する腫瘍。肩胛部・背部・頸部等に多く、胸部・臀部にも生じ、半球形・橢圓形と不正形をなす。② せん脂肪腫 (名) [腫] 脂肪の眞皮の網狀部に存し、主として毛嚢に開口する腫。脂肪を分滲し、毛に光澤を添へ、皮膚を滑澤する。ひしそ (皮膚腫)。③ そらう脂肪層 (名) [生] 動物の皮下にあつて、脂肪より成れる層。絨のしほみの類。④ そしき脂肪組織 (名) [生] 筋組織の一種。脂肪細胞の多數集合より成る組織で、腎部下腹部・女子の乳房に多く、營養の貯藏組織間の充填・保温等の效がある。⑤ ゆ脂肪油 (名) [生] 脂肪の當温で液狀をなすもの。種油・肝油の類。⑥ 報知。⑦ ほうしほらう (時報) (名) 時時の報知。⑧ 時間のほうしほらう (治法) (名) ⑨ 政治の仕方。⑩ ほうしほらう (療法) (名)

**じほらう** (一) 自暴 (名) 自分で自分の身を粗末にし又は墮落に陥れること。① じほらう (自暴自棄) (名) 放棄又は無謀の爲に、自己の境遇・前途を破壊して頓ふこと。やげになること。② はまじめ。③ じほらう (實法) (名) じほらうの音便。④ じほらう (司法官) (名) [法] 司法事務を扱ふ官吏、即ち刑事・民事等の總稱。⑤ しほらう司法官候補 (名) [法] 刑事又は民事に任ぜられるべき準備として、高等試験司法科の列検事登用試験に合格し、一年六月以上裁判所又は検事局に配置せられて事務の練習をなす者。

**しほらうけいさつ** (一) [法] 警察 (名) [法] 犯罪の捜査犯人の逮捕等、刑事裁判に附屬する警察の

作用。① いかん (司法警察官) (名) [法] 司法警察の機關たる官吏、即ち警視總監・廳長・司令官・地方警察の警察官・憲兵等。

**しほらうさいばん** (一) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (一) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (三) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (四) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (五) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (六) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (七) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (八) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (九) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

しほらうしや (十一) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十二) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十三) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十四) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十五) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十六) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十七) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十八) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (十九) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十一) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十二) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十三) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十四) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十五) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十六) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十七) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十八) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (二十九) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。

**しほらうしや** (三十) [法] 裁判 (名) [法] 裁判官 (名) [法] 司法裁判を行ふ裁判官。







達て討五萬石を加へられ、參議に任ぜられた。開、原

の役に、石田三成に薦して敗れ、歸り、兄義久に因りて

降を請ひ、封を子家久に譲り、劇業、籠居して餘生を

送り、元和五年(二七九)卒、年八十五。〔古語〕

しますり(鳥摺)名(鳥)鳥などの模様ある青草摺。

しまぞめ(縞染)名(名)白地に縞を染み出した布帛。

しまだ(鳥田)名(名)しまたまけ、くすし(鳥田)名(名)「しまたまけ」一種。鳥田脇の手を

をきいたもの。粹者帯が結び、又、足中などの時に結

ぶ。―たまげ(鳥田脇)名(名)駿河岡志太郎鳥田

の遊女の結び始めたものと

い、寛永頃、歌舞伎役者

島田萬吉の装束より起こ

るものといひ、婦人の

形も此といふ、婦人の

髪や結ひ方、主に、未婚の婦人の結ぶもの。又、婚禮

に結ぶ風習となつてゐる。根を高く結たのを高島

田といふ。―いわげ(島田)名(名)しまだ。

しまだ(鳥塞)名(名)洲濱意の上に松竹梅、

舞鶴、梅の形など

飾つたもの。婚禮にて

たい儀式、慶應などに

用ひる装束の具、有な

鳥形、花といひ、もの

での食物を盛つたもの

で、蓬萊山に擬したも

のだといふ。

しまだい(編鯛)名(名)鯛魚の一種。大きき

二五條位、飾物に五條の横線がある。

しまだ(鳥田)名(名)鳥田(鳥)名(鳥)「

しまだ(鳥田)名(名)「しまだまけ、くすし」

の結び方。主に、未婚の婦人の結ぶもの。又、婚禮

に結ぶ風習となつてゐる。根を高く結たのを高島

田といふ。―いわげ(島田)名(名)しまだ。

しまだ(鳥塞)名(名)洲濱意の上に松竹梅、

舞鶴、梅の形など

飾つたもの。婚禮にて

たい儀式、慶應などに

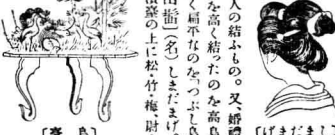
用ひる装束の具、有な

鳥形、花といひ、もの

での食物を盛つたもの

で、蓬萊山に擬したも

のだといふ。



【巻島】

しまださぶらう(島田三郎)名(名)「人

政治家、静岡縣人鈴木智賢の三男。鳥田豊臣の養子

となる。沼南と號した。改進黨進歩黨、立憲同志會

の幹部。明治二十三年、議院から選出せられて代議

士となり、引續き衆議院に議席を占め、大正四年、政

長となる。大正十二年十一月、没。年七十七。史論、政

論が頗るいい。〔る欄の〕

しまだ(鳥欄)名(名)床間書院などの脇に設け

しまだ(鳥千鳥)名(名)鳥に千鳥鳥。

しまちどりつき(鳥)「しらなみ(鳥)「

浪(名)「文」歌舞伎世話狂言の脚本。監刻明石の鳥

殿と松島千太郎との交情を描寫したもの。二代河竹阿

彌傳の作。明治十四年初演。

しまちりめん(縮緬)名(名)おもしろめん。

しま(始末)名(名)「はじめとを」とをいひ、始め。

しま(事情)名(名)「わがごとく」。事由。①始終を整

へること。たづなげ。しめくり。處理。②儉約。

つづまかたして活費せぬこと。③「がき(始末

書)名(名)特別の事故ある場合に、事實の顛末を具申

する文書。④「こころ(始末)名(名)儉約する

心。しまり。⑤「しよ(始末)名(名)しまつが

き。⑥「じん(始末)名(名)儉約を主とし、萬事

につづまかた。⑦「い(始末)名(名)しまつ

つじん。⑧遊興費を支持し得ぬ客を昔懐から委託さ

せてその預金の方法を講ずる家又はその人。

しまつす(鳥津)名(名)鳥をその鳥

に焚いた果がららうた。

しまつ(仕舞)名(名)「鳥の鳥」の意)

しまつ(鳥津)名(名)「鳥の鳥」の意)

しまつ(鳥津)名(名)「鳥の鳥」の意)

佛身に思辱交和の相あること。

しまめけ(鳥脱)名(名)鳥流の罪人が、その鳥から

ひそかに抜け出ること。又その罪人。しまやぶり。

しまね(鳥根)名(名)しま、しまね。

しまね(鳥根)名(名)しま、しまね。

しまね(鳥根)名(名)しま、しまね。

しまね(鳥根)名(名)しま、しまね。

しまの(鳥)名(名)「波風の荒、鳥の

しまのおお(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の

鳥の鳥に即ち池を穿ち、池の中に鳥を築いたに因る

とも、古の桶島の地、今の奈良縣高市郡高市村大字

鳥、庄に住んだに因るといふ。⑤「孫我馬子。

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

⑥「珠球を射したに基づくが、體四八圓爲朝

を記した神。

しまの(鳥)名(名)「うらしまの(浦島の子)。

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

しまの(鳥)名(名)「鳥の鳥、鳥の鳥、鳥の鳥

「鳥原道中」名(名)京都鳥原遊遊に於ける行

事。毎年四月廿一日、郭中全盛の大夫が盛装、髪を

横兵衛、幅巾、二枚、花菱などの古風にし、屋敷三

本足の下駄を穿いて、八文字を踏んで、練り出す遊中。

①の「らん(鳥原)名(名)「風我が岡に於ける

那蘇教徒の大衆。寛永十四年(二九七)西行長

の遺臣益田四郎(天璋時貞)等、反旗を翻して鳥原、天

堂に據る。幕府は板倉重昌、松平信綱等を遣はして

翌十五年之を鎮定す。一は「ほん」とうす(鳥

原半鳥)名(名)長崎の東南に斗する半鳥

②有明海、鳥原、千石、石嶋に名する。面積四

六〇方町。③「わん(鳥原)名(名)「鳥原半鳥

と原半鳥の間に横たふる海灣。南方は宇土鳥

原鳥よって限られる。

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕

しま(鳥邊)名(名)しま。〔古語〕



の一。大手門の西北、田安門下の内濠を竹橋門に至る間にある。今は閉鎖されてゐる。  
**しみずのしづちうら** (清水次郎長) (名) 八 侯者。實名山本長五郎。清水港の人。勇性果敢。叔父米買次郎八の養子となる。後、侯者となり。俵入叔父で鳴る。晩年農桑に志し、富士山麓の開墾に力を盡くして、明治十二年(二二五三)歿。年六十一。  
**しみずはまおみ** (清水濱臣) (名) 八 關學者。通稱長。泊泊(あ)の又、月齋と號した。敬文に志し、村田春海の門に入る。後、一家を成し、辭格を究め、辭典を編み、隨筆に標誌に造詣の深きを示した。文政七年(一八四五)歿。年四十九。その著に「菅根集」「泊泊筆話」「語林類考」「縣門遺稿」あり。家集に「泊泊舎集」等がある。詠歌は「鴨川集」「清洛集」「蝦夷集」等に掲載されてゐる。

**しみずるくべえ** (清水六兵衛) (名) 八 六兵衛の家はもとよみゆであつたらうが、今は世間の通稱に従ふ京都の陶工。初代、恩齋と號し、寛延中、京都五條坂の陶工清兵衛に學び、明和中、五條で開業し、管て妙法院宮の爲に黒樂茶碗を焼く。六十印を購し、寛政三年(一八二二)歿。年六十二。  
②代。號は寛政。和漢の諸陶器を模し赤繪・青華磁器を製して萬延元年(一八二五)歿。年七十一。  
③三代。祥雲と號し、兩貫に長じ、青華磁器・赤繪を製した。明治十六年(一八八三)歿。年六十二。

**しみたつ** (茂立つ) (自動、タ四) しけ  
**しみたれ** (名) ① 香草。なまけちなこと。② 根性ののさ。意氣地ななまじり。  
**しみち** (爲道) (名) しした。しやう。  
**しみち** (地道) (名) ① 普通の速度で歩むこと。② 馬を普通の足で歩かせること。③ 地下の道。りつ。④ あたりふちる行動。正常のしした。

**しみづく** (浮時) (陳附) (自動、カ四) こほりつく。  
**しみづく** (伊時) (染著) (自動、カ四) そま

**しみず** しむ

**しみつたれ** (名副) しみたれ。  
**しみとどふ** (凍豆腐) (名) ① こわらじうふ。  
**しみとどふ** (染透る) (自動、ラ四) ① ししみむ。しみる。② 深く感ずる。しみわたる。  
**しみぬき** (染抜汚點) (名) 布帛に附著した原因によつて方法を異にする。  
**しみのすみかみがたり** (しみのすみか物語) (名) 文芸雑誌朝日の話五十四項を擬古文で綴つた書。石川雅望の著。二巻。天保二年刊行。享和二年の大村蘭の序がある。

**しみみやく** (支脈) (名) わかれたす。分れた脈。  
**しみみやく** (死脈) (名) 死に近い脈搏。① 鑿鑿物損傷の餘地なくなつた體。② すること。  
**しみみやく** (自脈) (名) 自分自分の脈理をみて診察すること。  
**しみみやう** (至妙) (名) 至つて妙味あること。

**しみみやう** (持明院) (名) ① 佛羅守府將軍藤原基賴が、その邸内に草創した宮。本尊は九品品の阿彌陀佛。後醍醐天皇後深草天皇から後小松天皇まで、至る後深草天皇の御系統。後深草天皇が御譲位の後、持明院を仙洞御所とせられたのでこの名がある。(大覺寺統の別)。  
**しみやう** (持明院流) (名) 歴代徳曉天皇の第一皇子後深草天皇から後小松天皇まで、至る後深草天皇の御系統。後深草天皇が御譲位の後、持明院を仙洞御所とせられたのでこの名がある。(大覺寺統の別)。

**しみらに** (副) しみに。古語。しむの口語。  
**しみる** (自動、マ上) ① 染みる。しみこむ。② 染みる。しみこむ。③ 染みる。しみこむ。

**しむ** (自動、マ上) ① 染む。しみこむ。② 染む。しみこむ。③ 染む。しみこむ。

「しむ」の口語。「まなくしむ」とも。  
**しみわたる** (自動、ラ四) く  
**しみわたる** (自動、ラ四) く  
**しみわたる** (自動、ラ四) く  
**しみわたる** (自動、ラ四) く  
**しみわたる** (自動、ラ四) く  
**しみわたる** (自動、ラ四) く

**しみん** (市民) (名) 市の住民。一げきじよう  
**しみん** (市民) (名) 市の住民。一げきじよう  
**しみん** (市民) (名) 市の住民。一げきじよう  
**しみん** (市民) (名) 市の住民。一げきじよう  
**しみん** (市民) (名) 市の住民。一げきじよう

**しむ** (自動、マ上) ① 染む。しみこむ。② 染む。しみこむ。③ 染む。しみこむ。④ 染む。しみこむ。⑤ 染む。しみこむ。⑥ 染む。しみこむ。⑦ 染む。しみこむ。⑧ 染む。しみこむ。⑨ 染む。しみこむ。⑩ 染む。しみこむ。⑪ 染む。しみこむ。⑫ 染む。しみこむ。⑬ 染む。しみこむ。⑭ 染む。しみこむ。⑮ 染む。しみこむ。⑯ 染む。しみこむ。⑰ 染む。しみこむ。⑱ 染む。しみこむ。⑲ 染む。しみこむ。⑳ 染む。しみこむ。㉑ 染む。しみこむ。㉒ 染む。しみこむ。㉓ 染む。しみこむ。㉔ 染む。しみこむ。㉕ 染む。しみこむ。㉖ 染む。しみこむ。㉗ 染む。しみこむ。㉘ 染む。しみこむ。㉙ 染む。しみこむ。㉚ 染む。しみこむ。㉛ 染む。しみこむ。㉜ 染む。しみこむ。㉝ 染む。しみこむ。㉞ 染む。しみこむ。㉟ 染む。しみこむ。㊱ 染む。しみこむ。㊲ 染む。しみこむ。㊳ 染む。しみこむ。㊴ 染む。しみこむ。㊵ 染む。しみこむ。㊶ 染む。しみこむ。㊷ 染む。しみこむ。㊸ 染む。しみこむ。㊹ 染む。しみこむ。㊺ 染む。しみこむ。㊻ 染む。しみこむ。㊼ 染む。しみこむ。㊽ 染む。しみこむ。㊾ 染む。しみこむ。㊿ 染む。しみこむ。

**しむ** (自動、マ上) ① 染む。しみこむ。② 染む。しみこむ。③ 染む。しみこむ。④ 染む。しみこむ。⑤ 染む。しみこむ。⑥ 染む。しみこむ。⑦ 染む。しみこむ。⑧ 染む。しみこむ。⑨ 染む。しみこむ。⑩ 染む。しみこむ。⑪ 染む。しみこむ。⑫ 染む。しみこむ。⑬ 染む。しみこむ。⑭ 染む。しみこむ。⑮ 染む。しみこむ。⑯ 染む。しみこむ。⑰ 染む。しみこむ。⑱ 染む。しみこむ。⑲ 染む。しみこむ。⑳ 染む。しみこむ。㉑ 染む。しみこむ。㉒ 染む。しみこむ。㉓ 染む。しみこむ。㉔ 染む。しみこむ。㉕ 染む。しみこむ。㉖ 染む。しみこむ。㉗ 染む。しみこむ。㉘ 染む。しみこむ。㉙ 染む。しみこむ。㉚ 染む。しみこむ。㉛ 染む。しみこむ。㉜ 染む。しみこむ。㉝ 染む。しみこむ。㉞ 染む。しみこむ。㉟ 染む。しみこむ。㊱ 染む。しみこむ。㊲ 染む。しみこむ。㊳ 染む。しみこむ。㊴ 染む。しみこむ。㊵ 染む。しみこむ。㊶ 染む。しみこむ。㊷ 染む。しみこむ。㊸ 染む。しみこむ。㊹ 染む。しみこむ。㊺ 染む。しみこむ。㊻ 染む。しみこむ。㊼ 染む。しみこむ。㊽ 染む。しみこむ。㊾ 染む。しみこむ。㊿ 染む。しみこむ。

**しむ** (自動、マ上) ① 染む。しみこむ。② 染む。しみこむ。③ 染む。しみこむ。④ 染む。しみこむ。⑤ 染む。しみこむ。⑥ 染む。しみこむ。⑦ 染む。しみこむ。⑧ 染む。しみこむ。⑨ 染む。しみこむ。⑩ 染む。しみこむ。⑪ 染む。しみこむ。⑫ 染む。しみこむ。⑬ 染む。しみこむ。⑭ 染む。しみこむ。⑮ 染む。しみこむ。⑯ 染む。しみこむ。⑰ 染む。しみこむ。⑱ 染む。しみこむ。⑲ 染む。しみこむ。⑳ 染む。しみこむ。㉑ 染む。しみこむ。㉒ 染む。しみこむ。㉓ 染む。しみこむ。㉔ 染む。しみこむ。㉕ 染む。しみこむ。㉖ 染む。しみこむ。㉗ 染む。しみこむ。㉘ 染む。しみこむ。㉙ 染む。しみこむ。㉚ 染む。しみこむ。㉛ 染む。しみこむ。㉜ 染む。しみこむ。㉝ 染む。しみこむ。㉞ 染む。しみこむ。㉟ 染む。しみこむ。㊱ 染む。しみこむ。㊲ 染む。しみこむ。㊳ 染む。しみこむ。㊴ 染む。しみこむ。㊵ 染む。しみこむ。㊶ 染む。しみこむ。㊷ 染む。しみこむ。㊸ 染む。しみこむ。㊹ 染む。しみこむ。㊺ 染む。しみこむ。㊻ 染む。しみこむ。㊼ 染む。しみこむ。㊽ 染む。しみこむ。㊾ 染む。しみこむ。㊿ 染む。しみこむ。

使役して動作せしめる意をあらはす語。  
**しむ** (時務) (名) その時に必要な務。その時の政務。現時に適應せる政策。① さく (時務策) (名) 時務の方策。  
**しむ** (寺務) (名) 佛。寺院の事務。① 佛。寺務を執行する。② 佛。寺務を執行する。③ 佛。寺務を執行する。④ 佛。寺務を執行する。⑤ 佛。寺務を執行する。⑥ 佛。寺務を執行する。⑦ 佛。寺務を執行する。⑧ 佛。寺務を執行する。⑨ 佛。寺務を執行する。⑩ 佛。寺務を執行する。⑪ 佛。寺務を執行する。⑫ 佛。寺務を執行する。⑬ 佛。寺務を執行する。⑭ 佛。寺務を執行する。⑮ 佛。寺務を執行する。⑯ 佛。寺務を執行する。⑰ 佛。寺務を執行する。⑱ 佛。寺務を執行する。⑲ 佛。寺務を執行する。⑳ 佛。寺務を執行する。㉑ 佛。寺務を執行する。㉒ 佛。寺務を執行する。㉓ 佛。寺務を執行する。㉔ 佛。寺務を執行する。㉕ 佛。寺務を執行する。㉖ 佛。寺務を執行する。㉗ 佛。寺務を執行する。㉘ 佛。寺務を執行する。㉙ 佛。寺務を執行する。㉚ 佛。寺務を執行する。㉛ 佛。寺務を執行する。㉜ 佛。寺務を執行する。㉝ 佛。寺務を執行する。㉞ 佛。寺務を執行する。㉟ 佛。寺務を執行する。㊱ 佛。寺務を執行する。㊲ 佛。寺務を執行する。㊳ 佛。寺務を執行する。㊴ 佛。寺務を執行する。㊵ 佛。寺務を執行する。㊶ 佛。寺務を執行する。㊷ 佛。寺務を執行する。㊸ 佛。寺務を執行する。㊹ 佛。寺務を執行する。㊺ 佛。寺務を執行する。㊻ 佛。寺務を執行する。㊼ 佛。寺務を執行する。㊽ 佛。寺務を執行する。㊾ 佛。寺務を執行する。㊿ 佛。寺務を執行する。

**しむ** (事務) (名) 取扱ふ仕事。擔當する用事。つとめる。① かん (事務家) (名) 事務を取扱ふ人。② かん (事務官) (名) 事務官。事務官。③ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。④ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑤ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑥ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑦ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑧ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑨ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑩ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑪ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑫ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑬ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑭ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑮ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑯ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑰ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉑ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉒ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉓ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉔ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉕ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉖ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉗ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉘ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉙ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉚ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉛ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉜ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉝ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉞ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉟ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊴ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊵ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊶ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊷ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊸ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊹ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊺ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊻ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊼ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊽ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊾ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊿ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。

**しむ** (事務) (名) 取扱ふ仕事。擔當する用事。つとめる。① かん (事務家) (名) 事務を取扱ふ人。② かん (事務官) (名) 事務官。事務官。③ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。④ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑤ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑥ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑦ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑧ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑨ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑩ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑪ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑫ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑬ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑭ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑮ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑯ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑰ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉑ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉒ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉓ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉔ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉕ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉖ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉗ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉘ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉙ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉚ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉛ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉜ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉝ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉞ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉟ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊴ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊵ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊶ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊷ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊸ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊹ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊺ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊻ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊼ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊽ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊾ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊿ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。

**しむ** (事務) (名) 取扱ふ仕事。擔當する用事。つとめる。① かん (事務家) (名) 事務を取扱ふ人。② かん (事務官) (名) 事務官。事務官。③ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。④ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑤ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑥ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑦ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑧ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑨ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑩ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑪ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑫ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑬ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑭ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑮ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑯ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑰ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉑ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉒ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉓ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉔ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉕ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉖ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉗ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉘ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉙ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉚ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉛ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉜ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉝ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉞ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉟ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊴ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊵ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊶ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊷ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊸ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊹ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊺ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊻ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊼ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊽ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊾ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊿ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。

**しむ** (事務) (名) 取扱ふ仕事。擔當する用事。つとめる。① かん (事務家) (名) 事務を取扱ふ人。② かん (事務官) (名) 事務官。事務官。③ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。④ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑤ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑥ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑦ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑧ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑨ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑩ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑪ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑫ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑬ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑭ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑮ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑯ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑰ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。⑳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉑ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉒ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉓ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉔ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉕ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉖ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉗ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉘ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉙ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉚ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉛ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉜ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉝ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉞ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㉟ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊱ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊲ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊳ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊴ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊵ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊶ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊷ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊸ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊹ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊺ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊻ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊼ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊽ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊾ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。㊿ かん (事務官) (名) 事務官。事務官。

シムン (Simoon) (名) アラビヤ或はアフリカ等の沙漠に春夏の候に起る砂まじりの乾燥した熱風。①あてて送る。②あてて送る。

しむく (むく) (動) (仕向く) (他動、カ下) ①片に龍骨なく滑かである。鱧の背面は常暗褐色、腹面は黄褐色、背面に不規則な黒色横斑がある。蛙、蜥蜴の外、好んで鼠を捕食する。

しむけ (向) (名) ①あてがひ。あてつけ。②先方(へてて送る)こと。③あてがひ。あてつけ。④仕向をなす方。⑤経営方から仕向をなす取引の簿記の勘定科目。⑥(仕向) (名) (経商) 貨物を仕向ける土地。⑦注文品の發送先。

しむけち (四無礙智) (名) (佛) 菩薩の有する四種の智、即ち法無礙智、義無礙智、辭無礙智、辯無礙智のこと。

しむける (向) (動) (仕向ける) (他動、カ下) (しむく)の口語。

じむし (地獄) (名) (動) (食糞) (子) (名) 科の昆蟲の幼蟲。體は圓柱状、長三體位。數條の横皺を有し、毛を生ずる。頭部赤褐色、胸部灰白色、觸れると腹面を屈曲して丸くなる。土中に棲居して草根や嫩苗の根を食害す。すくもし。せりむし。

シムンゼン (線) (名) (數) (Simons's line) 三角形の外側頂上の一點から、三つの邊又はその延長線に引いた垂線の足を連ねた一直線。此の定理を初めて世に公したは、英人ロバートシムン (Robert Simson) と同時代のワリス (Wallis) であるから、ワリス線ともし稱される。又シムンがあるその幾何學で線と稱せられたる。

じむね (地棟) (名) (建) 土蔵の棟下にある、合掌棟を支へる太い横木。

しめ (名) (名) (名) 木を立てて又は繩を張りなどをしむる。①しるもの。②しるし。標識。③人を禁制すること。④めなは。

しめ (塔) (名) 砂利の類の土。湯地を築き固めるに用ひる。

しめ (緋) (名) ①しめること。しめつけること。②合はせること。合はせた高。合計。③半絨十束即ち百疋。二千枚。④封目(名)に記する。⑤の字。

しめ (鶉鴉嘴) (名) (動) 燕雀目雀科の小鳥。體肥え、翼太く、尾は短い。羽は褐色、頸に淡灰色の帯があり、嘴は黒色で、兩頬白く、白帯がある。下尾白く、嘴は圓錐形で肉色、脚は淡褐色、秋冬季に我が國に飛來し、獵鳥とされる。

しめ (神馬) (名) じんめ(神馬)の略。「をあげる」としめあけ(緋) (名) 指定せぬやうに、障子襪などしめい(示命) (名) 指示と命令。しめい(使命) (名) 使としてうけたまはつた命令。①賦與せられた務。

しめい(死命) (名) 死ぬるか生きるかの關係。いのちの有無。①を制す(句) 他人の念所をおさへる。他人を自由に制する。

しめい(戸盟) (名) (盟を) (戸) (盟) (意) 同盟の主しめい(同盟) (名) 同盟又は盟約を掌る役。しめい(同盟) (名) 時居のまじはり。詩人の仲間。

しめい(指名) (名) 人名を指定すること。なまじりきようそう(指名競争) (名) (法) 指名したものに許す競争。①さいけん(指圖書) (名) (法) 指圖書を指名し、さいけん(指圖書) (名) (法) 指圖書を指名する名稱。これが譲渡をなすに、債務者に其の旨を通知するが承認を得るがなければ、債務者の他第三者に對抗するを得ない。

しめい(指名) (名) (法) 指圖書を指名する名稱。これが譲渡をなすに、債務者に其の旨を通知するが承認を得るがなければ、債務者の他第三者に對抗するを得ない。

しめい(氏名) (名) (法) 法律上に於ける人格權のん(氏名權) (名) (法) 法律上に於ける人格權の



鶉鴉嘴

一、自らの氏名の専用を他から奪せられぬ權利。①てんこ(氏名點呼) (名) 氏名を順次に呼びあげて人員をとりよらるること。しめい(耳鳴) (名) しみなり。①命。しめい(耳鳴) (名) しみなり。①命。しめい(耳鳴) (名) しみなり。①命。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。しめい(四明山) (名) (佛) しめいてんだい。

通によい。煮食又は乾煎、醃蔵して食用に供する。  
しめしあわす(名) 煮食相談しあふ。(示合はす)  
しめしあわす(動) 煮め相談しあふ。(合面を)して知  
らせよ。

しめしあわせる(動) 煮め相談しあわすの口語。  
しめしがはら(名) 標栗原(名) 地蔵社の一  
下野園にあつた名所。今の栃木縣下野真木郡栃木  
町の北方の郊野。古歌に伊吹山(栃木縣の露だか  
ら)の北方に(名)に配して用ひる。

しめしはい(名) 湿灰(名) 茶の湯で、熾炭手  
煎に用ひる灰で、番茶の煎汁を入れて天日に曝して  
製したる。

しめしじめ(名) しめりうるほふさま。(雨な  
ど) 顔面なく降るさま。ひっそりしたさま。しめ  
わか。(名) 心にしみこんださま。しりしり。

しめしよこ(名) 湿緯(名) 絹織物を織る時、緯絲を  
濡して織る。(名) 火を消す。けす。

しめす(名) 湿す(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(示) 湿す(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

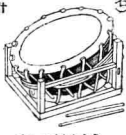
しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(示) ぬらす(他動、サ四) ぬらす。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。



しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

法で、工場を閉鎖すること。工場閉鎖。ロッカー・ア  
ウト(lock-out)。  
しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。



しめす(動) ぬらす。ぬらす。ぬらす。

しめもらい(名) 標黄注連貫七五三貫  
(名) 正月十五日に、取去つた松かやしめ飾を子供が  
貰ひ帰るに在る長巻の飾り。

しめやか(名) ぬすのしつかなさま。(うち) 沈んだ  
さま。ぬすに語りふさま。

しめやかた(名) 染屋形(名) 彩色した屋形船。  
しめやか(名) 陶器の焼方。陶器の業地を  
施前前に堅く焼き締め、後、釉薬をぬすにかけて低温  
度で焼くこと。

しめやう(名) 自動、ガ四) しめやかと思ひ  
ぬすをひきわたす。しめなはをぬす。

しめやす(名) 縮寄す(他動、サ下二)  
縮めて一つに寄集る。抱きしめる。しかと  
抱く。締めつけて近づく。

しめよせる(名) 縮寄せる(他動、サ下二)  
縮めて一つに寄集る。抱きしめる。しかと  
抱く。締めつけて近づく。

しめらに(名) しみに。(古語)  
しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめら(名) ぬすのしつかなさま。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。

しめん(四面) (名) 四面の平面。四方の面。  
第四の面。四邊。まはり。ぐるり。(名) 奥行と開口  
の間の長さなること。こうけき(四面攻撃)  
の。四方から攻撃すること。四方がら反對する  
こと。そか(四面楚歌) (名) (紀)の項王本  
紀に支那の楚の項羽が垓下圍まれた時夜裏で  
四面の漢軍中に婦人に楚國の歌の起るを聞いて、  
楚の民が漢に降つたかと驚いたといふ故事に據る。  
たすけなく孤立すること。四面皆敵であること。







しもみぐさ(霜見草) (名) 植物の異稱。又冬菊。(古語)

しもむ(下無) (名) 言我が國雅樂十二律の一十二律の基音なる壹絃(下)から五番目に當る音律。近代俗樂音律の五本の調子(西洋音樂の嬰(ヘ)の音)に相當する。

しもむらかんさん (下村觀山) (名) 一人専ら。帝室技藝委員。名は清三郎。紀州の人。橋本雅邦に師事して狩野派を修め、東京美術學校教授・支那美術委員となつた。其と共に、日本美術院を創立して評議員となつた。その新古典主義の作品は世に重んぜられた。昭和五年(二五九〇)没。年五十八。

しもやけ(相瘡) (名) 暑強い寒氣中へ生ずる皮膚の疾患。寒氣の爲局部に血行障害を來し、潮紅を呈し蒼青色を帯び灼熱・痒痒を感し、摩擦又は掻爬をなす爲遂に潰瘍を發し、更に膿となる。耳・手足に多く發する。とうしやう(潰瘍)。

しもやしき(下屋敷) (名) 上屋敷の持屋敷。如外などに設けた別邸。別荘。一もの(下屋敷者)

しも(霜夜) (名) 霜の置く寒夜。一名香の名。ぢんの一種。香、開かで研ぐ所がある。一の鐘

しもよけ(霜除) (名) 草木の霜に傷むのを防ぐ爲に薪などをつくつた。

しもわら(相割) (名) 急激の寒氣に遇つて、樹幹の外部に收縮するに拘らず、内部は比較的温暖か収縮せぬ爲、樹幹の中心に向かつて縱線狀に割れまわること。

しもん 支文 (名) 四段公文に附帶して奉る摺。り

しもん 市門 (名) 市の入口の門。一に倚る (句) (史記に出づ) 趙趙が婦を行人に是して誘ふ。しもん 師門 (名) 師匠の家。一ふにいふ。しもん 私門 (名) 個人の私家。自己の家。しもん (語問) (名) はかりとふこと。一あん語

問案 (名) 或機關に諮問する議案。一かいはく (諮問會) (名) 諮問の爲の會合。一きかかん (諮問機關) (名) 法廷。しもんかん (もん) 四文 (名) 文法に當る。一やん (もん) 四文 (名) 四文の輕便。一に(へ)ていふ(か)ろく(し)何事にまじし出ることの聲。一せん 四文 (名) 昭和五年に録られた寛永通寶。江戸時代には四文に當り。明治以後には三厘に通用した錢。あななきななせ。一や (もん) 四文屋 (名) 江戸時代の末に、一品、四文に相當する程のもの。商標。大道商人。

しもん (四門) (名) 佛の眞菩薩羅尼の方位の四の門。即ち、寂心門東、修樂門(南)、喜提門(西)、涅槃門(北)。華嚴の四方の門にこの名を用ひることがある。一眞性・真相の理に悟入する四の門。有門(空門)亦有亦空(亦有亦無)。非有非無。一がく (四門學) (名) 支那で天子の宮門に設けた學校。一しんか (四門親家) (名) 親類の親類。またの親類。一ゆちかん (もん) 四門遊觀 (名) 佛釋迦が太子として宮城にいらした時、東門から出遊して途上に老人が杖にすがつて詰問してゐるを見て、生あれば老あり。この悟り、西門から出遊して一人に逢ひ、生あれば病ありを知る。南門から出遊して一人に逢ひ、生あれば死あるを知り、更に北門から出遊して燃然覺悟した沙門に逢ひ、その姿も心も清淨なるを見て出家修定の望を起した。

しもん 死門 (名) 佛死は此の世からあの世への閻門であるからいふ。死。死。死。

しもん (指紋) (名) 指さきの内側にある波紋状のきめ。又、その波紋を押捺した印象。一ほう (もん) 指紋法 (名) 個人を識別する。一 (指紋) (指紋) (名) 個人を識別する。一 (指紋) (指紋) (名) 個人を識別する。

指紋は各人各個の形状を有し、一生變更せずと證明



〔紋指〕

したのに始まり、ついで、イギリス人エドワード・ヘンリー (Edward Richard Henry) が改良を加へ、一九〇五年に編纂のロッセル (Roessler) 博士は更に、それが分類法を完成した。我が國では明治四十二年以來ロッセル式が實施されてゐる。

しもん (耳門) (名) 耳の孔の口。一 (もん) 佛寺門派。國城寺即ち寺門。一 (もん) 佛寺門派。國城寺即ち寺門。一 (もん) 佛寺門派。國城寺即ち寺門。

しもん (自問) (名) 自己の一家。自己の處。一 (もん) 自問 (名) われがわが心に問ふこと。自ら問ひ自ら答へること。自ら疑問を起し、自ら解決すること。

しもん (地紋) (名) 布帛の地に織出した模様。一 (もん) 地紋 (名) 地に透かして紋様をつめて織出した紗。顯紋紗の野。一ぬり (地紋) (名) 諸種の色漆を用ひて、種種の紋様を塗り出すこと。又、その塗物。

シモンズ (Arthur Symonds) (名) (イギリス) の詩人批評家。象徵派の代表者として知られる。「文學に於ける象徵派」の著がある。サイモンズ。シモンズ (John Addington Symonds) (名) (イギリス) の詩人。文學史家。希臘詩人及びダンテの研究の名高。(A.S.S.)

しも (紗) (名) 生絲を精製して、一本の経絲が一組となつて緯絲と組織する毎に、その位置を轉移する織方にした一種の織物で、織目自ら輕く深いもの。

しも (赦) (名) 罪過を許して問はぬこと。一 (もん) 赦 (名) 罪過を許して問はぬこと。一 (もん) 赦 (名) 罪過を許して問はぬこと。

しも (社) (名) やしる。ほご。神社。支那で、土地の守護神。又、その祭神。一 (もん) 支那で、二十五家又は百家の部番。一 (もん) 鎮守の祭。一 (もん) 舊暦の最下級の行政區別。一 (もん) (社) (名) 會社。一 (もん) (社) (名) 會社。一 (もん) (社) (名) 會社。一 (もん) (社) (名) 會社。

しも (射) (名) 弓を射る術。弓術。一 (もん) (射) (名) 弓を射る術。弓術。一 (もん) (射) (名) 弓を射る術。弓術。一 (もん) (射) (名) 弓を射る術。弓術。

しも (寄) (名) 家。こや。やど。やどり。風の方より、星屋。支那の昔の軍制で、軍隊が一日三十里行軍して宿ること。一 (もん) 寄宿。一 (もん) (寄) (名) 家。こや。やど。やどり。風の方より、星屋。支那の昔の軍制で、軍隊が一日三十里行軍して宿ること。一 (もん) 寄宿。一 (もん) (寄) (名) 家。こや。やど。やどり。風の方より、星屋。支那の昔の軍制で、軍隊が一日三十里行軍して宿ること。一 (もん) 寄宿。

しも (野) (名) 四方の野原。四方の野外。一 (もん) (野) (名) 四方の野原。四方の野外。一 (もん) (野) (名) 四方の野原。四方の野外。

しも (子夜) (名) 夜の子の刻。まよなか。よなか。一 (もん) (子夜) (名) 夜の子の刻。まよなか。よなか。一 (もん) (子夜) (名) 夜の子の刻。まよなか。よなか。

しも (蛇) (名) うはな。おろち。想像上の一種の動物。大蛇で似、人に樂りたずむ。一 (もん) (蛇) (名) うはな。おろち。想像上の一種の動物。大蛇で似、人に樂りたずむ。一 (もん) (蛇) (名) うはな。おろち。想像上の一種の動物。大蛇で似、人に樂りたずむ。

しも (飲) (名) 飲。一 (もん) (飲) (名) 飲。一 (もん) (飲) (名) 飲。一 (もん) (飲) (名) 飲。一 (もん) (飲) (名) 飲。

しも (夜) (名) 夜。一 (もん) (夜) (名) 夜。一 (もん) (夜) (名) 夜。一 (もん) (夜) (名) 夜。一 (もん) (夜) (名) 夜。

しも (助) (名) 助。一 (もん) (助) (名) 助。一 (もん) (助) (名) 助。一 (もん) (助) (名) 助。一 (もん) (助) (名) 助。

しも (接) (名) 接。一 (もん) (接) (名) 接。一 (もん) (接) (名) 接。一 (もん) (接) (名) 接。一 (もん) (接) (名) 接。

しも (名) (名) あつがましく差酌心の乏しいさま。一 (もん) (名) (名) あつがましく差酌心の乏しいさま。一 (もん) (名) (名) あつがましく差酌心の乏しいさま。一 (もん) (名) (名) あつがましく差酌心の乏しいさま。

じやあじやあ(名)副 亦などの勢よくはばしり

しやあつく(名) 腹面なく義務感乏しい人を罵つて

ジャーナリスト(Journalist)(名) 新聞記者。雑記記者。新聞雑誌の寄稿家。

ジャーナリズム(Journalism)(名) 新聞・雑誌等の定期刊行物。◎新聞・雑誌論の記事。◎讀者大衆に歡迎されるべきな價値の標準として、場當りのな興味本位の記事を出載する新聞・雑誌の經營上の主義。新聞雑誌論。

ジャーナル(Journal)(名) 日記。日刊新聞。

ジャーナル(Shap)(英) 銳利の。尖てる。

辛辣な鋭敏な。◎漢語の製記號(イ)ペン(ル)(名) (Ever sharp pencil) の形に心を入れて之を抽出して使用する鉛筆。抽出鉛筆。

ジャーマニズム(Germanism)(名) ドイツ人氣質。ドイツ魂。ドイツ情。ドイツがぶれ。

ジャーマン(German)(英) 名。形。ドイツ人。ドイツ語。ドイツの。ドイツの。

シャルルのほうそく(理)(一)の法則(理)(Charles law) 氣體は其の種類の如何を問はず、一定の壓力の下に其の膨脹係数は相等しい。水銀膨脹の法則。フランクム・シャルルの発見。

しゃあん(謝安)(名) 入支那東晉の宰相。字は安石。行書よくなり。征西大將軍桓温の時馬となり、吏部尚書となり、孝武帝の時、尙書僕射と同じ馬券を兼ねた。荆秦王帝の來寇するや、總統となつて大敗せられた。太元十年三三五の夏、年六十六、庶陸郡公に封じられた。文壇と描いた内容。主觀。

しゃい(寫意)(名) 寫しと描いた内容。主觀。

しゃい(謝意)(名) ◎感謝の心。◎謝罪の心。おわびの心。◎母體内に於ける横位と縦位との間の位置。

しゃい(胎兒)(名) ◎生(獨名胎兒) ◎胎兒

ジャアント(Giant)(名) 巨人。怪物。◎俾人。人傑。◎アメリカ合衆國ナショナルリーグ所屬のニューヨーク職業野球團の略稱。巨人軍。

シャイツ(散子)(名) 麻堂用語。ま(散)。

しゃあーしゃあ

シヤイデマン(Philipp Scheidemann)(名) 八ノドイッの政治家。新聞記者から代議士。民主黨幹部。一八九八年ワグタス内閣中に列し、一九一九年新共和國最初の首相となつた。ツルサイニ條約の調印を拒んで去職。後、政界から隱退した。

しゃいもなし(射影)(名) ◎一。ちうもない。わしやいん(社員)(名) ◎社団法人を構成するもの。又、會社に勤務するもの。

しやいん(車胤)(名) 入支那東晉の學者。字は武子。貧乏に生まれて、油を得ることができないので蠶を集り、その光で勉強したと傳へられてゐる。安帝の時吏部尚書となつたが、元龜權を專らしたので、之を奏しようとして事泄れ却つて逐られて自殺した。

じやいん(邪淫)(名) ◎淫。淫を失ふこと。

じやいん(邪淫)(名) 佛五塵の一。妻又は夫にあらざる者と淫を行ふこと。一戒。

ジャウアサラサ(爪哇更紗)(名) ジャウマから上げたもの。

ジャウアアウ(爪哇島蘭婆島)(名) 地(Chebu) フライ島の最大島東南部の大島。南は印度洋に臨み、北はジャバ海に面し、遙かにギルネオ島に對する。東西に細長い島。火山が貫き、面積は小島島メヌラを合して約三十萬平方。オランダの植民地で、甘蔗・烟草・茶・規那胡椒・護謨等の産出が多い。首府はバタビヤ。

シヤヴァンヌ(Pierre Puvis de Chavannes)(名) フランスの畫家。モナコに生れ、ターチュールに學び、遂に當時の自然主義の風潮に反抗して立ち、初期文藝復興期の精神を復しようとして、形近フランス畫に、新紀元を劃した。その畫は、色彩は簡單であるが、美しい調調がある。諸聖東の外、『登しき漁夫』『風』『秋』『戦争』『希望』『平和』等の傑作がある。(ハタ)

シヤヴェリン(スロウ)(Javelinthrow)(名) 運動用語。槍投げ。

シヤウエル(Shovel)(名) 土砂をすくひ、肥料等を切返すに用ひる具。形は十餘に切れて大きく、鍍製の鐵に木柄をつけたもの。

しやうん(社運)(名) 會社の運命。會社のありさま。

じやうん(邪淫)(名) ◎淫を承す。◎邪法によつてあらはれるもの。不潔。

しやえい(含衡)(名) 佛(含) 中印度に屬し、迦羅衛國の西北に於て、釋迦が二十五年間説法教化された地と傳へられて、波羅海(即ち王鼓に毗鄰)の都城であった。有名な那蘭經會は其の南に

しやえい(射影)(名) ◎射影。◎影。◎物のかげ。うつすこと。又、うたがけ。◎寫影の撮影。

しやえい(寫映)(名) ◎光又は影のうつること。光又は影をうつすこと。

しやえい(斜影)(名) ◎光のなまめにうつること。

しやえい(斜映)(名) ◎光のなまめにうつること。

しやえい(含營)(名) ◎軍軍隊が家屋内に休養宿泊すること。

シヤオツアイ(小柴)(名) 支那料理で、小皿又は井に盛つて、最初に運びそのまゝ食前に置くもの。我が國の口利の類。

しやおん(謝恩)(名) 受けた恩に感謝の意を表すこと。

しやおん(謝恩)(名) ◎謝恩會(名) 學友などが相謀つて、師に謝恩する爲に催す會合。一さい(謝恩會)(名) 謝恩會。

しやおん(謝恩會)(名) 謝恩會の音聲を寫す文字。假名文字アルハヰト。朝鮮の語文の類。

しやか(釋迦)(名) 入釋迦牟尼。

しやか(寫下)(名) ◎數目集たること。

しやか(沙河)(名) 地(Shih)。滿洲國奉天の南約一五浬にある地名。高麗沙河河の所在。明治三十七八年戰役の沙河會戰で其の名が知られてゐる。

かいせん(沙河會戰)(名) 薩摩明治三十七年十月、薩軍總司令官クロトキンが攻勢を取つたので、我が軍が之を沙河に撃破した戰争。我が

兵力十五萬、薩軍二十五萬。我が死傷二萬、薩の死傷四萬五千。我が軍の備糧約五十千も。

しやが(車駕)(名) ◎のりものこと。

しやが(射干胡蝶花)(名) ◎種甚長且花の蕾蜂多年生草本。高さ一六〇匁位。地下に根莖があり、厚くして光澤ある厚い、臥狀の葉を叢生する。春莖中から花莖を抽出して開花する。花梗は數枝に分かれた莖片には、線毛状に細裂した鱗片を有し、白色に紫線があり、中心は黄色を呈する。果實を結ぶことなく、地下莖を以て繁殖する。一ばな(胡蝶花)(名) 種。

ジャカード(Jacquard)(名) ジャカード機。

ジャカード機(Jacquard machine) 織機。織機が完成したから一種。一八〇四年フランスマンジャカードが完成したから一種。多数の経糸を自由に運動させて大きく模様を織り得る特徴を有する。

しやかい(射界)(名) ◎彈丸の到達する極限。

しやかい(戒律)(名) ◎佛戒律を捨てて守らぬこと。

しやかい(捨戒)(名) ◎佛戒律を捨てて守らぬこと。

しやかい(社會)(名) ◎相互に結合し相互に協力して共同生活をなす組織又は團體。◎なま。交友關係の個人。◎世の中。世間。◎空間的に接近して生活が公共にしてゐる個人。◎權力關係以外の場合におかれた人の生活團體。一いし(社會意思)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)

しやかい(社會意識)(名) ◎社會意識。◎統制。◎組織。◎道徳の如きもの。一いし(社會意識)





大衆黨との合同によって成立し右翼中間派の無黨政黨。一たいほ「社会退歩」(名) [Social Progress] 一般に社会が發展の當初の状態(後進)とよとする。一ちつじよ「社会秩序」(名) [Social Order] 個人間又は社会諸部相互間の固定的調和的關係。

計一(名) [Social Statistics] 社会現象全般に關する統計、即ち經濟、政治、道德、人情、勞働事情、最低生活費等に關する統計。一とうけい「社会統制」(名) [Social Control] 社会の秩序を維持する爲に、社会の成員たる個人の意思を結合し、社会の各種の要求に個人を應ずる作用。その手段としては、輿論、法律、信仰、道德、慣習、禮儀、教育等が採用せられる。

一とうた「社会淘汰」(名) [Social Selection] 人口が社会特對の結果異なる淘汰分類せられること。都市の發達として優秀なる農民階級を吸收すること、及び國際間に於ける人口交換等によつて實現せられる。一なべ「社会鍋」(名) [Social Boiling] フランシスム「社会」(名) [Social] 社會主義、資本主義の倒壊を防衛してゐる上から、共產黨が社会主義に對して命名したもの。一ぶぶり「社会物理学」(名) [Social Physics] 社会現象を自然科学的實踐的に研究する科學。一ぶんか「社会分化」(名) [Social Differentiation] 社会が單純同質の状態から複雑異同の状態に進行すること。一んか「社会變化」(名) [Social Change] 社会の進歩は常に進歩してゐるが、實は或物は進歩し或物は退歩して常に變化すること。工業、商業、衛生の如きは進歩してゐるが、宗教、倫理、道德等は退歩して過去の人の或ものに及ばぬものある類。一ほうちやく「社会法學」(名) [Social Jurisprudence] 社会政策的法律學、社会保險、社会衛生、社会労働中産階級法等を研究する法學の一分科。一ほうちやく「社会法規」(名) [Social Legislation] 国家に公共團體が制定した法規、即ち社会局管理

事項に關する法規。一ほうちやく「社会奉仕」(名) [Social Service] 社会福利の増進の爲に努力實行すること。一ほけん「社会保險」(名) [Social Insurance] 労働者その他の無產階級者が特定事故發生の際遭遇する、財政上の困難を救済する爲の保險。一ほんいせつ「社会本位説」(名) [Socialistic Theory] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みちやもくろん「社会名目論」(名) [Social Nominalism] 社会は名目として存在しない、それは単に名稱に過ぎない。社会に於いて眞に實在するものは個人のみであるとする理論。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。

一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。一みんしやく「社会主義」(名) [Socialism] 社会は其の爲に個人の活動を従位にしようとする學說。



①醫風邪。感冒。

じやき 邪義(名) 不正な教義。よこしまな道義。

しやきしやき(名) 副 物を噛むに齒切れのよい

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

じやきしやき(名) 副 物を噛むに不愉快な齒切

①砂金袋(名) 貴砂金を人に贈る時のふくろ。

外側は龜形金紙一枚、裏側は無地金紙一枚中は、

黄赤赤の紙各一枚で包み、その上を紅白の水引で

結んだ。①せき(砂金)の形にさせた餅。

しやく(尺) (名) 我が國で舊制の長さの単位。寸

の十倍、丈の十分の一。度量衡の原語である。白文

イリジウムとの合金の棒上に對する二標線間の温度

攝氏〇・二五度に於ける長さの三十三分の十。曲尺

は約〇・三〇三〇三米。短尺は約〇・三六三六米。②な

がたけ(名) 所あり(句) (差) 所あり(句) 短き所出

づ(句) 一寸に比べては長い尺で、時には短くて尺の

ことがある。一尺に比べては短い寸で、時には長

くて餘ることがある。即ち賢者も事によつては

劣ることがあり、愚者も事によつては優ることがあ

ることになる。③一を打つ(句) ④一を打つ(句) 長

さはながい。⑤しやくとりむし(句) 身を屈して前

進する。⑥一を取る(句) 尺を打つ。⑦一を枉げ

て尋を直(句) (孟子) 滕文公篇に出づ。短

いのなまげちぢめて長いものを正しく伸ばす意。小

節を捨てて大義を取り、小益を損じて大利を獲るに

類へい。

しやく(勺) (名) 我が國で舊制の量の単位。升

の百分の一。約〇・一八リトル。⑧我國で舊制の地

積の單位。坪の百分の一。

しやく(杓) (名) ひしやく(柄杓)。⑨楮(楮) 楮形科の

多年生草。高さ約一米に達する。葉は二回三回複

葉で、長葉柄があり、裂片は卵形乃至長楕圓形に鋸齒

がある。夏、白色の五瓣花を複繖形花序に配列す

る。果實は長楕圓形。熟すと光澤ある黒色となる。

しやく(酌) (名) 酒を杯につぐこと。又、それを

なす人。⑩飯後私酌の杯。

しやく(赤) (名) ⑪あか。せき。⑫しやくにく(赤)

しやく(筋) (名) 筋の赤音は、つ、其の音骨

に通ふが起んで、尺の音を借りて用ひる。又長

さが一尺ばかりであるからいふと、東帯の時右手に

持つ具。又、時に衣冠直衣用の時にも用ひる。も

と君前で徳志の爲に、用

事を書記するに用ひた

のてあつたが、後、容儀な

整へる具となつた。長さ一尺二寸位、幅二寸位。牙

笏と木笏とあり、木笏は、位、様、権、杖、柄、權

などを用ひる。

しやく(錫) (名) しやく(錫) 錫杖。

しやく(爵) (名) 舊の形のまがつき。玉角、金銀

などの等級となる。酒器。⑬支那の古代の諸侯又は

臣僚の世襲の身分。諸侯を公侯、伯子、男の五等と

し、臣僚を卿大夫、士の三等とする。⑭勅旨によつ

て授與せられる勲典の一。華族、朝鮮貴族の世襲階

級で、公侯、伯子、男の五等。之を授與せられるは、

勅旨によつて、宮内大臣がこれに奉存する。――

い(爵位) (名) 爵位と位と。

しやく(痼) (名) 痼疾の胃腸壁によつて胸部

腹部に起る激痛。婦人に多く、其しきに至つては

人事不省となる。⑮かんしやく。氣に入らぬこと。い

こす原因。いとほりのこと。⑯のむし(癩蝨)

(名) 怒情を起させらるるもの。⑰のむし(癩蝨)

に類する。――に障る(句) 恒惑の心を起す。

しやく(釋) (名) 文意の解釋。註釋。⑱講釋又は

講釋師。⑳佛の轉世の弟子たるをあらはす爲に、

姓として用ひたもの。㉑眞宗で死者の戒名に冠して

しやく(私約) (名) 個人の約束。⑳用ひる語。

しやく(試薬) (名) 化學試薬。㉒混合物質の有

無を検出するに用ひる藥品。沃素の酒精溶液は、酸

となる深藍色に變ずるによつて、澱粉を識別する試薬

とされる。

しやく(殺) (名) 佛の僧侶の死去。㉓有無の境を

しやく(弱) (名) しわか。こと。幼年。㉔數或數

を成桁できりあげた時その數に添へていふ語の故に

實際の數よりは大きなるもの。㉕弱をなす弱とする

じやく(餌薬) (名) 不生、養生に用ひる薬。①類。

じやく(持薬) (名) 不生、服用する薬。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。

じやく(阿) (名) 入、膠原酸。②あより。









しやけつ(渴血)(名)【醫】むねまらぶ。静脈から血液五〇乃至四〇〇託を一同に高出させること。高血

しやけつ(射月)(名)沙上を照らす月。しやけつ(射月)(名)西に傾いた月。

しやけつ(蛇結芸実)(名)【種】豆科の落葉灌木。葉は葉柄と共に刺多し、葉は二回羽

しやけん(謝女)(名)【人】晋の將軍。字は刃度。謝安の子で、謝安の甥。太元八年三八三春晋の淝

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見がな心。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

しやけん(邪見)(名)○としまな見た。不正な見か。○のつ(邪見角)(名)邪見が物事に

て蒼灰色、腹部以下は灰白色で、黒色の斑點があり、脚には栗色の横紋を有す。下尾筒は淡黄褐色で、濃い雲形斑

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目

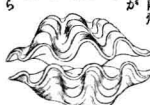
しやこ(蝦蛤背龍蝦)(名)【動】節足動物口脚目



【鳥 鶺鴒】



【姑 蟻】



【鰆 鰆】

しやこう(車行)(名)車に乗って行くこと。【車】のすか。

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(斜巷)(名)いろまち。いろざと。遊路。【斜】斜にたす。坂道。【巷】

しやこう(蛇行)(名)くねりまがって行くこと。【蛇】はびま行くこと。【行】なまに行くこと。

しやこう(邪行)(名)よこしまのおこなひ。【邪】よこしま。【行】なまに行くこと。

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香

しやこう(麝香鹿)(名)麝香鹿の香鹿を指したる成分の濃つてゐる麝で、これから小豆づつ芳香



【麝 香 鹿】













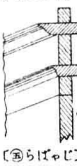
の自由な世界。一き「娑婆氣」(名)民間俗念を離れぬ心。一せか「娑婆世界」(名)俗言。一ふさき「娑婆塞」(名)しばふさき。一ふさげ「娑婆塞」(名)いたうに此の世に生ずる他人の邪業となること。又そのほふ「娑婆」は、

じやはい「磨煤」(名)磨音のほひある煤煙のしやはく「沙漠」(名)さく。

ジヤパニース「Japaneese」(名)日本人。日本語。ジヤパノファイル「Japannophile」(名)親日派。ジヤパノフォビア「Japannophobia」(名)排日熱。恐日熱。

ジヤパノマニヤ「Japannomania」(名)親日熱。日本癡熱。親日派。

じやはみ「蛇食」(名)山野で、圆形に草木の生でじやはら「蛇腹」(名)じやはら。じやはらば「蛇腹」(名)蛇腹の横紋。〇寫真暗箱の側板と自由伸縮する皮又は布で作らば、蛇腹の距離を種種に變化させる爲のもの。〇建造建築物の軒脚部、腰脚部天井等に、帯の如く環行する突起。一いと「蛇腹」(名)蛇腹に用ひるよりを強くかけたる。ぬい「蛇腹縫」(名)じやはら。一ふせ「蛇腹伏」(名)左袂の袖と右袂の袖とを合はせて伏せ縫にたせ縫。



〔るらば〕

じやはん「這般」(代)これ。これらのこと。じやはん「車盤」(名)イーター車地。

ジヤパン「Japan」(名)イター車地。(Maruo Podo)の記行文の中に「Zapanu」と記して、我が國を歐洲に紹介した語の更に轉訛したものと云ふ(英米人日本を呼ぶ稱。

ジヤパン・タイムズ「Japan Times」(名)慶應元年、横濱第一銀行支配人チャールズ・ウィッカビー等が横濱で發した週刊英文新聞明治十二年頃まで繼續した。明治三十年三月日本の宣傳機關として創刊された。日刊英文新聞。最初の社長は頭元亮氏。

ジヤパン・ツーリスト・ビューロー「Japan Tourist Bureau」(名)内外觀光客案内所。明治四十五年設立。東京府内に本部を置き、内外都市に案内所を置。じやはひ「奢靡」(名)おごつて浪費すること。しやは「社交」(名)社交又は會社の費用。〇神社の費用。

じやは「蛇皮」(名)蛇の表皮。一せん「蛇皮線」(名)音三枝の脚に蛇皮を張つたもの。支那明清樂の絃索器と琉球の民族樂器とがある。形は三味線と大同小異。「はとまや」。

じやはひょう「謝豹」(名)「動」。しやはびょう「湯瓶」(名)「佛」。瓶の水を移し入れる意。佛法の奥義を師から弟子に傳授すること。

しやはん「車夫」(名)人力車を挽く人。くるまひき。しやはら「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「車服」(名)乗車と衣服と。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。じやはふく「邪風」(名)なまぬい風習。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

じやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。しやはる「喋」(自動、ラ四)「話す」。

社の事務。—しき(社務職)(名)昔、神社の社務を取扱った神職の名。松尾平野、住吉の諸社に置かれた。—しよ(社務所)(名)神社の事務を取扱ふ所。—しよ(社務職)(名)しむしき。

しむ(沙室)(名)(動)しむ。しむの異名。

しむ(自動、マ)しむ。しむの異名。

シナム(Siam)(暹羅)(名)地印度支那半島の中部を占める獨立主國。面積約五十萬九千方千。—がわ(暹羅草)(名)昔、シナム國から渡來した草。主に足袋などに用いた。—こ(暹羅語)(名)シム國の國語で、印度支那諸族に屬し、單音節孤立語。—ぞめ(暹羅糶)(名)シムを賣り用ひ又はシムを中に包んだパン。【會社の名。】

しめい(社名)(名)神社の名。結婚の名。又はしめい(斜面)(名)水平と成角をなす平面。

しり(理)一面(斜面)(名)水平と成角をなす平面。しり(斜面)(名)山脈の背にし、海岸に面してゐる。—スウェーデンの類。

しめん(赦免)(名)罪を許すこと。過失を許すこと。—しよ(赦免狀)(名)罪科赦免の旨を認めた書牒。

しめん(結肉)(名)あからがほ。

しめん(軍雞)(名)(動)暹羅鳥(の轉訛)雞の雜品種。精悍骨筋力強、姿勢直立し羽裝に乏し。羽毛多く赤琥珀色黄斑で、體に密著し、處處羽毛脱落し、赤やけた皮膚をあらはす。小形の三枚冠又は兩枚冠を有す。頸長く強く、肩幅廣く、背は急斜し、尾は太く長く、性闘争を好む。故に闘闘に用ひられ、愛玩用、食用とす。東印

度から傳來したといふ。

しよ(名)アイヌ語のShio。「隣人の意の訛」ア

イヌ人が内地人を指して呼ぶ稱。和人。

しよ(杓文様)(名)しよ(しよくじの義)めしよ(女房詞)【附物】名。禮禮の贈物。れいもつ。

しよ(沙門)(名)佛出家して佛門に入り道を行修する人。僧侶。佛門。出家。【佛の装束】名。高僧貴僧のかぶる頭巾。

しよ(借問)(名)假に問ふこと。ちよと問ふこと。

しよ(斜文織)(名)あややち。

しよ(蛇紋岩)(名)Serpentine(名)橄欖石輝石の如き苦土に富む有色礦物の分解してなる岩石。水晶石コロム鐵燐、磁鐵燐ニツケル類を含み、綠色乃至黒色の脂肪色の、實體弱。紅葉龜甲の如き模様があつて美しく、室内裝飾用とする。

しよ(蛇紋石)(名)Serpentine(名)葉狀繖狀結晶をなし、樹脂乃至脂肪光澤又は蠟狀、真珠光澤を有し、色は綠、黃、白、光輝ある白色の條痕がある石。裝飾品又は建築材とする。

しよ(湯藥)(名)くぐり。

しよ(高野山の奥の院近く)の「福と地の櫻の園を右に入つた深淵の時にある柳が、二の櫻の園に又見え、蛇身が大師の教化によつて柳に化したと傳へられる。

しよ(難雜無遺)(名)【譯】だげ。社兎。

しよ(社友)(名)社員以外でその社に關係を有する人。【同】の社に在動してゐる友人。

しよ(車と輿)(名)車と輿。【同】車の箱。

しよ(斜陽)(名)ゆふ。

しよ(社用)(名)神社の用務又、會社の用務。

しよ(欲望)(名)よこしまな欲望。【同】みだらな欲望。淫欲。肉欲。

しよ(沙羅)(名)【同】沙羅樹。

しよ(洒落)(名)しやれいき。こしす。

じやらい(射禮)(名)中古、禁中で正月に行はれた射術の公事。十五日に兵部省を定め、左右兵衛左右衛門の射手を整へて順番を左右、十七日に建禮門前で行はれた。天皇、豐樂院に禮例して御覽あり終つて群臣に宴を給ひ、射射のものに賜を給せらるゝのを禮例とした。

じやらかす(射禮)戲かす(他動、サ四)じやら。【同】

じやらく(洒落)(名)種植物學上の用語。一定の時期に脱落する。

じやらく(洒落瀟灑)(名)深く物事に執著せぬこと。あざむいてわだかまりのないこと。

じやらく(寫樂)(名)人(浮世繪師)通稱齊藤十郎兵衛。東州流といふ。阿波徳島藩主頼常侯の能役者で金春虎映の傳へる傾城をよくし、獨特の感情をあらはし、寫實主義に出る。寛政六、七年の作が多い。雲母摺と稱する彩色摺を工夫した。

じやらくさい(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

じやらくさ(洒落臭い)(形)じやらくさ。【同】いさである。こしくである。【同】

死骸を火葬に附して殘つた骨。【同】青森縣東津輕郡今別半平の海濱に産する一種の白石。【同】獄の病名。獄が十分成長して後、註やめて白く圓つた。死んだもの。【同】めつた米粒。【同】謡曲の名。【同】

【一】(舍利會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】

【一】(舍利講會)(佛)しり。【同】



一者となる。釋迦に先だつて説く「集異門足論」(舍利弗阿毗曇論)に其の著といふ。

しやりゅう (者流) (名) たぐひ。ながま。

しやりん (車輪) (名) 車のかす。車。一げんかい (車輪限界) (名) 鐵道車輛の構造上、軌道で各部分の車輪以上出ではならぬ限界。

しやりょう (社領) (名) 神社の領地。社地。しやりょう (斜稜) (名) 數角錐の相隣れる二斜面の合する線。

しやりん (射獵) (名) 弓矢を用ひて行ふ狩。しやりん (車輪) (名) 車の輪。一 所懸命に働かせ (車輪石) (名) 古代石器の一。橢圓形又は圓形の碧玉の扁平なものを。中央に圓形の孔があり、表面に放射線の彫刻あるもの長徑四三單位、短徑三單位。

しやりん (車輪) (名) 車輪の逸走を防止す。爲、軌道上に横たへた車止め。一ばい (車輪梅) (名) 植、蓋葦科の常緑灌木。葉は厚く橢圓形で鈍齒がある。夏、枝頂に香氣がある白色の五瓣花を圓錐狀に綴る。花床は漏斗形で五箇の萼片を有し、花後一橢圓形の果實を結ぶ。

しやる (曝露) (動) 曝く (自動 ラ下) 一。しやる (曝露) (動) 曝く (自動 ラ下) 一。シナルドネ (Comte Hilaire de Chardonnet) (名) 人造絹絲工業の鼻祖フランス人絹絲の人造を企て、約七箇年研究の結果、硝化纖維素をアルコールとエーテルとの混合液に溶解したコロジオンを毛細管から微量の硝酸を含む水中に壓出して、絹様の光澤ある絲狀物を得ることに成功し、一八八四年五月學界に發表す。一八九一年、ザンツン市に工場を建設し、一日一〇〇對度の品を製造した。

しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。

しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。

しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。

しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。しやれ (洒落) (名) 氣のきいたさま。下俗ならぬ。

寫し、まま傳奇的结构を有するものもある。又、世態の批評や一案の放言で、滑稽なものも構つた。當時の風俗山人、山東京傳等があつた。『遊子方言』(成化)の人の類。一もの洒落者 (名) 華美に着飾る人。氣のみなたくなる人。一もの滑稽者 (名) する人。滑稽に巧みなたくなる人。一もの滑稽者 (名) する人。滑稽に巧みなたくなる人。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

しやれ (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。一がい (曝露) (名) 曝露。

「ぞる」の口語。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。しやろ (邪路) (名) 車道。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。

じやんけん (名) いしけん (石巻)。一はい (名) じやんけん。一はい (名) じやんけん。



〔クンヤジ〕







〔朱印船〕

代に將軍の朱印を捺した公文書。一ち〔朱印地〕(名) 〔歴〕朱印狀によつて所有權を確定せられた土地。又江戸幕府で、社寺に朱印狀を下付してその所領を確定した土地。一ち、  
**朱印船** (名) 〔俗〕江戸時代の初期、朱印狀によつて外國貿易を許可した船舶。その朱印狀を奉書に認めたら奉書船ともいふ。  
**善因を修すること**。一ちか  
**ん** (名) 〔修因成果〕(名) 佛善惡の因を修ふことによつて、善果の果を感ずること。  
**ん** (名) 〔衆陰〕(名) 多くの陰の氣。「ん」と。  
**ん** (名) 〔樹蔭〕(名) 樹木の影。こかげ。  
**ん** (名) 〔儒風〕(名) 儒者の後風。  
**ん** (名) 〔呪印〕(名) 佛陀羅尼と印契の。  
**ん** (名) 〔入院〕(名) 僧侶が寺に入つて住職となること。  
**ん** (名) 〔師友〕(名) 師匠と友人と。  
**ん** (名) 〔死友〕(名) 死を共にせんと誓つた友だち。死んでも親交がなほ。  
**ん** (名) 〔詩友〕(名) 五に詩作の唱和をなし、又は詩會で交際する友人。  
 中の花玉梅、臘梅、水仙、山茶稱。  
**ん** (名) 〔市有〕(名) 自治體による市の所有。  
**ん** (名) 〔私有〕(名) 私人の所有、個人の所有。  
**ん** (名) 〔私邑〕(名) 私人の領地、個人の領地。  
**ん** (名) 〔半舍に〕(名) 半舍にとらはれた人。めしうと。  
**ん** (名) 〔州〕(名) 國。①支那の行政区劃の名稱。古代で本土を分つた大なる行政区劃の稱であつた。(九州十二州の類後、郡の改稱となり、縣を統轄した下、近古には郡と共に府に屬し、民衆會議の際、省の下に、道及び縣を置き、州の名稱は全く廢止された。)

れた。  
**ん** (名) 〔洲〕(名) 〔地〕 泥沙が水中に堆積して形成し、水面にあらはれ出した土地。す。①地球上の大陸を分つた稱。②亞細亞。③歐羅巴の類。  
**ん** (名) 〔醜〕(名) みにくい。①容貌のみにくい。②容貌のみにくい。③行為のみにくい。④はづべきこと。恥辱。⑤美の對照として美の調和と豐富さをも指し、美の効果を強める手段。  
**ん** (名) 〔周〕(名) まはり、めぐり。①數直線形各邊の總稱。圓のまはり。圓の圓。②數直線形して立てた玉輪。三十七王、八十七年西暦前一二二二頃(漢から西二五六年頃)で滅亡。③北周のこと。南北朝の世。宇文弼が西魏の禪を受けて立てた國。④唐の高宗の皇后武則天(武后)が高宗の崩後(五〇五)後周のことも、五代の世、郭威が後漢についで帝を稱した時の號號。「日を一和とす稱。  
**ん** (名) 〔遇〕(名) 日月火水木金土の七曜と。  
**ん** (名) 〔秀〕(名) すぐれたこと。精粹。  
**ん** (名) 〔う〕(名) 身體の分子が揮發して空中に浮游し、嗅神經を刺激することにより生ずる感覺。かなり。にほひ。①あしほひ。くさみ。②感しき名聲。  
**ん** (名) 〔集〕(名) 詩歌文章を集めた書物。  
**ん** (名) 〔衆〕(名) おほくの。①人數の多いこと。②學問學業。宗門。宗派。③印度の論理學上、論議するべき命題即ち提議。  
**ん** (名) 〔主〕(名) 主人。主君。一を取る(句) 主人に仕へる。主取りをする。  
**ん** (名) 〔雌雄〕(名) 猛き勇とをす。とけがち。  
**ん** (名) 〔鷲雄〕(名) 猛き勇。猛男。  
**ん** (名) 〔子游〕(名) 孔子の門人。十哲の一人。姓名は言名。吳の人。學成つて魯に仕へ、武城の宰となる。子夏と共に文學に秀でた。  
**ん** (名) 〔子有〕(名) 孔子の門人。十哲の一人。

譽の人。名は再來。政治に秀で、學成りて李唐子の宰となる。  
**ん** (名) 〔貴尤〕(名) 〔支〕支那の古傳説中の人物。神農氏の時亂れ起し、黃帝とも涿鹿の野に戦ふ。蚩尤邊霧を起して蚩を苦しめたが、黃帝は指南車を作つて方位を示し、遂に蚩尤を擒殺し、神農氏に代つて帝位に即いたといふ。  
**ん** (名) 〔亦茹〕(名) 亦も亦吐かず(句) (詩經大雅の燕兄弟出) 弱きを侮らず、強きを畏れない。一能く剛を制す(句) (三略に出づ) 剛も強きを選ばない。能く剛を制する所のないやうにささく、却つて之を制すること、故におとなしいのは却つて強いものに勝つことがある。  
**ん** (名) 〔獸〕(名) けもの。けだもの。一を逐ふ者は目太山を見ず(句) (淮南子の説林) 出て出づ) 鹿を追ふものは山を見ずに同じ。  
**ん** (名) 〔十拾〕(名) 數五に五を加へた數。一中八九(句) おほはな大部分。一に八九(句) 前後に同じ。一の二二(句) 十中の二。わづか。  
**ん** (名) 〔事由〕(名) ことわけ。事柄の理由。  
**ん** (名) 〔自由〕(名) おもひのまま。心のまこと。束縛を受けない。自分で何がなし得ること。まがりのない活動。ことばりのないさま。①ことばり。わがまま。②法律の範圍内に於ける任意の行爲。  
**ん** (名) 〔戎〕(名) なたかひ。いくま。①兵器。②支那の西方の蠻族。  
**ん** (名) 〔從〕(名) 主たるもの附屬。けらい。從。  
**ん** (名) 〔鏡〕(名) 小鏡又は鑲鏡。鏡器。  
**ん** (名) 〔柱〕(名) 琵琶の柱を支へること。ちぢの如き。  
**ん** (名) 〔任〕(名) すむこと。①つか。すま。  
**ん** (名) 〔重〕(名) へうげ。①重箱。②證。  
**ん** (名) 〔重〕(名) 接應。重なる物を數へるにふ。  
**ん** (名) 〔猶太人の駝峰〕(名) 貪欲な高利貸。

**ん** (名) 〔重〕(名) 重く、稠く。又その物。  
**ん** (名) 〔醜惡〕(名) 王朝時代の罪名。即ち謀反、謀大逆、謀叛、惡逆、不道、大不敬、不孝、不睦、不義、内亂。支那隋朝の罪名を採用して規定したものとよ。①佛身・口意の十種の惡業。即ち殺生、偷盜、邪淫、妄語、綺語、兩舌、惡口、貪欲、瞋惡、愚癡。  
**ん** (名) 〔重惡〕(名) (くわい) 無惡。  
**ん** (名) 〔主人として待遇する。〕(名) 主人として待遇する。  
**ん** (名) 〔秋意〕(名) 秋のささる。秋の感じ。  
**ん** (名) 〔愁意〕(名) 秋のささる。秋の感じ。  
**ん** (名) 〔醜衣〕(名) ぬいとりのある衣服。  
**ん** (名) 〔周圍〕(名) ぐるり。めぐり。まは。①外野。環境。②數多角形の各邊の長さの和。又、圓周の長さ。  
**ん** (名) 〔秀偉〕(名) ひいですぐれたこと。  
**ん** (名) 〔拾遺〕(名) かくれ。かくさ。  
**ん** (名) 〔拾遺〕(名) 遺漏を拾ひ補充すること。  
**ん** (名) 〔君主を輔けて、その過失を補充すること。又、支那で、沈君・丁子香・甲申・甘松香・點香の六味を煉合せて作つたもの。一わかし。拾遺集(名) (文) 拾遺和歌集。一わかし。拾遺集(名) (歌) 拾遺和歌集。一わかし。拾遺集に漏れてあるのを拾ひ補充す意で名づける。三代集の一。歌數三〇〇餘二〇。別に「拾遺抄」一〇巻あつて、五九〇餘の和歌を收めた。集抄の撰者については、前者を山法師の勤修後者を藤原公任の撰といひ、又は反對なりとも、兩者何れも花山法師の勤修又は公任撰なりといひ、一定しない。  
**ん** (名) 〔衆惡〕(名) 衆人の意見。

**じゅうりい** (一) 家畜疾病の治療に當る醫師。その開業は獸醫免狀を有するものに限る。  
**一がく** (獸醫學) (名) 家畜疾病の治療と衛生の學問。技術を研究する學。一がくは (獸醫學) 學士。農科大學の本科獸醫科を卒業したものの稱號。一がくはくは (獸醫學) 博士。(二) 獸醫學者の學位號。一がくこうが (獸醫學校) (名) 獸醫學を教授し獸醫免狀を養成する學校。一せき (獸醫籍) (名) 農林省で獸醫免狀を授與した者の本籍氏名を登録する帳簿。一めんじょうり (獸醫免狀) (名) 農林大臣が獸醫になるものに下付する免許。一軍服の類。  
**じゅうりい** (戎衣) (名) 戰爭に出る時の衣服。甲冑。  
**じゅうりい** (戎夷) (名) えびす。戎狄。戎敵。  
**じゅうりい** (被衣) (名) ラシャの衣服。  
**じゅうりい** (從位) (名) 位階で、同一等級の正位の下に列する位。正位の對。  
**じゅうりい** (重位) (名) おもい位。  
**じゅうりい** (從威儀師) (名) 佛法會の時威儀師に従って、衆僧の容儀を正すことを掌る役僧。定員八人。

**じゅうりい** (自由意志) (名) (Free will) 倫理學上に於いて、吾人の意志は外部の何物にも拘束されることなく、自分自ら目的を立てて實行し得る所に道徳生活を認めることができるといふこと。(二) 神に道徳に於いて、個人の運命は、生まれながら全智全能の神に全然決定せられ、一言一行とも個人の決定でなく、必然的であるとの説に對して、人間は全智全能の神に創造せられ且神に模して作られ、自由の意志を賦與されてあるといふこと。  
**じゅうりい** (哲學) (名) 宇宙の實在は物質で、その集合離散を支配する法則は必然的の法則である。人間の精神も、物質の特殊の結合による一種の現象に過ぎないからその作用は必然的の自由ではないとの説に對して、宇宙の本體は精神で、一切は精神の所産であるから精神は目的を有し自ら思慮決定する自由を有するといふ説。(二) 心理學に於いて、凡ての

心理現象は一定の自然的必然的法則に従ふから、意志も亦この法則に支配され、吾人の行為は動機及び性格によつて必然的に決定せられ自由の意志なしとの説に對して、二つの動機の選擇決定は、自己自身なるが故に意志は自由なりといふこと。(二) 法律上にて於いて、作為不作為の自由ある精神狀態。凡そ人は一定の年齢に達すれば、精神に異狀又は障礙あるもの外、善を行ひ惡を避ける自由自由意志の自由を有する。故に一切の行為は此の自由意志に基づく場合に於いて其の責任を生ずるといふこと。一ろ (自由意志論) (名) 吾我の意志は外界の何物にも拘束されることなく自由であると考え、これを哲學的、心理學的、神學的根據から説明せんとする諸論。意志自由論。  
**じゅうりい** (雌雄異株) (名) (Dioecious) 一種の植物にして、雄花と雌花と、株を異にして著生するもの。一いぢやうからすうりの類。  
**じゅうりいたい** (雌雄異體) (名) (Dioecious) 動物で、雄性及び雌性生殖體が二つの個體即ち雄と雌とに別別に存すること。脊椎動物、節足動物の類。  
**じゅうりいちがつ** (十一月) (名) 年の第十一番目の月。一かきつ (十一月革命) (名) 一八一七年十一月七日、ロンドン市街の下に、ホルシツキキによつて、ペテログラードに進行され、ついでロシア全土に波及した、ロレタキ革命。勞農政府即ち國民委員會議成立。レーニンが議長に決した。

**じゅうりいちじ** (十一時) (名) 一時より數へて十一時を指す。一七七番目の時。  
**じゅうりいちめん** (佛) 七觀音又は六觀音の一世。本體の外、頭に小さき九つの面と、その頂に一面とある觀音。慈悲。忿怒。大笑等種。密の相をなし、四臂なる二體なる。



【音世觀面一十】

とある。阿修羅道を救済するといふ。一ぼらう (十一面觀世音法) (名) 佛密教で、十一面觀世音を本尊として、除病・除障・息災を祈る修法。又そのいつ (秀逸) (名) 秀ですぐれたこと。又そのいつ (秀逸) (名) 秀ですぐれたこと。  
**じゅうりいつ** (十一) (名) 製作の十分の一。  
**じゅうりいつ** (充盜) (名) みちあふれること。  
**じゅうりいつ** (縱逸) (名) 自由。ほしさま。  
**じゅうりいん** (自由移民) (名) 各自の自由な意志によつて植民地・移民地の開拓等に從事する移民。強制的供給をなす移民に對していふ語。  
**じゅうりいん** (秋陰) (名) 秋空のくもり。  
**じゅうりいん** (囚員) (名) 囚人の員數。  
**じゅうりいん** (充員) (名) 補充する人員。一實地に當り、諸部隊の要員を充足する爲、在郷軍人を召集すること。  
**じゅうりう** (秋雨) (名) 秋降る雨。秋の雨。あ  
**じゅうりう** (驟雨) (名) にはあめ。秋ふだち。  
**じゅうりう** (秋雲) (名) 秋の空に立つ雲。  
**じゅうりう** (愁雲) (名) かなしさを感ずる雲。  
**じゅうらん** (濕雲) (名) 多くの水分を含んだ雲。

**じゅうらえ** (臭穢) (名) くさくさけがらはしいこと。  
**じゅうらえ** (修會) (名) 家なまつくりといひなむこと。つくりひいとむこと。又、その人。  
**じゅうらえ** (秀英) (名) 人才を集めること。又その集まつた人。  
**じゅうらえ** (充盈) (名) みつたること。  
**じゅうらえ** (自由營業) (名) 法律の禁止なく、官廳の許可を得ずに、何人でも自由經營する營業。現今の營業は多く之に屬する。  
**じゅうらえ** (周易) (名) 三易の復した卦に股の歸藏周易の一。支那の上古伏羲の畫した卦に

就いて、周の文王その總說をなして卦辭といひ、周公これが六爻に就いて總說をなして爻辭といひ、孔子之に深奥な原理を附して繫辭・說卦・文言を加へたもの。陰陽二元を以て天地間の萬象を説明し、この二元は六極となり、更に乾・兌・離・震・坤・艮の八卦となり、八卦を互に相重ねて六十四卦を生ずるといふ之を自然數學家・家・族關係方面・徳目などに當て、哲學・倫理・政治上の説明・解釋を加へたもので、大成せられたが周易といふ。今日の易學はこれに祖述したるもの。  
**じゅうらえ** (囚役) (名) 囚人の苦役。  
**じゅうらえ** (就役) (名) 役務につくこと。  
**じゅうらえ** (收益) (名) 利益を収め取ること。利益として收入する金銭。物が生ずる天然又は法定の異質の收入。一かか (收益價格) (名) 經濟上の財貨が、間接に利益を生ずる場合の價格。財貨が生産に使用せられ、他の財貨を生産し又は收益を與へる價格即ち主觀的收益價格と生産を助け收益を生ずる作用即ち客觀的收益價格とに分ける。  
**一かち** (收益價值) (名) 經濟貨幣收益に基づいた財の評価價値。例へば一坪の宅地三坪の地代とする時の一般的の市場利率。例へば年五分で換算して (100%) 即ち六十圓と評價する類。一せき (收益財産) (名) 經濟利益を収めることを目的とする財産。一せき (收益性) (名) 投資本が利潤を産む能力。一せい (收益性) (名) 法上收益を生ずる物件又はその收益に課する租税。即ち地租・資本利・税金・家屋税・營業收益税・賃銀税等。

**じゅうらえ** (獸疫) (名) 家畜の疾病で、牛疫・狂犬病・羊痘・家畜コレラの類。一けいさつ (獸疫警察) (名) 獸疫の防止に課する警察。  
**じゅうらえ** (終焉) (名) 死に瀕した。いまは。最期。末期。一身のおちよと。老後のくら  
**じゅうらえん** (柔婉) (名) 衆人のうらやみや



じゅうかせい(従價税)〔名〕「法」貨物の貨價値を標準とする課税。

じゅうかつ(柔滑)〔名〕やはらかに滑らかなかみつき。こはる。一の木葉髮旬十月木の葉の散る頃、頭髮の脱け落ちる。一の小春(句)十月の春のやうに暖か日和。

じゅうかつて(自由勝手)〔名〕こころのままにかつさま。

じゅうかんにん(重科人)〔名〕おもしろい。じゅうがね(自由曲尺)〔名〕自由に折り疊み分る装置のかけし。

じゅうかぶつ(臭化物)〔名〕「化」臭。臭臭の化合物。臭化水素臭化カリの類。

じゅうかへいけつ(羞花閉月)〔名〕美貌にうたれて、花はちらひ月かくれる意で、婦人の容貌の極めて美しい。

じゅうかりんせんせつ(重過磷酸石灰)〔名〕「化」重過磷酸石灰。水溶性磷酸に凝した。濃厚磷酸肥料として使用せられる。

じゅうかん(週間)〔名〕週の間、即ち七日間。

じゅうかん(週刊)〔名〕週毎の發刊。

じゅうかん(醜談)〔名〕恥づべき行為をする男。おみく。容貌の男子。

じゅうかん(收監)〔名〕「法」監獄(刑務所)に入つて拘禁すること。じゅうかん(收監状)〔名〕「法」取監を命ずる檢事の令状。

じゅうかん(秋官)〔名〕支那の周代に既陰刑罰を掌る。司法官。

じゅうかん(習慣)〔名〕おきたり。ならはし。風習。慣習。おきて。せいで。習慣性)〔名〕「理」慣性。一ほうり「習慣法」〔名〕「法」慣習法。一は自然の如し(句)習慣は知らぬ間に深くうつり染まつて、迷ひの天性のやうに見えるやうになる。一は第二の天性なり(句)習慣が人の性行に影響することの大なるをいふ。

じゅうがんにん(秋懸)〔名〕秋季に渡來する雁。じゅうがんにん(縦貫)〔名〕なてに貫くこと。てつどう(縦貫鐵道)〔名〕南北に貫通する鐵道。

じゅうがんにん(重患)〔名〕おもしろい病。大病。壁塗等(の鏡眼)に寄つて敵を射撃する場合、敵状を監視し、又敵を射撃する爲に、城壁に穿つた孔。

じゅうがんにん(銃丸)〔名〕小銃の彈丸。

じゅうがんにん(臭汗症)〔名〕「醫」腋高陰部等から惡臭ある汗を分泌する病症。腋臭(の)の如きは其の一つである。

じゅうがんにん(雌雄完全花)〔名〕「植」花中に雌性器官即ち雌蕊と雄性器官即ち雄蕊との完全に發育した花。梅、すずの花類。

じゅうがんにん(臭氣)〔名〕有機物及びその他の物質が分解して生ずる瓦斯から發する不快なにおひ。

じゅうがんにん(臭氣止)〔名〕はうしゅうさい(防臭劑)。

じゅうがんにん(秋氣)〔名〕秋の氣氣。秋の景。

じゅうがんにん(秋季)〔名〕秋の季節。秋のすゝ。えんじゅう(秋季演習)〔名〕「軍」軍隊運用の能力を發達させる爲、秋季に舉行する陸軍各部隊の野外教練其他種種の軍事上演習。機動演習を其の主たるものとする。

じゅうがんにん(こうれいさい)〔名〕「秋」秋季皇靈祭(名)「神」毎年九月秋分日に、皇靈祭、神武天皇を御正席として、歴代の天皇、皇后皇妃、周神の神靈を祀り給ふ御祭儀。

じゅうがんにん(週忌)〔名〕ひとまはりの時期。

じゅうがんにん(週期)〔名〕ひとまはりの時期。

じゅうがんにん(週運動)〔名〕「理」一定時間毎に同一状態位置速

度(加速度)の繰返される運動例へば振動・簡調運動の類。一てきかんすう(週期的函數)〔名〕「數」函數が一定の數値を増加する毎に數値の同一なる函數。一りつ(週利率)〔名〕「金」(年率)。

じゅうがんにん(習氣)〔名〕從來の習慣ならはし。じゅうがんにん(終期)〔名〕「或」事の終る時期。しまひどき。末期。〇期間の消滅。

じゅうがんにん(宗規)〔名〕宗教上の規約。

じゅうがんにん(修技)〔名〕技術をなまならふ。じゅうがんにん(祝儀)〔名〕祝儀の儀式。〇祝意を表する爲に贈る金品。ひきても。〇はな(禮)際。一うた(祝儀唄)〔名〕民謡。祝の儀式の際に歌ふ唄。嫁入唄と長唄・新樂唄・女子歌・帯結ひや還原の種(唄)。

じゅうがんにん(祝儀頭)〔名〕江戸時代に祝儀などがあった時、數人の座頭が見守り身なりではいつて来て、祝儀の金錢をゆすり、家柄不相應な時は若情を逸へされたもの。一じょうちん(祝儀提燈)。

じゅうがんにん(箱提燈)〔名〕乗れば全部蓋の内に納まるやうに造られ、下の蓋に開閉自在の孔があつて煙燭の出入に便にしたもの。江戸時代に、劇場の顔見世興行の前看板が出揃ふまで、木戸の右手の上窓に吊された長提燈で、赤字に役者の定紋と名前を書いたもの。一いし(祝儀石)〔名〕結婚式の家に、若者がその家に對する祝として打圓める意から、投げ入れる。

じゅうがんにん(集義)〔名〕心中に充實した正義。

じゅうがんにん(集議)〔名〕二人以上集まつて評議。一いん(集議院)〔名〕「法」明治元年春發せられた公議所の臨時稱を繼いだ官廳。

じゅうがんにん(宗義)〔名〕多人数評議。

じゅうがんにん(宗議)〔名〕日常使用する家具。電氣用品の用語で、營業用の諸道具。事務用机椅子等。一什器(名)日常使用する家具。電氣用品の用語で、營業用の諸道具。事務用机椅子等。一什器(名)日常使用する家具。電氣用品の用語で、營業用の諸道具。事務用机椅子等。

じゅうがんにん(什器勘定)〔名〕「簿」簿記の勘定科目。銀行

社・商店等の營業士の使用器具を整理する勘定。

じゅうがんにん(戎器)〔名〕戰爭に使用する器具機械。即ち刀劍銃砲槍等の類。一けいさつ(戎器警察)〔名〕刀劍銃砲等の使用によつて公安を害するものないやう取締をなす警察。

じゅうがんにん(銃器)〔名〕小銃及び拳銃。

じゅうがんにん(從騎)〔名〕從者の騎長のもの。

じゅうがんにん(重器)〔名〕重大な器具。〇重大な器。

じゅうがんにん(重寄)〔名〕重大な寄託責任の重い人物の地位によつて定まつてゐる十條の義理。即ち父は善(正)子。兄は良(弟)よく兄に事へること。長は善(正)弟は仁(弟)慈に事へること。長は善(正)弟は仁(弟)慈に事へること。

じゅうがんにん(衆議院)〔名〕「法」貴族院と共に帝國議會を構成し、衆議院議員選舉法によつて、廣く國民から公選された議員を以て組織する立法機關。権限は貴族院と同じであるが、解散を命ぜられる點で異なる。豫算案の先議權決議權を有する。

じゅうがんにん(衆議院議員)〔名〕「法」衆議院を構成する議員。國民の公選によつて當選したものを、國會議員又は代議士と稱する。現在議員數は四百六十六人。任期は四年。年齢滿廿五以上の帝國國民たる男子は、衆議院議員選舉法に定められた者を除くの外、之が選舉權を有し、年齢滿廿五以上の帝國國民たる男子は、衆議院選舉法に定むる特殊の者を除くの外、被選舉權を有する。一じむきよく(衆議院事務局)〔名〕「法」衆議院の庶務を掌る機關。

じゅうがんにん(自由氣球)〔名〕「空」大形で探検學術・娛樂の用に供せられる。氣球。地形を探検する爲の自由企業)〔名〕「經」個人の自由で經營し得る企業。

じゅうがんにん(秋咲く菊)。

じゅうがんにん(蹴鞠)〔名〕蹴鞠(蹴鞠)と稱する方形の庭で、鹿皮製徑二〇個位の鞠を蹴る遊技。貴



貴紳の間に盛んに行はれ、鎌倉時代から種波・飛鳥井の二家が新道の師範家と定められ



【職】

今日に於いて最も勢力をば、佛敎・キリスト敎・ホメット敎等。一しき(宗教意識)(名)(心)(Religious consciousness) 宗教信仰に宗教行為に伴ふ心理状態。知的・情動的・意欲的の三種がある。一か(宗教家)(名) 宗教敎育の事業にあたる人。宗教に通曉せる人。又、牧師・僧侶の如く宗教を宣傳する人。一が(宗教畫)(名) 美(宗教上の事實・傳説・人物等を題材とした繪畫。一か(宗教改革)(名) (Religion Reform) 近世の初頭第十六世紀に、ローマ正敎會の弊害に對して改革を企てその成らぬに及び、之から分離して別派の敎會を立てた宗教運動。西曆一五七一年ドイツ人マルチン・ルターが九十五箇條の意見書を提出して法王の免罪符販賣を攻撃して世界の衝動を喚起したことが導火線となつて、ヨーロッパ諸國を貫馳しその運動の渦中に及び、幾多の紛亂を惹起した。一五九八年、佛王アンリ四世がナントの勅令によつて新敎を公認するに及んで一時落着いた。一が(宗教敎學)(名) 宗教敎育現象を科學的に究明する經驗學。即ち宗教の發生發達・構造組織及びその機能を客觀的事實を基礎として、經驗的立場から系統的に把握せんとするもの。一が(宗教神學)(名) 神十九世紀の後半に起り宗教學を適用して、神話現象を解釋する神話學。ドイツのウイヘルム・ハントの始まる。一が(宗教狂)(名) 宗教に熱心過ぎ、常態を失したるに見ゆる癡癡の状態。又、その人。一き(宗教教育)(名) 兒童及び青年の於ける宗教的職業に對する、青年宗教上の儀禮等を敎育活動の全目的達成に貢獻しようとするもの。一き(宗教秩序) 維持し、幸福を圖らんが爲に、宗教に關し必要なる施設設置をなす行政。一き(宗教局)(名) 法(宗教行政)を行ふ主要部の一局。神佛(寺院、僧侶、敎師)に關する事

項、國寶保存に關する事項、史蹟・名勝・天然記念物保存に關する事項を取扱ふ所。一け(宗教劇)(名) 宗教の儀式として行はれ、又は宗教的行事に隨伴し、若しくは宗教的趣味を脚色した演劇。一しか(宗教社會學)(名) 宗教敎育の發生及び機能を研究對象とし、宗教現象の社會學的研究をなす學。一しん(宗教心)(名) (Religious consciousness) 或絕對を認めて之を畏敬するに信する精神現象。宗教を信する心。一しんりがく(宗教心理學)(名) (Religious psychology) 宗教の意識乃至行為を個人心理・社會心理・民族心理上から科學的に分析し記述する科學。一せんそう(宗教戰爭)(名) 宗教衝突に起因して起る戰爭。一てつがく(宗教哲學)(名) (Religion Philosophy) 宗教の實・規範を研究説明する哲學。一みんぞくがく(宗教民族學)(名) (Religion Ethnology) 原始的民族に現れた宗教的事實を普遍的に説明する學。

じゅうきし(從儀師) (名) 從儀師。  
じゅうきはん(衆議判) (名) 詩合又は歌合の時、判者によつて、左右雙方から多數の人が是非論議して詩又は歌の優劣を定めるもの。  
じゅうきほう(重義法) (名) 文一語に二意を含むることを謂ふ掛詞。  
じゅうきやう(蹴球) (名) (Soccer) 西洋より傳來したる一種の競技。十一人又は十五人づつ、競技者が一箇の球を争つて敵方の欄門内に蹴り入れた方を勝とする競技。フットボール。フットボール。アメリカンラグビー式の三種がある。フットボール。

じゅうきやう(從男) (名) 母の従兄弟。  
じゅうきやうてん(賤急田) (名) 王朝時代に、凶年に人民を救済する目的で諸國に設けられた不輸租田。  
じゅうきよ(收去) (名) とり去ること。  
じゅうきよ(仕居) (名) すか。すまひ。  
じゅうきよ(州境) (名) くにさかひ。  
じゅうきよ(秋興) (名) 秋のながめのおもしろみ。

じゅうきよ(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅう—しゅう

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。

しゅうき(宗教) (名) 宗(自己)の有する超自然的効果を目的とする社會的機能。一絕對即ち神又は佛に對する歸依の感じから成る敬虔と超然した崇高・偉大なる絕對を畏敬する感情を基礎とし、之を崇拜信仰して祭祀を行ひ、慰藉・安心・幸福を得て、人生の缺陷を補はうとする機能。この敎育、行事等の相異なるによつて幾多の種類にわかれる。















「職。要職。重職」(名) 重大な職務ある。
「住職」(名) 佛の住持の役目。

「私有植民地」(名) 國家と交渉なく、又國家から所有権を興へられて、私人が自由に事業を経営する植民地。
「自由所得」(名) 純所得中から、當人及び家族の生活を控除した剩餘で、收入者の自由に處分し得る所得。

「執心」(名) 深く心をかけ又は厚く心をこめること。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「執心深い」(形) 執心が深いこと。
「執心深い」(形) 執心が深いこと。

「終身懲役」(名) 終身に於て執行せらるる懲役。
「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「終身年金」(名) 法國家が、個人の功勞を對し、その人の死に至るまで、毎年一定額を支拂ふ制度。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「自由心證主義」(名) 法裁判の必要な事實の認定について、訴訟資料に信を置かざるや否やを、裁判官の信念即ち心證に一任する主義。

「修正」(名) よく正しいことをなほして正しくすること。
「修正案」(名) 原來を修正した議案。

「修正案」(名) 原來を修正した議案。
「修正派」(名) 修正案を主張する派。

「修正派」(名) 修正案を主張する派。
「修正主義」(名) 修正案を主張する主義。

「修正主義」(名) 修正案を主張する主義。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。
「修正主義運動」(名) 修正案を主張する運動。

人民の富貴と田畠の數に應じて米を徴收した租税。  
じゆうせき 〔獸性〕(名) 獸類の性質。①人類の有する動物的性質。不道徳な肉慾などの性質。  
じゆうせい 〔銃聲〕(名) 小銃で彈丸を發射する音。銃砲の音。  
じゆうせい 〔乘鹿〕(名) 〔やらかし〕。かまわいこと。  
じゆうせい 〔重税〕(名) 負擔の重い租税。  
じゆうせい 〔四籍〕(名) 因の氏名を記したしゆうせき。秋のゆふべ。一帳簿。  
じゆうせき 〔就籍〕(名) 〔法〕無籍のものが届出をして戸籍につくこと。一〔就籍地〕(名)。  
〔法〕就籍した土地。

じゆうせき 〔終夕〕(名) よどほし。よもすがら。  
じゆうせき 〔无積〕(名) みちかきなること。  
じゆうせき 〔重責〕(名) 重く責任。  
じゆうせき 〔醜藝〕(名) みにくけがらはしいこと。  
じゆうせき 〔一軍の將帥となること。〕  
じゆうせつ 〔執節〕(名) 路はつた節刀を携へしゆうせつ。衆説(名) 多數の説。多數の意見。  
じゆうせつ 〔秀絶〕(名) 甚だしくいですぐるためこと。①世話をなすこと。特産。②おひかけあふこと。③〔法〕Good office) 國際間に紛議が生じ談判に歸した時、第三國がその間に立つて交渉の基礎を定めて雙方を勧告、一旦中絶した交渉を更に開始して、雙方を直接談判に當らせること。④かた(周旋方) (名) 周旋をなすこと。⑤その人。⑥きょう(周旋業) (名) 周旋を營業とするもの。雇人入口を執事または特殊職人の入口を業とするもの。きょういとせい。これや。⑦にん(周旋人) (名) 周旋をなす人。⑧周旋業の人。⑨や(周旋屋) (名) 周旋を營業とする人。⑩その家。⑪りやう(周旋料) (名)

周旋の手數料。①史書編述を掌る官。じゆうせん 〔修撰〕(名) 編輯すること。じゆうせん 〔舟船〕(名) ぶね。①ぶきやう(舟船奉行) (名) (なぶきやう) じゆうせん 〔秋扇〕(名) 秋になつて扇かられぬ扇。②婦人の履を失つたやうに、時期はいつて値のなかつたものの聲。じゆうせん 〔秋輝〕(名) 秋の輝。じゆうせん 〔鞞輝〕(名) 高い二本の鞞輝の上に架け渡した樺木に二條の索を吊り下げ、其の索の下端に横材をとりつけ、これに身體を乗せて前後にゆり動かして運動する遊戯。ぶらんこ。ゆきり。じゆうせん 〔衆善〕(名) 多くの善事。じゆうせん 〔愀然〕(名) 副(う)れへるさま。じゆうせん 〔愀然〕(名) 顔色をかへるさま。じゆうせん 〔蹠線〕(名) 小ふにじること。ふみつけること。ふみあらすこと。じゆうせん 〔柔然〕(名) 歴朝古の地によつた古遊牧民族。四世紀末(支那の北方塞外に據つた鮮卑の拓跋氏と隣し、拓跋の南連するに及んでその地を領し、西暦五百年、突厥に滅ばれた。苻苻。じゆうせん 〔従前) (名) 副(ま)へた。以前。じゆうせん 〔十全) (名) 完全なこと。②あがなげないこと。安全なこと。

じゆうせん 〔十善) (名) 佛の十善を行はぬこと。十善を保つこと。②前世に十善を行ひ給ふた果報によつて、現世に受け給ふといふ天皇の御位。①かい(十善戒) (名) 十戒。①のきみ(十善君) (名) 天皇の中し奉る者。①のきみ(十善萬乘) (名) 十善の徳と萬乗の富との意) 天皇の御位。じゆうせん 〔十禪師) (名) 佛の貴高僧の僧十人を運ん、宮中の内道場に供奉せしめられたもの。

たしもの。①法華經の守護神。滋賀縣滋賀郡坂本日本吉神社の祭神である地神三代天津彦彦火瓊瓊杵尊で、本地は地藏菩薩であること。じゆうせんばく 〔自由船舶) (名) 〔法交〕 戰國で捕獲し得ざる中立國の船舶。じゆうせん 〔臭素) (名) 臭(Bromine) (Br) 揮發し易く劇しい刺激性の臭氣を有する赤褐色の液体。非金屬元素中、常温に於いて液體な唯一のもの。遊離状態で自然に存在することなく、多くはカリウム・マグネシウムと化合し、鹽類となつて海水に溶け、又、銀臭に含まれる。空氣中に放置すれば、赤褐色の刺激性の臭氣を發する。その水溶液は臭素水に用ひられ、赤褐色をなす。臭化カリウム又は臭素水は醫藥に用ひられる。①アンモニウム(臭素) (名) 〔化〕Ammonium bromate) アロマンモニウムとも稱し、無色の結晶又は白色結晶性粉末をなし、臭素の含有量八パーセント。大氣中にある時は黄色を呈し、熱すれば揮散する。その刺激性の爲に單體に用ひられず、臭素カリウム・臭素ナトリウムと共に處方せられる。①カリウム(臭素加留母) (名) 〔化〕Kalium bromate) 臭素としない。光線性不眠・神經衰弱・精神病百日咳・喘息・紅腫・吐瀉・ヒステリーに○五—一〇を水劑として一日數回服用せさせる。①臭素紙(臭素) 寫真印畫紙の一種。臭化銀乳劑を紙の上に塗布して製する。感光力強く、引伸はし用に使用せられる。アロイド紙。①臭素疹(臭素) 臭素又は其の鹽類の服用によつて皮膚面に生ずる暗褐色の發疹の總稱として個別的發疹に原因する。頭・額・鼻・肩胛及び四肢に發する。①臭素水(臭素) 〔化〕Bromine water) 臭素の水溶液。黄色乃至褐色を呈し、試験に使用せられる。①ナトリウム(臭素) (名) 〔化〕Natrium bromate) 臭素と稱し、白色の結晶性粉末で、水に溶け易い。刺激性少く、カリウムの毒性がないから、臭素カリウムの代用品として用ひられる。

じゆうそ 〔愁訴) (名) 情實をあかしてなげき訴へること。①じゆう(愁訴狀) (名) 愁訴の旨を記した書状。②問答。③應答。じゆうそ 〔酬酢) (名) 酒盃のやりとり。じゆうそ 〔從祖) (名) 祖宗の兄弟。敬祖。派祖。じゆうそ 〔從祖兄弟) (名) いやい。再從兄。じゆうそ 〔重祚) (名) 天皇が一旦讓位あらせられた後再び踐跡せられること。ちんそ。じゆうそ 〔秋番) (名) 秋の番。真冬の寒氣が來襲しない前、夜明け方が著しく冷て霜が結ぶのない。①刑罰の威感。又は惡徳・權威のおごそかなるに譬へていふ。②光の鋭い利動。①れつ(秋霜烈日) (名) 秋に霜と夏の烈日。②日と即ち利動又は權威・志操のきびしくおごそかなのにいふ。③爲に、果について卵を抱くこと。じゆうそ 〔周匝) (名) めぐる。まはり。②すみずみまでゆきわたること。じゆうそ 〔衆相) (名) 多くの相好。じゆうそ 〔衆僧) (名) 多くの僧侶。大勢の僧。じゆうそ 〔修造) (名) つくろひ。しゅうぞう 〔收獲) (名) 農作物を秋に收穫して、冬季の用意にたくはへること。じゆうぞう 〔緋袋) (名) ぬひりの背袋。じゆうぞう 〔戎裝) (名) 出陣のしたく。戎装のよほひ。武裝。じゆうそ 〔銃劍) (名) 彈丸銃の小銃・拳銃。じゆうそ 〔銃槍) (名) 先に劍をついた銃劍。①じゆう(銃槍術) (名) 銃劍術。じゆうそ 〔從僧) (名) 佛の僧。法要の際、導師に従つて昇殿し、講經の用を辨じた僧。②官位高く又は身分ある僧侶に、隨從する僧侶。③住持。じゆうそ 〔住僧) (名) 佛學院に住む僧。

じゆうそ 〔愁訴) (名) 情實をあかしてなげき訴へること。①じゆう(愁訴狀) (名) 愁訴の旨を記した書状。②問答。③應答。じゆうそ 〔酬酢) (名) 酒盃のやりとり。じゆうそ 〔從祖) (名) 祖宗の兄弟。敬祖。派祖。じゆうそ 〔從祖兄弟) (名) いやい。再從兄。じゆうそ 〔重祚) (名) 天皇が一旦讓位あらせられた後再び踐跡せられること。ちんそ。じゆうそ 〔秋番) (名) 秋の番。真冬の寒氣が來襲しない前、夜明け方が著しく冷て霜が結ぶのない。①刑罰の威感。又は惡徳・權威のおごそかなるに譬へていふ。②光の鋭い利動。①れつ(秋霜烈日) (名) 秋に霜と夏の烈日。②日と即ち利動又は權威・志操のきびしくおごそかなのにいふ。③爲に、果について卵を抱くこと。じゆうそ 〔周匝) (名) めぐる。まはり。②すみずみまでゆきわたること。じゆうそ 〔衆相) (名) 多くの相好。じゆうそ 〔衆僧) (名) 多くの僧侶。大勢の僧。じゆうそ 〔修造) (名) つくろひ。しゅうぞう 〔收獲) (名) 農作物を秋に收穫して、冬季の用意にたくはへること。じゆうぞう 〔緋袋) (名) ぬひりの背袋。じゆうぞう 〔戎裝) (名) 出陣のしたく。戎装のよほひ。武裝。じゆうそ 〔銃劍) (名) 彈丸銃の小銃・拳銃。じゆうそ 〔銃槍) (名) 先に劍をついた銃劍。①じゆう(銃槍術) (名) 銃劍術。じゆうそ 〔從僧) (名) 佛の僧。法要の際、導師に従つて昇殿し、講經の用を辨じた僧。②官位高く又は身分ある僧侶に、隨從する僧侶。③住持。じゆうそ 〔住僧) (名) 佛學院に住む僧。

じゆうそ 〔愁訴) (名) 情實をあかしてなげき訴へること。①じゆう(愁訴狀) (名) 愁訴の旨を記した書状。②問答。③應答。じゆうそ 〔酬酢) (名) 酒盃のやりとり。じゆうそ 〔從祖) (名) 祖宗の兄弟。敬祖。派祖。じゆうそ 〔從祖兄弟) (名) いやい。再從兄。じゆうそ 〔重祚) (名) 天皇が一旦讓位あらせられた後再び踐跡せられること。ちんそ。じゆうそ 〔秋番) (名) 秋の番。真冬の寒氣が來襲しない前、夜明け方が著しく冷て霜が結ぶのない。①刑罰の威感。又は惡徳・權威のおごそかなるに譬へていふ。②光の鋭い利動。①れつ(秋霜烈日) (名) 秋に霜と夏の烈日。②日と即ち利動又は權威・志操のきびしくおごそかなのにいふ。③爲に、果について卵を抱くこと。じゆうそ 〔周匝) (名) めぐる。まはり。②すみずみまでゆきわたること。じゆうそ 〔衆相) (名) 多くの相好。じゆうそ 〔衆僧) (名) 多くの僧侶。大勢の僧。じゆうそ 〔修造) (名) つくろひ。しゅうぞう 〔收獲) (名) 農作物を秋に收穫して、冬季の用意にたくはへること。じゆうぞう 〔緋袋) (名) ぬひりの背袋。じゆうぞう 〔戎裝) (名) 出陣のしたく。戎装のよほひ。武裝。じゆうそ 〔銃劍) (名) 彈丸銃の小銃・拳銃。じゆうそ 〔銃槍) (名) 先に劍をついた銃劍。①じゆう(銃槍術) (名) 銃劍術。じゆうそ 〔從僧) (名) 佛の僧。法要の際、導師に従つて昇殿し、講經の用を辨じた僧。②官位高く又は身分ある僧侶に、隨從する僧侶。③住持。じゆうそ 〔住僧) (名) 佛學院に住む僧。

しゆう—しゆう





しゅうちち 瘦地(名) 農耕作に過ぎぬ土地。

しゅうちち 周知(名) あまれく知ること。

しゅうちち 羞恥(名) はらること。はら。しゅうちち 羞恥(名) 心臓的存在者として人間の道徳的威厳を保持する感情。肉の要求を低級とし、霊の要求を高級とするもの。

しゅうちち 習知(名) ならひ知ること。

しゅうちち 集治監(名) しゅうじか(名)。

しゅうちち 修竹(名) 長く伸びた竹。

しゅうちち 修築(名) つくりきづくこと。

しゅうちち 祝(名) よらこび思ふこと。

しゅうちち 舟中(名) 舟のなか。一つの舟のりあひのなか。いも敵國(名) (史記の突起傳に魏武侯が山河の美を誇つたに對して、突起が「魏不修徳則舟中之人盡敵國」と答へたこと。ふ故事に基づく味方たるもの、心なひるがへせば、忽ち敵となるに譬へて)。

しゅうちち 集注(名) あつめそぐこと。あつめそぐこと。書物の註釋を集めたる。

しゅうちち 衆中(名) 多人數の中。「一」の。

しゅうちち 袖中抄(名) 文顯の著。二〇巻。泰永元年か文治三年頃までの間の作といふ。萬葉集「伊勢物語」古今集以下「天竺歌合」「曾集」などの題解の文語・歌詞の註釋を挙げた語釋書。慶長四年刊。

しゅうちち 自由鑄造(名) 鑄(名)の音正しくし、土地金を造幣局に納めておき、本位貨幣の鑄造を依頼する者に、自由に許可し、其の地金を相當する貨幣を交付すること。

しゅうちち 官長(名) 警視の長。えびすしゅうちち 首長(名) しきのはらわたの義)詩文の調聲に當る者。

しゅうちち 繡帳(名) ぬひとりしたとばり。

しゅうちち 終朝(名) うれへなもつ心の間。朝朝問。

しゅうちち 重徴(名) 重耳。租税のとり。

しゅうちち 重懲(名) 重耳がとほくて他人の言教を重れて重懲く。非常なつらば。

しゅうちち 修飾(名) なまめつしむこと。

しゅうちち 袖珍(名) 袖珍本。いぼん袖珍本(名) 袖の中に入れて携へられるほどの小形の本。ホウチ形の本。

しゅうちち 重鎮(名) おもいおさへ一方の重鎮に對して論人(被告)の提出した答狀。

しゅうちち 重陳狀(名) 昔、訴人の答狀に對して論人(被告)の提出した答狀。

しゅうちち 重追放(名) 江戸幕府の刑罰に、追放より重い。江戸附近・京都附近の周圍に入ることを禁ぜられた。關所を忍び通つたもの又は代官領主と謀叛を企てた主君がこれに處せられた。「の方向に貫通してゐる材。龍骨の類。

しゅうちち 自由通商(名) 經(名)の自由通商。世界經濟の潮流が、世界經濟に國民經濟の更生に害を及ぼして、極端なる保護政策的採用を拒否し、國際協調の下に世界各國の協力政策的採用を主張する運動。

しゅうちち 秋庭(名) 秋の頃の庭。

しゅうちち 修正(名) 修正。校定すること。

しゅうちち 住居(名) すまひ。やしき。

しゅうちち 菜薺花序(名) 種(名)の鱗片或は形を無根根の單性花のみが密集して、特殊の塊状を形成する花序やなき「り」はんきの「」以下等の花の類。菜薺花。

しゅうてき 鏗敵(名) あだ。かたき。戎夷。

しゅうてき 衆敵(名) 多くの敵。北外の民。

しゅうてき 戎狄戎種(名) えびす。北外の民。

しゅうてき 衆弟子(名) 多くの弟子。

しゅうてき 鑄鐵(名) 鑄造の材料の鐵塊を一用すること。

しゅうてん 周天(名) 天。天體がその軌道を一用すること。

しゅうてん 秋天(名) 秋季のそら。秋のそら。

しゅうてん 終點(名) 一番をはりとなる箇所。

しゅうてん 充填(名) 又、つめること。

しゅうてん 充填假品(名) 鑄物であつた跡の空所に、他の鑄物が充填して生じた假品。いこうしよう(名) 充填鑄床(名) 鑄石中の空所を充填して形成した鑄床。

しゅうてん 充填鑄床(名) 鑄物であつた跡の空所に、他の鑄物が充填して生じた假品。いこうしよう(名) 充填鑄床(名) 鑄石中の空所を充填して形成した鑄床。

しゅうてん 重典(名) 重く制度又は儀式。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

しゅうてん 重罰(名) 大切とする所。

や 舅親(名) しゅうと。

しゅうと 姑(名) しゅうとめ。略。いご(名) 姑の敬稱。

しゅうと 因徒(名) 刑務所につながれてゐる。

しゅうと 宗徒(名) 宗室門の信者。信徒。

しゅうと 衆徒(名) 佛多數の信徒。信徒。

しゅうと 英、動名(名) 撮影する。野球用。投手の投球が打者前を落ち、氣味に鋭く通過する。①野球用語。球を決勝門に強襲又は投入すること。②野球用語。球をバスケケットに強投すること。③野球用語。打込み。④砲射。

しゅうと 衆怒(名) 多々の人のいかり。

しゅうと 重土(名) 多量の粘土を含む。粘性強く、耕作に適さない。土。①土。②土。③土。④土。⑤土。⑥土。⑦土。⑧土。⑨土。⑩土。⑪土。⑫土。⑬土。⑭土。⑮土。⑯土。⑰土。⑱土。⑲土。⑳土。㉑土。㉒土。㉓土。㉔土。㉕土。㉖土。㉗土。㉘土。㉙土。㉚土。㉛土。㉜土。㉝土。㉞土。㉟土。㊱土。㊲土。㊳土。㊴土。㊵土。㊶土。㊷土。㊸土。㊹土。㊺土。㊻土。㊼土。㊽土。㊾土。㊿土。

しゅうと 重土水(名) 化粧水。

しゅうと 周到(名) あまれくゆきとどくこと。ぬけがないこと。周密。綿密。

しゅうと 修道院(名) 宗教。共同生活を營んで修行を積むキリスト教の僧侶の團體及びその寺院。

しゅうと 衆道(名) 政治時代の政黨。我が國政黨の嚆矢で、明治十四年十月、板垣退助等の首唱して建設した。の。國民の政治上に於ける自由を擴張し、國會期成・立憲政治の樹立を政綱とし、其の後解散・再成立等の變遷を経て、三十三年政黨會に合流した。

しゅうと 充當(名) あてはまること。あてはまること。①注。②注。③注。④注。⑤注。⑥注。⑦注。⑧注。⑨注。⑩注。⑪注。⑫注。⑬注。⑭注。⑮注。⑯注。⑰注。⑱注。⑲注。⑳注。㉑注。㉒注。㉓注。㉔注。㉕注。㉖注。㉗注。㉘注。㉙注。㉚注。㉛注。㉜注。㉝注。㉞注。㉟注。㊱注。㊲注。㊳注。㊴注。㊵注。㊶注。㊷注。㊸注。㊹注。㊺注。㊻注。㊼注。㊽注。㊾注。㊿注。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

しゅうと 充當(名) あてはまること。

闘し相手の力を利用して、これを投げ倒し、又は抑へ  
苦しめ、若しは奮て身等の攻撃防禦の技を行ひ、  
同時に身體の鍛練と精神修養を目的とする。その  
の起源は極めて古く、流瀑を生じたのは戦國時代で  
あるが、明治に入って嘉納治五郎等により、諸流派の  
粹を集めて今日の柔道大成された。—せいふ  
くじゆつ(柔道整復術)(名)醫(柔道整復術者が  
地方長官の免許を受け、打撲、捻挫、脱臼及び骨折  
に對してなす施術)

しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)

しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)

しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)

しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)  
しゆらとらうたい(雌雄同株)(名)植(Mono-  
dome)雄花及び雌花が同一株にあること。(り)

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。

じゆらとらうたい(自由渡航)(名)何等の制  
限なく自由に出來る外國の渡航  
じゆらとらうたい(自由都市)(名)自由都市  
歐洲に於ける中世紀の都市中、領主權から完全に獨  
立して、一國家の如き權を呈した都市。伊のヴェネ  
チア、ヒサリ、リニエンツ、ミラノ、獨のハンブルグ、  
アレクサンドリア等が名高。











じゅうまん(充満) 十分に満ちること。

じゅうまんおくと(十萬億土) 佛經の裏から極淨土に至るまでであるといふ佛土の總稱。又稱して極淨土の稱。

じゅうみ(臭味) 臭い。氣味くさみ。同臭味。なま。同類。

じゅうみつ(周密) 密に詰まわってぬめぬめしない。周到で細密なこと。

じゅうみん(衆妙) 多くの妙理。

じゅうみん(愆惡) しんばいしならが厭

じゅうみん(就眠) 名。おひりに就くこと。就眠運動(名) 起すこと。一うらんどろ

植物が就眠運動を起すこと。一うらんどろ(就眠運動) 名。起すこと。一うらんどろ

植物の葉が日没に際して閉合し又は下垂する運動。光度及び温度の變化によって、器官の相反する兩側面に於ける生長速度の變化を誘起する原因とする。うらむのき。おしきまの類に見る。

じゅうみん(衆民) 多くの人民。

じゅうみん(住民) 其の土地に住む民。

じゅうみん(自由民) 法に正當な行為によって、自己の權益を自由に行使し得る人民。

じゅうみん(自由民權論) 自由民權論

「政佛のルネ」に始り、國民は天の賦與せるの自由を有し、各自政治に參與すべき權利を有するとの主義で、我が國では明治十年を中心として陳長の滯留政治に對抗して唱進せられ、憲法の制定、國會開設を目的とする標語となつてあらはれた。

じゅうみん(秋夢) 名。うれへのあまりに見る夢。不吉の前兆として氣にかかる夢。

じゅうむ(州務) 多くの州の事務。

じゅうむ(業務) 多くの事務。「互る風聞。

じゅうむ(醜名) 名。よくない評判。恥辱と

じゅうむ(羞明) 名。まじけい。

じゅうめい(主命) 主人の命令。

じゅうめい(秋牡丹) 名。植毛度

じゅうめい(秋牡丹) 名。植毛度

に細毛がある。葉は三枚の小葉を有する複葉で長い葉柄を具へ、梢葉柄は無柄、小葉は心臟形又は長橢圓形で三淺裂又は數裂し、邊緣には鋸齒を有し、小葉柄を有する。秋梢上に細毛を分ち、淡紅紫色を呈する菊花状の花を開く。きぶれき。

じゅうめん(自由面) 名。理。自由な

じゅうめん(澁面) 名。にががしい顔。

じゅうめん(重裏) 名。うらぶら。重裏。

じゅうもん(衆目) 名。おほくのめくら。

じゅうもん(絨毛) 名。植植物體表の極めて

じゅうもん(絨毛膜) 名。絨毛布。哺乳類の胎盤外表面に多數生じてある子宮内發達の爲の分枝状の繊細な突起。

じゅうもん(衆目) 多くの人の目。衆人の親

じゅうもん(干目) 衆人の目。衆人の親

じゅうもん(親の所十手の指す所) 句。大學に出づ。多くの人の見よ。知つてあること。

じゅうもん(主持) 名。主人に仕てゐる身。の器具。だく。寶物。

じゅうもん(重物) 名。大切なもの。

じゅうもん(宗門) 名。宗。宗派。

じゅうもん(宗門改帳) 名。江戸時代に、幕府の直轄地や諸侯の領地から、宗門改の事務を記して寺社奉行に上申した帳簿。一あらためやぐ。宗門改

役(名) 江戸幕府の職名。毎戸毎家の宗旨を調査して、切支丹宗徒の檢査を掌つたもの。大目附。作事奉行の兩職から各一人を選んで寛永十年始めてこれを罷免、始めは切支丹支配。切支丹奉行などと稱し、兼職とした。一うけあい。宗門請合

(名) 江戸時代に、禪師寺で、當人が切支丹宗共の他禁制の邪宗の信徒でないことを證明したこと。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうもんじ(十字文) 名。十字の形。

じゅうやく(集約) 名。あつめつづめること。よせてしげくすること。一のうきょう。集約農業(名) 農土地の利用を標準とした農業經營分限。一定の土地に多くの資本と勞力とを加へて、出來る限り生産を多くしようとする農業。文明國又は都會附近でよく行はれる。(粗放農業の對)

じゅうやく(職業) 名。種でくさく。ユルンクのアルロイドを含む。發泡性がある。腫物痔疾。瘡毒。瘰癧に内服外用。

じゅうやく(銃藥) 名。小銃に裝填して發射する火藥。

じゅうやく(重厄) 名。重い厄難。

じゅうやく(重役) 名。おもいややく。頭だつたやく。又その名。主要な役員。銀行。會社の社長。取締發監役又は業務執行の社員。使用人でないもの。一かきざり。重役會議(名) 重役が事務上について開く會議。

じゅうやく(周瑜) 名。吳の孫策の將軍。字は公瑾。廉江郡舒安縣の人の。吳の孫策の將軍を輔けて江南一帯を經略した。吳人呼んで周郎といふ。赤壁に曹操を破つた。(二五)

じゅうやく(赤油) 名。化(heavy)の高級炭化水素を主成分とする粘稠油。即ち石油原油。頁岩油。炭田から高瓦斯タール。油化石炭等から比較的發泡性のある部分を除いて得られる煤油分。又はその煤油分を更に蒸留して得られる煤油分。その用途は燃料で、煤油。アスマルト。分解ガソリン。分解煤油の原料として使用される。一ねんり。

じゅうやく(重油燃料) 名。重油を用いた熱機燃料とするもの。石炭に比して發熱量大。工場。船舶等の燃料として實用されガソリンと共に國內最も廉價な燃料。

じゅうやく(舟遊) 名。ふなめぐり。あそび。

じゅうやく(周遊) 名。めぐりあそび。

じゅうやく(十五) 名。花十五。

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

じゅうやく(自由輸出) 名。經

を加へず、又輸出税を課さないこと。

じゅうゆにゆう (自由輸入) (名) (Economic) 國家が外國貨物の輸入に對し、制限を設けず、又輸入税を課しないこと。

じゅうゆれい (稅油禮) (名) (Custom) 天主教で、信者の歸終に際し、身體の苦痛を減じ、又心神に慰安を與へる爲に、病人の身體に香油を抹する儀式。塗油式。

じゅうよう (秋陽) (名) 秋のけしき。日光。

じゅうよう (秋養) (名) とりあげて養ふこと。

じゅうよう (修養) (名) をなまめしむこと。道なまめしむやしなむ心身をきたへること。

じゅうよう (秋容) (名) 秋のけしき。

じゅうよう (愁容) (名) うれへのあはれた顔かたち。しんばらしい様子。

じゅうよう (醜容) (名) みにくいみめかたち。

じゅうよう (醜用) (名) けしき。あつ用ひること。

じゅうよう (重用) (名) 大事なこと。大切。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

じゅうよう (重用) (名) おもく用ひること。

の形象。象傳上下(各卦の表象により人の準則を述べる)象辭傳上下(易經文の由つて起る所以を述べる)文辭傳(乾坤二卦の辭意を述べる)說卦傳(易の卦象、卦徳を述べる)序卦傳(卦の順序を論ずる)雜爻傳(六十四卦の二卦相交易することを述べる)。

じゅうよう (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

じゅうりつ (重利) (名) 莫大な利率。

「貨」。多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

に横置し、膨脹して毛細管から流出する水銀の重量を秤つて温度を知る。—トロン(重量噸) (名) (Gravimetric) 船舶の最大吃水噸、即ち貨物満載の吃水に於ける排水重量から、空船状態の排水重量を減じたものに、其の船舶の真摺り得る最大重量。—ひん(重量品) (名) (Dead weight) 容積の割合に重量が大であるため、運賃を計算するのには、重量噸を單位として計算される貨物。(輕量品) ① 海運に於いては、一箇の重量三噸以上の貨物又は陸運に於いては、一箇の重量三噸以上の貨物。例へば石炭の類。(輕量品の對) —ふんせき(重量分析) (名) (Chemical) 化學的組成成分。例へばアルコール含有料等を標準として税率を決定する。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

じゅうりつ (重利) (名) 多くの役人。

の法則 (Coulomb's law) (句) ジュール発見の物理

學の原則。熱は一種のエネルギーで、一定量の仕事を

を全く熱に變換すれば、一定量の熱を得べく、又、熱の

みから仕事を正の場合には、失はれた熱と得られた

仕事とは全く等しい。又、電路内に生ずる熱量

は、電流の平方と電路抵抗と電流の通過した時間と

に比例する。

しゅうするい (醜類) (名) 醜行あるもの仲間

間。醜態ともがら。●多くのとら。●衆類。

しゅうするい (悲涙) (名) うれへ悲しんで泣く涙。

しゅうするい (獸類) (名) 動物を推動物の一種

皮膚に毛をなじ、肢は前後略同様の構造をなし、温

血で癒して胎生、其の兒は母體の乳汁で哺育せられ

る。けだも。●從類。

しゅうするい (朱漆) (名) 朱粉を混じった朱色の漆

シニールレアリスム (佛) Sinerealism (名)

現實を不純なものと見て、現實を超越した世界に眞

實の把握と表現を目的とする主義。一九二〇年代

にフランスの詩壇畫壇に起つた新藝術傾向。超現

實主義。超寫實主義。

しゅうれい (秀麗) (名) すくなくてうつくしい

しゅうれい (秋冷) (名) 秋のややかな氣候

しゅうれい (秀靈) (名) すくなくて靈妙なこと

し、又乾燥強縮し、且つ局所の蛋白質及び生膠組織

に作用し、不溶性の沈着物形成する薬物の總稱。

止血・鎮痛・防腐・消炎の作用がある。タンニン

鞣酸・鞣酸・鞣酸・鞣酸・鞣酸の類。一方「收斂

點」(名) 天竺野郎の相合有運動の方向延長した際

に、各直線が相対する各角の點。ーレンズ「收

斂」(名) (理) Convergent lens) 凸レンズの異

稱。凸レンズは光を一點に集合させるからいふ。

しゅうれん (秋斂) (名) 五穀收斂の秋期に租

税の取立をなすこと。「のみがきたるへること

しゅうれん (修練・修煉) (名) をなされること

しゅうれん (習練) (名) ならぬこと。な

れて巧みなること。

しゅうれん (聚斂) (名) ちつめなすること。

●適重の租税をとりたること。ーの巨あらん

より寧ろ盜臣あれ (句) (大學) 與其有聚斂

之臣寧有盜臣」とある。●適重なりたてなして民心

を失ふより、公の財物を盜みとつて私腹をこや

す臣の方がまだましである。治國の要は財貨よりも

民心を収めることの大切なること。

しゅうれん (自由戀愛) (名) (社

義) Free love) 従来の傳統及び約束を無視して男女の

戀愛を爲す。即ち戀愛及び結婚の選擇婚等に就い

を表せる土を審査せざるを爲す、路面上下を轉向する機

械。四角形の重量あるものを爲し、その大形のものは

小機關車のやうに汽力を用いて運動する。

しゅうろく (抽煙) (名) せいで「自由労働者」(名)

強制によらず、自己の意思で労働者。一定の職

場を持たず、臨時の労働に従事する者。「ら。

しゅうろく (重祿) (名) 重く知行多い俸給。

しゅうろく (十六大角豆) (名) 十六大角豆

紅豆) (名) 種まぎの一種。華は線粒性で、莢は

長さ約三〇釐、莢に一六八箇の種子を蔵し、莢の

中に紫色なる紅紫なるとある。食用に供する。じ

ふはらさぎ。ながさぎ。はなさぎ。

しゅうろく (十六善神) (名)

「佛夜又大菩薩で、七千の眷屬を隨へて、般若經の諸

持者を擁護して免難から救ふことと誓願としてゐる

十六神。陀羅尼集經) には、達理底攝忍吒 (Dhi-

ratana) 持國・禁見嚩 (Kandhika) 補日嚩 (Vajra-

迦思羅 (Kavira) 彌提嚩 (Mehana) 多怒思 (Antara)

阿彌嚩 (Andika) 喜嚩嚩 (Gandhara) 印波嚩 (Indra)

波嚩嚩 (Sudra) 摩虎嚩 (Maha) 施尼嚩 (Kavira)

真持嚩 (Ajita) 摩提嚩 (Maha) 尾迦嚩 (Vajra)

俱吠嚩 (Kureva) 金剛智嚩の般若守護十六善神王

形體) (増長) 攝代善喜増喜・歡喜・除一切障

子石から動いて親石を嵌め

ば親石の質となる法。別に

雪隠法といって子石を親石

を廣場から雪隠に追ひ込

み、圍方取る勝負法がある。

しゅうろく (十六夜) (名) いざよひ。

しゅうろく (十六羅漢) (名) (佛)

釋迦の命によつて、一定期間、世に在して正法

を護持する者。十六人の尊者。即ち寶度羅跋提

圍 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

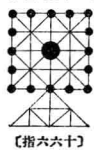
迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)

迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva) 迦留 (Vasudeva)



【指六十六】

衝を指揮し、院内の取締に任ずる判任官。  
じゆえい(掃屋)(名) 樹木のあか。  
じゆえい(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

じゆえん(掃屋)(名) 掃屋のあか。  
じゆえん(掃影)(名) 安福天皇の御宇の年號。平  
宗盛・源朝野の時代。(八八四)

④酒量の多いこと。⑤佛)本願寺の正月五日の  
行事で、門主自ら宗祖觀音の像の前に酒肴を供へる  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

歌一致の學。孔子出てて樂舞を祖述し、文武(無草  
古)先聖の道を集大成し、易・詩・書・禮・樂・春秋の  
六經を立てて教を建てたり、永く支那學界の權威と  
なり、後世の學者はすべて孔子宗師の祖とし、其の  
言説を祖述し、傍ら子思・孟子等の所説を參照し、  
四書・五經に於てその思想(天)を以て根本と  
し、仁によって貫かれた人道を道とし、道を實行す  
るを徳とし、倫理政治上の教を述べて、修己治人を目  
的とし、即ち格物致知・誠意・正心・修身・齊家・治國  
平天下の道を詳かにする。我が國には應辨天皇の頃  
傳來し、我が國文化に多大の貢獻をなし、神道及び佛  
教と調和して國民精神の根幹となした。

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと

しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと  
しゆかい(酒戒)(名) 飲酒のいましめ。「こと



しゆか

から歸すもの。又、我が國上代即位・朝賀の大儀に  
女孺が弱して奉仕したるもの。  
しゆからかさ(朱傘)(名) しゆがさ。  
しゆかん(手簡主輪)(名) てがみ。  
しゆかん(主幹主監)(名) けしまり。主任。  
しゆかん(衆勸)(名) 衆人にためらされて放蕩に  
あつぐこと。  
しゆかん(主幹)(名) 主として管理するこ  
と。  
しゆかん(支配人・番頭)(名) つかさ。かかり。

しゆかん(主幹)(名) 主として管理するこ  
と。  
しゆかん(支配人・番頭)(名) つかさ。かかり。

しゆかん(主幹)(名) 主として管理するこ  
と。  
しゆかん(支配人・番頭)(名) つかさ。かかり。

しゆかん(主幹)(名) 主として管理するこ  
と。  
しゆかん(支配人・番頭)(名) つかさ。かかり。

しゆかん(主幹)(名) 主として管理するこ  
と。  
しゆかん(支配人・番頭)(名) つかさ。かかり。



が施主の爲に、其の幸福を祈願すること。●じゅが  
んしゅ。●(じゅ)がんしゅん。一しゅん(呪願師)(名)  
●佛法等に呪願を願ふ者。一しゅん(呪願文)  
(名)●佛呪願の旨をなしたためた文。

しゅかふんやう(主観的批評)  
しゅか(文藝批評)の批評を主観に置き、一個人の好  
悪によって優劣を決するもの。印象批評(感賞批評の  
類。(客観批評の對))

しゅき(手記)(名)●てつづらから記すこと。おほえに  
しゅき(手記)(名)●酒のかり。また。●酒に  
酔うたけはひ。●一る時。鈍子(子)の類。

しゅき(酒器)(名)●酒を飲む。又、酒を酌むに用ひ  
しゅき(酒器)(名)●酒屋の看板としてたてられた旗。  
かばた(酒旗)。

しゅき(朱喜)(名)●朱塗の器具。●藤原氏傳家の  
重寶。氏長者たる人の大層な衣に用ひた器具で  
その數二十餘ありといふ。長者に任せられた時、莊  
重な儀式によって、藤原長者と共に授受せられる。  
藤原冬朝に始まつた例となつた。

しゅき(朱喜)(名)●支那南宋の大儒。字は元  
時。仲暉。號は晦庵。漳州府史。張翥。張谷。葉陽  
等。徽州婺源(安徽省)の人。宋學の大成者で其の學  
を朱子學といひ我が國に與へた影響が非常に多い。  
『詩集傳』『四書章句』(實治通鑑綱目)『近思錄』『小  
學』の著がある。宋の寧宗の慶元六年(一一二〇)授  
年七十二。後世尊稱して朱子といふ。理宗の朝、太  
師を贈り、信州公に追封され、徽國公と改められた。

しゅき(手技)(名)●手でするわざ。てわら。手藝。  
しゅき(主義)(名)●守つてからはらぬ一定の主張。  
一しゅん(主義者)(名)●社會主義者。共產主  
義者。無政府主義者の如く左傾思想を懐く者。

しゅき(受寄)(名)●法寄託を受けること。一しゅ  
する人者。(名)●法寄託を受けてその財物を保管  
する人。一しゅ(受寄物)(名)●法寄託を受け  
て受寄者の保管にある財物。

しゅき(授記)(名)●佛師が其の弟子に豫言記  
しゅきはん(衆議判)(名)●しゅきはん。

しゅき(衆議判)(名)●しゅきはん。  
しゅき(衆議判)(名)●しゅきはん。  
しゅき(衆議判)(名)●しゅきはん。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。  
しゅき(守舊派)(名)●舊習を固く守る頑固の一派。

しゅき(入興)(名)●興に入る。面白きに  
しゅき(入興)(名)●興に入る。面白きに  
しゅき(入興)(名)●興に入る。面白きに

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。  
しゅき(需供)(名)●需要と供給。需給。

しゅき(威)(名)●「武」  
支那の種族たる八臂舞  
の武舞に右手三指で  
舞ふもの。武器の斧に  
象入り、龍頭の裝飾が  
あり、木製で色彩を施してある。  
しゅき(威)(名)●着た鏡附をなほすこと。又、鏡を  
着ること。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

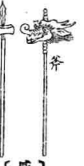
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。

しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。  
しゅき(接尾)(名)●鏡を敷へるに「しゅき」(威)。



威





しゆくへい(宿弊)名 古くからの弊害。『便。  
しゆくべん(宿便)名 腸内に長く停滞した糞。  
しゆくぼ(叔母)名 父母の妹。をば。『便諦。  
しゆくほう(祝砲)名 紀元節・天皇節に  
他特別の祝日に、陸海軍が祝意を表して放つ空砲。  
その数は紀元天皇兩節には百一發。禮砲。  
しゆくほう(宿報)名 佛宿世の果報。  
しゆくほう(宿坊)名 寺院に俗儒。下人の  
宿泊する僧坊。『權家から自家の隣居する僧坊を  
いふ語。①自己の僧坊。②ともいふ家。  
しゆくほう(宿望)名 かねてからの願。久  
し前からの望。  
しゆくほう(宿謀)名 かねてからの謀計。以前  
しゆくほう(熟蒸)名 よく蒸した米。  
しゆくばく(宿墨)名 一夜を経過した現の墨。  
しゆくまい(熟米)名 よく蒸した米。『江。  
しゆくみょう(宿命)名 しゆくめ。『  
しゆくみょう(宿命)名 自己の宿世に於ける所  
行を自在に知るといふ道力。  
しゆくみん(熟眠)名 よく寝ること。熟睡。  
しゆくめい(宿務)名 前世からの務。  
しゆくめい(宿命觀)名 宗・世界及び人生  
に關する一切の事象は、先天的に豫定の宿命によつて  
支配せられて、之を避けることが不可能で  
あるとする信仰。『一せ。『宿命説』(名)『哲  
(Präformismus)哲學上、宿命説を佛教化し、各々の創意  
や意志の自由を認めぬ説。『らん。宿命論』(名)『對  
』(哲學)。  
しゆくめん(熟面)名 よく知てる顔。(生面)  
しゆくもう(宿望)名 しゆくじ。『對』  
しゆくもう(縮毛)名 しゆくじ。縮れた毛髪。『細  
しゆくもん(祝文)名 しゆくじ。『羊の毛。  
しゆくもん(宿問)名 解決せしむる疑問。  
しゆく久(以前からの問題)名 よくいふ。あきまふ。  
しゆくやく(宿役人)名 貴族階級で問屋

場を管し、江戸幕府の家老の役人。  
しゆくゆう(祝融)名 支那で、火を掌る神。  
しゆくや(宿夜)名 宿。『宿。二十八宿と九  
曜星をいふ。『宿曜』(名)『宿。』  
しゆくらん(熟覽)名 丁寧に目を通すこと。よ  
しゆくらん(熟爛)名 熟してたれたこと。  
しゆくりや(熟慮)名 熟してよく考へ思ふこと。  
しゆくりや(宿料)名 旅宿又は下宿など  
に上つて支拂ふ料金。やどかん。やどせん。  
しゆくりやうこつ(叔梁紇)名 支那春秋  
時代の魯の人。孔子の父。鄭邑の大夫となり、顔氏  
の女徴を娶り、共に厄丘に祈つて孔子を生み、孔  
子三歳の時、殺した。はれ。  
しゆくくれん(熟練)名 熟して巧みなこと。上手。  
しゆくろ(宋蒸)名 蠟色炭の粉末に、朱粉を混  
じたもので、色鮮やかな材料とするもの。  
しゆくろ(熟路)名 行きなれた路。  
しゆくろ(宿老)名 年老いて其の物事  
に經驗を積んだ人。老巧な人。武家時代の高官職  
に就いた臣僚。鎌倉時代の評定衆・引付衆、室町幕府  
の評定衆、江戸幕府の老中・評定衆をいふ。『江  
戶時代の町内の年寄役。『昔の短艇で數子船に乗つて  
指揮を掌つたもの。  
しゆくわ(熟和)名 なれやばらぐこと。なれ  
まじること。よく消化すること。『又その役。  
しゆくわり(宿割)名 宿所を割り當てること。  
しゆくん(主君)名 自分の仕へる君。主人。  
しゆくん(酒醜)名 酒に酔つて心地がだつたこと。  
しゆくん(殊勳)名 他よりきつだつてすぐれた  
しゆくん(頌揚)名 けつ(揚)。『勤功。  
しゆくん(樹下)名 しゆく(樹)に。  
しゆくん(樹下坐)名 佛頭陀が、大樹の下に坐  
して、静かに念じて佛道を求めること。しゆくじ。  
しゆくん(樹下石生)名 佛出家して  
山野・路傍などに宿る。『  
しゆく(從下)名 昔の位階の從と下のの稱うたも

の。從五位下などの類。  
しゆくけい(主刑)名 法 單獨に科せられる刑  
罰。我國刑法では、死刑・懲役・禁錮・罰金・拘留・科  
料の六種(附加刑の對)  
しゆくけい(主計官)名 會計。勘定。會計官。勘  
定方。『軍廠經理部及び海軍主計科の將校で會  
計管理等の事を掌る。陸軍では主計總監。主計監  
一等二等三等の主計正。二等三等の主計、海軍では  
主計中將。主計少將。主計大佐。主計中佐。主計  
少佐。主計大尉。主計中尉。主計少尉の稱。『かん  
〔主計局〕(名)法 大蔵大臣の意思を受け、總務  
算議院等の他の會計上の重要な事項を取扱ふ大蔵  
省の一局。『一。『主計簿』(名)法 歳入歳出の豫  
算額の他出入を記入する大蔵省附の帳簿。『  
りょう。『主計寮』(名)大藏省制の官制の一。  
民政部の豫算、調庸等の國家の收入を計納し、國用  
の支度等を掌つたもの。かすへう。  
しゆくけい(手藝)名 主として手先の修練による  
家庭工業。刺繍・編物・抽織工・紺細工・綿更紗・袋  
物細工・ビーズ刺繍・リボン・アト・ワッフル・人  
形細工の類。  
しゆくけい(種種)名 農作物の種まき。  
しゆくけい(受刑)名 法 刑罰の執行を受けること。  
しゆくけい(受刑者)名 法 刑罰判決により、  
刑の執行を受けるもの。  
しゆくけい(樹藝)名 農樹木の植まき。  
しゆくけい(澤和天皇の天皇五(八)四八八)弘法大師  
が真經九條の藤原三守の故宅に設けた私立學校。六  
位以下の子弟及び庶民の子弟に佛教と儒教とを教授  
した所。我が國家學校の始。  
しゆくけん(殊眷)名 特別にひききたること。  
しゆくけん(主權)名 法 (Sovereignty) 國家自身の  
國家自らの意思によるの外は、頼りに他の意思に支  
配せられない権力。國家構成の要素で、最高にして

獨立の権力である。①國家の最高機關の權限。君主  
國では君主。共和國では國民又はこれを代表する  
國會を指す。②おもなる権力。『こく。『主權  
國』(名)法 (Sovereignty) 主權を有する國。  
使の獨立。③或る事件に對して主權を有する國。  
例へば日本の領域に於いて犯罪の行はれた場合、そ  
の事件に對する主權國は日本であるといふ類。『  
しやく(主權者)名 法 (Sovereign) 國家の最高  
權者即ち國家の最高機關。國家の主權を具有する人。  
君主國では君主。共和國では國民又は其の代表機關  
たる議會。  
しゆくけん(修驗)名 佛(しゆくけんじ)。『しゆく  
けんどう。『じやく。修  
驗を修行する。  
しゆくけん(佛修驗)名 佛修驗  
道を修行する。  
しゆくけん(修驗)名 佛修驗道  
人多く被驗で、蓑  
(あしひら)を戴き、蓑  
懸(あしひら)及び結袂(むす)を着け、髪を眞ぐ、金剛杖(こんごうじょう)をつき、  
法螺(はら)を鳴らして修行するもの。もとは太刀を佩  
びた。但し願身形(ねんがた)のものは別髪(べつぱつ)の比丘形である。  
しゆくけん(修驗道)名 佛(しゆくけんじ)。『しゆくけん  
けんどう。『じやく。修  
驗道(一)波。修驗を修め、呪文を誦し、祈禱を行ひ、山  
中に入つて難行苦行を管め、神驗を修得するのを業  
とする。其の法は眞言に基づき、道家に似る。小角の  
後・圓珍が之を傳へ、醍醐天皇の朝、聖賢(せいけん)が再  
興して、寶鏡流を開き、堀河天皇の朝、増養(ぞうやう)天皇が  
聖賢流を開いた。室町時代に至つて、この二の末  
流相伝で繁榮し、増養の流は靈應院を本所とし、熊  
野三山修行をなして、本山流と呼ばれ、聖賢の流は隱  
關寺を本所とし、大業修行を行つて富山派と稱せら  
れた。本山派は熊野から大塚山に入つて修行し、之  
を順承といふに對し、富山派は大塚から修行し、之  
を之を連承といふ。明治五年、其の流布は禁せられ  
たが、近年再興を許され、天台修驗は修驗道と稱し、金  
峯山を本山とし、眞言修驗は勤士と稱して、修驗院  
に關して今日に及ぶ。



じゅけん〔受験〕(名) 試験を受けること。―し  
やく〔受験資格〕(名) 試験を受ける資格。  
じゅけん〔受験生〕(名) 試験を受ける生徒。―せい  
地(名) 試験を受ける土地。―にん〔受験人〕  
じゅけん〔受験料〕(名) 試験を受けるために納入する手数料。  
じゅけん〔入眼〕(名) 鏡位で位階のみを記した  
氏名に、加筆では官のみを記した文書に、其の當人の  
位階を除くこと。

じゅけんこうい〔授権行為〕(名) 官  
或人が公法上私法人の代理権を他人に授與する法  
律行為。

しゅげんしやう〔朱元璋〕(名) 大明の  
太祖。字は國瑞。濠州安徽省の人。紅巾賊の一兵  
卒から身を起し、長江を定め、一三六八年南京  
で帝位に即き、國號を明と定め、洪武と建元し、官制  
を改革した。在位三十一年、七十一歳で歿。諡を洪  
武皇帝といふ。(二三)

しゅけんせつ〔主顯節〕(名) (Britain) キリス  
ト舞伎及び監督教會で行ふ一種の祭日。キリストが  
第三十回日の誕生日に洗禮を受けて神の子の保護を  
得た當日、即ち一月六日。

しゅこ〔酒戸〕(名) さか。さか。さか。  
しゅこ〔酒盞〕(名) さか。さか。さか。  
しゅこ〔酒戸〕(名) 世世御殿を守る家筋。  
しゅこ〔手鼓〕(名) 朝鮮  
の俗樂器。我が國で  
んでん太鼓に似て、直  
徑三〇センチの表面  
に張り、紙で締め合は  
せ

たものに短柄をつつ、控でうならすもの。  
しゅこ〔主語〕(名) 文法上の題目となる語。花  
咲く。成がよい。の。花。成結が。等。で。主語が  
からる。②論理學上の主語。  
しゅこ〔酒後〕(名) 酒を飲んだ後。  
しゅこ〔守護〕(名) まるごと。警備。②鎌倉



〔鼓手〕

室町時代の職名。後鳥羽天皇の文治50年に、源賴朝が  
朝廷に奏請した時、諸國の司官に副置させ兵馬・警察の  
事を執行させたもの。もとが國司の公事。莊園の地  
頭の所屬と相關する所がなく、權力擴張の  
結果次第に之を侵し、應仁亂後には、私領專制の大名  
を生ずるに至った。―いし〔守護石〕(名) 庭石  
の景色の主眼となる石。―さた〔守護沙汰〕  
(名) 鎌倉時代に、守護職で訴訟を聽断した。  
―し〔守護使〕(名) 鎌倉室町時代の田畑調査・  
年貢の催促などに、守護の派遣した使者。―しし  
〔守護神〕(名) 守護の神。子地蔵・氏神・觀音・藥  
師の類。―だい〔守護代〕(名) 守護職の代官  
の爲に人民に課した段錢。―ぶきやう〔守護奉行〕(名) 鎌倉室町幕府の職名。守護の轉補。  
得替等に關する事項を掌ったもの。―ふにやう  
〔守護不入〕(名) 守護の支配及び租税の徴收  
を禁じ、其の地内に武士が立入つて罪人を逮捕する  
ことを禁じたこと。―ふにやうちう〔守護不入  
の許可を得た土地。  
じゅごい〔從五位〕(名) (華族) 嫡男は成年に  
達すると從五位に授けられる。かゝる華族の嫡男。  
しゅこやう〔趣向〕(名) おもしろ。こころざ  
し。し。し。かんか。工夫。  
しゅこやう〔首座〕(名) 酒と肴と。又、その馳走。  
しゅこやう〔珠光〕(名) へ茶道の始祖。名は  
村田茂吉。奈良の寺に出家して、香樂庵僧尼又は獨  
り庵と號した。僧となり、大徳寺の一休和尚の門に入  
り監禁して參し、來賓に聲を備へて聲せよ。心を要  
を究明し、教習の妙術に至り、點茶法を始め、又、聲子の  
式を定め、將軍政政に罷せられた。茶道の宗匠と稱  
する。徳治二年(一二二二)歿。年八十。―せい  
じゅこ〔珠光青磁〕(名) 東山時代の珠光愛玩の青磁  
茶碗。灰白土で製分なく、釉は枇杷色で隈までかか

る。内外面に御目の線のあるもの。  
しゅこやう〔首功〕(名) 戰場で敵の首を取った功  
名。②首の功名。  
しゅこやう〔殊功〕(名) うなづくこと。うげがふこ  
しゅこやう〔殊功〕(名) 特別にすぐれたてがら。  
しゅこやう〔珠孔〕(名) 種胚珠を包む被外被  
の一點に開口し外界に通ずる部分。―じゅせ  
〔珠孔授精〕(名) 種花粉が柱頭及び花柱を  
經、子房腔に入り、珠孔に達して行はれる授精。  
頂點授精。(含胎授精)の對。  
しゅこやう〔守口〕(名) 守口をなつしむこと。  
しゅこやう〔手工〕(名) 手先でする工藝。②教  
簡易な物品を製作するの能力を得させ、工業上の趣  
味を養ひ、勤勞を好む習慣を養成する教科。紙細工・  
粘土細工・木工・金工等。  
しゅこやう〔王公〕(名) 主君。②だんな主人公。  
しゅこやう〔首號〕(名) 初號。  
しゅこやう〔樹膠〕(名) 樹木の材及び樹皮に生  
じゅこやう〔壽考〕(名) ながいき。長命。  
じゅこやう〔准后〕(名) 皇后に准する意。昔、内  
裏に奉仕する女官が、皇子又は皇女を生んだ時、賜  
はつた稱號。②じゅんぐん(准三宮)。  
しゅこやうきやう〔手工業〕(名) 中世の工業  
形態。生産者が全生産手段を所有する企業形態の制  
度、少額の資本と簡易な工具を使用し、注文又は  
市場の爲になす工業。自宅仕事と出先仕事との二形  
態がある。(工場工業・機械工業の對)―じだい  
〔手工業時代〕(名) 機械動力等がまだ發明され  
ず、専ら手工業によって生産された中世時代。  
しゅこやうきやう〔主攻撃〕(名) 軍戰の際、主  
力を行つて行ふ攻撃。  
しゅこやうじくく〔集合地獄〕(名) 佛  
教(梵文Samsaraの譯)八大地獄の一で、殺生・偷盜・  
邪淫等の罪業を造つたもの道ちる所。二大鐵山の  
間にあつて、こゝに墮つれば、二山合して、流し、  
河なすといふ。石割地獄。

しゅこやうしよ〔手工業中古〕(名) 坊に屬し  
春宮の土木・雜作・銅鐵等の事を掌つた役所。  
じゅこやうしやう〔授口版〕(名) 背、口分  
田(こゝ)を授ける爲に、調製した版人別帳。  
じゅこやうはつ〔受光伐〕(名) 林・森林手  
入の法。森林を切り透かし、生長の盛んな林木を  
殘存させ、之に廣い生長區域と十分な日光とを與へ  
て材の生長を強大にす。  
しゅこやうぶん〔主成分〕(名) 鐵(iron  
and carboniferous)の岩石中の主要な礦物。花園  
岩中の石英・正長石・雲母の類。  
しゅこくしき〔主穀式〕(名) 農主として穀物  
の栽培をなす耕種方式。―背家骨・背骨より成。  
しゅこくつ〔骨〕(名) 手首から指頭に至る骨。胸  
しゅこん〔酒浪〕(名) 酒のしみたあと。  
しゅこん〔種根〕(名) もと。たね。すじやう。  
しゅこん〔主根〕(名) 植物の種子から萌芽す  
る時、茎の下端から初めて地中に下垂し、眞直に下方  
に伸び主軸をなす根(側根の對)。  
しゅこん〔擢根〕(名) 植物主根に生ずる鬚のや  
うな根。②稻麥の根のやうに、茎の本から數多生ず  
る絨狀の根。  
しゅこん〔樹根〕(名) 植物木の根。  
しゅこん〔入魂〕(名) 懸念。親戚。懸念。  
しゅこん〔徧良〕(名) 動い。た。い。海馬。馬。  
しゅこん〔呪禁〕(名) 呪文を唱へて惡氣を拂ひ  
除すること。―のし〔呪禁師〕(名) 昔、呪禁  
の事を掌つた職名。―はかせ〔呪禁博士〕(名)  
昔、呪禁を教授した職名。  
しゅさ〔主査〕(名) 主となつて或事項をとりしべ  
しゅざ〔米座〕(名) 江戸時代に、幕府の許可を受け  
て、其の監督の下に米及び米穀を製造し、之を專賣し  
た所。  
しゅざ〔首座〕(名) 首座。かみざ。上座。②上座  
に就く資格の人。③佛し。そ。首座。④判の隠語。  
しゅざい〔酒債〕(名) 酒代のかり。酒代のかげ。  
(借付の掛)





じゆし 〔樹枝〕(名) 樹木のえだ。

じゆし 〔壽死〕(名) 天壽を全うして安樂に死ぬ。

じゆし 〔授職〕(名) 佛授灌頂の略。一かかんじゆしやう(佛授灌頂)。

じゆし 〔受食〕(名) 佛比丘が檀越の施食を受

じゆし 〔酒失〕(名) 酒醉から生ずる過失。

じゆし 〔手支〕(名) 支那の唐代に、丁口と田

宅とを記入する簿帳を作成する爲、各戸をして其

戸口・納税由宅を官に具申させたこと。隱脱者を密

告したるには、隱脱者の部分を密告者の有に歸せ

しめた。①我が國で中古、計帳を作成する爲に、戸主

から人数・年齢・容貌を記して國司に具申させた。

じゆし 〔朱砂〕(名) しんじしん(辰砂)。

じゆし 〔守者〕(名) 守る者。番人。

じゆし 〔取捨〕(名) 取るも捨てるも。

じゆし 〔取捨〕(名) 取るも捨てるも。

じゆし 〔手寫〕(名) 手づからうつすこと。

じゆし 〔受者〕(名) 佛戒又は灌頂を受ける。

じゆし 〔儒者〕(名) 佛學又は儒學を修めたる人。

じゆし 〔儒者〕(名) 佛學又は儒學を修めたる人。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

じゆし 〔朱雀〕(名) 朱雀の一種。

子等を掌つた所。後、主膳に併せられた。

しゅしゅしゅせつ(主情説) 名 解釋しよ  
うとする説。十九世紀の初めからロマンチズムに  
伴うて流行したもので、感情を以て終極の説明原  
理とする。

しゅしゅしゅてん(主焦點) 名 理 光線が、反射又は屈  
折の後に集まる點。焦點。

しゅしゅしゅく(朱色) 名 朱のいろ。しゅいろ。

しゅしゅしゅく(殊色) 名 婦人のすぐれた容貌。

しゅしゅしゅく(酒食) 名 酒と食物と。酒を飲々、食  
物を食ふこと。

しゅしゅしゅく(酒色) 名 酒と女と。

しゅしゅしゅく(手燭) 名 てしよ。ぼんぼり。

しゅしゅしゅく(主書聖旨) 名 大寶令制の官印。春  
宮(神)の被官。春宮の書牘筆視の類を供進するこ  
とを掌つた役所。後、主殿監に併せられた。

しゅしゅしゅつ(受磁率) 名 理 (Sensitivity) 磁  
性體が磁場に於いて、感應して受ける磁氣量と磁  
場の強さとの割合。

しゅしゅしん(朱唇) 名 あい色のうるはしいく  
ちびる。朱唇を色した婦人のくちびる。

しゅしゅしん(珠簾) 名 たまのかんざし。

しゅしゅしん(酒筵) 名 飲酒のいさまめ。

しゅしゅしん(守長) 名 とよのばん。ときり。

しゅしゅしん(主神) 名 神の神社の祭神中、主體  
として奉祀される神。かんねんし。神官。太宰  
府の職員祭祀の事を掌つたもの。しし(主神司)  
名 神。昔、伊勢齊宮の内院殿に勤仕し、齊宮の  
御神事に供奉することなすた役所。

しゅしゅしん(珠心) 名 種類花植物の胚珠の中央  
に存して、胚嚢を蔽ふ部分。

しゅしゅしん(主人) 名 一家のあるじ。雇傭關  
係に於ける雇主。自己の仕へる。だんな。しゅ  
ち(主人公) 名 主人の敬稱。事件又は場面  
の中心人物。しゅ(文)の(主) 小説又は戯曲中の男の

中心人物。しゅ(主) 小説又は戯曲中の女の中心  
人物。しゅち(主人持) 名 現在主人に仕へて  
ゐる人。しゅしん(樹心) 名 樹木の中心。木のしん。

しゅしん(備臣) 名 儒學を以て仕へる臣。

しゅしん(樹心) 名 樹木の中心。木のしん。

しゅしん(受信機) 名 電報を受信するに用ひるもの。甲  
地に於ける送信機によって送られた電信符號が、乙  
地に於ける受信機を通じて音響を發し、又は  
符號、文字として現出するもの。ラジオの一種。  
放送局から放射する電波を受けるアンテナ又はループアン  
テナに感したとき、これを受ける同調器と檢波器が  
成る受信部と受話器、即ち聽音部から成るもの。ラ  
ヂオセツ。しゅしゅ受信主義 名 法兩地  
者に対する意思表示の效果の發生期について、その  
主義が、相手方に到達した時に效果が生ずるとする  
主義。我が國の民法は此の主義を採る。しゅしん  
ほうしゅ(受信電報) 名 法特別電報の一種。  
電報の發信人が、その受信人に電報の到達した日時  
の報告を受ける手続の電報。その報知を郵便で受け  
るには、和文、ラテン文、PBの略符を用ひ、又その  
報知を電報で受けるには、和文、ラテン文の略符  
を用ひる。しゅしん(受信人) 名 他から電報又  
は郵書を受けとる人(發信人の對)。番兵

しゅしん(成人) 名 支那で大夫の妻の敬稱。

しゅしん(婦人) 名 支那で大夫の妻の敬稱。

しゅしん(精子) 名 經絡に精液の淨いた組織の織物。  
しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。

しゅしん(毛髮) 名 毛髮を透かさまやうに美しく撫でつけた髪。



**しゆたーい**〔入内〕(名) (へ裏に参入の意) 中宮又は皇后などが、册立前に式を具へて内裏へ入り給ふこと。  
**シユタイン**〔Lorenz von Stein〕(名) (ドイツ) フロイト、スワイス、フランクフルトの生。ウィーン大学の教授。伊藤博文が憲法調査のため渡歐した際、ウィーンに氏を訪へて親しく其の意見を聴いた。「現代フランスの社会主義と共産主義」「社会学論」等の著がある。(八九七)

**しゆだおん** (名) (須陀迦) (佛) (梵) 梵の音譯。須陀迦を脱して、聖者の類に入つた地位。  
**しゆたたく**〔手澤〕(名) 物にたいたつたつや。しゆたたく(手澤木) (名) 前人が繰返した讀んで、手澤の附いてある本。

**じゆたく**〔受託〕(名) 囑託を受けること。たのまれること。◎寄託を受けること。―さいばん  
**しよ**〔受託裁判所〕(名) (法) 他の裁判所から過法の囑託を受けて、其の管轄内に於ける證據調、訊問、送達等をなす裁判所。―ばいばい〔受託買買〕(名) 自己の名で、他人の計算を以て買買を行ふこと。この營業は問答する。―はんじ

**〔受託判事〕**(名) (法) 或裁判所の判事が、他の裁判所から過法の囑託を受けて、自己所属裁判所の管轄内で證據調又は訊問等をなすもの。―はんばい  
**〔委託販賣〕**(名) ◎委託販賣を受託者から見て、委託者。

**じゆたく**〔受託〕(名) ひきうけること。うけがふ  
**じゆたくがふつ**〔受託物〕(名) 受託物を受けて保管する物品。―しよちよ

**しゆたら**〔修多羅〕(名) (佛) (梵) 梵の音譯。三藏の。經文。十二分經の。散文。法相を説いたもの。◎袈裟の止に附ける一種の裝飾。赤白四筋の色紐を用ひ、華嚴結の。又は拘結の。端



〔修多羅〕

くは七條の袈裟に加へ用ひるが、日蓮宗では九條の大衣に加ふる。  
**しゆたら**〔首陀羅〕(名) (梵) 梵の音譯。印度四姓の最下級。土著の劣等人種で、農業屠殺等に従事し常に壓迫虐待せられた。◎團扇の異稱。  
**しゆだん**〔手段〕(名) だてて。しかた。方法。  
**しゆだん**〔手段〕(名) おもひふべい(風情)。風情。  
**しゆちく**〔種畜〕(名) 繁殖用家畜。即ちたれりて使用する家畜。―じよちよ

**しゆちく**〔種畜〕(名) 繁殖用家畜。即ちたれりて使用する家畜。―じよちよ  
**しゆちく**〔種畜〕(名) 繁殖用家畜。即ちたれりて使用する家畜。―じよちよ  
**しゆちく**〔種畜〕(名) 繁殖用家畜。即ちたれりて使用する家畜。―じよちよ

**しゆちせつ**〔主知説〕(名) (哲) (智) (Intellectivism) 眞理、行為、生命、非理性的に對して、知性、思惟、理論的、理性的なもの重要視する説。◎認識を感覺乃至經驗から導かうとする感覺論乃至經驗論に對して、一切の認識、理性乃至思惟から導かうとする立場。又認識に於ける意欲の要素を重要視する主意論に對し、認識に對する意欲の要素を認めぬ説。◎存在の根柢原理として、知的理論的ものを強調する説。◎倫理學上、精神現象を知的要素に歸し、反省、表象、思考等を情意作用の基礎又は根柢原とする説。◎倫理學上、道徳的意志は、理性的知識

**しゆちにくり**〔酒池肉林〕(名) (史記) 殷本紀に「以酒爲池、醢肉爲林」とある。宴會を極めた酒宴。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。

**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。

**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。

**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。  
**しゆちちゆう** (名) 厨事を掌る海軍兵。

**しゆちちゆう** (名) (主張) (名) ①自分の説をいひはること。②持論。③主張する。つかさざること。  
**しゆちちゆう** (名) (腫脹) (名) ばれること。はれ。  
**しゆちちゆう** (名) (珠帳) (名) 珠玉を飾つた美しい。  
**しゆちちゆう** (名) (珠帳) (名) 珠玉を飾つた美しい。  
**しゆちちゆう** (名) (珠帳) (名) 珠玉を飾つた美しい。

**しゆちちゆう** (名) (主調) (名) (文) (Musical) 樂曲の基礎となる調子。樂曲が途中で轉調される場合に、その始と終が同一の調子に終結するもの。―おん(主調) (名) (音) (Musical) 長短兩音階の第一音。キーノート。  
**しゆちちゆう** (名) (壽筵) (名) 存命中に設けおく墓。壽物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。

**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。

**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。

**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。

**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。

**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。  
**しゆちちゆう** (名) (首丁頭巾) (名) 被り物。一種。中古。剃髮の僧。



〔中頭丁首〕

なし、大量販賣に伴ふ利益を得んことを目的で組織する組合。―せいげん〔出荷制限〕(名) ◎「經生産者又は販賣者が、出荷の數量を制限して價格の騰貴をはかること。―ちやうせつ

**しゆちか**〔出火〕(名) 火災を起すこと。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。  
**しゆちが**〔出芽〕(名) 芽を出すこと。發生法。◎「種」(種子)の無性生殖の。母體に小芽又は小突起を生じて次第に肥大し、遂に母體から離れて一體を形成すること。

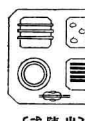


しゅつぎょ 宿忌(名) たいや(連夜)。  
しゅつぎょ 宿者(名) としり。老人。  
しゅつぎょ 淑氣(名) 朝早く起きること。  
しゅつぎょ 淑春の陽氣。  
しゅつぎょ 淑格(名) 新春の賜。出格。  
しゅつぎょ 淑救(名) あはれんでたすけること。にき(すい)。  
しゅつぎょ 出舉(名) 出舉。一にん。  
しゅつぎょ 出舉(名) 出舉の借入人。  
しゅつぎょ 卒去(名) 四位五位の人の死。  
しゅつぎょ 御御(名) 天子が外におでましにならぬこと。  
しゅつぎょ 出郷(名) 故郷を出ること。  
しゅつぎょ 御住持が等を出て入里に行つて勤化すること。  
しゅつぎょ 田倉(名) 都を出て田倉に行くこと。田倉が都に葬ること。  
しゅつぎょ 勤務(名) 勤務に出ること。勤めてゐること。  
しゅつぎょ 出金(名) 金銭を出すこと。又、出。  
しゅつぎょ 田銀(名) しゅつぎょ 出金。  
しゅつぎょ 田軍(名) 軍隊に加はつて戰場に出ること。軍隊をくり出すこと。  
しゅつぎょ 田群(名) おほくのむれの中てぬけること。すぐれ出ること。  
しゅつぎょ 田家(名) ①自分の家を出て去ること。②佛の自分の家を出て佛門に入ること。③僧侶。  
しゅつぎょ 出家(名) 佛國落して還俗し僧。一おち田家具戒(名) 佛門に入つて僧となり戒行の功徳を身に具有すること。一とく田家得度(名) 佛門に入り度牒を受けて僧尼となること。一とくどてん田家得度田(名) 中古。人民が僧となつた時その人の口分田。位田。賜田等を官に収めたもの。  
しゅつぎょ 風慧(名) 幼時よりさといこと。  
しゅつぎょ 肅敬(名) つつしうやまふこと。  
しゅつぎょ 肅啓(名) つつしうで申し上

げること。④書狀の起筆に敬意を表して記す語。啓。  
しゅつぎょ 祝慶(名) いはひよろこぶこと。  
しゅつぎょ 熟計(名) とくとく計畫すること。又そのはかりこと。くらみ。  
しゅつぎょ 術計(名) だ。はかりこと。たじゅつぎょ 術警(名) 學問。技藝。  
しゅつぎょ 出血(名) 血液が血管系から外に出ること。血液の體外に出るのを出血。組織内液は體腔内に出るのを内出血といふ。  
しゅつぎょ 出現(名) あはれ出ること。あはし出現。天(天)の天體が掩ふこと。天體の再現。  
しゅつぎょ 田庫(名) 車庫。車庫を出ること。車庫から出ること。(入庫の對)しゅつぎょ 術語(名) Technical term) 科學で特に用ひる語。學術上の專門語。正確。精密で多岐。曖昧でないの特色とする。  
しゅつぎょ 述語(名) 文法でつめい入説明語。  
しゅつぎょ 宿好(名) 年來のこのみ。昔からのよしみ。  
しゅつぎょ 取行(名) よいおこなひこと。しゅつぎょ 然荒(名) よくよく思案すること。しゅつぎょ 豐作(名) 豐作と内作と。豐年で米價の安い時に農が却つて困窮すること。  
しゅつぎょ 夙興(名) 朝早く起きること。しゅつぎょ 宿構(名) かねて起す(へ)ておくこと。以前にたくおいたこと。  
しゅつぎょ 出行(名) 出くこと。  
しゅつぎょ 出港(名) 船艀が港を出ること。しゅつぎょ 出税(名) 送)福民地で、本國へ移出品に課する一種の關稅。  
しゅつぎょ 出獄(名) 刑務所にゐた在監が釋放せられて獄を出ること。一にん出獄人(名) 受刑者が刑期を終へて出獄したものを。一に

ん性) 出獄人保護(名) 社)めんしゅうほ(名) 貧困保護)。  
しゅつぎょ 宿怨(名) 劇)たちまら。か)。  
しゅつぎょ 宿根(名) 佛)前世から定まらぬ機根。佛)業はその年に結るが、根が残つて、明年又芽を出すもの。一そら)宿根草(名) 種)宿根を有する草。即ち多年生草本。しゅつぎょ 宿根(名) 宿根(名) 年來のうらみ。  
しゅつぎょ 天魂(名) じゅん)。  
しゅつぎょ 田座(名) 其の座に出ること。しゅつぎょ 田座(名) 離れした。しゅつぎょ 出妻(名) 離れした。しゅつぎょ 述作(名) 前)のしたことを述べて明かにすること。自己作り始めること。の)の)つること。著述。  
しゅつぎょ 術策(名) はかりこと。謀計。  
しゅつぎょ 田札(名) 札を出すこと。切符を賣ること。一がかり田札係(名) 札を出す人。多く驛で乗車券を賣る人といふ。一じよ)田札所(名) 札を出すところ。切符を賣る場所。しゅつぎょ 田産(名) 産物の場所。産出。しゅつぎょ 子(名) 生まれること。さん)しし)やう)。  
しゅつぎょ 田山(名) 山)を出ること。山を下つて町村に出ること。一の)釋迦(句) 六年の苦行を終へ、成道して雪山を出る釋迦牟尼。多く車題に用ひる。①動務の場所に出ること。②試補員。員外官。しゅつぎょ 田仕(名) 出で仕へること。仕官。しゅつぎょ 田資(名) 資金を出すこと。①經) (Contribution) 共同事業に資本を融出すること。財) 産出資。勞力出資。信用出資の三種がある。又組合員) 出資。監事組合の出資。社団法人社員出資の別がある。一きむ)田出資義務(名) 送)出資の義務。株式會社又は株式合資會社の株主が、其の株金を拂ひ込む義務の類。  
しゅつぎょ 出自(名) 出所)で)。「藝)する人)。  
しゅつぎょ 術士(名) 巧みに計を弄する人。曲

じゅつじよ 術治(名) じよ)ない)。  
しゅつじよ 田日(名) 朝出る日。あまひ)。  
しゅつじよ 田出處(名) 出で仕へると退いて野に降ること。事の起ること。で)と)。  
しゅつじよ 田縁(名) 天)太陽面に於ける内惑星たる金星又は水星の經過をはり。しゅつじよ 田生(名) 胎兒が母體を出て生れること。の)土地から生れ出たこと。又、生まれた土地。一ち)田生地(名) 出生した土地。の)出生地の屬する國家の國籍を取得せしこと。しゅつじよ 田場(名) 場所に出ること。運動競技に参加すること。しゅつじよ 田定(名) 佛)禪定を止めて坐禪から起ち出ること。僧が修行の爲に禪定を止めた所から出ること。  
しゅつじよ 出色(名) 他)よりすぐれてあら)。  
しゅつじよ 述職(名) 支那で、諸侯が天子に關して、職務の狀を申し上げる意。諸侯が朝觀して參内すること。  
しゅつじよ 出身(名) 官職に擧げ用ひられること。その)土地又はその地位から立身した)。  
しゅつじよ 賜官(名) 官職に登用せられて官衙に出動を命ぜられること。  
しゅつじよ 田陣(名) 戰場に出ること。戰)に臨むこと。戰陣に臨むこと。し)田陣式(名) 出陣に際して吉言に行つた儀式。大將は小)に鏡垂垂を著して、吉方に向かふで左の膝を立てて坐し、右手に團扇又は采配を持ち、左手の拳を握つて左の膝に當てた。三)の杯を三方に獻せ、三)の肴で獻酬して出陣を祝ふ。  
しゅつじよ 田塵(名) 世俗を脱出すること。佛)煩惱の塵垢を出離して僧となること。



田陣式







しゅふふ(首府)一名 一國の元首が居住する都市。一國の政治の中心地。その國の中央政府の所在地。

しゅふふ(首部)一名 はじめの部分。(文法)文章の主眼(即ち主題)とその修飾語との併稱。(述部)又は説明部の對)

しゅふふ(授付)一名 さつげわたすこと。付與。

しゅふふ(呪符)一名 呪詛。祟り病突發災害等を避ける爲に帯びる小像。メタル。寶石。お札の類。まじひのふ。

しゅふふ(首服)一名 げんぶく(元服)。(文法)刑事事件で犯罪の發覺せぬ以前に、犯罪者が被害者に自己の犯罪事實を告知して罪に服すること。

しゅふふ(修復)一名 つくりかへなほすこと。しゅふふ(修復)一名 福返を修めること。しゅふふ(備服)一名 僧者の着る衣服。

しゅふふ(壽福)一名 命ながく、しわはせのよいこと。一(壽福寺)一名 佛鎌倉五山の1。神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷(せんがや)にある臨濟宗の寺。土御門天皇の正治二年(源頼朝の妻平政子の發願)によって築造が開始した。

しゅふふ(山)一名 地(京都府綾巻の)郡と相樂(山)郡との境にある山。標高六八五米。南山城第一の高峯。天武天皇の朝、役小角(やくせつかう)の山を開き、印度の靈寶山に擬して梵名といふ。山上の金胎(こんたい)に元正天皇の養老年間(養老)の間。

しゅふふ(ほう)一名 法(文) 噴用用語。模倣の小さい建物と群衆とを、體を利用して一つの畫面に構成して映畫に取る、映畫の新技巧。

しゅふふ(主物)一名 法(法律)上、獨立して效用をなすもの。(従物の對)

しゅふふ(呪物)一名 神聖なもの、靈驗あるものとして崇拜する呪具。賽符などの稱。

しゅふふ(備佛)一名 僧徒と佛教との稱。『書』。『書』。『書』。

しゅふふ(朱筆)一名 朱墨の筆又は朱法をつけてシユブレ、ニール(獨逸の筆)の名。Speech-color(音演的)な装置や配光を用ひて、その唱又は獨唱。

しゅふふ(主文)一名 一文章中の主要な部分。(法外)法外文。

しゅふふ(守文)一名 繼承者が、武功を以て創業した人の成法を守つて、文を以て國を治め民を安んずること。

しゅふふ(受粉)一名 植(Pollination) 雄蕊の花粉が雌蕊の柱頭に附着する現象。自花受粉の部分。花粉と雄蕊との併稱。

しゅふふ(珠柄)一名 植(被子植物)の胚珠が胎座に着く部分。『附著する柄状の部分』。

しゅふふ(手兵)一名 部下の兵。

しゅふふ(戍兵)一名 衛戍の兵。番兵。

しゅふふ(主兵器)一名 文武天皇の大寶元年に制定された官司。春宮坊の親直、春宮の兵器及び儀仗を掌つた所。平城天皇の大和二年に主監監に併せられた。『せ。又、酒に酔て起るるわい僻。しゅふふ(種別)一名 種類によって區別すること。しゅふふ(酒舖)一名 さかみせ。さかや。酒店。しゅふふ(酒保)一名 酒屋の傭人。(軍)軍隊の營内にある商店。良賢・廉價な日用品、飲食物を營内居住の兵士に販賣すること。軍隊の自營を原則とするが、場合によっては商人に購買販賣をさせる。しゅふふ(酒舖)一名 さかみせ。さかや。(主父の對)しゅふふ(主母)一名 一家の主婦。(主父の對)しゅふふ(酒母)一名 清酒醸造上の必要材料。蒸米・麴及び水を原料として、酵母を培養・繁殖せしめたもの。酒の1。醱母。一きん(酒母菌)一名 植(こうばきん)(酵母菌)。(こうばきん)(酵母菌)。

しゅふふ(庶名)一名 支那の漢代から清代に至るまで文書・簿籍を管理した屬吏。祕書。書記。

しゅふふ(珠母)一名 動(あこやがい)阿古貝貝類。しゅふふ(珠邦)一名 一軍艦の軍艦の重砲。最大威力を有する水砲。口径八吋より一六吋に及ぶ。

しゅほう(主法)一名 法の法律に對し、獨立して存在する必要がある法律。即ち權利義務の内容を規定した刑法・民法・商法の類。(助法の對)

しゅほう(手法)一名 藝術品製作上の表現の技巧法。しかた。わざ。

しゅほう(修法)一名 佛僧が國家又は個人の爲に加持祈禱する儀式。理を設け、護摩を焚き、行言を唱へ、手に印を結び、心に佛菩薩の相を觀じて行ふ。息災・増資・降伏・敬愛・攝召(釣召)・延命等祈願の目的の相違によつて、修行の形式を異にする。大日本勸業天藥師。鬼子母觀音等を本尊とする。

しゅほう(守防)一名 守り防ごうこと。かため。

しゅほう(謀)一名 主となつて悪事を陰謀を企てる者。謀士。一しや(一謀者)一名 悪事を陰謀の首謀たる人。發頭人。

しゅほう(受法)一名 佛師から法を受けること。しゅほう(呪文)一名 呪文を唱へる法式。しゅほう(主僕)一名 主人とめづつかひと。主従。

しゅほう(儒教)一名 儒教と墨子の教と。しゅほう(入木道)一名 書跡に、玉麈之管帚時、祭北郊、更祀版、工人削之、筆入木三寸とあるに基づく書道の異稱。

しゅほう(須菩提)一名 (先)須菩提。印度の高僧。釋迦牟尼弟の一人。十六羅漢の1。舍衛城の長者。天性慈悲に富み、出家して常に善業を行ふ。すべだい。

しゅま(糯米)一名 ちまめ。

しゅまつ(朱抹)一名 朱筆で文字を抹消すること。しゅみ(塵尾)一名 しび。

しゅみ(趣味)一名 感興をひき起すべし状態。おもしろみ。あはらひ。おもしろ。或物に對して興味を感ずること。面白味。(美)美的對象を鑑賞し批判する能力。

しゅみ(須彌)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

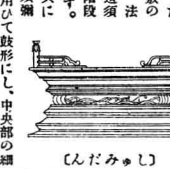
しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。

しゅみ(佛)一名 佛(しゅみん)。一のかみ(須彌髮)一名 とりが(取髮)。



〔んせみし〕



〔んだみし〕



**じゅみやう** (壽命) (名) ①いのち。よはひ。生命。②物がいたまふに保つ期間。—**がみ** (壽命神) (名) 壽命を保護するといふ神。—**ぐすり** (壽命藥) (名) 長命の藥。

**しゅかん** (主務官) (名) 某官署の事務。主官の事務。—**かんぢやう** (主務官廳) (名) 主務官の職務。職務に關する官廳例へば教育事務の主務官廳が文部省なる。—**しやう** (主務省) (名) 主務大臣が事務を統轄する省。—**だいいじん** (主務大臣) (名) 法政行政事務を統轄する。その事務を主管する内閣總理大臣又は各省大臣。即ち外政は外務大臣、補民地監督は拓務大臣である。

**しむしやう** (占守島) (名) 樺千島群島の。千島占守郡に屬する。我が國の最東北端を占め、長さ三〇軒位。占守海峡を隔て、露領カムチャカに對する。

**じゅめい** (主命) (名) 主君の命令。しゅめい。—**じゅめい** (受命) (名) 命令を受けること。①天命を受けて天子となる。—**はんじ** (受命判事) (名) 法政探問準備手續等一定の事項に就いて所屬裁判所から調査を命ぜられた合議裁判所の判事。—**の君命** (名) 史記周紀に西伯受命之君とある。②上天の命を受け王朝を開き國民を統治する君。

**しゅめいもん** (修明門) (名) 平安大内裏に於ける内裏外部門。南面の門で、建禮門の西端にあつた。右馬廐又は右廂階門といふ。すめいもん。—**いん** (修明門院) (名) 後鳥羽天皇の妃。順德天皇の御母藤原重子の院號。初め範子、又親子と申す。贈左大臣藤原季の女。承久三年、北條泰時が、後鳥羽上皇に寵愛を迫るや門院も亦尼となり、法名を法性覺といふ。文永元年(一二四四)御年八十三。すめいもん。

**しゅまろ** (主馬寮) (名) 大寶令の官制で、春宮坊の祓官春宮の供進乗馬給具の事を掌る官司。主馬の長官といふ。しゅめいのつかさ。

**しゅめりやう** (主馬寮) (名) 馬匹・車輛・牧場に關する事務を掌る宮内省の寮。

**しゅもう** (朱蒙) (名) ①高句麗國の始祖。都率ともいふ。今から約千二百年前、高句麗國を建設した。—**しゅもく** (種目) (名) 種類の名目。種類の名目。—**しゅもく** (種木) (名) 種類の名目。種類の名目。—**しゅもく** (種木) (名) 種類の名目。種類の名目。

**しゅもん** (呪門) (名) 呪術の作法に於いて發せられる詭言法語で、神祕的不可測の効果を有するものとせられてゐる。修驗除障陽家などで唱へるまじなひの文句。又そのひの文句。

**じゅもん** (儒門) (名) 儒者の家。儒家の學派。—**じゅもん** (頌文) (名) 佛げ偈。—**じゅもん** (主務) (名) 各種の調劑中、主たる効果を現はす成分。

**じゅやく** (主役) (名) 劇中の主要人物。—**じゅやく** (酒薬) (名) (Oleum) 支那酒の醸造に用ひるものに清酒醸造の麴に相當する。球形。椭圆形塊狀等となし、主として米粉で製し、麴室中で種種の醱酵菌類を繁殖せしめて置く。

**じゅか** (菜羹) (名) (菜羹) (名) (昔、支那でこの日、人々の頭に菜羹を挿し込んだり、名があらはれ九月九日の節句。

**じゅゆう** (須臾) (名) しらく。しらく。暫時。—**じゅゆう** (酒友) (名) 飲酒上の友人。さげのみ。—**じゅゆう** (手輿) (名) たし手輿。「とみだち。—**じゅゆう** (入輿) (名) 貴人の輿。こいれ。

**じゅゆう** (授與) (名) さげり。お。主眼。肝要。—**じゅゆう** (主要) (名) お。かなめ。主眼。肝要。—**じゅゆう** (主要帳簿) (名) (簿記) 記の全範圍を包含する帳簿。原簿記入簿即ち仕簿帳と勘定帳簿即ち元帳とがある。取引に發生の都度日附順に仕簿帳に仕簿記され、仕簿帳は經營の歴史の記録。元帳は總の財産及び資本の増減に關する總括的記録である。

**じゅゆう** (腫瘍) (名) (醫) 體部に發生し、他からの制射を受けることなく、自ら組織に從つて發育する過剰の增殖物多くは、膿器或は組織中にはれもの、「こぶ」として限局性の結節をつくる。癌腫、肉腫の類。

**じゅゆう** (主用) (名) ①主人の用事。②主要な用事。

**じゅゆう** (需要) (名) ①もとむ。いりよう。②(商品購買) 購買力を條件とする市場にあらはれる商賈の希望又は實力を伴はざる。供給と共に商品の價格を決定し、生産と消費との關係を調節する。(供給の聯合) —**企業經營に必要とする諸財貨機械原料補助材料等** —並びに勞働力の共同購入をいふ。—**供給の法則句** (經濟) 需要と供給とは原則として自然に調節せられるといふこと。

**じゅゆう** (露天) (名) ながい。きと。わかじにと。—**じゅゆう** (樹葉) (名) 樹木の葉。—**てんしき** (樹葉點式) (名) 樹葉又は葉を描く方式。介字點松葉點・梅花點等二十幾種の點法。

**じゅゆう** (需用) (名) いろいろ。用入。—**じゅゆう** (省陽山) (名) 地 支那山西省の西南部に 蒲州の南にある山。古く詩經の虜風及び論語に伯夷・叔齊が餓死して記した山といふ。

**じゅゆう** (主殿司) (名) 大寶令制度の役所。兵部省の祓官。廣大を調整して遊獵の用に供することゝ掌る所。たかのき。

**じゅゆう** (阿修羅) (名) 佛あしら。阿修羅。①しるら。—**おちぎ** (佛) (名) 阿修羅羅王が、手で目輪を翳つたといふ故事に基づくこと。波に日輪と月とを描いた黒髯の軍馬。—**い** (修羅界) (名) 佛あしら。阿修羅界。—**く** (修羅車) (名) 佛あしら。阿修羅車。—**く** (修羅車) (名) 佛あしら。阿修羅車。—**く** (修羅車) (名) 佛あしら。阿修羅車。

**じゅゆう** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。

**じゅゆう** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。

**じゅゆう** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。

**じゅゆう** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。

**じゅゆう** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。

**じゅゆう** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。

**じゅゆう** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。

**じゅゆう** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。

**じゅゆう** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。—**く** (修羅の安藝) (名) 佛あしら。阿修羅の安藝。

**じゅゆう** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。—**く** (修羅場) (名) 佛あしら。阿修羅場。

**じゅゆう** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。—**く** (修羅の巷) (名) 佛あしら。阿修羅の巷。



〔種木 鮭〕



〔種木 木〕

又は謙遜で、悲壯な戦國などを演ずる場面。あれは。――もの修羅物(名)能樂で、修羅軍を仕組んだ作。一本燃す(句)(阿修羅が、菩提心滅の念強く執着し深きよりいふ)はげしくれた。はげしく執着する。

しゅらい(修禮)(名)儀式の下稽古。  
しゅらい(集禮)(名)難用。勘定。入費。支拂ふべき代金。元祿時代の語。しせん(集禮錢)(名)支拂の代金。

しゅらい(周禮)(名)文三禮の一。支那周代の官制を記した書。古くは、周官といひ、唐以後とも稱す。周公旦の作と傳へるが、後人増したものでらし。秦の焚書の後漢の武帝の時、李氏が河間臨王に上つたが、冬官一篇を缺き、習考工記を以て之を補つて六篇とした。しらい。で。光采。

しゅらい(入来)(名)來り訪ふこと。敬語。おひ。ニライエルト(名)Friedrich Ernst Daniel Schlegel(名)19世紀初頭のドイツの宗教哲學者。ルテナル教會とフエード教會の合同を圖り、神の存在を個人の裡に求め、神への絶対歸依の感情を宗教の本質とした。その著に「獨語録」「神學研究」「基督教信仰」「フター」獨語録等がある。(一七五三)

しゅらい(一紀)(名)【J. G. Burckhardt】(名)1802-1897 中世代の中部に屬する地質時代。この時代のジュラ山脈の露出はフランスとスイスの國境のジュラ山脈の露出に就いて研究されたから此の名がある。その地質は石灰岩泥灰岩砂岩岩等で、植物では松柏科、蘇鐵科羊齒類木賊類が蕃殖し、動物では海綿類珊瑚類海綿類二枚貝帆立貝爬蟲類頭類魚類鳥類有袋哺乳類等が生殖した。

しゅらい(入浴)(名)貴人の入浴。京都入。  
しゅらい(名)しゅらく。  
しゅらく(聚樂第)(名)豊臣秀吉が、京都の東に大宮、西に深瀬寺、北に一條、南に長者町との地を限つて營んだ邸宅。天正十四年二月、著手して、同十五年九月落成。秀吉大阪より移り住む。同十

六年四月、後陽成天皇の行幸を仰ぐ。同十九年、秀吉關白職を秀次に譲る。上は秀次に與へたが、秀次が文祿四年に高山野に放れるに及んで亭を毀す。  
しゅらく(やき)聚樂燒(名)こりやき樂燒。  
しゅらく(けい)一系(名)【J. G. Burckhardt】(名)ジュラ紀に生じた地層。ヨーロッパのアルプスジュラ地方中欧地方、北歐地方。我が國では宮城縣の志津川河沿岸地方で、その下部は石川層の手取川沿岸の南方相と同種である。以上、高知縣佐川町は鳥巢石灰岩層で、暗灰色の石灰岩が往在層状を呈する。  
しゅらく(みやく)一山脈(名)【J. G. Burckhardt】(名)ジュラ紀に生じた地層。ヨーロッパのアルプスジュラ地方に連立する。延長約二六〇軒、幅約六軒、平均高度一〇〇〇米乃至一三〇〇米。ジュラ系の顯著なため地質時代のジュラの名稱の起原となつた。

ジュラルミン(Duralumin)(名)【化】アルミニウムに銅ニッケル、マグネシウムを混じた輕い合金。飛行機飛行船の製作材料に供せられる。  
しゅらん(朱蘭)(名)【植】朱蘭のらん。

しゅらん(酒亂)(名)酒に酔つて飛狂ふこと。  
しゅらん(修理)名。手に酒に酔つて狂ふこと。手致。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。  
しゅり(修理)名。手につくこと。なほし。

宗教の起原論の一。神秘的呪力を入り物に認めることから宗教観念が起るとする説。

しゅりん(朱輪)(名)朱塗の輪又は朱塗の車輪。

しゅりん(殊倫)(名)なまはづればすべからずと云ふを異にする。

じゅりん(儒林)(名)儒者の仲間。

しゅるい(酒類)(名)酒の種類。我が國酒造税法では清酒・濁酒・白酒・味醂・焼酎・酒精なす。

しゅるい(殊類)(名)特殊な種類。異類。

しゅるい(種類)(名)たぐひ。しな。種属。

さいけん(種類)権(名)法。種類のみを指示した目的の権。例へば、武蔵米五石の如く指示して、如何なる米かを指示せざるもの如く。不特定物権ともいふ。

しゅれい(守令)(名)郡守と縣令と。露縣の長官。

しゅれい(酒禮)(名)酒宴の禮式。

しゅれい(酒醴)(名)酒とあまざけと。

じゅれい(樹齡)(名)樹木の年齢。

じゅれい(壽齡)(名)ながいいのち。長命。

しゅれん(手練)(名)練習したき。馴れば巧い。

しゅれん(條練)(名)しゅれん。

しゅれん(酒宿)(名)酒場のしるしの旗。さかばしゅれん(珠簾)(名)珠玉で飾つたすだれ。たますだれ。

しゅろ(柵欄)(名)柵欄科の常緑小喬木。幹は高さ六米餘に達し、圓柱状にして直立し、葉には長い中間性の葉柄があり、その基部に大きい葉があり、縦維に富み俗にしゅろの毛といふ。葉身は略、圓形を呈し、直徑六〇—九〇程。掌状に深裂し、平行脈があり、裂片は雄雌異株、五六月頃、幹頭葉腋から多数に分岐した肉穂花序を生じ、黄色の小花を無數に綴る。花後、小球状の核果を結ぶ。材は書香亭の柱として、磨けば美麗な光澤を發するから、珍木、鉢盆又は樽木とする。毛氈は漆喰皮といひ、繩に製する。又、靴拭刷毛・箒とし、葉は晒して食用に供する。

がき(柞樹)(名)樺科の葉の開いた形、種類が異なる。元祿の頃流行した。一げた柞樹の葉で編んだ笠。元祿の頃流行した。

しゅろ(朱樓)(名)朱塗の樓。

しゅろ(朱樓)(名)料理屋。料理屋。

しゅろ(鐘樓)(名)鐘を吊つておいてつき鳴らす樓。かづきだう。しゅろ。

しゅろ(入牢)(名)牢屋に入れられること。又しゅろ(入牢)(名)牢屋に入れられること。又しゅろ(入牢)(名)七福人の一。長者を授けるといふ神。長者の老人の杖を携へ、兩肩を持ち、鹿を伴ふもの。描きの爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。



柞樹

みづから。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。しゅろ(成樓)(名)警衛の爲に假した樓。

しゅん(俊)(名)すぐれたこと。すぐれた人。

しゅん(俊)(名)すぐれたこと。すぐれた人。

しゅん(俊)(名)すぐれたこと。すぐれた人。

しゅんい(春意) 春まきのどかな感じ。  
しゅんい(鶉衣) (うづら)の尾の毛のぬけたやうな衣の意つきはきの衣。やぶれ衣。うづらころも。

しゅんい(準依) (名) 標準として依り従ふこと。  
しゅんい(馴育) (名) ならしめ育てること。  
しゅんい(俊逸) (名) 才能のすぐれたこと。又その人。

しゅんい(駿逸) (名) 極めて足の早い馬。  
しゅんい(純一) (名) まじりけのないこと。  
しゅんい(純二) (名) いっはりけのないこと。  
しゅんい(純三) (名) 純粋な意。

しゅんい(春雨) (名) 春降る雨。はるまめ。  
しゅんい(峻宇) (名) 高い軒。軒の高い家。  
しゅんい(春雲) (名) 春の雲。茶の異稱。  
しゅんい(俊英) (名) すべりひいでたこと。又その人。英俊。

しゅんい(純益) (名) 純粋な利益。  
しゅんい(純益金) (名) 純粋な利益の金。  
しゅんい(純益率) (名) 事業年度末に於ける純利益と資本額との比率。

しゅんい(潤益) (名) ふやし増すこと。  
しゅんい(巡使) (名) 中野民團の官名。  
しゅんい(巡使) (名) 中野民團の官名。地方鎮撫の軍人たる大官に附し、武人の棟梁たることとなりはすもの。振動・振作・警衛等に之に任命しゅんい(旬宴) (名) しゅんい(旬)。  
しゅんい(順延) (名) 順りけに期日を延ばすこと。  
しゅんい(順縁) (名) 老いたものから順次に死ぬこと。  
しゅんい(佛遊) (名) 佛縁を結ぶこと。  
しゅんい(春鶯) (名) 春鶯の鶯。しゅんい(春鶯) (名) 春鶯の鶯。しゅんい(春鶯) (名) 春鶯の鶯。

唐樂で、唐の太宗の作といふ。六人立。又は四人立で舞ふもの。  
しゅんい(順送) (名) 順を通つて次へ。  
しゅんい(春) (名) 春の意。  
しゅんい(春) (名) 春の意。  
しゅんい(春) (名) 春の意。



〔轉鶯春〕

しゅんい(春花) (名) 春の花。しゅんい(春花) (名) 春の花と秋の月と。しゅんい(春花) (名) 春の花と秋の月と。しゅんい(春花) (名) 春の花と秋の月と。

しゅんい(醇化) (名) 質を異にした状態に。しゅんい(醇化) (名) 質を異にした状態に。しゅんい(醇化) (名) 質を異にした状態に。

しゅんい(順化) (名) 質を異にした状態に。しゅんい(順化) (名) 質を異にした状態に。しゅんい(順化) (名) 質を異にした状態に。

しゅんい(後改) (名) 過去の罪過を改めて善行しゅんい(後改) (名) 過去の罪過を改めて善行しゅんい(後改) (名) 過去の罪過を改めて善行。

しゅんい(巡回) (名) 巡回する。しゅんい(巡回) (名) 巡回する。しゅんい(巡回) (名) 巡回する。

しゅんい(巡回) (名) 巡回する。しゅんい(巡回) (名) 巡回する。しゅんい(巡回) (名) 巡回する。

しゅんい(巡回汽船) (名) 巡回汽車と同組織の汽船。しゅんい(巡回汽船) (名) 巡回汽車と同組織の汽船。しゅんい(巡回汽船) (名) 巡回汽車と同組織の汽船。

しゅんい(巡回裁判所) (名) 巡回裁判所。しゅんい(巡回裁判所) (名) 巡回裁判所。しゅんい(巡回裁判所) (名) 巡回裁判所。

しゅんい(巡回市場) (名) 巡回市場。しゅんい(巡回市場) (名) 巡回市場。しゅんい(巡回市場) (名) 巡回市場。

しゅんい(巡回信用状) (名) 巡回信用状。しゅんい(巡回信用状) (名) 巡回信用状。しゅんい(巡回信用状) (名) 巡回信用状。

しゅんい(巡回図書館) (名) 巡回図書館。しゅんい(巡回図書館) (名) 巡回図書館。しゅんい(巡回図書館) (名) 巡回図書館。

しゅんい(巡回病院) (名) 巡回病院。しゅんい(巡回病院) (名) 巡回病院。しゅんい(巡回病院) (名) 巡回病院。

しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。

しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。しゅんい(巡回文庫) (名) 巡回文庫。

しゅんい(春寒) (名) 春のさむさむさ。しゅんい(春寒) (名) 春のさむさむさ。しゅんい(春寒) (名) 春のさむさむさ。

しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。

しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。しゅんい(瞬間) (名) 瞬間。

しゅんい(芽菜) (名) 芽菜。しゅんい(芽菜) (名) 芽菜。しゅんい(芽菜) (名) 芽菜。

しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。



〔茶碗〕

しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。

しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。

しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。しゅんい(春官) (名) 春官。

環期(名) (Cycle) 自然的現象又は人為的現象の循環する期間。一き(循環器)(名) [生] 攝取分解した養食物 酸素等各種の各部に分配し且老廢物を體内各よりあつて排泄する爲に運轉する器官系。人類にあつては血管系淋巴系等をいふ。一きゆうすう(循環級數)(名) [數] 無限級數の一級數の項の數の無限なるもの。一けい(循環系)(名) (Circulation) [生] 全身に血液を循環せしめて養食物を絶えず輸送し、老廢物を輸出する爲の管系。血管系淋巴系等之に屬する。一しようすう(循環小數)(名) [數] (Recurring decimal) 無限小數の一。若干の同じ數字が無限にあらはれるもの。0.333...の類。一りりり(循環環流)(名) [地] 地方を轉じて、もと来た方へ再び環流する。環流。一ろん(循環論)(名) [論] (Vicious circle) 循環されなければならぬ命題を論證の根據とする論。循環論法。一だ(無きが如し)(名) 物事は常に循環して、その端端を尋ねることができないやうである。

じゅんかんり(准官吏)(名) 官吏でなくして官吏の待遇を受ける。の。巡査・看守等。

じゅんき(春氣)(名) 春けしき。春の氣分。

しゅんき(春期)(名) 春の時期。[のしむ]と。

しゅんき(春嬉)(名) 春の陽氣にうかれて遊びた。

しゅんき(春季)(名) 春の季節。はるき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

しゅんき(春遊)(名) 春の遊戯。はるまき。

則。準據すべき規則。

じゅんき(順義)(名) 道義にしたがふこと。

じゅんき(準擬)(名) なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。

じゅんき(春菊)(名) 春菊。なぞらへられること。



〔くきん〕

子)。

じゅんき(殉教)(名) [宗] 如何なる宗教に生命を犠牲にすること。一しや(殉教者)(名) 殉教の行爲を果した人。

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

じゅんき(巡業)(名) 興行して方々を

大業を追うること。順香。

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)

じゅんき(准訓導)(名) [數] (じゅんき) [數] (じゅんき)



の巡査に相當する。  
**じゅんけいけい**〔荷卿〕(名) じゅんし(荀子)。 **じゅんけいけい**〔純計〕(名) 純計豫算(名) 經國家財政の綜合した豫算で、甲會計の歲出が乙會計の歲入となるが如き重複部分を差引いて作った豫算。  
**じゅんけいりゅう**〔順慶流〕(名) 簡井順慶の所行によつて、一心を抱くこと。  
**じゅんけいりゅう**〔鶏類類〕(名) 動物鳥類の一。雄、口を雄雉脚で踏んで地上を歩むに適し、翼、口を雄雉脚で踏んで、嘴強、方形骨は兩頭を有し、良く發達した喉嚨を有し、地を掘撥して食物を求め。  
**じゅんけつ**〔俊傑〕(名) 傑出した人。  
**しゅんけつ**〔春月〕(名) 春の季節。春の夜の月。〇柳(句) 世説に出づ春の季節の柳。人品のみやばた風姿に譬へたる。  
**じゅんけつ**〔純潔〕(名) けがれなくいさましいこと。〇罪念や慾念なく、心の極めて潔白なこと。  
**じゅんけつ**〔純血〕(名) 動物の同種のもの雌雄間に生まれたもの。混血の對。〇純粹の血統。  
**じゅんげつ**〔閏月〕(名) うるうつき(閏月)。  
**じゅんげつ**〔旬月〕(名) 十日と一月と。〇十箇月。〇わづかの日數。  
**じゅんげつ**〔準決勝〕(名) 競技で、決勝じゅんけつぞく(準血族)(名) 法皇の血族ではないが、法規の規定により、血統上よきまの養子と養親及び其の血統繼承者と親子との類。  
**しゅんけん**〔春眩〕(名) 春の日の眩がこと。  
**しゅんけん**〔峻險峻峻〕(名) 山などのたかくけはしんけん。  
**しゅんけん**〔俊彦〕(名) 器量のすぐれた人士。俊しゅんけん〔峻殿〕(名) きはめてきびしいこと。  
**じゅんけん**〔巡檢〕(名) 巡回してとりしらべること。巡察。  
**しゅんけん**〔巡檢使〕(名) 鎌倉幕府の職名。幕府から派遣せられ、諸國めぐって兵の苦樂を察し、年の豐凶を檢査すること。  
**じゅんけん**〔巡見〕(名) みまはること。見分。

**し**〔巡見使〕(名) 江戸幕府の職名。諸國に派遣せられて、地方政治の良否、民衆の休戚等を糾察することをも掌した。寛永以後には、將軍の代替毎に派遣するを常例とした。  
**じゅんけん**〔順現業〕(名) 佛(じゅんけん)の世に於いてあらはるるもの類。  
**じゅんけんこうはん**〔準現行犯〕(名) 例へば兇器、贓物等を所持し、雖何せられて逃走し犯人として追呼せられ、又は身被服に顯著な犯罪の痕跡があつて犯人と思料せられるもの類。  
**じゅんけんほう**〔順現報〕(名) 佛(じゅんけん)の應報。  
**じゅんこ**〔醇乎純予〕(名) 副(まじりけのない)純粋で非難する所のないさま。  
**しゅんこう**〔春江〕(名) 春の川。  
**しゅんこう**〔春光〕(名) 春の郊外春ののべ。  
**しゅんこう**〔峻功峻工〕(名) 仕事のできあがつたこと。工事の落成したこと。  
**じゅんこう**〔俊豪〕(名) 器量の常人にすぐれたこと。又その人。  
**じゅんこう**〔純孝〕(名) 孝心の篤いこと。極こと。一かいちちゆう(巡行開帳)(名) 佛(じゅんこう)を巡行し、神佛を開帳すること。  
**じゅんこう**〔巡航〕(名) 諸方を巡回して航海すること。  
**じゅんこう**〔順孝〕(名) 子がよく親に事へること。孫がよく祖父を事へること。  
**じゅんこう**〔順序〕(名) 順序を追って行くこと。したがひ行ふこと。普通行動。〇天(Direct motion) 遊星が天球を西から東に廻る運動。  
**じゅんこう**〔循行〕(名) 順路に従つてま

はること。〇命令に従つて行ふこと。  
**じゅんこう**〔準行〕(名) 或物事を標準として、これに従つて行ふこと。  
**じゅんこう**〔進行〕(名) したがひ行ふこと。〇武政時代に、上命を受けて、守護から下した命令。一じちゆう(進行)も(じゅんこう)じちゆう(進行)も(じゅんこう)ののち。  
**じゅんこう**〔順合〕(名) 人情の厚いこと。〇まじゅんこう(順合)と地球との間に來る時の合。junction)太陽が惑星と地球との間に來る時の合。中からひつたものだからいふ(おこすきん)(御高頭頭巾)。  
**しゅんこうぜん**〔春典殿〕(名) 平安大内裏の一殿。紫宸殿の東南、宣稱殿の南、節日華門内にあつた所。〇大正天皇の御代。武具を置く所。〇里内裏(まにのほ)日華門の北で、内侍所即ち神鏡を安置した所。即ち大正天皇の即位に當つて、紫宸殿を相放ち、遷殿せられた御殿。即位禮の時、東京宮城の内裏所奉安の神鏡を一時禮座に當つて、賢所大前の儀はこで行はれた。  
**じゅんこうとう**〔準強盜〕(名) 法財物を竊取した後發見され、その財物の返還を請求されてこれを拒み、又逮捕を免れ、若しくは罪跡を湮滅せしめ、暴行強盜をなし、又、藥物を用ひて人を昏迷せしめる等、暴行強盜を以て財産上不法の利益を得るもの。  
**しゅんこく**〔峻酷峻刻〕(名) きびしくて情量のなからいこと。  
**しゅんこく**〔純黒〕(名) まっくろ。眞の黒色なること。〇すい。  
**じゅんこく**〔殉國〕(名) 國難の爲に生命を犠牲にすること。  
**じゅんこく**〔淮國〕(名) 江戸時代の國持衆に及ぶ諸侯。宇和島伊達氏又は立花氏の類。  
**じゅんごう**〔順後業〕(名) 現世に作つた善報が、三世以後にあらはれること。

**じゅんごほう**〔順後報〕(名) 佛(順後業)の應報。  
**じゅんさ**〔巡查〕(名) 法警察機構活動の機關。警部補の下に屬する判任官待遇の警察官。上官の指揮監督を受けて警察事務に従事する。一きやうしゅら(き)によつて、巡查教習所(名) 巡查中に採用したるものに四箇月以上必要な學科及び實務を教習せしめる所。特別事由ある時は、三箇月まで短縮し得る。一ちゆうさいし(し) 巡查駐在所(名) 法警察署、警察分署の設置のない地に、受持巡查を受ける區域内に駐在せしめる受持區域を巡回し、又事務を取扱はしめる宿所。一はしゅつじよ(し) 巡查派出所(名) 法警察署、警察分署に適當な場所を定め、外勤巡查に交代で警察事務を取扱はしめる所。俗に交番所といふ。一ぶちやう(し) 巡查部長(名) 法巡查の首班で、都下の巡查の勤務を監督し、警部警部補の職務を補助するもの。  
**ぶちやう**〔部長〕(名) 法警察署、警察分署のない地に置く受持部長を駐在せしめる派出所。  
**しゅんさい**〔蓴菜〕(名) すくねたさず。又、その多年生草本。池沼に自生す。地下茎は泥中に横走し、それより細長い莖を出す。莖圓狀形で全長、長さ八一二匁。長い葉柄を有し、葉片は水面に浮かんでゐるが、新葉は水中に沈むと葉の背面には粘液質の物質を分泌し、新葉は球に粘液質が多い。夏、葉腋に長花梗を出し、上端に紫紅色の花を單生し、後長圓形の果實を結ぶ。嫩芽嫩葉は食用として珍重せらる。一も(し) 蓴菜者(名) 他人の機嫌を見はからつて言葉巧みに調子を合せはる人。  
**じゅんさい**〔順罪業〕(名) 佛(罪業)の應報が、順次にめぐり來ること。

しゅん — しゅん

しゆんざく(旬朔)(名) 十日と朔と。十日間。しゆんざつ(巡察)(名) 巡回して事情を巡察する。巡察使(名) 王朝時代の役所。諸國を巡察して國政の治績を考へ、人民の疾苦を問ひ、その成績を覆上奏することに掌つたもの。

しゆんざん(春盤)(名) はるご。しゆんざん(春山)(名) はるぎ。しゆんざん(峽山)(名) 峽の出。しゆんざん(峻山)(名) けはしい山。しゆんざん(准三宮)(名) じゅんざんぐう。

しゆんざん(俊士)(名) 才智のすぐれた人士。しゆんざん(俊守)(名) 守智のすぐれた人士。しゆんざん(周代)(名) 司徒が運士の中から選んで上級の學校に入學させたもの。

しゆん(春思)(名) しゆん(春心)。しゆん(秦思)(名) 副。無智で、よく足らぬもの。のむくむくと動くさま。しゆん(瞬時)(名) またたくま。瞬間。しゆん(春時)(名) 春の時節。春。たねまきの時節。「因下などが自殺すること。おひばら

しゆん(殉死)(名) 主君の死んだあとを追って。しゆん(巡視)(名) 巡回して視察すること。しゆん(荀子)(名) 春秋支那國時代の儒者。趙の人。名は況。荀卿又は孫卿と稱せられる。齊に遊學し、讓に惹き、春申君に依り、蘭陵の令となつた。去つて趙に赴き、春申君に前職を奉じ、春申君の没後、任地に隠れて歿。性酷政を嗜ふ。孟子より五六十一年後に生まれ、秦の始皇の天下統一の年を距ること二十三年を出でずして歿したといふ。荀况が子夏の流を汲んで聖人の道を選へた書。性酷論を唱へ、禮を以てその人性を矯正すべきものとす。二〇卷三篇。

しゆん(順次)(名) 次第に順つてなすこと。しゆん(順人)(名) 佛。次の生。次生

しゆん(順大業)(名) 佛。現世又は前世の善悪作業の應報が次の世にあらはれること。しゆん(准士官)(名) 軍。陸海軍武官官任上等の名稱。小尉下位。陸軍で、各兵科特務官長、砲工兵上等看護長等、海軍で各科しゆん(春日)(名) はるごのみ。「兵曹長等。しゆん(旬日)(名) 十日。「獄守禁。しゆん(春社)(名) 春季の社日。春季のしゆん(巡爵)(名) 貴六位の職人が、在任六年の後、輪次に五位に敘せられたもの。しゆん(巡符)(名) 佛。信僧が錫杖を携

しゆん(春首)(名) はるごの首。しゆん(春酒)(名) 春に醸造した酒。しゆん(順守)(名) 道理に従つて守ること。しゆん(遵守)(名) しながひまもること。しゆん(酔酒)(名) 濃厚な酒。まぜものなし。しゆん(巡狩)(名) 支那の上古、天子が諸侯の國園を巡視されたこと。

しゆん(春秋)(名) 春と秋と。年月。しゆん(春秋時代) あん(春秋施)(名) 天明の頃の佛人加舎白蓮などの家號又はの俳風。しゆん(春秋孔子の門人子夏の弟)

子の者。その學説は孔子が春秋を作つた所見は、孔子が素王の位を以て自己の思想によつて天下を支配し、賞罰褒貶を行はばんが爲の手段であつたとする。しゆん(春秋) 史記の春秋の註釋書。子夏の門人魯人の梁燾の著。春秋經文の紀事と問答體を用ひてその義理を説明したもの。一巻。しゆん(春秋座)(名) 市川龍之助を中心として結成した新劇團。新劇新舞踊に元氣發した運動を發揮したもの。大正九年、新富座で第回公演を行った。一巻。しゆん(春史左氏傳)(名) 春秋の註釋書。魯の大史左丘明の著といふ。春秋三傳中最も史實の説明に優れ且文章に秀づ。三〇卷。しゆん(春秋三傳)(名) 春秋の三種の解釋書。即ち左氏傳、公羊傳の併稱。しゆん(春秋時代)(名) 西曆前七百一十四年(或は前四百三三年)に至る約三百年間をいふ。孔子の筆削したといふ魯國の歴史。春秋に記載せられるによる。「春秋」の記事は、その前後を含めていふ。前七百七十年は、周の王室衰微の年。前四百五十三年は魯の大夫韓魏、趙の王氏が主家の地を奪つて三分した。前四百三十二年は、氏が周室より諸侯として認められた年。この時代は周室衰微、衰つて其の威力を失ひ、諸侯は互に併呑を事として戰爭絶えず、弱肉強食の状態を呈した秋の世。しゆん(春秋) 一列國(名) 一高し(名) 年若くは先が長い。一に富む(名) 古事記中巻の秋山之下水牝夫(名) 一に富む(名) 古事記中巻の秋山(名) 萬葉集卷一の「天皇天智千葉之形時額田原臣鎌足」兼藤原山之花。秋山

の題名。一鼎(名) 盛なり。一に漢書貢疏の匈奴年である。わかざかる。一んえき(名) 純收益(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ

しゆん(純收益)(名) やはらぎむつ



しゅんだん(春暖)(名)春の暖い時侯。

しゅんち(順致)(名)なれさせること。なじませること。漸を遂げて或状態に至らしめること。

しゅんちゆう(醇酎)(名)こい酒。純酒。

しゅんちゆう(純忠)(名)私慾なき純粹の忠。

しゅんちゆう(春潮)(名)春のうしほ。

しゅんちゆう(順調)(名)物事のすらすらと調子よく行くこと。

しゅんちゆう(順潮)(名)うしほに従ふこと。

しゅんちゆう(春鳥集)(名)文藻原初の衆賢詩集。明治三十八年刊。

しゅんちゆう(准抵観音)(名)佛大觀音(名)形像は黄白で、腰に白衣を着け、衣上に花文あり、三十八臂、この観音を念ずるものは、息災延命・求兒除病の願ひがかなふこと。

しゅんてい(准抵法)(名)佛准抵観音を本尊として、除災延命・求兒等のために祈願する修法。

しゅんてい(春庭樂)(名)音雅樂の一。四人で舞ひ、舞人は常衣々に佩く冠を用ひ刀を佩く。

しゅんてき(順適)(名)したがひかなふこと。きにいるやうにすること。ほどよいこと。

しゅんてき(準的)(名)まとも。標準。

しゅんてつ(純鐵)(名)まじりのない鐵。

しゅんてん(舜天)(名)人球王。源為朝の子といふ。十五歳で浦添按司となり、文治三年琉球王となる。その孫兼本王に至って位を攝政美艷に謀る。

しゅんてん(順天)(名)天道に上がつてそむかぬこと。

しゅんてん(順轉)(名)低氣壓通過の前後の状態で、風が順の向(北半球では右廻り、南半球では



くらくらてん

左廻り)に推移して行くこと。

しゅんどう(蠢動)(名)蟲などのうごめくこと。

しゅんどう(俊童)(名)才智のすぐれた子供。

しゅんどう(箆刀)(名)たがながたし。

しゅんどう(順當)(名)順序に従って適當なこと。道理の當然のこと。さうであること。

しゅんどう(順直)(名)經過の順直な袍。

しゅんどう(圓統)(名)正統でない系統。

しゅんどう(殉道)(名)正義又は宗教の爲に、いのちをなげ出して盡すこと。

しゅんどう(順道)(名)順當な道路。順路。順當な道理。

しゅんどう(鈍鈍)(名)まじりものな鈍。

しゅんどう(俊徳)(名)すぐれて高い徳。大徳。

しゅんどう(順徳)(名)順當の道理に従ふ徳。道義にさらはぬ徳。

しゅんどう(潤得)(名)まうけ。利潤。利得。

しゅんどう(順徳天皇)(名)順徳天皇(名)第八十四代の天皇。御名は守成。後鳥羽天皇の皇子。承久の亂の後、佐渡に遷幸遊ばされ、仁治三年の國に崩御。寶算四十六。和歌に秀で給ひ、「八世御抄」

「樂抄の御歌がある。御在位十一年(八三三)長年中に造營せられた離宮。四條の北、大宮の東にあつて西院といふ。貞觀十六年火災で焼失し、元慶二年、同名の寺となり、同五年別當を置き、源氏の公卿の上首を之に任せられた。

しゅんしやう(淳和奨學兩院別當)(名)「歷淳和院」と、在原行平が建てた私學院で、後大學寮の南曹となつた奨學院との別當。もと源氏の公卿で上首のものか官を蒙つて之に補せられたが、保延六年(八八〇)村上天皇の中院に遷せられた。院官によつて、右大臣で兩院別當を兼ね、その子孫久我氏の世襲となつた。室町時代に及び、三代將軍足利義滿が、永徳三年、自ら源氏の長者となつて兩院の

別當を奪つてから、足利氏幕府の將軍は此の稱を襲ひ、江戶時代に至つて、徳川將軍は此の稱を襲ひ、爾後累代の將軍は同別當を兼ねることを例とした。

しゅんてんのう(淳和天皇)(名)第五十三代の天皇。御名は大伴。西院帝とも申す。桓武天皇の皇子。御在位十年、承和七年崩御。寶算五十五。(二四三)

しゅんなん(殉難)(名)國難の爲に、身を犠牲にすること。

しゅんに(順に)(副)順序をおうて。次第に。順じゅんに(准如)(名)人眞宗西本願寺の祖。諱は長時。本願寺主顯彰の第四子。文應元年、顯彰は、光寺教如、豊臣秀吉に翻つて、文應二年傳燈を廢がしめたと傳へられた。慶長七年、徳川家康が相対立するに至つた。寛永七年(二九九)歿。年五十四。

しゅんにん(淳仁天皇)(名)淳仁天皇(名)第四十七代の天皇。御名は大友。舍人親王の御子。御在位六年で、御廢位淡路に遷幸し給ひ、天平神護元年に崩御。寶算三十三。(二四三)

しゅんねん(旬年)(名)十箇年。

しゅんねん(順年)(名)さほりなく順序にたがはずに應ずること。境適に順つて之に適應すること。(生)(生)(生)動物の生活が、外界の狀態に適應して變化すること。

しゅんのうてん(春鶯囀)(名)音し。

しゅんのおと(順の流石節)(名)宴會の席上などで、巡廻りに聲藝の流石節を歌ふこと。

しゅんのし(句試)(名)王朝時代、大學・國學の學生に行つた試験。十日毎の休暇の前日に行つたからいふ。讀方と講義に就いて行ふ。

しゅんのまり(句納)(名)鎌倉時代に、公家・武家などの歸朝の場納めに、月の上旬中旬・下旬に一回づつ其の技を演ぜさせたこと。

しゅんば(駿馬)(名)すぐれてよく走る馬。

しゅんばい(巡拜)(名)社寺を巡回して禮拜すること。すまづき。

しゅんばい(順否)(名)室席などで、順順にまはすこと。まはらぬこと。

しゅんばく(純白)(名)まじりけのない白色。しゅんばく(句外)(名)季節にまはらぬこと。時候にまはらぬこと。季節はつた。

しゅんばつ(峻抜)(名)山などのけはしき峻立。

しゅんばつ(春帆)(名)春のどけな海に浮かんだ船の帆。

しゅんばん(峻坂)(名)けはしき。

しゅんばん(順否)(名)順を追うてかかはるその事に當ること。又その順序。「かぬ不法行為」

しゅんばん(准犯罪)(名)注「任意に基づしゅんばん(春帆樓)(名)下關市外濱町山手山腹にある料亭。明治三十八年四月、時の首相伊藤博文が、日清議和談判全權として、清國全權李鴻章と會見した所。

しゅんび(純美)(名)まじりけなく美しいこと。

しゅんび(準備)(名)用意。支度。しゅんび(目的)そふやうにして準備。しゅんび(準備金)(名)「企業者が將來の必要に備へる爲にする利益金」の一部の留保金。株式会社・株式合資会社及び相互會社等に對しては、法律で規定を強制する。將來の損失には、純益部分の留保金即ち準備金と將來の損失の引當金との二種ありが、狭義には後者を準備金といふ。しゅんび(責任準備金)しゅんび(正貨準備金)しゅんび(法合議裁列)に於ける訴訟の口頭辯論の準備として要する書面即ち訴狀答辯書・證據書の類で、當事者は口頭辯論期日前に當該裁判所に提出すべきもの。しゅんび(準備手續)しゅんび(準備の爲になすべき手續)しゅんび(民事訴訟の口頭辯論開始前に於いて、受命判事が準備書面を整理する手續で、口頭辯論には準備書面記







の場所。●朝服で、昔、支那の書院に倣って設けた儒生の集合場。●書齋。●寺院の學問所。●書院造の座敷。襖式用又は書客の對面等に用いた。その位置によって表書院、奥書院、構造によって黒書院、白書院等の名がある。●つげしん(附書院)。

しよらうじ(書院紙)名 分のくみ美濃紙。一すくりにて書院造(名)越日本建築の一種。出入口として支園を設け、表座敷の一方に床及び欄を設け床の側に附書院を附く。室の外に側を設け、入側の外に満縁の界には明障子、雨戸を設け、室と室との境には襖障子を建て、障子の上には欄間を備へ柱を具柱で、室内には坐敷を敷き詰め、屏風衝立を蔽障の具として、寺院、武家の住宅に用ひられる。現今の日本建築の住宅は殆ど此の建築様式による。

しよらう(書院床)名(附書院)附書院。一どこ(書院番)名(つげしん)附書院。一ばん(書院番)名(つげしん)附書院。一ばん(書院番)名(つげしん)附書院。一ばん(書院番)名(つげしん)附書院。

しよらう(至要)名(きまはめて)大切なこと。至しよらう(至要)名(きまはめて)大切なこと。至しよらう(至要)名(きまはめて)大切なこと。

しよらう(子葉)名(種)種(Cyrtidion)幼植物に生ずる最初の葉。ふたは。

しよらう(枝葉)名(た)たとは。または。しよらう(枝葉)名(た)たとは。または。

しよらう(仕様)名(仕方)方法。一もしよらう(仕様)名(仕方)方法。一もしよらう(仕様)名(仕方)方法。

しよらう(同養)名(名)飼のやうに。しよらう(同養)名(名)飼のやうに。しよらう(同養)名(名)飼のやうに。

しよらう(爾養)名(名)飼のやうに。しよらう(爾養)名(名)飼のやうに。しよらう(爾養)名(名)飼のやうに。

しよらう(省)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(省)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。しよらう(支那)名(支那)支那。●宮中、禁中の意。

治十八年の官制改革後、内閣各省の制となり、幾多の變遷を経て、今は外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、園土、通信、鐵道、拓務、十二省となつた。宮内省は内閣の外に獨立する。

しよらう(上)名(じやう)うへ。かみ。しよらう(上)名(じやう)うへ。かみ。

しよらう(生)名(なま)なま。かみ。しよらう(生)名(なま)なま。かみ。

しよらう(代)名(しろ)しろ。かみ。しよらう(代)名(しろ)しろ。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。

しよらう(性)名(せう)せう。かみ。しよらう(性)名(せう)せう。かみ。



【笙】

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(正)名(ただ)ただ。しよらう(正)名(ただ)ただ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(請)名(こ)こ。こ。しよらう(請)名(こ)こ。こ。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。

しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。しよらう(唱)名(古)古詩から出た漢詩の體。



虞のある炭坑では爆發温度の高い爆薬を使用すると危険であるから、爆發温度の低い硝安爆薬を爆発用に使用する。

しょういん (傷痕) 名。きず。一ぐんじん (傷痕軍人) 名。軍職関係の他公務の爲、傷痕を受け、軍人服給により増加給金を受け得るもの及び傷病給金を受ける資格があるもの。昭和六年十一月、徴兵の語の改稱せられたもの。一未だ癒えず (句) きずのまだなほらぬ義から、打撃失敗などのまだ回復しないことにもいふ。

しょういん (静唯) 名。承諾の返辭。ふしよ。しょういん (小異) 名。すこしちがふこと。しょういん (燒夷) 名。すこしはらふこと。一だん (燒夷彈) 名。軍 (Bombardier shell) 人畜や家屋等の點火燒夷に用いる彈丸。彈筒に燒やテルミット (酸化アルミニウム) の混合物等の燒夷劑と少量の炸薬を入れたもの。飛行機より降下され又は火砲に裝填して發射する。又、黒色火薬硝石・マグネシウム・松脂等の混合物を用ひる。

しょういん (小遠) 名。少しのちがひ。しょういん (少尉) 名。軍陸海軍の士官。中尉の次に位し、將校の最下級のもの。一少尉ほせい (少尉候補生) 名。海軍少尉に任ぜられる資格がある者。陸軍では士官候補生といふ。しょういん (椒園) 名。椒菰のこひの意 (こひ) こと。

しょういん (招恵) 名。よびよせてなぐさめる。しょういん (上衣) 名。うわぎ。しょういん (上意) 名。きみのおぼしめし。君の命令。かみのかみ。しょういん (上醫) 名。遺傳の構めてすぐれた醫者の疾病即ち風氣を治め除くもので、個人の病氣をなほすのは其の次であるといふ。

しょういん (浄衣) 名。ぶだんぎ。しょういん (攘夷) 名。外夷を逐ひ攘て國內に入れぬこと。外國人を排斥して交通せぬこと。一ろん (攘夷論) 名。江戸幕末に攘夷士と議論。外國との交際を経て舊來の如く鎖國を唯、尊王論と合流し、開港後論に對して波瀾を生じたもの。しょういん (情意) 名。感情と意志的活動。情と意。こと。一投合 (句) 情意が疎通して互に疎隔のないこと。◎致超然内閣と在野の政黨が妥協して結託すること。◎男女間に關係がなりた

しょういん (讓位) 名。皇位繼承の一形式。前帝が新帝に皇位を譲り給ふこと。つくにゆつ。讓國。しょういん (上位) 名。かみのから。しょういん (院位) 名。おほのちのむき。しょういん (背衣) 名。背中の御寶印に出づ人君が早朝に正服をつけ日暮の御寶印を出づと、即ち人君の暇を惜しんで高機に勤働し給ふこと。

しょういん (淨域) 名。社寺の境内又は靈地。しょういん (縦逸) 名。きまでしまりのないこと。しょういん (省印) 名。昔の省の印章。しょういん (請印) 名。小納言が奏上して規定の文書に太政官の外印を請うたこと。しょういん (將印) 名。將帥の官印。しょういん (正院) 名。明治四年七月、大政官に設けられた天皇臨幸して高機を臨断し給ひ、大臣納言を輔弼し參議が之に參與して庶政を監督した所。十年一月廢せられた。しょういん (省員) 名。官省の官吏職員。職員又は人員を減少すること。しょういん (承引) 名。うけひくこと。承知すること。承許すること。しょういん (證印) 名。證明におした印。しょういん (證印稅) 名。地券發行者の納附した租稅。しょういん (證引) 名。證據として引くこと。しょういん (證允) 名。うけがふこと。ゆるすこと。

しょういん (松韻) 名。まつとたけと。しょういん (小飲) 名。小人数の催すまもり。ちやうとせしなかり。しょういん (招引) 名。人を招いて共に酒を飲むこと。しょういん (招引) 名。まねきよせること。しょういん (上院) 名。法二院制の國會で、貴族や勳功者等を以て組織したもの。我が國の貴族院に相當する機關 (下院の参)

しょういん (常員) 名。平常の人員。むだでありあまたな人数。しょういん (冗員) 名。不用の人員。むだでありあまたな人数。しょういん (剃定) 名。おまつた人員。ある時に手に結ぶ印契。しょういん (佛定) 名。佛定。ある時に手に結ぶ印契。しょういん (佛定) 名。佛定。ある時に手に結ぶ印契。しょういん (佛定) 名。佛定。ある時に手に結ぶ印契。

しょういん (障雨) 名。瘴氣を含んだ雨。「め。しょういん (小雨) 名。すこし降る雨。こま。しょういん (小宇宙) 名。言 (言) 宇宙 (宇宙) 宇宙の部で、宇宙の狀態を意義を顯し、宇宙と密接な有機的關係のあるもの。即ち人類。しょういん (生寫) 名。いきうつし。あさがおのこ。生寫朝顔の世話淨 (文) 文田山山子 (近松松之) 構架朝顔の世話淨 (嘉永三年) (二五〇) 正月の上。秋月の城深雪と動澤次郎左衛門 (前名城阿曾次郎) の情話を脚色したもの。いきうつし。あさがおのこ。商運 (名) 商賣上の運命。

しょういん (昌雲) 名。さかんな運命。しょういん (祥雲) 名。めでたき雲。しょういん (浄雲節) 名。浄雲瑠璃節の一派。隆慶浄雲の詠ひ始めたもので、寛永頃に起こつた。多くの淨瑠璃は之から分派したものである。隆慶節。しょういん (唱衣) 名。佛比丘所持の三衣等一切を同學の僧に分配し、その分配の當を得ぬ場合に之を贖資に附して等分する (二) 俗衣。しょういん (正繪) 名。昔の織物の圖案。一し (正繪師) 名。正繪の圖案家。しょういん (淨衣) 名。白い衣服。しろむく。一清潔の裝束で、白の布又は生絹を白粉強てこはこはしく仕立てた袴衣形の服。神事又は祭事の禮服に著用する。男衣。祭服。一のはかま。淨衣袴 (名) 白布を仕立てた袴。しょういん (淨慧) 名。佛。清淨な智慧。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。

しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。しょういん (淨穢) 名。きよいこととけがれと。





なり、従つて關に入るに及んで泰の律令及び圖書を  
取つて之を藏した。高麗の項羽と伊ふに及び、第一  
關中を守つて糧食を供給し、天下定まつて後功第一  
を以て鄭侯に封ぜられた。惠帝の二年(前一九三)  
歿。張良、韓信ともに高祖三傑の一人。

しょうか(小過) 名 小なあやま。

しょうか(招禍) 名 禍を求めらる。

しょうか(詔華) 名 うつくしい花。

しょうか(銷化) 名 かすこと。とけること。

しょうか(消化) 名 消化(消化) 在來のもの  
がなくなつて新しいものに化すること。②生  
動物が消化器機能によつて攝取した食物の形態  
を變じ、腸管機能から吸収し得るやうにする作用  
を總して、腸管消化として學說となす。③消化  
④讀み又は聽講した學說などを十分に理解融和して  
自分の眞の知識とすること。

しょうか(消火) 名 火を消すこと。燈火を  
消すこと。②火災を消すこと。延焼を防ぐこと。

しょうか(燮和) 名 ①とのへやはらげるこ  
と。②(昔)支那で陰陽の氣をととのへやはらげるこ  
と。③宰相の職事と考へたから、い宰相の稱。

しょうか(生薑生薑) 名 ①薑科の  
多年生草本。地下莖は横走して數節の塊をなす。地  
上莖は直立して高さ約60cm程位、下部は紅色を帯ぶ。  
葉は狭長披針形で尖り、二列をなして莖に著生す。  
普通花を開かないが暖地では、夏秋の候、地下莖から  
花莖を抽き、頂に短厚の花穂をなし、綠色の花苞が  
重なりあつて、その間から數節の花を出す。花冠は  
不正形で黄色、唇瓣は紫色に白色の點を散布する。  
根莖は黄色で峻烈な辛味を有し、食用又は健胃劑、  
驅寒劑となる。②昔香の人をなぞらせていふ稱。  
(しょうが)が。

しょうか(生薑酒) 名 生薑をおろして混  
じ入れた酒。一す(生薑餅) 名 おろし生薑を  
入れた餅。一すけ(生薑漬) 名 生薑の根

を薄く切つて砂糖に漬けた菓子。一ちや(生薑  
茶) 名 煎つた生薑をまぜて煎じた茶。一てみ  
薑手) 名 煎つた、指の削れたもの。一てみ  
之(生薑味噌) 名 生薑をこまかくきざんで味噌  
におろし、火に突つて食ふもの。一ゆ(生薑湯) 名  
おろし生薑に砂糖をまぜ、湯に下し、飲む發汗劑。

しょうか(唱歌) 名 しょうか。②(そう  
が)。「我界に於ける物の個性(大我の對)  
しょうか(小我) 名 ①他と區別した對  
しょうか(城下) 名 城の下の城壁の對  
壁の外。②城下町。③まち(城下町) 名 大  
名の居城を中心として其の近郊に發展した市街。  
の盟(名) ①氏(氏) 氏二十二年の發展した市街に首  
都の城下まで攻め入れてなす降服の約束。  
しょうか(情火) 名 戀情を述べた歌。こひ  
か。②(こ) (都) 都。③(こ) (火) 火に燃えていふ  
しょうか(浄化) 名 熱烈な情熱のおこり立  
悲哀、愛情の情緒を輕減して舞臺に快感と興へ、悲劇  
の効果を著すこと。④(浄) 浄。⑤(浄) 浄。

しょうか(醜家) 名 清又は濁を醜化する家。  
しょうか(婦人) 名 婦人。②(婦) 正し  
は「こ」が。③(婦) 婦。④(婦) 婦。⑤(婦) 婦。  
を病み、奔つて月中に入つたと、ふ故事に基づく月  
の異稱。

しょうか(詳解) 名 ①くはし、解釋。精  
しょうか(商界) 名 商業の社會、商人  
の仲間。

しょうか(性悪) 名 生物の社會をい  
しょうか(佛人) 名 佛人の行為のそ  
れ自體が罪であることの戒。即ち殺生、偷盜、邪淫、  
妄語等の類。飲酒はそれだけで罪でないが、諸  
種の罪惡を犯し、其の度を之を連累する。

しょうか(性海) 名 佛氣の如の理性の  
深く廣きを海に譬へていふ辭。

しょうか(震階) 名 家屋の主要部を防

護する目的の爲に設けられた庇棟の差掛。もしし。

しょうか(首會) 名 ①地支那で省城の  
ある都會、即ち地方行政廳の所在地。  
しょうか(商會) 名 ①我が國の商工會議  
所に相當する支那の實業團體。②商業上の組合、商  
社。③商會に用ひる稱。

しょうか(小格) 名 細字の楷書。  
しょうか(紹介書) 名 紹介狀。  
しょうか(紹介狀) 名 或人を紹介する爲  
に先方にあつた書状。

しょうか(軍服) 名 軍服に對する警  
戒。職儀などへの見張を懸して警戒すること。  
しょうか(小塊) 名 小な塊。こま。こま。  
しょうか(小會) 名 小人数の會合。ちや  
としたりあひ。

しょうか(照會) 名 とひあはせ。かけあ  
しょうか(捷快) 名 すばやいこと。  
しょうか(生涯) 名 自盡。自殺。  
しょうか(生涯) 名 此の世にある間。  
一生の間。終身。終生。一生中或事に關係した間。  
一生の或部分。「公」。さてそのこと。

しょうか(傷害) 名 きりこらふこと。  
しょうか(傷害罪) 名 きりこらふこと。  
しょうか(傷害罪) 名 法他人の身體を  
故意に傷害し、生理的生活機能に不良に陥らしめたる  
ことによつて成立する犯罪。十年以下の懲役又は五  
百圓以下の罰金に處せらる。一ぼけ(他人) (傷害  
保障) 名 ①(傷害) 以外の損傷に對し、醫務費を  
支給し、又は之を補給する目的を以て、豫め定めた所  
に従ひ、一定金額の支拂をなす保險。

しょうか(障礙障害) 名 まは  
りまはる。じま。一きようかい (障  
礙境界) 名 長城、城壁等の障礙物を以て境界と  
した。こ。一きようそう (障礙走)  
(名) 戰馬で、障礙物を設けた場所で行ふ競走。

れた(障碍) 名 所定の距離に、等しい間隔に置か  
れた二〇箇の障礙物を跳び越えて行ふ競走。一〇  
米。二〇米。四〇米。八〇米の四種がある。  
しょうか(象外) 名 俗を離れた境界。  
常人のふたす。塵外。②形象を離れた境地。  
しょうか(勝槩) 名 すべれたおもむき。すく  
れた景色。勝槩。

しょうか(少艾) 名 年若く美しい婦人。  
しょうか(小害) 名 ちひさい害。  
しょうか(上界) 名 天上界。②(下界) 對  
しょうか(上階) 名 ①上階階級。②三位  
以上の位階。  
しょうか(淨戒) 名 佛の清淨な戒  
しょうか(淨界) 名 清淨な境地、即ち  
寺院、聖地などの境。②(佛) 佛。  
しょうか(常會) 名 時時を定めて開く會  
しょうか(情懷) 名 心に思ふこと。おも  
しょうか(城外) 名 城のそと。  
しょうか(場外) 名 場所のそと。  
しょうか(蔣介石) 名 人 Chiang  
Kai-shek) 支那の政治家。浙江省寧波の人。名は中  
正、介石と號する。浙江財閥を背景とする南京國民政  
府の第一人者。日本陸軍士官學校卒業。第二次革命  
に、孫文の秘書となる。一九二四年、廣東に黃埔軍官  
學校を創立して校長となり、學生軍を率ゐて廣東革  
命總帥となり、一九二六年、國民革命軍總司令として  
北伐し、吳佩孚を破り、翌年海軍政府を樹立して武漢  
政府に對立す。孫科對日政策を執り、一九三一年滿洲  
事變を發生す。翌三二年、統一政府の首席となり、現  
在獨裁專制を企圖しつつある。(八九)

しょうか(小海損) 名 ①(海) 海損  
しょうか(小損) 名 小な損。  
しょうか(防禦) 名 一きようそう (障  
礙物競走) 名 (Steeple Chase race) 一周四  
〇〇米の走路に設置した五箇の障礙物を速かに跳び



むる義務を負ふ。高等小學校の設置は市町村の任意である。一きよういん(小學校教員) (名)「数小學校で兒童の教養に當る教員。その資格は、小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員、小學校准教員の種別がある。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

染性及び單純性熱病の治療法を記したもので、古來漢方醫の金科玉條とされてゐる。一しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

しやうかん(相管) (名)「五つに分れること。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」

じょうが(頸骨) (名)「生頭蓋骨上顎部を構成する一對の骨中央部を體といひ、その内部の空腔を上顎といひ、鼻腔と交通する。體から四個の突起が起つてゐる。上方の前頭突起、上方の側骨突起、下方の齒槽突起、内方に出づるものゝ口蓋突起といふ。」



【音世觀聖】

しやうき(名) 相器(名) 宰相たるべき器。  
しやうき(名) 商機(名) 商売上の機会又は機密。  
しやうき(名) 詳記(名) 詳細に記すこと。  
又その記録。  
しやうき(名) 障氣(名) 熱病を起さざる山川の  
しやうき(名) 掌記(名) 書記右筆。かきやう。  
①修史前の職員。詳書を録し、圖書の管理並びに  
雜務を掌するもの。「つこ」とも云ふたせり。  
しやうき(名) 筆記(名) 文句を記憶して居てよむこ  
と。それにしてよむこと。暗誦。  
しやうき(名) 陳悻(名) おそれぬのくこと。  
しやうき(名) 鍾道(名) 唐の開元年中、玄宗が病  
を病んで歿せんと、夢に小鬼が機軸記の綾香囊  
と玉笛を盗まうとて、誰何した。時に大鬼  
があらはれ、破帽を戴き、藍袴を着、角帯を結び、朝靴  
を穿たされ、小鬼を縛つた。帝が驚いて名を問うた  
ら、身は終南  
山の蓮士鍾道  
であると首  
終て夢覺め、  
背も龜た。  
て、貴人吳道子にその畫を描かしたとの故事に基  
づく。「事物原由」に出づ。支那で疫鬼を退け魔を除  
くといふ神。我が國ではの像を五月幟に描き、五  
月人形に作り、又、来て巨眼多髯で、黒冠を掛け、長靴  
を穿ち、右手に劔を執り、小鬼を掴む。②文謡曲の  
一。一たいじん(鍾道大臣)(名) 鍾道のやうに生  
えたあひげ。  
しやうき(名) 燒燬(名) 焼くこと。やきはら  
ふこと。③法(名) 火力によって物の効力が失はれるに  
至つたこと。  
しやうき(名) 哨騎(名) 名はりの騎兵。  
しやうき(名) 笑氣(名) 化亞酸化窒素。  
しやうき(名) 沼氣(名) 化沼地の植物質が腐



鍾道

敗して發生する引火性の天然瓦斯。メタン。  
しやうき(名) 小器(名) 小さいうつは。①小  
さい器。  
しやうき(名) 小機(名) 佛小乘の機軸。  
しやうき(名) 小氣(名) 氣の小さいこと。小勝  
しやうき(名) 抄記(名) 氣の小さいこと。抄すも  
しやうき(名) 商議(名) はかり議すること。相談  
しやうき(名) 娼妓(名) 賣淫を公許された女。公  
娼。女郎。遊女。あひめ。うかれめ。  
しやうき(名) 象魏(名) 支那の古代の宮門。こ  
に教令を掲げられたりして教令の稱となつた。  
しやうき(名) 麻机返(名) 將臣の古の宮門。こ  
は持場などで用ひた一種の腰  
掛。高さ四五疊。尻の當る所に  
革を張り、脚を打進に組む。携  
帯に便なるやうに作る。①が  
し(名) 麻机返(名) 昔の  
戰陣で、味方敗軍の時、大將の麻机のまはりにおる人  
人が防壁に蔽を擊退してふくとどまらぬ。①  
がわり(名) 麻机替(名) 味方危き爲、大將が  
前方に出陣する時、その不在の本陣で、大將のやうに  
麻机にかかつて居たもの。①がね(名) 麻机船  
(名) 昔の船軍で、大將の乗つた船。  
しやうき(名) 將基象棋(名) 戰陣に擬した盤面  
に、駒と稱する小片を交互に活動せしめて勝敗を  
決する室内遊戯。初め、印度で起り、我が國には欽  
明天皇の御代、遣唐使によって支那から傳へられた。  
種類多く、大將基中將基小將基等、現今の將基は  
小將基である。兩人で知く配置、互に駒を動かして  
陣に將基駒を定め、の如く配置、互に駒を動かして  
陣は、敵の王將を擒した詰むものな勝として  
る。將基の駒。①たおし(名) 將基倒(名)  
將基の駒を少しづつ、陣をばつて一行に立て、一  
の駒を推せば順次にすべての駒のたふれること。轉  
じて一方が崩れるに従つて全體の崩れ倒れること。  
①どころ(將基所)(名) 江戸幕府に、基所と相  
並んで將基を以て仕へた家柄。大橋伊藤の二氏が相



麻机

並す。①のこま(將基駒)(名) 將基盤上に使  
用して將基を行ふ棋子。その數二〇箇二組。王將を  
首腦とし、金將、銀將各二箇を王將の左右に分ち置き  
て御將とし、更に其の左右に桂馬、香車各二箇分ち  
置き、一列とする。其の前路に右翼に飛車、左翼に  
角行を置き、その前路に九箇の歩兵を前衛として配  
置する。①はん(將基盤)(名) 將基の駒を並べ  
て置く盤。盤上に八十の目を設け、その目を基  
子一箇を置く區域とする。①を差す(名) 將基の  
駒を動かして、將基の遊戯をなす。  
しやうき(名) 證義(名) 佛大法官の論議の時、問  
者、講師の問答の可否を判定する役。「したわざ。  
しやうき(名) 小枝(名) ちまらわで。ちまら  
しやうき(名) 小枝(名) はんきく(半玉)。す  
うき(名) 小枝。  
しやうき(名) 小義(名) 小さい義理。  
しやうき(名) 小儀(名) 朝廷の節會の一。大  
儀中儀の對。  
しやうき(名) 笑戲(名) わらひたはむれること。  
しやうき(名) 上氣(名) のぼること。逆上。  
しやうき(名) 常規(名) 常に行ふべき道。常道。  
しやうき(名) 淨氣(名) 清きよらかなつみ。  
しやうき(名) 蒸氣(名) 液体が蒸  
發して生ずる氣體。ゆけ。船小蒸氣船。川蒸  
氣船。①あつ(蒸氣壓)(名) 液体の蒸氣が有する  
一定の壓力。蒸氣壓力。①がま(蒸氣釜)(名)  
(きか) 汽機。①きか(蒸氣機)(名)  
(蒸氣機) 汽機。①きか(蒸氣機) 汽機。①きか  
蒸氣の熱エネルギーを機械的動力となす装置の機  
械。氣筒の内に蒸氣を送り、その壓力によってピ  
ストンに往復運動を起し、ピストンの他端をクラ

クに結合して往復運動を同轉運動に變更する装置の  
もの。原動力機として用途が廣い。①こうざ(蒸氣坑)(名) 地中(地) 地中から水蒸氣を  
噴出す所。火山地方に多い。①じどう(蒸氣自動車)(名) 蒸氣機關によつて發生され  
た動力を以て走行する自動車。①しやうどく(蒸氣消毒)(名) 消毒法の一。煮沸し難い物  
品器具等を以て消毒する。①すち(蒸氣槌)(名) 蒸氣力によつて運轉せらるる機  
きつち。①せん(蒸氣船)(名) 船蒸氣機關の  
動力で、螺旋推進器を同轉して水上航走せしめる  
船。汽船。①た(蒸氣) 蒸氣力。①た(蒸氣) 蒸氣力。  
動力を徐徐に變換させて得る動エネルギーを動力とし  
た熱原動機。①てつどう(蒸氣鐵道)(名) 汽車の走行する鐵道。①ほん(蒸氣噴  
筒)(名) 消火用蒸氣噴筒。①よく(蒸氣浴)(名) 蒸氣で温浴すること。蒸氣浴の裝置の類。  
しやうき(名) 蒸汽(名) 蒸氣。①あつちゆうほう(蒸氣釜から長いゴム管を以て蒸氣を導き、管口  
から水を噴出せしめて局所に原注する方法。神經  
痛・神經麻痺・筋痛・リウマチ・腰痛・關節炎等に奏效  
あるもの。  
しやうき(名) 仗旗(名) 昔朝廷で、朝賀・元日等  
に大將殿(後世は榮華)に掛つた旗。鳥象幕。  
日象幕。月象幕等二百餘旗があつた。「日の服」。  
しやうき(名) 仗機(名) 三十日の忌又は百五十  
かひなれた器物。①定器(名) 常に使用する器物  
とを盛る佛具。  
しやうき(名) 條規(名) 條文の規程。わきで  
しやうき(名) 上儀(名) 朝廷の典禮。  
しやうき(名) 仗儀(名) 陣の評議。  
しやうき(名) 定規(名) 角度や距離を描き又は物  
を裁ちなどするにあつて用ひる具。三角定規。圓  
形定規。十字定規。直角定規。斜角定規。留定規。商留





〔商業信用狀〕(名) ながわせしやうじやう(爲替信用狀) せいざく(商業政策)(名) (英) Commercial Policy 國民經濟の發展を企圖する爲に、國家及び公共團體が商業に關して採る手段。 ーだいがく(商業大學)(名) 〔數〕商業に關する理論及び應用を教授し、並びにその福業を攻究する爲の單科大學。三箇年の豫科を附設する。を商科大學(東京帝國大學大阪商科大學)といひ、附設せざるものを商業大學(神戸商業大學)といふ。 ちやうばく(商業簿記)(名) 〔法〕商法の規定上、商人が其の財産の狀況を明瞭ならしめる爲に法律上の義務として作成する帳簿。即ち我が國現行の商法で、日記帳財産目録貸借対照表の總稱。 ーちりがく(商業地理學)(名) 〔地〕經濟地理學の一部門。商業狀態の構成成立等を研究する學。 ーうしん(商業通信)(名) 商業上の通信。 ーてがた(商業手形)(名) 〔經〕商人が商取引の爲に、銀行手形の對) ーとうき(商業登記)(名) 〔法〕商法上登記すべき事項を裁判所の商業登記簿に登録すること。即ち法律上の關係其他變更・廢止等を公示し、一般社會に知らしむる爲に、商人の營業場所所在地の區裁判所に申請してなし、既設の法律關係を確保する效力を生ずる。 ーとうけい(商業統計)(名) 經營財が生産の後、商人の手を介して消費者の手に配給せられる間の、各般經濟事實に關する統計。外國貿易統計と内國商業統計とにわかれる。 ーどうとく(商業道德)(名) 商業活動になすに守るべき道德。商業道德上不正とせられるものは、不正競争契約不履行・虛偽誇大廣告粗製濫造・不當買占め及び買捌等である。 ーとしやう(商業都市)(名) 商人によつて繁榮し發展する都市。大阪市・神戸市の如く。 ーはくぶつ(商業博物館)(名) 商品を分類陳列して公衆の鑑賞に供へ、生産事情・用途・特徴等の説明を附し、商品知識の普及と商品の紹介とを計る常設機關。 ーひびつ(商業美術)(名) 〔美〕近

代商業の大發達に伴ひ、飛躍的に發展せる應用美術の一部門の汎稱。即ち各種商業的營業の立場から、購買者・需要者に直接・間接に購買欲をそそらしめる手段として種種の造型的美的意匠を凝らすもの。 ーぼく(商業簿記)(名) 商業の會計に應用せられた簿記。商品置置によつて生ずる損益の計算を進行することを主目的とする。その主要簿は、日記帳仕譯帳元帳で、補助簿は必要に應じて之を選定する。 ーほしやうがつこうじやう(商業補習學校)(名) 〔數〕簿記に關する簡易な知識・技能を授けるために設けられた實業補習學校。 ーよここうがく(商業要項)(名) 商業要項。 じやうきやう(上卿)(名) (しやうけい) じやうきやう(上京)(名) みやご(のぼる) ーと。 じやうきやう(常況)(名) ぶだんのありさじやうきやう(情況狀況)(名) ありさま。 じやうきやう(情勢)(名) じやうきやう(蒸餾)(名) 水蒸氣を以て目的物に温度と温度を加へて膨脹軟化させ、又は化學的變化を與へ、或は更にその後起こさすべく反應を容易ならしめることを目的とする操作。御飯蒸・蒸籠・乾・ポイラー(即ち蒸餾器)の裝置を用ひる。 じやうきやう(淨行)(名) 佛淨行の修行。 じやうきやう(常業)(名) 佛淨行の修行。 じやうきやう(淨行) (名) 佛淨行の修行。 (Arahanas) 近世印度に於ける新宗教の一派。西歐文化の輸入に對し、印度本來の思想・神の復讐を高揚する宗教運動から起り、先を信神と、神と個人我との關係を父子の如しと見、神を信仰するに對して個人は救済されるとするもの。十九世紀にダヤナンドサラスワター(Dayananda Sarasvati)の創始にかゝる。 じやうきやう(佛) 九十年(一期)として、飲食便通の外常に室內を行道して彌陀を一心に稱念すること。 佛に念佛を一心に修すること。

じやうきやうじ(小行事)(名) 佛等内の小事を掌る僧侶。(大行事の對) じやうきやうでん(承香殿)(名) 平安大内裏の内裏殿の名。仁壽殿の北にあって内裏御遊などの行はれた殿舎。 じやうきやうどう(常行堂)(名) 佛堂を修する堂。即ち阿彌陀堂。 じやうきやうぼく(上行菩薩)(名) 佛釋迦が法華經を説いた時、末代五濁惡世に出て、これを弘めることを付嘱した菩薩中の首位の菩薩。日蓮は此の菩薩の再臨と自覺して法華經を弘めた。 じやうきやう(眞享曆)(名) 靈元天皇の眞享二年に宣明曆を止め用ひられた曆。安井(保井)春海が、元明の授時曆を參酌して作つたもの。寶曆四年廢られた。 じやうきやう(歌曲)(名) 歌ふ歌。又、そのこと。若しくは奏除・否定・貞誠・無爲・保守・變動・否定等の意をあらはす語。(積極の對) ーきむ(積極義務)(名) 法或事となすの對する義務。即ち不作爲の義務、他人の財産を侵害せざる義務の類。(積極義務の對) ーしやく(消極主義)(名) 〔倫〕(Negativity) 進んで行動するの避ける主義。禁欲主義・退却主義・保守主義等の總稱。(積極主義の對) ーてき(消極的)(名) 消極なるさま。(積極的の對) ーてき(積極的意志の對) ーじ(消極名辭)(名) 論或性質を有しないこととをあらはす名辭。不確實・無機物・非常識等の類の如く、上に不無・非等の打消の語を冠してふもの。 (積極名辭の對) ーめい(消極命題)(名) (論) ひびめい(否定命題)。(積極命題の對) じやうきやう(淨曲)(名) じやうきやう(淨曲) 金。 じやうきん(賞金)(名) 賞與として與へる

じやうきん(償金)(名) 損害の賠償として支拂ふ金。 〇戦敵國又は損害を被らしめた國が、戰勝國又は損害を受けた中立國に支拂ふ賠償金。 じやうきん(正金)(名) 金貨。 (統幣の對) 〇現金。(目録の對) 〇きんこう(正金銀行)(名) 〔經〕外國貿易金融を營業とする特殊銀行。外國貿易上の重要な機關で、我が國には横濱正金銀行あり、本店の外支店又は出張所を内外外貿易上必要ありに設置する。 ーゆちうせん(正金輸送點)(名) 〔經〕せいけいけんそてん(正貨現送點) じやうきん(小倉)(名) ーこ(小倉) 〇金屋をたかすこと。 〇金を買ふこと。 〇かかす(意)多額を金銀を消費する場所。即ち遊里。 ーちやうか(銷金帳下)(名) 陶學士或の愛のいた語。黄金をたかすつたとはばりの下で酒を飲むこと。昔言故事に出) 〇金銀を消費してをしまぬ場所。即ち妾室又は遊女屋。 じやうきん(王金)(名) 又、遊女のな。 じやうきん(上銀)(名) まじりものない。 じやうきん(上銀)(名) まじりものない。 じやうきん(沙金類)(名) 動鼠類の。 〇喉頭頸共に長く、淺き沼を涉つて魚介小蟲を食する習性があるもの。水邊の地丈は樹上に巢を構へ産卵するもの。くひな(き)しきなどの類。現在はこの分類を用ひない。 じやうきん(章句)(名) 文の章句。 〇章を分ち知すること。 〇を尊ぬ(句) 徒らに字句の穿鑿に拘泥して、活用するを知らぬいふ。 じやうきん(生苦)(名) 佛生存在中に受ける苦。 〇しやう(佛) 〇要者(の) 供來。 〇聖人(の) 聖供。 じやうきん(勝區)(名) 景色のすぐれた所。勝地。 じやうきん(承句)(名) 漢詩の絶句の第一句。 〇律の第三第四の兩句。 じやうきん(懷權)(名) おそれをのくこと。



てうつもの。徒より軽く答より重い。

じやうけい(名) 〔定刑〕(名) 規定の刑罰。

しやうげき(名) 〔衝撃〕(名) つきあたつてはげしうつこと。突撃。

しやうげき(名) 〔衝激〕(名) はげしくつきあつたこと。した不利。

しやうげき(名) 〔小隙〕(名) 少しのひま。ちやうとした不利。

しやうげき(名) 〔笑劇〕(名) 滑稽のある喜劇。

しやうげき(名) 〔振劇〕(名) さわがしく、低級な

しやうげき(名) 〔小劇場〕(名) 小劇場 (Little Theatre) 演劇を商業主義から解放して自由合理的な新しい劇組織の上に立脚する劇場。會費を負擔する會員制度により、藝術至上主義又は演劇の實驗室を實現せしもの。

しやうげき(名) 〔猖獗〕(名) たけくらあらしのこと。わるづよいこと。わるもの勢の盛んなこと。

しやうげき(名) 〔淨潔〕(名) 清淨潔白なこと。清

じやうけつ(名) 〔城關〕(名) 支那で、宮城の門外の兩側に設けられた藩城の門觀。宮城、皇居。

しやうげつ(名) 〔松月堂古流〕(名) 生花の一派。明室上人を祖とし、南都西大

流の創始したものに。

しやうげん(名) 〔商權〕(名) 商業上の權力。

しやうげん(名) 〔請見〕(名) 面會を請ふこと。

しやうげん(名) 〔法權〕(名) 他人の所有する土地又は物件を使用する權利。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) あかしするし。證據。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

しやうげん(名) 〔證據〕(名) 多數の人を服従又は信仰せしめる權威又は手段。

發行して交付する公債。記名式。無記名式とある。

じゆんびほう(名) 〔證券準備法〕(名) 有價證券の發行準備の一種で、公債又は確實な

しやうひき(名) 〔證券取引所〕(名) 株式、國債、地方債、社債、外國債等の有價證券の取引

所がある。東京、大阪、名古屋、長崎、博多の六箇所にある。株式取引所。ひきうけかいし

〔證券引受會社〕(名) 〔證券引換會社〕(名) 有價證券を代表する證券即ち、船券、證券倉庫證券等と引換に、現金で代金の授受をなす。

よにゆうちよきん(名) 〔證券預入貯金〕(名) 法通の代りに、特定の證券で預け入れる郵便貯金。その預入し得る證券は支拂開始に係る無記名の各府縣債證券、市債證券及びそれ等の利札

しやうけん(名) 〔小隙〕(名) 小さい間點。〔數球の中心を通過しない平面と球面とのなす交點。〕

しやうけん(名) 〔召見〕(名) よび出して面會すること。引見。

しやうけん(名) 〔消遣〕(名) うつを散らすこと。

しやうけん(名) 〔照驗〕(名) てらしあはせてしるべし。

しやうけん(名) 〔將監〕(名) 近衛府の列官。

しやうけん(名) 〔昌言〕(名) 道理をつくしたことば。善美なことば。身の爲になることば。

しやうけん(名) 〔詳言〕(名) つまびらかにいふこと。

しやうけん(名) 〔彰顯〕(名) あきらかにあらはすこと。

しやうけん(名) 〔莊嚴〕(名) せいぜん。

しやうけん(名) 〔象限〕(名) 〔數〕(名) 圓の四分の一。四分圓。平面上に於いて二つの直線が直角に交はる時、直線が分つ四つの部分。一

〔象限儀〕(名) 機(名) Quadrant 十八世紀の終り頃まで午線觀測に用ひた器械。全圓を四等分した扇

形が目盛環で、直角を挟む二邊中の一邊は水中に、他の一邊は鉛直になるやうにし、邊鏡及び之を支持する腕は扇形の直角頂を中心として回轉し、その位置によつて、天體の高度を知り得るもの。一

〔象限點〕(名) 天(名) Longitude 赤道最

高の點で、黃道上で地平線との交點から九十度點。

しやうけん(名) 〔證言〕(名) 言語を以て或事實を證明すること。証人の陳述。

しやうけん(名) 〔縦言〕(名) ほしいまにいふこと。口によらせていふこと。

しやうけん(名) 〔小紋〕(名) ほせい、桂。

しやうけん(名) 〔小言〕(名) ちやうとしたことば。偏見のことば。

しやうけん(名) 〔少監〕(名) 大宰府の列官。

しやうけん(名) 〔笑言〕(名) 笑ひながら語ること。笑たり語たりすること。笑話。

しやうけん(名) 〔峭股〕(名) はげしくきびしい。實にやう、吾人の自我も亦滅びることなく、永劫に相續するとす。妄見。

しやうけん(名) 〔常態〕(名) 定まつたりの。かは

しやうけん(名) 〔條件〕(名) ことたり。箇條。

しやうけん(名) 〔條件〕(名) 法律行為の效力が發生するが消滅するか不確定なる將來の事實によつて制限されること。一。ほうじ(名) 〔條件法〕(名) 〔法〕

しやうけん(名) 〔條件法〕(名) 〔法〕 確定法との總稱。

しやうけん(名) 〔上件〕(名) 前前に述べたことば。かみかた。

しやうけん(名) 〔上元〕(名) 節日の一。陰曆正月十五日の稱。昔から小豆粥を食ふ風習がある。

しやうけん(名) 〔上法〕(名) 〔上法〕(名) 〔上法〕(名) 新月を、常習に至る間に、月が直徑を右の方に向けて半圓形をつくる時刻及びその状態。陰曆では毎月七日、八日に當る。

しやうけん(名) 〔狀元〕(名) 支那で、試験に合格した進士之首席。

しやうけん(名) 〔昭憲〕

太臣(名) 明治天皇の皇后。御名は美子。一條忠香の御女。嘉永三年御誕生。明治元年入内。皇后に册立。天宮。嘉永三年御誕生。大産業の聲勸。女子教育の振興。社會事業等の發達に御心を注がせ給ふ。大正三年崩御。御年六十五。御葬。明治天皇の伏見桃山陵の東隣に位置し、伏見桃山東陵に申す。(三五七)

しやうけん(名) 〔小檢使〕(名) 江戸幕府の職名。寺社奉行に屬した下役。

しやうけん(名) 〔條件附〕(名) 或物事條件が附けてあること。一。せんじきんせいひん(名) 條件附戰時禁制品(名) 〔法〕戰時用に不利用に供し得ず、戰時禁制品の貨物を、交戰國が平時と場合とによつて戰時禁制品と做すもの。一

しやうけん(名) 〔條件附法律行為〕(名) 〔法〕法律除條件條件成就の時、法律行為の效力が消滅するもの。又は停止條件條件成就の時、法律行為が發生するもの。の附屬した法律行為。

しやうけん(名) 〔少檢見〕(名) 昔、大檢見を行ふ前に、代官の手代が行つた檢見。

しやうけん(名) 〔莊庫〕(名) 莊園の倉庫。

しやうけん(名) 〔鉦鼓〕(名) 軍中の合圖に用ひるたたかぬたい。鼓。〔音〕の種樂に用ひる樂器の

一。多くは音調製で、周圍に響きの裝飾があり、それ解がある。形

開くて皿の如く、懸垂してたたく。

大鉦鼓。約鉦鼓。音(名) 鉦鼓の三種があり、又た

たたく法に序。破。念の三がある。佛來で、蓋につるし

又は鐘を附して念佛の聲叩く。圓形音調製の樂器。

しやうけん(名) 〔商賣〕(名) 商賣。あきうど。あ

しやうけん(名) 〔古尙〕(名) 昔の文物をたつとぶこと。むかし。ししき。尙古主義(名) 〔古尙〕(名) 古代の文物をたつとび、之に則らんとする主



〔鉦鼓〕

義。經古主義。

しやうご(掌故) (名) 支那で禮樂の故事を

しやうご(證據) (名) 証明の根據。事實認定の

しやうご(證據) (名) 法裁判所が法律を

しやうご(證據) (名) 契約の履行を確かにする爲に當事者

しやうご(證據) (名) 買賣約定中の賣買又は將來

しやうご(證據) (名) 買賣取引の責任を履行しな

しやうご(證據) (名) 事實の證據となる書類

しやうご(證據) (名) 法證據のとりしらべ

しやうご(證據) (名) 證據立てる(他) 動

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 法證據の證據

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 證據物件

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 證據物件

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 證據物件

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 證據物件

しやうご(證據) (名) 證據物件(名) 證據物件

な案。酒風の少ない。げ。(下) 戸。

しやうご(小姑) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小鼓) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小故) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(招呼) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(正午) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小悟) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(笑語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(上古) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(杖鼓) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(上戸) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(蒲子) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小戸) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小戸) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(小戸) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(常語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(元語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(聖語) (名) 小ま。小ま。小ま。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

しやうご(將校) (名) 學校。

「ウェーター」—きよら引「昇降橋」(名)「工  
(Catching bridge)」河川、運河等で、橋下に於ける船舶  
の通行上必要ある時に、機械力によつて全橋を昇  
せしめて通過に障礙ならしめる昇降自在の構造を  
可動橋。—くち「昇降口」(名) あがりおりの出  
入り口。—そくどけい「昇降速度計」(名)  
【艦機空母の昇降速度を測るに用ひる計器。毛細管  
を通して密閉箱内の空気が徐徐に逃げることを利用  
したものである】

しょうこう 「昇炎」(名)「化」(Corrosive subli-  
mation)水銀と製業の白色物。硫酸酸化米に食鹽を混  
合し昇華して製する。化白色。透明で硫酸状態に食鹽を混  
融結晶質。工業上では染色工業水銀化合物の製造に  
腐衝術・化学試験等に用ひ、醫藥上では腫瘍薬として  
内用し、腐蝕薬として外用す。又消毒用に供する。  
しょうこう 「焼香」(名) 香を焚くこと。 香を焚いて佛に手向けのこと。  
しょうこう 「小麻」(名) 世の中の少し治ま  
たこと。しばらく無事であること。  
しょうこう 「小巷」(名) 小ぢぢりな。こ  
しょうこう 「少諱」(名) 支那、秋を尊る神。  
しょうこう 「一てんぼう」(名) 照校電報

(名)【法】特別電報の一。暗號又は数字を用ひた  
る。又は重要電信の字句の誤謬等を預防せんが爲に  
送受兩電報官要領、その電報の發行人受信人住所  
所氏名本文等を反覆校正するもの。和文なれば「ム  
ニ」歐文なれば「○」の略符號で指定し、照校料とし  
て二分の電報では通常電報料の四分の一、外國電報で  
は二分の一を納附する。又、電報の返信を照校電報  
で受けよとするには、和文なれば「ム」歐文なれば  
「○」の略符號を用ひる。  
しょうこう 「照考」(名) てらあはせて考へ  
しょうこう 「峭高」(名) きりそいで高いこと。  
けいこう 「高」(名) たかいこと。  
しょうこう 「消耗」(名) 消費してへらすこと。  
使用して消失すること。せうまう。

しょうこう 「招降」(名) まねきたらすること。敵  
をさとして降参させること。  
しょうこう 「消光」(名) 月日をおくること。  
しょうこう 「韶光」(名) あきらかな光。  
しょうこう 「韶光」(名) あきらかな光。  
しょうこう 「韶光」(名) あきらかな光。

しょうこう 「紹光」(名) 韶光の地名。  
しょうこう 「紹光」(名) 韶光の地名。  
しょうこう 「紹光」(名) 韶光の地名。  
しょうこう 「紹光」(名) 韶光の地名。

しょうこう 「捷巧」(名) すばやくてたくみな  
しょうこう 「莊郷」(名) むらさじ。  
しょうこう 「商號」(名) 法人が營業上自  
己を表示するに用ひる名稱。即ち屋號の類。營業の  
同一性を水續として表示し、營業の信用を維持する實  
益がある。會社にあつては、合名合資株式株式  
合資の如く會社の種類を商號に採用するを要し  
又會社に非ざる者は會社たるを示すべき文字を商  
號中に用ひるを得ない。「けん」商號權(名)  
【法】商號を專用する權利。商號登記簿に登録するこ  
とによつて權利を發生し、自由に相續譲渡するを得  
る。一とらき「商號登記」(名) 商號權を  
占有する者、その管轄内の國裁判所に申請して商號  
登記簿に登録すること。「いとうきは」商號登  
記簿(名)【法】商號及び其の讓渡・變更・廢止等  
を登記する帳簿。「せいふ」生倫監禁せぬこと。  
しょうこう 「正業」(名) よびな。となへ。  
しょうこう 「稱號」(名) よびな。となへ。  
しょうこう 「情交」(名) 親しい交情。情交  
の交際。男女のよしみ。色情の名もいり。友  
しょうこう 「情好」(名) なかのよほり。友

情の親密なることよしみ。  
しょうこう 「常行」(名) つれのおこひ。  
しょうこう 「常香」(名) 佛前に絶えず供  
へてなく香。「ばん」常香盤(名) 常香を焚く  
香爐。  
しょうこう 「上皇」(名) 天皇の位をお譲り  
になつた後の尊稱。太上天皇。太上天皇。おりののみ  
かど。支那で天子の尊稱。上世の天子。天帝。  
しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ  
しよらー

しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ  
しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ  
しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ

しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ  
しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ  
しょうこう 「城隈」(名) しろのほり。しよ

しょうこう 「頂條」(名) 筒條。くだり。  
しょうこう 「上綱」(名) 上位の借稱。  
しょうこう 「城壕」(名) 城のほり。  
しょうこう 「上台」(名) 天。遊星又は衛星  
が太陽と同じ方向に来て、太陽より遠方にある時  
の稱。  
しょうこう 「淨土往生」(名) 正業即ち念佛。  
しょうこう 「成業」(名) 學問を世襲した家柄  
しょうこう 「成功」(名) 佛。四劫の一。世界  
が成立して人類の生業の最初のこと。  
しょうこう 「乘號」(名) 乘算の符號即ち「x」。  
しょうこう 「定業」(名) 佛。此の世に生まれ  
た時か定まらざる業報。  
しょうこう 「商行爲」(名)【法】(Company  
trading)營利の爲に行はれる不動産不動  
產有價証券等の賣買・交換・運轉・賃貸等の行爲。  
しょうこう 「小公園」(名) 局限せられ  
た或一區域の住民によつて恒常的に隣保關係に利  
用せられる公園。兒童の運動遊戯・教化・娛樂等を主  
眼とするもの。  
しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所

しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所  
しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所

(名)【法】工業に關する各種の調査及及び編纂行政  
廳への建議・諮問に關する意見の發表商工業に關す  
る紛議の仲裁・商工業營業活動の設立管理・及び商工業  
の發達を關する法人組織の機關。市の區域による原  
則とし、社員より五〇名以内の代議員を選挙して  
議事機關を組織する。  
しょうこう 「少講義」(名) 教導職の一。  
中講義の下に位し、正と權とに分たれる。  
しょうこう 「少講義」(名) 教導職の一。  
しょうこう 「少講義」(名) 教導職の一。

しょうこう 「商行爲」(名)【法】(Company  
trading)營利の爲に行はれる不動産不動  
產有價証券等の賣買・交換・運轉・賃貸等の行爲。  
しょうこう 「小公園」(名) 局限せられ  
た或一區域の住民によつて恒常的に隣保關係に利  
用せられる公園。兒童の運動遊戯・教化・娛樂等を主  
眼とするもの。  
しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所

しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所  
しょうこう 「かいぎしよら」(名)【商工會議所









**しやうじ** (頌辭) 名 功德をほめ述べることば。  
**しやうじ** (承仕) 名 貴 攝家若しくは寺院な  
 どの雜役を勤めた僧形のもの。● 室町幕府の職名。  
**しやうじ** (樂時) 名 そばだつこと。  
**しやうじ** (小字) 名 小さい字。細字。● 幼  
 時のあざな。● こあな。  
**しやうじ** (小一) 名 小さいことから。ちよ  
 かにするの大變なことになること。  
**しやうじ** (小提) 名 Minor key) 三段  
 論法で、小前提と断案中の主辭とに存する名稱例へ  
 ば「すべての金屬は熱によつて溶解す(大前提)。鉛  
 は金屬なり(小前提)。故に鉛は熱によつて溶解す(断  
 案)に於ける」の類。小語。  
**しやうじ** (少時) 名 わかひ時。幼少の時。  
 ● しらべの問。

**しやうじ** (小路) 名 こちうち。こみち。  
**しやうじ** (背似) 名 よく似てゐること。  
**しやうじ** (館時) 名 さりたりてそばだつこ  
**しやうじ** (霎時) 名 しらくの問。「と  
**しやうじ** (上土) 名 平伴よりも身の高い  
 まむらひ。● 佛) 菩薩。

**しやうじ** (上臣) 名 かみのおはしめし。上  
**しやうじ** (上使) 名 江戸幕府から諸大名に  
 派遣した使者。先方の身分又は場合によつて老中奏  
 者・御家小姓・使者等が適宜に任ぜられた。  
**しやうじ** (上股) 名 生) 上部。上部部。前脚部  
 及び手部の四部の總稱。上部のこと。  
**しやうじ** (上梓) 名 (名) 版木はおもに梓(ま)

を材としたからいふ圖書を版木にきざむこと。又  
 圖書を出版すること。  
**しやうじ** (情史) 名 男女の戀愛に關した  
 とを記した文章。又その書物。  
**しやうじ** (情思) 名 こころもろ。● 情愛の  
 こころもろ。戀愛の心。  
**しやうじ** (情死) 名 相愛の男女が現世で愛の  
 目的を遂げられぬ時、未來の幸福を豫期し又は愛  
 の極致を味はふ爲に自殺すること。もも心中(あな)  
 と同義であつたが、明治時代以後、親子心中・同性心中  
 などの語が用ひられ、心中の意味の方が廣くなった。  
**しやうじ** (常師) 名 常に教を受ける師。  
**しやうじ** (城址) 名 しらあ。と。  
**しやうじ** (城市) 名 城のあるまち。城下。  
**しやうじ** (狀紙) 名 狀紙は事實を述べて上  
 陳する意他人の訴訟の代理を業とするもの。代言  
 人。辯護士。  
**しやうじ** (乘子) 名 數にんすう(因数)。  
**しやうじ** (刺指) 名 生手足の指の先天の異常  
 によつて五本以上あること。  
**しやうじ** (娘軍) 名 むすめ。● 妻。婦人。  
 少女。處女。● 娘(軍) 名 船が舟の  
 妻平陽昭公名、多數の婦人を率ゐる唐高祖を助  
 けて、婦人を率ゐる唐高祖を助  
**しやうじ** (場師) 名 庭師。植木師。  
**しやうじ** (帖枝) 名 えた。  
**しやうじ** (帖試) 名 支那唐時代の明影の試  
 験に、經書一章の前後を紙で覆ひ、受験者をして其  
 のはり紙した文句を答へさせたこと。我が國の國  
 學・大學で、十日に一回施行した試験で、文章中の文  
 句を覆ひ隠して其の讀方を答へさせたこと。  
**しやうじ** (情事) 名 いつぱりない事情。ま  
 こころ。● 男女間の戀愛に關することがら。  
 戀愛。いろこと。

**じやうじ** (常事) 名 きまつたことから。か  
 はらぬこと。● 日常のこと。なみなみのこと。  
**じやうじ** (常時) 名 副) いつも。常。平生。  
**じやうじ** (定時) 名 じやうじ。ふだん。  
**じやうじ** (塾字) 名 (じやうじ)。  
**じやうじ** (障子紙) 名 障子に張る  
 強靱な薄紙。  
**じやうじ** (笑止) 名 (自動、  
 ラ四) なか。なかに思ふ。  
**じやうじ** (掌櫃官) 名 昔、天皇の御  
 印籠を掌つた官職。今の内大臣に相當する。  
**じやうじ** (生食) 名 かね(真食)。  
**じやうじ** (鍾子期) 名 人支那春秋時代定  
 の人。伯牙が琴を鼓する時、獨り鍾子期ばかりがその  
 音を聴きわけた。子期が死んで後、伯牙は自分の琴  
 をなひかなかつたといふ。● 祝願を唱へること。  
**じやうじ** (唱食) 名 佛禪宗で、食時に  
 するを解するものないのを歌いて鼓を叩くこと。  
**じやうじ** (小食) 名 しょうじく(小食)。  
**じやうじ** (正直) 名 ちやうじく(正直) 正  
 しいないこと。正しくすなはな。かげひなた  
 のいぬこと。● 桶屋などの用ひる長さ一米二〇〇釐ば  
 かりの鉋(こ) 木を其の上でせ、推して削る。● 大  
 なが。● 下盤(か) の一種。家屋柱などの傾斜を  
 検する具。長い木の上下に同じ長さの短か、横木が  
 あつて、その横木の一端が鉋(こ) 垂れるもの。上  
 の検査物に横木の端を當てると、垂直だと鉋の線  
 は下方の横木の端に接する。● 正(正) 直  
 一(直) 名 正直なばかりではなからぬない。  
**じやうじ** (正直屋) 名 正直な性質。  
**じやうじ** (直茶屋) 名 直文化の頃、  
 江戸浅草馬道にあつた發賣屋。● 捨方便(句)  
 (佛法華經に釋出妙法の本體の經文だから、方便の  
 歌では最上の上の乗法なること) 一の  
 頭に神宿る(句) 正直な人に神の靈籠る。ある

**じやうじ** (一生の寶) (句) 正直は人の一生守るべき寶  
 で種種の幸福は皆この正直から来る。一は最上  
 の政策なり(句) 政治上、正直な行動は、策略を  
 用ひるよりも却つて好結果を生ずる。  
**じやうじ** (常式) 名 副) つれの方式。  
**じやうじ** (常儀) 名 づれ。ふだん。常時。  
**じやうじ** (常識) 名 常識(名) Common sense) 普  
 通に一般人の存し、又は有すべき標準知識。専門別  
 識で一般の見聞と共に理解力判断力思慮分別  
 等を含むもの。● しやうじ(常識宗) 常識を  
 基礎として萬事を判断する主義。● しやうじ(常識)  
 (常識哲學) (哲學) (Philosophy) Common  
 sense) イギリス陸軍哲學派の一派。ヘイワードを  
 祖とし、スコットランドに發達した哲學。真徳の判断  
 評價を又その根源の能力は、常識そのものであると主  
 張し、又宗教・道德を擁護した。  
**じやうじ** (淨食) 名 佛精進の食膳。  
**じやうじ** (抄紙機械) 名 機  
 (Paper-machine) 紙を抄(す)て機械。漉部の漉網上  
 で紙匹を構成し、壓排部で之を展平除去し、乾燥部で  
 之を乾燥して紙原を造るもの。普通、長網式を用ひ  
 るが、板紙や和紙の製造には圓網式を用ひる。  
**じやうじ** (正字金) 名 (正) の字の  
 極印があるか、江戸幕府が安政六年に發行し  
 た小判及び一分別金。  
**じやうじ** (上肢筋) 名 (生) 上肢の運  
 動を掌る筋。肩押筋・上膊筋・前脛筋の總稱。  
**しやうじ** (精進湖) 名 地富土五湖の  
 一。山梨縣八代町に屬し、富士山の西北麓、本栖  
 湖東にあり、周囲約〇軒。五湖中最も小さいが、  
 湖畔が湖濱で、近くのバナラマ草からの咲きが秀で  
**じやうじ** (粗鉋) 名 鉋(こ) の對  
**じやうじ** (障子隔子) 名 障子に用ひる細(こ)。  
**じやうじ** (障子越) 名 障子を隔てて

を材としたからいふ圖書を版木にきざむこと。又  
 圖書を出版すること。  
**しやうじ** (情史) 名 男女の戀愛に關した  
 とを記した文章。又その書物。  
**しやうじ** (情思) 名 こころもろ。● 情愛の  
 こころもろ。戀愛の心。  
**しやうじ** (情死) 名 相愛の男女が現世で愛の  
 目的を遂げられぬ時、未來の幸福を豫期し又は愛  
 の極致を味はふ爲に自殺すること。もも心中(あな)  
 と同義であつたが、明治時代以後、親子心中・同性心中  
 などの語が用ひられ、心中の意味の方が廣くなった。  
**しやうじ** (常師) 名 常に教を受ける師。  
**しやうじ** (城址) 名 しらあ。と。  
**しやうじ** (城市) 名 城のあるまち。城下。  
**しやうじ** (狀紙) 名 狀紙は事實を述べて上  
 陳する意他人の訴訟の代理を業とするもの。代言  
 人。辯護士。  
**しやうじ** (乘子) 名 數にんすう(因数)。  
**しやうじ** (刺指) 名 生手足の指の先天の異常  
 によつて五本以上あること。  
**しやうじ** (娘軍) 名 むすめ。● 妻。婦人。  
 少女。處女。● 娘(軍) 名 船が舟の  
 妻平陽昭公名、多數の婦人を率ゐる唐高祖を助  
 けて、婦人を率ゐる唐高祖を助  
**しやうじ** (場師) 名 庭師。植木師。  
**しやうじ** (帖枝) 名 えた。  
**しやうじ** (帖試) 名 支那唐時代の明影の試  
 験に、經書一章の前後を紙で覆ひ、受験者をして其  
 のはり紙した文句を答へさせたこと。我が國の國  
 學・大學で、十日に一回施行した試験で、文章中の文  
 句を覆ひ隠して其の讀方を答へさせたこと。  
**しやうじ** (情事) 名 いつぱりない事情。ま  
 こころ。● 男女間の戀愛に關することがら。  
 戀愛。いろこと。

事なしたるをいふこと。  
じようじせい 常時税(名) 法律時に、毎年賦課し徴せられる租税。

じようじせい 常磁性體(名) 理(Paramagnetic body) 磁石に近づければ、その磁石に近い、方、異名の極が生じ、遠い方、同名の極が生じて、その磁石に吸引せられる物體。銅片などの類。

じようじせい 小字鏡(名) 鏡に「小」の字があるから、江戸幕府が元元元年に江戸本所小梅村で製造した寛永通寶錢。銅錢の二種あって共に紅褐色を呈する。

じようじせい 胴子體(名) 生(Corpus sterni) 眼後、水晶體、毛體及び網膜間の腔をみたして、前後に壓送された球形の半流動體。無色透明で水分に富み、前面の凹みは硝子體高で水晶體の後面を容れ、その表面を包む硝子體膜は、薄膜となつて毛體と虹彩の後面に續いて、後境界線となつてゐる。

じようじせい 上肢帶(名) 生 上肢を支へる骨格、肩帶と稱し肩胛骨その他の諸骨から成る。

じようじせい 傷疾(名) きずついで病むこと。

じようじせい 詳悉(名) つまびらか。一は「詳悉法」(名) 文修辭法の一。當の事物を活現してありありと感しめんが、餘すところなく詳しく敘する法。また一樣分に、くすおそ飛ばし、二様抄採んでは二階を隔ち切る職風のおそるしよの類。

じようじせい 品質(名) 理 結晶性の物質。

じようじせい 消失(名) きえうせること。

じようじせい 焼失(名) やけうせること。

じようじせい 蕭瑟(名) 風のものさびしく吹く音。

じようじせい 消日(名) 日にくらすこと。

じようじせい 實室(名) 四方の室の室。まことこの事實。①私情の爲に、瞭然たる處置にしないこと。私情にからまた事實。

じようじせい 上日(名) ついたち。朔日。①出勤日。常番の日。

じようじせい 常日(名) 副(名) ひごろ。つれ。いせい。ふだんの日。平日。

じようじせい 成實(名) 佛(佛) じようじせい 成實宗(名) 佛 佛教の一派。阿梨跋闍婆の成實論を祖述するもの。即ち龍谷を空とし、一切の假名戲論を去つて、空無の眞有より涅槃に到達するにある。支那では、姚秦の弘始十四年(四二二)に羅什三蔵が、成實論を譯し、僧叡が之を講じたの起り。唐初まで隆盛を極めた。我が國では推古天皇の朝、南都の西大寺・興善寺等で研究せられた。

じようじせい 定日(名) きまつた日。定(名) じようじせい 晶質岩(名) 晶(Crystalline rock) 結晶質の粒子の集積によつて成る岩石。花崗岩の類。

じようじせい 障子板(名) 障子で、室内外を隔てるものに似てゐるから、鏡の名所。總の左右の線上の前方に半月形に倒立つもの。薄鐵で製し、染筆で包み、頭骨を保護する具。

じようじせい 常事犯(名) 法 罪事犯以外の頭常の犯罪の總稱。

じようじせい 硝子膜(名) 硝子(Membrane) 動物の上皮組織が、外表面に或種の物質を分泌するによつて生ずるもの。又は最外層の細胞表面の硬化して強固な一層を生ずるもの。

じようじせい 小市民(名) 社(社) 小ガアル(古語) 中産階級。中産階級。

じようじせい 精進物(名) じようじせい 商社(名) 商事の結核。貿易商組合・通商會社・取引會・會社の類。幕末の政治家小栗上野介が英語の「コンパニー」を譯した語。

じようじせい 敬會(名) 四方に圍ひない、屋舎、や、バラック。

じようじせい 傷者(名) きずついた人。

じようじせい 勝者(名) 勝つた人。勝利者。

じようじせい 少者(名) 年のわかもの。わかものこと。

じようじせい 小舎(名) 小さい。この。じようじせい 小社(名) ちひさいやしろ。社格の低いやしろ。

じようじせい 小車(名) ちひさいくるま。なぐじようじせい 瀟灑瀟灑(名) さばりたこと。俗はなれてあざりたること。

じようじせい 抄寫(名) ねがきしてうつすこと。かきねき。

じようじせい 盛者(名) 勢の盛んなもの。一必衰(句) 佛 涅槃經卷二「夫盛者必有衰合會有別離」又、仁王經四の無常偈に「盛者必衰衰者必衰」とある。世は無常であるから、ときめく者も必ず衰へてくるといふこと。

じようじせい 生者(名) 佛 生きてゐる者。生命ある者。一必滅(句) 佛 大涅槃經に「生者必滅、會者定離」とある。世は無常であるから、生命あるものは、必ず死滅する時があるといふこと。

じようじせい 聖者(名) 佛 煩惱を離れ、正理を悟つた人。しゃうにん(聖人)。

じようじせい 精舍(名) 佛 梵名Sangha 精練行者の屋舎の意。僧侶が佛道を修行する所。禮拜の祠堂。てら、かみ。寺院。

じようじせい 常教(名) 中古以後の教の一。八處・放殺・誅殺・私讎・強盜・竊盜の外の犯罪者を教した。

じようじせい 淨寫(名) きれいに書き寫すこと。じようじせい 乘車(名) 車に乗ること。乗る車。一きつぶ(乗車切符) 名 乗車し得る權利資格を證するきつぶ。一けん(乗車券) 名 じようじせい 自用車(名) 自己の使用する爲の車。貨車又は挽いて貨棧なるとる爲の車に對していふ。

じようじせい 定者(名) 佛 じようじせい 小酌(名) 小人数のさかじり。

じようじせい 銷鍊(名) 金屬をとかすこと。金屬のとけること。

じようじせい 照尺(名) 軍服と共に、彈丸發射の際照準を定める爲、銃身の下部に近く定著せしめて、照準を具へたもの。

じようじせい 摺折(名) 佛 衆生を教化する佛法の順逆の二門、即ち攝受と折伏也。

じようじせい 小弱(名) ちひさくてかわい。この。又、そのもの。弱小。

じようじせい 繩尺(名) すみなはともまじこと。物事をはかる標準。このり。きき。

じようじせい 丈尺(名) だけ。ながさ。じようじせい 常寂光土(名) 佛 常住不變で解脱の光輝世界、即ち佛の居處。

じようじせい 性種(名) 佛 迷悟ともに變てぬ衆生の本性。

じようじせい 將種(名) 將軍の子孫。

じようじせい 聖主(名) 聖人たる人主明君。

じようじせい 噴茶(名) しょうりゅう(噴茶) 燒酒(名) 朝鮮の蒸餾酒。糯米又は高粱或は雜穀を原料として釀造する。一種の臭氣があつて酒氣なるとる。味して浸した酒。

じようじせい 撮取(名) 佛 じようじせい 誦呪(名) 呪文となへること。苦誦。多くくの聖者、ひじりた。

じようじせい 小樹(名) 小さい。小木。

じようじせい 攝受(名) 佛 じようじせい 攝瞞(名) じようじせい じようじせい じようじせい





しようしよう(石書) (色) 人を召し出す文書。

しようしよう(抄書) (色) 少所所領。

しようしよう(抄書) (色) むらぎ。抄本。

しようしよう(小書) (色) 二十四箇組の一。太陽の黄經が一〇五度に達する時刻。陰曆六月の節で、陽曆の七月八日頃に當る。

しようしよう(消書) (色) あつさを消すこと。あつさをしのぐ。

しようしよう(明所) (名) 歩哨の立つ所。

しようしよう(捷書) (名) 勝利を知らせる書簡。

しようしよう(座序) (名) 郷校を周では序といひ、殿では序といつたので、座校。「生地」。

しようしよう(生所) (名) うまれたところ。出しようしよう(倡女) (名) うたひ。

しようしよう(倡女) (名) 女郎。遊女。娼妓。

しようしよう(商女) (名) あきなひをする女。

しようしよう(庶役) (名) 上級の官位に敘せられる

しようしよう(小女) (名) みじかい序文。「と」

しようしよう(小女) (名) こむすめ。大寶令で三歳以上六歳以下の女子。

しようしよう(少女) (名) をとめ。むすめ。大寶令で十七歳以上二十一歳以下の女子。

しようしよう(消除) (名) けしのこと。とり

しようしよう(妾女) (名) めかけ。こしのこと。

しようしよう(上所) (名) 昔、手紙の宛名の

上にあつた。進上謹言上言などと記したこと。名宛

の箇所。あてどころ。

しようしよう(上書) (名) 思ふ言を書いて、官

又は貴人に書状を奉ること。又、その奉る書状。

しようしよう(常所) (名) 一定の居處。定ま

てゐる住所。

しようしよう(淨書) (色) 清書。淨寫。

しようしよう(情緒) (名) おもひにつれて起

こる情。こころ。おもひ。心(Emotion)と認識と

律なび起る。情。裏難な感情。一般感情と認識との

間に在し、おと生理上に關するもの。喜怒哀楽

樂等がこれに關する。

しようしよう(蒸暑) (名) もろびと。人民。

しようしよう(乗除) (名) 〇數がけさんとわ

りさん。〇倍すること。乘除のこと。

しようしよう(小伎位) (名) 昔、臨時に行は

れた敘位の儀式。

ようしよう(鏘鏘) (名) 玉の鳴る

音。音聲の聲。たがひなきさう。

ようしよう(昌昌) (名) 副。まじりなきさ

ま。明白なきま。

ようしよう(慄悚) (名) 副。おそれるさ

しうしよう(瀟瀟) (名) 地。支那湖南省沅

沅湖の南にある瀟水と湘水。一の流はつかけ

(瀟湘八景) (名) 地。瀟湘二水附近の八箇所の住

月瀟湘夜雨。煙寺曉鐘。漁村夕照。一。わづか

しようしよう(小小) (名) 副。わづかすこ

しようしよう(少少) (名) 副。わづかすこ

しようしよう(悄悄) (名) 副。元氣を失つて、心

しようしよう(蕭蕭) (名) 副。おのまびしく

しようしよう(瀟瀟) (名) 副。風雨のはげしい

しようしよう(將相) (名) 將軍と宰相と

しようしよう(證誠) (名) 昔の八省の雜仕

しようしよう(少將) (名) 昔の左右近衛府

の次官で、中將の次位にあるもの。軍。陸海軍の

武官。中將の下で、大佐の上に位する者。即ち將軍中

の最下位。

しようしよう(蕭蕭) (名) 副。かき。へい。

ようしよう(小祥) (名) 副。祥は凶服を脱

いで吉服に着かへる意)一周忌。一は宮儀の宵俵

しようしよう(少少) (名) 年わかいこと。年

しようしよう(小哨) (名) 軍。陸軍で緊要な

道程及び主要な地點の警戒に任する部隊。前哨中隊

から派遣せられた小隊で、歩哨を敵方に出して警戒

しようしよう(掌狀) (名) 副。問ひ手のたご

しようしよう(掌上) (名) 副。のひらのうへ

しようしよう(商狀) (名) 副。商業の狀況

しようしよう(猿猴) (名) 副。動) 長目類

人猿科の大形の猿。原産地はボネオ。マドの森



④ 猿猴

しようしよう(招請) (名) 副。招き迎へること

しようしよう(誦讀) (名) 副。とがめめること

しようしよう(小乘) (名) 乘。人。一。解脱の理想に

至らしむべき) 後期佛教の二大派部の一。大乘の

高尙・深遠なものに比して、卑近な教理。即ち淨極的な

高尙・深遠なものに比して、卑近な教理。即ち淨極的な

しようしよう(上相) (名) 上位の宰相。

しようしよう(上將) (名) 上位の將。

しようしよう(上聲) (名) 漢字の四聲の一。

重鎮・海部角・語・樂・齊賢・明・仲・阮・卓・清・饒・巧・魯・馬・香・標・別・有・疑・惑・感・嘆・謙の二十九種で皆凡庸である。

じょうじょうしやう (上生) (名) 佛所樂生上の階級の上品(上品)・中品(中品)の各の上位。(中生下生の對)

じょうじょうしやう (上姓) (名) 尊い種性 又えじょうじょうしやう (上城) (名) 城守の大將。

じょうじょうしやう (上衝) (名) のぼる。逆上じょうじょうしやう (上衝) (名) のぼる。逆上じょうじょうしやう (上衝) (名) のぼる。逆上

昇滑走面 (名) (理) 氣象學用語で、寒濕兩氣層が接觸する場合に、後者が前者の上に滑り上る界面。

一きりゆめ (名) 一上昇氣流 (名) 大氣中に於て空氣が上方に向かつて流動しつつある現象。雲を作り、雨を除く原因となるもの。一けい 一上昇(名) 一種他物によつて上昇する雲。紫雲、紫雲、紫雲の總稱。

じょうじょうしやう (丞相) (名) (丞) は承、(相) は助の意。普支那で天子を輔けて國政を執行した大臣。宰相。

じょうじょうしやう (繩床) (名) 佛を敬つて造じょうじょうしやう (繩床) (名) 佛を敬つて造じょうじょうしやう (繩床) (名) 佛を敬つて造

じょうじょうしやう (情狀) (名) わげが。事情じょうじょうしやう (情狀) (名) わげが。事情じょうじょうしやう (情狀) (名) わげが。事情

じょうじょうしやう (刑罰) (名) 刑罰の輕重をさだめる。刑罰の輕重をさだめる。刑罰の輕重をさだめる。

じょうじょうしやう (上上吉) (名) きはめて吉なること。最もよいこと。○急事の位階で、きはめての上になくよいこと。

じょうじょうしやう (常常) (名) 副 ふだん。つれづれ。一綺羅の晴着無し (名) 常に美服を着飾つてゐるから、これと定めた晴着がない。

じょうじょうしやう (稜稜) (名) 副 〇メのりの伊

たがなさま。○数の多いさま。

じょうじょうしやう (上乘) (名) 佛最上の教法。○最もすぐれたこと。

じょうじょうしやう (上場) (名) 〇經取引所が或物件又は銘柄を清算取引市場に登録して、其市場に於いて賣買を許すこと。じやうば。○上場。

じょうじょうしやう (蒸蒸) (名) 〇物の盛んに起るさま。○火氣の昇るさま。○おむすむさま。

じょうじょうしやう (煽煽) (名) 〇風のそよそよと吹くさま。○しなやかなさま。○音楽のなかくひびくさま。

じょうじょうしやう (條條) (名) 〇副 圓條ごとに。かじょうじょうしやう (條條) (名) 〇副 圓條ごとに。か

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 花茎置物産の最も高いのを豎足。低いのを細足、花形の華足(行)といふ。

じょうじょうしやう (清淨石) (名) 手水鉢の傍に置まる石のぞきいし。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇本種は長く、聖上陛下が皇太子にあらせられた時、大正七年春、清淨御用邸附近の海岸で御採集遊ばされた。その標品に寺尾翁が命名したものである。なぐさび族の一種。全身猩猩形で美しく、頭部は大きく、甲冑部は薄く不滑である。○頸突起は短く僅に眼の先端を越え上面が下面とも細く無。頭胸部の側方には鱗角上縁から後走する不規則な縁がある。

じょうじょうしやう (猩猩花) (名) 〇植器(植器) 科の常緑小灌木。葉は掌状に三〜五裂し、裂片は廣卵形で先端尖り、細鋸齒を有し、葉柄は線長である。花は橙黄色又は紅色で、五瓣から成り、秋日、疎かな花穂の頂に鐘状をなして懸垂する。しじょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇動



〔足 猩猩〕

じょうじょうしやう (承上起下) (名) 前文を承けて後文を説き起すこと。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (上將軍) (名) 上級のじょうじょうしやう (上將軍) (名) 上級のじょうじょうしやう (上將軍) (名) 上級の

毎に、常に勝軍。 (名) 〇戰ふ支那清朝に於ける長髮賊の亂の際、殊功を奏した軍隊。アメリカ人ワードが外人と清兵とを以て組織したの。同治二年(一八六二)イギリス人ゴルトンが之を率ゐ、奮力攻撃し、江淮各地で勝利を占め、翌年南京陥落の際には其の勳功最も偉大であった。

じょうじょうしやう (清淨光佛) (名) 佛淨光即ち衆生の貪欲を除くといふ光明を發すると傳へられた佛。即ち阿彌陀佛。

じょうじょうしやう (猩猩小僧) (名) 玩具の一種。猩猩の形をした人、蓋の中に入れての蓋に挿した笛を吹くと、蓋の中の猩猩が同轉する装置のもの。

じょうじょうしやう (證誠寺) (名) 佛眞宗十派の一本山。福井縣今立郡新橋江村横越にあり、眞宗元派の本山で、親鸞が越後國阿倍に配流の際、丹生郡山元の草庵に留錫し、のちその子善喜をして吾徒に弘法せしめたに始まる。のち二條天皇から勅願所の宣下を蒙り、眞宗三門徒の一に數へられる。

じょうじょうしやう (誠照寺) (名) 佛眞宗十派の一本山。福井縣今立郡新橋江村横越にあり、眞宗元派の本山で、親鸞が越後國阿倍に配流の際、丹生郡山元の草庵に留錫し、のちその子善喜をして吾徒に弘法せしめたに始まる。のち二條天皇から勅願所の宣下を蒙り、眞宗三門徒の一に數へられる。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

派の一本山。福井縣今立郡新橋江村の眞宗誠照寺の本山で、親鸞が越後國阿倍(波瀾)の途次の留錫の地。嘉禎元年、親鸞の子道性が舊跡を繼ぎ、三世道覺が、弘安二年に堂宇を興した。のち後二條天皇から勅願所の宣下を蒙り、誠照江門跡、誠照寺。一は

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。

じょうじょうしやう (猩猩) (名) 〇一種。花は紅色。果頂の尖つたもの。大輪を首。猩猩、小輪を小猩猩といふ。○大將軍。動物の分類。



年の條の句) 小人として始めから罪を犯か一本とす  
るわけではないが、物質上の事になると、罪を犯すや  
うになる。一の過や必ず文(句) (論語  
子張篇の句) 小人は過があつても改めようとはしな  
いで、之をつつひかざらうとする。一の勇(句) (論語  
匹夫の勇)

しよらじん(權人)(名) きこり。そまびと。  
しよらじん(燒盡)(名) すかり焼けること。  
すかり焼くこと。

しよらしん(上申)(名) 上へ意見や事情を申し  
上げること。一しよら上申書(名) 上へ申し出  
しよらしん(誠信)(名) 誠實に書いし人。「る文書。  
しよらしん(城津)(名) 地) 朝鮮咸鏡北道咸  
津郡の首邑。臨津に臨る開港城。

しよらしん(仗身)(名) 護衛の武士。  
しよらじん(情人)(名) 意中の人。こひした  
ふ人。こひびと。じやうじん。

しよらじん(常人)(名) 普通一般の人。なみ  
じよらじん(丈人)(名) 丈は杖に通じ  
しよらじん(老人) 長上。あるし。主人。①しよらと。妻の  
父。一しよら丈人行(名) 妻の父の地位に  
あること。「立ち易く權ふた一本の木大木。  
しよらしんぎ(正眞木)(名) 庭などに目に  
しよらじんぶつ(小人物)(名) 小さな人  
物。品性の低い人。  
しよらす(莊主)(名) 佛經等で、寺田の耕作  
しよらす(賞す)(他動) 賞さす。サマシ。ほ  
める。たたへる。よぶ。よめる。  
しよらす(稱す)(他動) 稱さす。サマシ。とな  
へる。いふ。よぶ。よめる。ほめる。  
しよらす(證す)(他動) 證さす。サマシ。證據  
しよらす(護す)(他動) 護さす。サマシ。護  
しよらす(願す)(他動) 願す。サマシ。功徳を  
文や言葉の上ではめたたへる。  
しよらす(誦す)(他動) 誦す。サマシ。よ  
む。となへる。①よぶ。よめる。  
しよらす(消す)(他動) 消す。サマシ。

けす。①おく。く。くらす。まける。はらふ。なくす。  
しよらす(消す)(自動) 消す。サマシ。消  
えさる。なくなる。  
しよらす(抄す)(他動) 抄す。サマシ。抄  
す。サマシ。つづ。①ぬきがきさる。②すく(誰  
く)。③すくふ。  
しよらす(攝す)(他動) 攝す。サマシ。①つ  
まむ。  
しよらす(接す)(他動) 接す。サマシ。①つ  
まむ。  
しよらす(生す)(自動) 生す。サマシ。①  
おふ。はえる。②できる。③おまらる。  
しよらす(生す)(他動) 生す。サマシ。①  
おだてる。はやす。②できる。③おまらる。  
しよらす(請す)(他動) 請す。サマシ。招  
待する。まねく。  
しよらす(狀す)(他動) 狀す。サマシ。あ  
らわしたす。かたどる。形容する。(古語)  
しよらす(上衆)(名) 貴い人。(下衆)の對  
じよらす(上手)(名) 巧みなこと。てきはの  
よいこと。①世辭のよいこと。如才のよいこと。  
②器將棋など、七段の技倆を有する。七段上手。  
八段名人。九段名人。(今手)の對)の「手か  
ら水が漏る」上手なもので、時には失敗が  
ある。一の猫が爪を隠す(句) 上手なものは、  
容易に手尻をあらはさぬこと。聲。  
しよらす(成す)(自動) 成す。サマシ。成  
し。通ける。成就する。  
しよらす(乘す)(他動) 乘す。サマシ。掛  
ける。掛ける。①る。②つける。つけこむ。  
しよらす(乗す)(自動) 乘す。サマシ。①  
しよらす(將帥)(名) 軍隊を率ふる將軍。  
大將。  
しよらす(傷悴)(名) 心をなだめてやつれ  
しよらす(松窓)(名) まつのみどり。  
しよらす(小水)(名) ①この水。②小  
便。一石を穿つ(句) (道教經の句) 小水でも流

れてやまなければ、遂に石をすりへらして穴をあけ  
る。即ち意にすまぬ。如何なる難事でも目的を達す  
るを得る。一の魚(句) (出曜經及び往生指因の  
句) 小水に住む小魚、即ち死の目前に迫ること。聲。  
しよらす(小酌)(名) ちうと酒に酔ふこと。  
はらふ。飲酒。①。

しよらす(憔悴)(名) 蕉萃(名) やせお  
とらへること。やつれること。  
しよらす(小穂)(名) 穂(の穂) 禾本  
科植物に、莖葉の科植物の花穂に於いて、單位  
をなすべき最小の穂粒體。第一又は數箇の花より成  
る。禾本科植物の小穂には、下に頭がある。  
しよらす(涉水)(名) 水中をわたること。  
しよらす(涉水鳥)(名) 動) 涉禽類の鳥。  
一ちよう引(涉水類)(名) 動) 涉禽類の鳥。  
しよらす(動) 涉禽類の鳥。  
しよらす(祥瑞)(名) めてない前兆。よろ  
しよらす(陶工)(名) 陶工。伊羅王。  
運稱五郎大夫。伊勢國松坂の人といふ。後柏原天皇  
の朝國に渡り、磁器の製法を學び、饒州窯の秘奥を  
究めて歸つた。その作は質實で、釉素白く光澤があ  
り、藍色の圖樣を描き、雅致に富み、五良大雨染祥  
瑞の銘がある。しんする。  
しよらす(水上)(名) 飲料用の清水を通  
ずる流又は管。下水の對) ①江戸市民の飲料水に用  
ひた神田・玉川・千川の三上水の名稱。一しよらす  
②「水上錠(名) 薬水の消毒に使用する錠劑。  
タロル又はコード若しくは高度晒粉タライを主要  
とするもの。  
しよらす(浄水)(名) きよい水。きれ  
いな水。②であらひ水。一「浄水池(名) 水道  
設備で、濾過池から出て来る水を貯蔵する池。  
しよらす(常陸)(名) 常に附き従ふこと。  
しよらす(水道)(名) (Water  
supply) 飲料用。日常用。製造工業。消防。曝水等の水  
を供給する施設。水道。  
しよらす(少數)(名) 數の少ないこと。(多數

の對) 一かぶぬしけん少數株主權(名)  
【法律主權の一】。資本金の十分の一以上の株式を有  
する株主が、商法第一六〇條の規定によつて行使し  
得る特別の權利。一しよらす(少數黨)(名) 政  
治的黨の一人を以て組織する黨派。その政治上の職能  
は對立する多數黨の間に介在してカスティンゲル  
一トを視る際に發揮される。  
しよらす(小數)(名) 數より小さい  
數。多數の對) 一しよらす(小數點)(名) 數小數  
の部に整数の部とを區別する爲に、一位と十分一位  
との間に附ける點。  
しよらす(常數)(名) 自然に定まるた運  
命。①一定の數量。②物理)一定の状態に於ける各物  
質の性質に關する一定量を示す數。即ち比熱・比重・  
屈折率など。③「數常に一定不變なる數。x+y=a  
+zのa及びa'、又圓周率の3.14159...、三角形  
の内角の和の二直角なる類。總數の對)  
しよらす(繩樞)(名) なはてつくとたばその  
意味から、堅くつよめる家。  
しよらす(乘數)(名) 計算の掛ける方の  
數。或數に乗する數。(被乘數)の對)  
しよらす(條數)(名) 箇條の數。  
しよらす(少數派運動) 少數の對)  
しよらす(社)團體としての行動を決定する多數意見に  
反對する少數者が、自派の意見に勢力を扶給して、  
全國體を自派の支配下に置き、以て決定權を得よう  
とする運動。  
しよらす(民族保護條約)(名) 一九一九年及  
び一九二〇年同盟及び聯合會が歐洲特に戰敗國や  
新興國に於ける少數民族保護の必要から締結した條  
約。この條約に於ける國際聯盟監督下の國は、ポー  
ランド・チカゴスロヴァキア・ユーゴスラヴィヤ・ル  
ーベニア・オーストリア・ハンガリー・アルバニア  
ルベニア・バルチック諸國上部シレジア・デンチッチ  
ギルシヤ・アルメニア・トランシルバニア



「少数民族保護問題」(名) ①「土」の既成國家法及び國際法の範圍内に於いて一國內の民族の特徵・習慣・自治的機能等を可及的に保護指導すること。②種民地中種民地に於ける被壓迫民族の反帝國主義運動の如く、プロレタリア解放運動の線に沿ふ民族保護支援。

「少額支拂」(名) 敗軍の大將に附随する。①「小豆蔻」(名) ②「種葉薄荷」(名) 科の多年生草本。英領東印度の産。高さ約三米。葉は披針形、縁が似花は藍色の形で、圓錐花序に配列し、蒴果を結ぶ。果實は約三パーセントの揮發性油を含有し、醗酵アルビノールを主成分とする。芳香性健胃薬とする。

「江戶時代」(名) 徳川家康が徳川幕府を建てたのに基づく。江戶時代に、銀座銀貨鑄造所發行の丁銀の種印に使用した文字。①銀位を檢定して丁銀を封印した所。銀座。

「上座」(名) 如才ないもの。おせいの。①「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。②「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。

「上座」(名) 如才ないもの。おせいの。①「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。②「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。

「上座」(名) 如才ないもの。おせいの。①「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。②「上手者」(名) 如才ないもの。おせいの。

「昌世」(名) よくなまきまつた世。さうやせい。①昌世。めでたい御世。さうやせい。②昌盛(名) さかんなこ。さかえること。③「しめすこと」。

「商勢」(名) 商業の形勢。商況。しやうせい。①「商勢」(名) 商業の形勢。商況。しやうせい。②「商勢」(名) 商業の形勢。商況。しやうせい。③「商勢」(名) 商業の形勢。商況。しやうせい。

「小星」(名) ちひさい星。しやうせい。①「小星」(名) ちひさい星。しやうせい。②「小星」(名) ちひさい星。しやうせい。③「小星」(名) ちひさい星。しやうせい。

「小生」(名) 後輩。末輩。しやうせい。①「小生」(名) 後輩。末輩。しやうせい。②「小生」(名) 後輩。末輩。しやうせい。③「小生」(名) 後輩。末輩。しやうせい。

「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。①「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。②「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。③「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。

「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。①「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。②「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。③「正税」(名) 正税出納記載の根據。しやうせい。

「商稅」(名) 事情となりゆきま。しやうせい。①「商稅」(名) 事情となりゆきま。しやうせい。②「商稅」(名) 事情となりゆきま。しやうせい。③「商稅」(名) 事情となりゆきま。しやうせい。

「焦性没食子酸」(名) 化 Pyroglutamic acid 没食子酸に熱を作用させて製した白色針狀の結晶體。有毒。最も優劣なき高純現像薬に用ひる。俗にパイロといふ。しやうせい。①「焦性没食子酸」(名) 化 Pyroglutamic acid 没食子酸に熱を作用させて製した白色針狀の結晶體。有毒。最も優劣なき高純現像薬に用ひる。俗にパイロといふ。しやうせい。②「焦性没食子酸」(名) 化 Pyroglutamic acid 没食子酸に熱を作用させて製した白色針狀の結晶體。有毒。最も優劣なき高純現像薬に用ひる。俗にパイロといふ。しやうせい。③「焦性没食子酸」(名) 化 Pyroglutamic acid 没食子酸に熱を作用させて製した白色針狀の結晶體。有毒。最も優劣なき高純現像薬に用ひる。俗にパイロといふ。しやうせい。

「硝石」(名) 化 Nitrate 硝石酸の結晶體。白色又は白色灰色、玻璃光澤を有する透明乃至半透明な結晶體。天然のものには針狀又は毛髮狀の集まりを呈す。人造のものには柱狀の六角晶系の晶體を有し、六角形又は三角形。天然には、乾燥地に石灰又は木灰等と混ざり、肉片等と相混じりたるもの堆積した時に生じ、イタリーのカラブ・東印度及びセーロン等に産する。人工的には、硝石溶液に鹽化加里溶液を加へ、蒸發させて製する。火薬の原料。硝子玻璃の製造、又は肥料として重用される。しやうせい。①「硝石」(名) 化 Nitrate 硝石酸の結晶體。白色又は白色灰色、玻璃光澤を有する透明乃至半透明な結晶體。天然のものには針狀又は毛髮狀の集まりを呈す。人造のものには柱狀の六角晶系の晶體を有し、六角形又は三角形。天然には、乾燥地に石灰又は木灰等と混ざり、肉片等と相混じりたるもの堆積した時に生じ、イタリーのカラブ・東印度及びセーロン等に産する。人工的には、硝石溶液に鹽化加里溶液を加へ、蒸發させて製する。火薬の原料。硝子玻璃の製造、又は肥料として重用される。しやうせい。②「硝石」(名) 化 Nitrate 硝石酸の結晶體。白色又は白色灰色、玻璃光澤を有する透明乃至半透明な結晶體。天然のものには針狀又は毛髮狀の集まりを呈す。人造のものには柱狀の六角晶系の晶體を有し、六角形又は三角形。天然には、乾燥地に石灰又は木灰等と混ざり、肉片等と相混じりたるもの堆積した時に生じ、イタリーのカラブ・東印度及びセーロン等に産する。人工的には、硝石溶液に鹽化加里溶液を加へ、蒸發させて製する。火薬の原料。硝子玻璃の製造、又は肥料として重用される。しやうせい。③「硝石」(名) 化 Nitrate 硝石酸の結晶體。白色又は白色灰色、玻璃光澤を有する透明乃至半透明な結晶體。天然のものには針狀又は毛髮狀の集まりを呈す。人造のものには柱狀の六角晶系の晶體を有し、六角形又は三角形。天然には、乾燥地に石灰又は木灰等と混ざり、肉片等と相混じりたるもの堆積した時に生じ、イタリーのカラブ・東印度及びセーロン等に産する。人工的には、硝石溶液に鹽化加里溶液を加へ、蒸發させて製する。火薬の原料。硝子玻璃の製造、又は肥料として重用される。しやうせい。

「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。①「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。②「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。③「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。

「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。①「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。②「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。③「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。

「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。

「城蹟」(名) しろゝと。城址。しやうせき。①「城蹟」(名) しろゝと。城址。しやうせき。②「城蹟」(名) しろゝと。城址。しやうせき。③「城蹟」(名) しろゝと。城址。しやうせき。

「定席」(名) きまつた座席。しやうせき。①「定席」(名) きまつた座席。しやうせき。②「定席」(名) きまつた座席。しやうせき。③「定席」(名) きまつた座席。しやうせき。

「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。①「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。②「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。③「小節」(名) ちひさいふし。しやうせつ。

「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。①「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。②「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。③「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。

「小説」(名) 文の支那で、街談構想し、又は事實を脚色して人間の個性とその相違から起る。人間の波瀾及び社會の形相を、文字で表現した散文體の物語。小説といふ名稱は、坪内逍遙がその著「小説神髓」中に「Novel」(小説)といふ語の譯語として用ひたに始まるが、現今はロマンズ(Romance)及びフタタシオン(Futashion)をも包含する意味に用ひられて、材料の新鮮によつて歴史小説現代小説、その文化的水準によつて純文學大衆文學に大別される。一か「小説家」(名) 小説の作者。しやうせい。

革新の文學論。坪内逍遙著。明治十八年刊行二卷。小説の本質・變遷種類・目的・文體・結構・主人公の性格・描寫の方法等を選べ、新しい小説の何たるかを組織的に開明した。一ぼん(小説本)(名)小説を記載した本。

しゅうせつ(勝絶)(名)最もすぐれてゐること。  
しゅうせつ(勝絶調)(名)音十二律の一。支那名は夾鍾調。鑼樂器の二調に當る。  
しゅうせつ(勝絶) 鑼樂器(名) きりそいだやうにけしはし。

じょうせつ(常設)(名)常に設けてあること。一かん(常設館)(名)特種のために供する爲に常設した建物。一映畫常設館、即ち入場料を取って常に映畫を上映せさせる建物。一こくさいしほささいばんし(常設國際司法裁判所)(名)國際裁判所の一。國際聯盟規約第十四條によつて、一九二二年、オランダ國ハーグに設置された裁判所。當事國が附託する一切の事件、及び現行諸條約に特に規定する一切の事項の裁判、並びに聯盟總會又は理事會の諮問に應じて勸告の意見を提出するが目的である。一ちゅうさいさいばんし(常設仲裁裁判所)(名)一九一九年第一回平和會議に於ける國際紛争の平和的處理條約に基つて、國際紛争の仲裁裁判をなす裁判所。オランダ國ハーグに常設せられた。國際事務局と同じ國際指定仲裁裁判官の名簿があつて、仲裁裁判の提起ある毎に、名簿中より裁判官を選定して法廷の組織せられる。

じょうせつ(浄土)(名)佛の淨土。靈地。  
じょうせつ(定説)(名)ていせつ。寺院。  
じょうせつ(浄土) 浄土(名) 多辯なくして、べること。一か(鏡舌家)(名)くさくべること。人。一か(鏡舌家) 硝石灰(名) 化生石灰に水を注ぐ時、熱を發し、崩壊して生ずる白色の粉末。成分は水酸化カルシウム。晒粉・肥料・漆喰・消毒・化學工業上を用ひられる。

しゅうせつ(硝石膏)(名)化生石灰。

しゅうせつ(硝石膏) 硝石膏(名) 化生石灰。

百(100)結晶水の半分乃至四分の三を失つた石膏水を加へると硬く固まる性質があるから、之を利用して石膏細工を作り、石膏鑄造に用ひ、鑄物の模製作原料とし、或は陶磁器の型等に加へる。又、燒石膏を種火一六八度まで熱すると、水を加へても固まらなくなるから、白墨や墨などに使用される。

しゅうせん(船商)(名)船商業上の用途に登錄せられたもの。客船・貨物船・特殊貨物船・列車渡船・油輪船等の種類がある。一がっこう(船舶學校)(名)航海機關に關する學術・技術を授ける目的の實業學校で、船舶工業を養成するもの。昭和四年度の學校數公立十二校。一こそう(船舶運送)(名)戰時に船舶が軍艦によつて運送されること。一ほかにく(船舶捕獲)(名)戰時に、交戰國の軍艦が敵國又は中立國の商船を捕獲すること。

しゅうせん(省錢)(名)昔、百文に満たぬ錢を百に運用せしめたもの。九六錢の類。  
しゅうせん(省線)(名)鐵道省の管理に屬する汽車又は電車の線路。一省線電車の略。  
しゅうせん(小川)(名)ちひさい川。がは。ながは。

しゅうせん(小船)(名)ちぶね。なづね。  
しゅうせん(小艇)(名)ちりり。ちりり。  
しゅうせん(小舟)(名)ちりり。ちりり。  
しゅうせん(小善)(名)ちろちとした善事。  
しゅうせん(生前)(名)生きてゐる間。せいぜん。(死後の對)。

しゅうせん(承前)(名)前文をうけつこと。つしゅうせん(鏘然)(名)玉の鳴る音。音鏘の聲。  
しゅうせん(鏘然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(鏘然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(鏘然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(鏘然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(鏘然)(名)副。おきれるさま。

しゅうせん(蕭然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(蕭然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(蕭然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(蕭然)(名)副。おきれるさま。  
しゅうせん(蕭然)(名)副。おきれるさま。

しゅうせん(悄然)(名)副。元氣のないさま。うれへるさま。  
しゅうせん(昭然)(名)副。あきらかなさま。  
しゅうせん(上船)(名)船に乗ること。  
しゅうせん(上船)(名)船に乗ること。  
しゅうせん(上船)(名)船に乗ること。  
しゅうせん(上船)(名)船に乗ること。  
しゅうせん(上船)(名)船に乗ること。

しゅうせん(乘船)(名)つれづれの食膳。  
しゅうせん(乘船)(名)つれづれの食膳。  
しゅうせん(乘船)(名)つれづれの食膳。  
しゅうせん(乘船)(名)つれづれの食膳。  
しゅうせん(乘船)(名)つれづれの食膳。

しゅうせん(刺錢)(名)のつた。か。つり。  
しゅうせん(刺錢)(名)のつた。か。つり。  
しゅうせん(刺錢)(名)のつた。か。つり。  
しゅうせん(刺錢)(名)のつた。か。つり。  
しゅうせん(刺錢)(名)のつた。か。つり。

しゅうせん(昭宣公)(名)入藤原基隆の諡。  
しゅうせん(昭宣公)(名)入藤原基隆の諡。  
しゅうせん(昭宣公)(名)入藤原基隆の諡。  
しゅうせん(昭宣公)(名)入藤原基隆の諡。  
しゅうせん(昭宣公)(名)入藤原基隆の諡。

しゅうせん(小千世界)(名)佛須彌山を中心とした世界。即ち日月と須彌山と、その四方の四天と、その上空の三十三天、四天王夜摩天兜率天樂變化天他化自在天梵世天とを以て成立する世界を千集めた世界。  
しゅうせん(將然段)(名)文法動詞形容詞助動詞の第一活用形。これに助動詞助詞が添はつて未然又は肯定肯定意を加はす。晴なら「咲かば」「死なば」「爲さば」など。未然形。  
しゅうせん(死なば)「死なば」「爲さば」など。未然形。

しゅうせん(成選短冊)(名)中古・二月の列見日に選んだ六位以上の藝能器名

ある人の名を書いてある短冊。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虛言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。  
しゅうせん(小前提)(名)論理論理三段論法に於ける第二の前提で、小辭を含まないもの。すべての前提は禁ずべし(大前提・大辭)關係に於ける虚言は禁ずべし(小前提・小辭)の類。

しょうそう (尚早) (名) 時機のなほ早いこと。一ろん (尚早論) (名) 或事を實施する時機が尙早として是認しない議論。  
しょうそう (章草) (名) 草書と行書の間に位すべき一體、草書より先としたもので、後漢の章帝の時、杜操位度か、これをよくしたので、章帝が稱揚したから此の名が出たといふ。  
しょうそう (傷創) (名) 傷さす。  
しょうそう (傷損) (名) いたみなしむ。  
しょうそう (尚崇) (名) たふとびあめると。  
しょうそう (請債) (名) こひまいた債。  
しょうそう (聖債) (名) 高債。  
しょうそう (請奏) (名) 貴、諸司から奏文を奉て上請した。  
しょうそう (商僧) (名) あきなきを誓ひ。  
しょうそう (小僧) (名) ちひさいできもの。  
しょうそう (小僧) (名) こまど。  
しょうそう (少壯) (名) わかざかり。わかて勢の盛んなこと。  
しょうそう (幾時ぞ) (句) (漢武帝の秋風辭の語) 少壯の時、極短くて、すぐに老衰の時が来る。  
しょうそう (情愴) (名) かなしみいたむ。  
しょうそう (小僧) (名) こまど、こぼす。  
しょうそう (尙藏) (名) たつとんで大切に保管すること。  
しょうそう (性相) (名) 佛正法と像法と現象と。  
しょうそう (肖像) (名) 容貌にかなたどつて寫した畫像。あすがた。一が (肖像畫) (名) 肖像像を畫いた繪。  
しょうそう (情操) (名) (心) (Sentiment) 情緒より高尚なもので、最も複雑な感情。眞理なつとび、道徳に従ふ感情。知的、道徳的、美的、宗教的の四種がある。  
しょうそう (情想) (名) 感情と思想と。  
しょうそう (常操) (名) 常に遵守する節義。

しょうそう (上奏) (名) 政官廳職院等が、天皇に對し奉て、法令に容認せられた意見又は事實を開陳し、聖断を仰ぐこと。一あん (上奏案) (名) 帝國議會で討論に付する上奏の草案。  
しょうそう (上奏權) (名) 法上奏する權利。國務大臣は國務、政務及び自己の主管する行政事務について隨時上奏すること、議院は宮内大臣を通じて又は議長が拜謁して議院の意見を上奏すること、また、陸海軍大臣、參謀總長、軍令部總長は、軍機、軍令につき隨時上奏權がある。  
しょうそう (上) (名) 上方のさまなり。  
しょうそう (上層建築) (名) 社會の經濟的機構を土臺として、その上に築かれた政治的、法制的機構を土臺とし、藝術等の如き社會的實在、上層建築といふ。  
しょうそう (上層社會) (名) 上流社會。貴人、富豪の社會。一りゅうりゅう (上層流) (名) 上層の潮流又は氣流。  
しょうそう (淨藏) (名) 佛、法華經の妙莊嚴王本事に出づ。淨眼と共に過去の世の光明正嚴の妙莊嚴の王子。佛道を修めて神通力を得、邪見な父王の心を奇理を以て轉かしめ、佛に就いて法華の利益を得させたいといふもの。一人、天台宗の高僧。寛平法皇の弟子。三善清行の子。比叡山に赴いて受戒し、のち諸高山に遊歷修行し、平路門の亂に當つて大威徳法を修した。康元年(八二四)洛東雲居寺に親年七十四。敬して淨藏實所といふ。その著に胎藏界私記がある。  
しょうそう (醸造) (名) 酒類、醬油等をつくること。一しけんじよ (醸造試験所) (名) 大蔵大臣の管理に屬し、酒類、醬油醸造の試験及び講習に關する事務を掌る所。一しめ (醸造酒) (名) 清酒、葡萄酒、麥酒、紹興酒の如く、穀類、果實を原料として醱酵せしめてつくつた酒。(混成酒の對)  
しょうそう (正藏院) (名) 正倉院。  
しょうそう (正法) (名) 正像法。三佛、正法、正像法と末法時と、即ち釋尊入滅後の三時代。

しょうそうりつぶん (正藏率分) (名) 昔、毎年度蔵者に納める調庫、雜物の十分の一を正藏率分、別納して非常の用に供した。一どら引 (正藏率分堂) (名) 正藏率分によつて納入した調庫、雜物を貯藏した所。準分堂。  
しょうそう (承足) (名) 昔、勳帝が御椅子に就かせられた時に用ひた御足をうける臺。  
しょうそう (消息) (名) きえるを生ずるもの。一つりかおとつれ。一安否。動靜。やすす。おしむき。一往來。おはつれ。たより。一手紙。一あわせ (消息合) (名) 手紙を多く持ち寄つて之を互に比して優劣を暇はせる遊戯。列者があつて判定する。一しせん (消息口宣) (名) 手紙を流す口宣。一し (消息子) (名) ちみかむ。一ぼんげり (名) 無責任性持の器具。金屬性と軟性力性のものがある。主として尿道膀胱内の探查尿道の擴張等に用ひる。一せんげ (消息宣下) (名) 口宣。案に手紙を添へた宣下。一つう (消息通) (名) 公人、私人の動靜を調べてよく知つてあること。又その人。一ぶん (消息文) (名) 手紙の文。書讀文。書簡文。  
しょうそく (捷速) (名) 早いこと。すばやい。一しょうそく (裝束) (名) 家内の器具とな飾りよそはふこと。かざりつけ。一衣冠などな著けること。よそはひ。みじなど。一おさめ (冠)。禮服。一家具の化粧金具。一おさめ (裝束納) (名) 夏の化粧前に備へ能樂。一し (裝束司) (名) 中古、行幸大御會、御禮大辨などの際、時に設けられた、服の事を掌る職。一し (裝束家) (名) 世襲の事を掌つた三條、大炊、御門、山科等の諸家。一の (裝束假) (名) 正規の裝束で、外官の拜命の際には休職。一のかさ (裝束傘) (名) 昔、裝束を著けて外出する際、腰に持たせた、廣さ八尺で、弓を持つて馬に乗る際、弓の濡れぬ様のため、さしめ (裝束始) (名) 裝束を始めとする。一はじめ

の休業が終つて秋に於て始めて能す能。一ひな (裝束雛) (名) 裝束を著けた雛人形。  
しょうそく (飛賊) (名) 人をさふこも。人をさりにこすこと。  
しょうそく (品簍) (名) 簍 (Dress) しょうそく (品簍) (名) 簍 (Dress) しょうそく (自動力カ四) 裝束をつ  
しょうそく (土足) (名) 上層の門弟。高弟。  
しょうそく (常則) (名) 通常の法則。常規。  
しょうそく (土簍) (名) 簍が十分發射して體の透き通つた土簍を造らせる爲に、簍を置いた、これにのほらせること。  
しょうそく (生即無生) (名) 佛の小乘にて、の世に生ずるが故に懐みがあるが再び生ずることない、涅槃に入れば懐みはない、ふこと。大乗で、實相を見れば懐むべき生なく、そのまま無生なる涅槃である。  
しょうそけん (商租權) (名) 日法日交交渉の一要件。大正四年、大隈内閣が支那の袁世凱の中華民國政府に交渉した條件中、滿洲支那古の土地賃借所有に關する三十年間期限附の權限。  
しょうそく (消息) (名) おとつれ。たより。  
しょうそく (あわせ) (名) 消息合。  
しょうそく (自動) (名) 自動、ラ四たりなしたと思ふ。古語。一ぶみ (消息文) (名) おとつれ。たより。みやびことには、花の枝などにつけてやる。(古語) (文) 消息消  
しょうそつ (將卒) (名) 將校と兵卒と。將兵。  
しょうそほう (定租法) (名) 數年間一定せし租額納の法則。即ち、江戸時代の定免。  
しょうそん (仍孫) (名) 子孫の曾孫。  
しょうそん (小損害) (名) 少額の損害。一海損。





しょうちやく (正嫡) (名) せいきてき。  
しょうちゅう (掌中) (名) たなごころのうち。手中の。①領有の範圍。②の珠 (句) (杜甫の「蜀漢中王時に」) 掌中探見一珠新とあるに基づく③最愛の子供。

しょうちゅう (燒酎) (名) 國產蒸溜酒の一種。清酒類、味醂類を蒸溜して製し、又は米、蕎麥、稗、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯等を原料として醸造される。飲料として又、餡酒及び各種の清酒製造の原料に用いられる。①ひび (焼酎火) (名) 焼酎を燃料として燃す火。芝居で、猿火、闇燈の場などに用ひる。②ちいさい (名) ちいさい。

しょうちゅう (笑中) (名) わらひのうち。①刀あり (句) (鹿屋春の森民傳に人ある句) うはへなやましく見せて、内心陰険に入らぬ事をする。②ぶ。

しょうちゅう (城) (名) 城のなか。①ぶ。

しょうちゅう (條邊) (名) 動 (動) きょうちゅう。  
しょうちゅう (彰著) (名) あまつかにあらはれ。

しょうちゅう (昭著) (名) あまつかにあらはれ。

しょうちゅう (正丁) (名) せいいてい。

しょうちゅう (匠工) (名) 貴。飛騨國から真進した匠人の社丁。

しょうちゅう (莊長) (名) しんじ (莊司)。  
しょうちゅう (省帳) (名) 昔、民部省で保管してゐた圖帳。

しょうちゅう (上帳) (名) 煙燭のつづみか。

しょうちゅう (省長) (名) 中華民國の一作の行政長官。

しょうちゅう (象徴) (名) 象徴。抽象的な精神内容を具象的な實在の事物によつて具體的にすること。又は説明を要さないで、或特定の意味を興へるもの、亦が情勢革命を象徴する類。文學繪畫彫刻に於て重んじられる要素。①げき (象徴劇) (名) 文藝劇又は演劇表現に於いて、抽象的な精神内容を象徴的に具體化する劇。ハイザーの「メー

しょう—しょう

タルリンス、イギリスのオスカー・ワイルド等の劇は之に屬する。②し (象徴詩) (名) 文西曆一八八五年からフランス詩壇に起つた詩の一派で、象徴を以て暗示し、讀者の心緒に或な影響をせしめ、詩者 (象徴主義) (名) 文の (日) 象徴主義。自然主義文學の赤裸裸な叙述による態度に反對して、感傷的又は情慾的の象徴によって、見るべからざる又は言ふべからざる深意を表現し、讀者をして美妙の天地に接觸せしめんとする主義。十九世紀末にフランスに起つた象徴詩に端を発し、他の文學、劇映画等によって影響を及ぼし、シンボリズム。①は (象徴派) (名) 文 象徴主義藝術を奉ずる一派。②として曲を起し、音階、支那中世の俗樂に用ひられ、我が國雅樂の呂聲音階は主として之に關である。

しょうちゅう (鍾籠) (名) 鐘堂。

しょうちゅう (少長) (名) 大寶令の制で、十七歳以上二十歳以下の男子。

しょうちゅう (抄帳) (名) 王朝時代、民部省主計寮に備へ附け、諸國から警官寮時代、修理職、左右寮寮等の特殊官司に進める調書の規定額を記載し、その官司の領收券にひきあはせ、過不及を計算する爲に供した元帳。①は (榮えと貞へる)。

しょうちゅう (消長) (名) 消えたり長ると。しょうちゅう (情愴) (名) うみ分けなくこと。

しょうちゅう (生大腸) (名) 大腸と共に腸を構成する消化器。十二指腸に始まり、臍曲りに至る消化器。小腸腸に始まり、臍曲りに至る消化器。腸液から成り、腸液を分泌して消化作用を營む。榮養分を血液中に吸收する機能を有する。①聞。

しょうちゅう (上聴) (名) かみのきこえ。上を伴ふ感。②美しい色に伴ふ適意で、遊興に伴ふ不快の類。③おもひ。きこえ。氣分。

じょうちゅう (城址) (名) 城のひめがき。  
じょうちゅう (冗長) (名) くだくだしく長いこと。徒らに長いこと。  
じょうちゅう (定朝) (名) 入平安朝時代の佛。京都七條佛師の風。鎌倉の子。法成寺金堂の佛を造つて、法橋に敎せられ、興福寺の造佛堂として法眼となふ。又、宇治平等院の本尊阿闍梨如來を造る。木彫の新技法の大成者。鎌倉時代の彫刻界を代表する運慶流派のその門。天養五年 (一一七二) 没。軍で、佐官又はその相當者。  
じょうちゅう (昭勳) (名) 昭著と勳者。天皇の御意を發表公布し給ふ文書。詔書は皇室の大事故、大機進行に關する勅旨を宣詰し給ふもの。勅書は比較的事の皇意及び國務政務に關する勅旨。①は (昭直) (名) きびしくたがひ。嚴格にして道理をまげること。

じょうちゅう (昇沈) (名) のぼることしづむこと。盛衰。①は (おとろへしづむ) こと。盛衰。②は (おとろへしづむ) こと。盛衰。③は (おとろへしづむ) こと。盛衰。

じょうちゅう (銷沈) (名) 一定の實踐。  
じょうちゅう (定實) (名) 一定の實踐。

じょうちゅう (條限) (名) 箇條わけにして述べたこと。①は (おとろへしづむ) こと。盛衰。②は (おとろへしづむ) こと。盛衰。③は (おとろへしづむ) こと。盛衰。

じょうちゅう (状態) (名) 書面をつかはず、て吉服を着かへる意。或人の死んだ月と同じ月。命日の月と同じ月。①は (おとろへしづむ) こと。盛衰。②は (おとろへしづむ) こと。盛衰。③は (おとろへしづむ) こと。盛衰。

じょうちゅう (權張) (名) じょうちゅう (上丁) (名) 上旬のひとの日。  
じょうちゅう (匠工) (名) せいいてい。

じょうちゅう (章程) (名) 章程は法式的意。おきてのり。法度規程の簡條書。①は (おとろへしづむ) こと。盛衰。②は (おとろへしづむ) こと。盛衰。③は (おとろへしづむ) こと。盛衰。

じょうちゅう (稱禎) (名) めてた。めで。①は (おとろへしづむ) こと。盛衰。②は (おとろへしづむ) こと。盛衰。③は (おとろへしづむ) こと。盛衰。

しょうてい (椒庭) (名) 皇后の御居間の御殿。奥御殿。  
しょうてい (少丁) (名) ちん。ごさま。  
しょうてい (小亭) (名) ちいさい。あづま。  
しょうてい (小艇) (名) ちいさい。こぶね。  
しょうてい (小庵) (名) ちいさい。いほ。  
しょうてい (障泥) (名) せまい。障泥。  
しょうてい (上帝) (名) 天の神。天上にある萬物の主宰者。①宇宙に於ける絶対唯一、全智全能の神。天帝。  
しょうてい (上程) (名) 旅行のほどで。①政議案を會議にかけること。②「まりのほど」。  
しょうてい (常規) (名) つねのり。①きき。  
しょうてい (常規) (名) つねのり。①きき。  
しょうてい (細梯) (名) はらから。①詩經小雅常棣篇の語兄弟。はらから。  
しょうてい (小敬) (名) 少人数の敬。  
しょうてい (上出恭) (名) すぐれた。上等のてき。  
しょうてい (正徹) (名) 入善訂時代の敬僧。本姓は紀。小田氏。初名を正清といひ、字は清暉。休止松月庵と號した。京都東福寺の僧で、同寺の書記を勤めた。一般に數書記に、その弟子に東常縁・心敬等がある。長祿二年 (一一八三) 年七十九。その著に「草根集」(叢書記物語) ながさめ草がある。

しょうてい (條鐵) (名) 細長い鐵材。  
しょうてい (沼鐵) (名) 沼地に堆積して生ずる粗鬆多孔質の掘鐵。秋田縣由利郡上郷村及び熊本縣阿蘇谷等の嶺南に其の産地。  
しょうてい (賞典) (名) 褒賞として賜はる物。賞典に關する規定。あらく賞典 (賞典) (名) 明治維新の際、國家に勳功のあった公卿・大名・士族に、家勳の外に賞典として賜はられた。

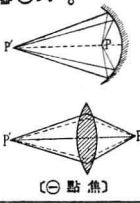


しやうてん(名)「學典(名)つかさざること。宮内省式部職の職員、祭祀のことを掌るもの。商店・商慶(名)商人の營業所。販賣店。『キリスト教で、信者の死去。』

しやうてん(名)「昇天(名)天に昇ること。『宗しやうてん』(小店(名)こみせ。『自己の店の謙稱。』

しやうてん(名)「小篆(名)漢字の一體。『釋文から脱化したもので、これよりは體勢長く、點畫稍方なるもの。秦の李斯の創始といふ。隸書、楷書の創始以來、鐘鼎・符籙・印章などの字体にのみ用ひられる。今の説文の正文は、この字体に屬し、漢字の原義を知るには便利である。篆文。篆書。』

しやうてん(名)「焦點(名)Focus(名)球面鏡・拋物面鏡・レンズ等に於いて一點から出る光線が結像する點PをPの焦點といふ。『物事の集往する所。目的。』



しやうてん(名)「昇殿(名)中古、清涼殿の南面の殿上に昇ること。『公卿に召されたこと四位五位は必らず公卿も建て許されるところに限り、家格によらず、人によつて許されたが、後世は、家格によつて定められた。昇殿を許された人を殿上人・堂上といひ、許され

ぬ人を地下(名)といふ。』

しやうてん(名)「承傳(名)うけつた(承)つた。うけしやうてん(名)「小傳(名)さつたる傳記。略傳。しやうてん(名)「上天(名)あめ。そら。天。(十士の對) 上帝。造物者。『四天の一。冬の天。』

しやうてん(名)「常典(名)定まつたのり。かはしやうてん(名)「上田(名)上等の田地。しやうてん(名)「乘田(名)位田・兼田・口分田及び懸田等に充ててなほ餘つた總字田。『支那の周代に、祭祀の犧牲にする家畜の飼養を掌つた職。』

しやうてん(名)「小天(名)狭い社會。ちひさい世界。』

しやうてん(名)「正傳(名)『言』上方淨瑠璃の一派。宮古路後援の高麗、初代宮古路園八の門人春富士正傳の創始。寶曆の始め一派を起し、京阪地方に流行した。』

しやうてん(名)「兄人(名)『でい』の音便。』

しやうてん(名)「性土(名)佛はしよんと法性土。しやうてん(名)「照度(名)『理』Intensity of illumination(單位面積の表面が、單位時間を受ける光量。光線と面の角度によつて異なり、又光源を去る距離の自乘に逆比例)。』

しやうてん(名)「焦土(名)焼けて黒くなった土。しやうてん(名)「火事の爲に焼けてあとかたのない。しやうてん(名)「小奴(名)ちひさいやつ。』

しやうてん(名)「上塗(名)旅の途にのぼること。出じやうてん(名)「城都(名)みやこ。都會。しやうてん(名)「土土(名)土地。土壌。しやうてん(名)「坵土(名)埴土よりは粘分少く、砂土よりは濕潤多き土壌。肥えてゐる爲、最も耕作に適する。しやうてん(名)「淨土(名)佛國の東端から離脱した清淨な國で、多く二百十億と稱せられる。阿彌陀佛の西方淨土も其の一つである。極樂往生の説が盛んになるに及んで、淨土といへば西方淨土即ち極樂

淨土を指すやうになつた。『淨土宗。』

しやうてん(名)「常度(名)かはらぬおきて。『普通進の程度。』

しやうてん(名)「丈度(名)たけ。ながさ。『まじしやうてん(名)「正當(名)理に當ること。相當すること。正しく思ひに當ること。『實直なこと。』

しやうてん(名)「林檎(名)ほげのり。しやうてん(名)「櫛櫛(名)夜間航行中、船の前方の櫛に掲げる白燈。『一系統。』

しやうてん(名)「正統(名)正しい。しやうてん(名)「松風(名)松風の音を波の音に譬へていふ語。』

しやうてん(名)「稱稻(名)青。政府から人民に稻を貸し附けて、その利稻を徴收した。出舉稻。しやうてん(名)「承當(名)うけつぎ。しやうてん(名)「陸等(名)等級がのぼること。官等がのぼること。『物價の高くなること。』

しやうてん(名)「昇騰(名)のぼりあがること。しやうてん(名)「小鳥(名)ちひさい。かたなわしやうてん(名)「小盜(名)こぬすびと。しやうてん(名)「小黨(名)人員の少い黨派。人数の少い政黨。『ぶんりん(小黨分立)(名)』

しやうてん(名)「抄盜鈔盜(名)かすめつむこと。又、そん。しやうてん(名)「抄冬(名)冬のすゑ。しやうてん(名)「抄頭梢頭(名)こすみのまき。しやうてん(名)「消燈(名)かもしびを消すこと。しやうてん(名)「燒燈(名)かとりび。にはび。しやうてん(名)「小關(名)ちろちたたたかひ。こぢりあひ。しやうてん(名)「正堂(名)佛羅寺の方丈のしやうてん(名)「唱道(名)となへいふこと。自ら先に立つてとなへること。『佛羅羅茶で、自宗

以外の佛家の人。しやうてん(名)「唱導(名)まきだちとなつて導くこと。しやうてん(名)「唱導師(名)佛法の首席の僧。しやうてん(名)「燒導(名)すめみちびくこと。しやうてん(名)「餉導(名)兵糧を運ぶみちすぢ。糧道。しやうてん(名)「聖道(名)佛の正法。『天台宗と眞言宗と。』

しやうてん(名)「聖門(名)佛敎中の自力門で、現世で迷を斷ち悟を開かうとする敎法。『淨土門の對し。』

しやうてん(名)「稱道(名)となへること。となへいふこと。『ろう(鐘樓)。』

しやうてん(名)「鐘堂(名)かづつだう。しやうてん(名)「疎動(名)耳を傾け心を動かすこと。しやうてん(名)「聳動(名)おそれ動くこと。おどろかしうかすこと。しやうてん(名)「衝動(名)ついきう。かすこと。『心(Emotion)目的觀念を映除した意識。又は目的觀念不明瞭な運動を誘發する意識。本能活動や習慣的動作等に於いて見られるやうな、先天的或は後天的な身體的若しくは精神的傾向が意識的強迫的に吾人の動作を促すこと。下等動物の動作は概ねこれによる。』

しやうてん(名)「鐘鈿(名)「化」鐘を鑄るに用ひる音鈿の一種。鐘百分之對し、鐘二十分乃至二十五分の比の合金。しやうてん(名)「小道(名)規模の小さい道義。(大道の對)しやうてん(名)「小童(名)年少のわらは。しやうてん(名)「稚童(名)あきふれたら。しやうてん(名)「常套(名)ありふれた。きたつた範圍。『常套語(名)ひならはした。と。くちくせ。』

しやうてん(名)「常套手段(名)常套とらてゐる手段。慣用の手段。しやうてん(名)「上騰(名)ちのぼること。あがること。』

しやうてん(名)「淨土(名)佛國の東端から離脱した清淨な國で、多く二百十億と稱せられる。阿彌陀佛の西方淨土も其の一つである。極樂往生の説が盛んになるに及んで、淨土といへば西方淨土即ち極樂淨土を指すやうになつた。『淨土宗。』

しやうてん(名)「常度(名)かはらぬおきて。『普通進の程度。』

しやうてん(名)「丈度(名)たけ。ながさ。『まじしやうてん(名)「正當(名)理に當ること。相當すること。正しく思ひに當ること。『實直なこと。』

しやうてん(名)「林檎(名)ほげのり。しやうてん(名)「櫛櫛(名)夜間航行中、船の前方の櫛に掲げる白燈。『一系統。』

しやうてん(名)「正統(名)正しい。しやうてん(名)「松風(名)松風の音を波の音に譬へていふ語。』

しやうてん(名)「稱稻(名)青。政府から人民に稻を貸し附けて、その利稻を徴收した。出舉稻。しやうてん(名)「承當(名)うけつぎ。しやうてん(名)「陸等(名)等級がのぼること。官等がのぼること。『物價の高くなること。』

しやうてん(名)「昇騰(名)のぼりあがること。しやうてん(名)「小鳥(名)ちひさい。かたなわしやうてん(名)「小盜(名)こぬすびと。しやうてん(名)「小黨(名)人員の少い黨派。人数の少い政黨。『ぶんりん(小黨分立)(名)』

しやうてん(名)「抄盜鈔盜(名)かすめつむこと。又、そん。しやうてん(名)「抄冬(名)冬のすゑ。しやうてん(名)「抄頭梢頭(名)こすみのまき。しやうてん(名)「消燈(名)かもしびを消すこと。しやうてん(名)「燒燈(名)かとりび。にはび。しやうてん(名)「小關(名)ちろちたたたかひ。こぢりあひ。しやうてん(名)「正堂(名)佛羅寺の方丈のしやうてん(名)「唱道(名)となへいふこと。自ら先に立つてとなへること。『佛羅羅茶で、自宗

しやうてん(名)「淨土(名)佛國の東端から離脱した清淨な國で、多く二百十億と稱せられる。阿彌陀佛の西方淨土も其の一つである。極樂往生の説が盛んになるに及んで、淨土といへば西方淨土即ち極樂淨土を指すやうになつた。『淨土宗。』

しやうてん(名)「常度(名)かはらぬおきて。『普通進の程度。』

しやうてん(名)「丈度(名)たけ。ながさ。『まじしやうてん(名)「正當(名)理に當ること。相當すること。正しく思ひに當ること。『實直なこと。』

しやうてん(名)「林檎(名)ほげのり。しやうてん(名)「櫛櫛(名)夜間航行中、船の前方の櫛に掲げる白燈。『一系統。』

しやうてん(名)「正統(名)正しい。しやうてん(名)「松風(名)松風の音を波の音に譬へていふ語。』

しやうてん(名)「稱稻(名)青。政府から人民に稻を貸し附けて、その利稻を徴收した。出舉稻。しやうてん(名)「承當(名)うけつぎ。しやうてん(名)「陸等(名)等級がのぼること。官等がのぼること。『物價の高くなること。』

しやうてん(名)「昇騰(名)のぼりあがること。しやうてん(名)「小鳥(名)ちひさい。かたなわしやうてん(名)「小盜(名)こぬすびと。しやうてん(名)「小黨(名)人員の少い黨派。人数の少い政黨。『ぶんりん(小黨分立)(名)』

しやうてん(名)「抄盜鈔盜(名)かすめつむこと。又、そん。しやうてん(名)「抄冬(名)冬のすゑ。しやうてん(名)「抄頭梢頭(名)こすみのまき。しやうてん(名)「消燈(名)かもしびを消すこと。しやうてん(名)「燒燈(名)かとりび。にはび。しやうてん(名)「小關(名)ちろちたたたかひ。こぢりあひ。しやうてん(名)「正堂(名)佛羅寺の方丈のしやうてん(名)「唱道(名)となへいふこと。自ら先に立つてとなへること。『佛羅羅茶で、自宗

しやうてん(名)「淨土(名)佛國の東端から離脱した清淨な國で、多く二百十億と稱せられる。阿彌陀佛の西方淨土も其の一つである。極樂往生の説が盛んになるに及んで、淨土といへば西方淨土即ち極樂淨土を指すやうになつた。『淨土宗。』

しやうてん(名)「常度(名)かはらぬおきて。『普通進の程度。』

しやうてん(名)「丈度(名)たけ。ながさ。『まじしやうてん(名)「正當(名)理に當ること。相當すること。正しく思ひに當ること。『實直なこと。』

しやうてん(名)「林檎(名)ほげのり。しやうてん(名)「櫛櫛(名)夜間航行中、船の前方の櫛に掲げる白燈。『一系統。』

しやうてん(名)「正統(名)正しい。しやうてん(名)「松風(名)松風の音を波の音に譬へていふ語。』

しやうてん(名)「稱稻(名)青。政府から人民に稻を貸し附けて、その利稻を徴收した。出舉稻。しやうてん(名)「承當(名)うけつぎ。しやうてん(名)「陸等(名)等級がのぼること。官等がのぼること。『物價の高くなること。』

しやうてん(名)「昇騰(名)のぼりあがること。しやうてん(名)「小鳥(名)ちひさい。かたなわしやうてん(名)「小盜(名)こぬすびと。しやうてん(名)「小黨(名)人員の少い黨派。人数の少い政黨。『ぶんりん(小黨分立)(名)』

しやうてん(名)「抄盜鈔盜(名)かすめつむこと。又、そん。しやうてん(名)「抄冬(名)冬のすゑ。しやうてん(名)「抄頭梢頭(名)こすみのまき。しやうてん(名)「消燈(名)かもしびを消すこと。しやうてん(名)「燒燈(名)かとりび。にはび。しやうてん(名)「小關(名)ちろちたたたかひ。こぢりあひ。しやうてん(名)「正堂(名)佛羅寺の方丈のしやうてん(名)「唱道(名)となへいふこと。自ら先に立つてとなへること。『佛羅羅茶で、自宗



戒を相承し、門下に相傳せられたもの。

しよらとりひきしよらとりひき……商取引(名)「經」商業上の取引。

しよらなましよらなま……小雛(名)昔、宮中の進儀の儀式に、紺布衣を纏って、兔を追ひつゝ、大舞に從つて内裏の四門を廻りめぐつた。

しよらなしよらな……(庄内)名 庄内の内。領分の内。②地形的に北西部即ち海邊、東田川、西田川三郡に屬する地方。

しよらなしよらな……(城内)名 城のうち。

しよらなしよらな……(場内)名 場所のうち。

しよらないしよらない……(少内配)名 中務省の職員で、大内配の次位。勲章を著し、集中の勲章を録した。

しよらなしよらな……(少納言)名 大寶令制の太政官列官。鈔印の請進衣服の下賜等のやうな小事の奏宣と、官印の管理を掌り、中務省の侍従を兼ねた。すなひ、のまうし。一書よく「少納言局」。

しよらなしよらな……(少納言)名 大寶令制の太政官三局の一。少納言の事務をつかさどつた。發所。「しかたがない」。

しよらなしよらな……(仕様無し)名 形一。

しよらなしよらな……(小雛)名 ちうとした雛。

しよらなしよらな……(城南寺祭)名 京都市伏見區下鳥羽の城南寺で行はれた祭禮に、餅を強ひて人に食はせたりからいふ戲のふくれたこと。

しよらなしよらな……(城南離宮)名 今の京都市伏見區田中町にあつた白河鳥羽天皇の離宮。鳥羽離宮。

しよらなしよらな……(少武)名 大宰府の次官帥・大軍に代理して庶務を掌理した。武藤實賴以來世襲となり、後には氏の名となつた。すなひ、すけ。

しよらなしよらな……(小兒)名 出生から十四五歳までの男女。こども。一兒(小兒)名 十四五歳までの男。こども。一兒(小兒)名 小兒衛生(名) 小兒科の醫師。一兒(小兒)名 小兒衛生(名) 小兒科の醫師。一兒(小兒)名 小兒衛生(名) 小兒科の醫師。

る衛生學。一か(小兒科)名 醫)小兒の内科的疾患治療を専門とする醫術。

しよらにちしよらにち……(正日)名 佛)死後の四十九日。四十九日。一週忌の當日。②毎年、の忌日。

しよらにちしよらにち……(上日)名 當番の日勤務の日。

しよらにちしよらにち……(定日)名 きまゝ。置得。悟入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

公平を期したの。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

しよらにちしよらにち……(證入)名 佛)眞理に悟入した。證入。

たとし。年輪。

しよらねしよらね……(正念)名 佛)正法を思念し、信心を起して疑はぬこと。②正しく持續して亂れぬ信心。③正氣。本心。

しよらねしよらね……(稱念)名 佛)稱名と念佛。口に佛の名號を稱へ、心に佛の功徳を念ふこと。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

しよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。じよらねしよらね……(少年)名 年の若いもの。

目的とする全世界に組織せられ我が國では大正十一年少年團日本聯盟を組織し、少年團國際協會に加盟した。ボーイスカウト。一にほんれんめい(少年團聯合團體。大正十一年)創設。ボーイスカウトの組織訓練法を採用し制服を制定し、少年團國際協會を加盟登録した。

しようねんぶつ(佛淨土宗)木魚或は磬に和して、常に斯く念佛を唱へるもの。

しょうのう(樟腦)樟樹を蒸留して得る固體成分。白色半透明な光澤ある結晶。特異の芳香を有する。水には溶解せず、アルコールエーテル等には溶解し、點火多し。煤油より光輝る火油を放てて燃焼する。樟樹即ち眞樟・油樟・芳樟の幹・根・葉を蒸溜器に入れ、水蒸氣を通じて蒸溜しその液を冷却せしめて製する。又精製するには再び昇華せしめるを要する。工業用又は防癩劑・臭奮劑として使用する。一さん(樟腦酸)名(化)樟腦を苛性で酸化した無色無臭の小量結晶。セルロイド製造に供する外醫藥用に供せられ、盜汗の瘰癧に用し、收斂劑として用ひられる。一せい(樟腦精)名(藥)カンフルチンキ。一チンキ樟腦二(樟腦軟膏)名(藥)樟腦、胡麻油、牛脂を混和した白色の軟膏。凍瘡、打撲傷、リウマチ性疼痛に貼用する。一のき樟腦樹(名)樟腦の樹。一ひ樟腦火(名)樟腦を燃やして生ずる煙。芝居の舞臺で、氣火などに用ひる。



樟腦樹

しょう(樟腦油)名(化)樟樹を蒸留して、樟腦を分取した殘餘の油。帶濁色乃至帶褐色。之を左に殺菌して用ひ、赤油・藍油を製する。白油は防臭用。殺菌用・塗料の油料とし、赤油は石鹼・香料・リノールの製造原料とし、藍油は治癩劑テルヒネオールの

しょう—しょう

製造に用ひる。しょうのう(小腸)名(生)腸體の一部。大腸の下部。送腸の後部に位する。略、腸體の管なし。蟲狀腺降を境に左右兩半に分れ、表面は灰白色で多くの横筋を具、内部は白質・筋枝である。隨意筋の動作を調節する作用を有する。

しょうのう(小納)名(自)自己の贈物を他人に受納せよする時の謙稱。一御下され度敷。

しょうのう(小農)名(農)少しの田地を所有する農夫。ひくしや。一別に傭人を使用せず、家族だけで小規模に行ふ農業。自作農。一そしき(小農組織)名(農)農業が小農によつて行はれるもの。一ち(小農地)名(農)小農組織によつて耕作が行はれる小農地の土地。一ちほら(小農地法)名(法)自作農開始維持の立法

しょうのう(尚農派)名(新)新じょうのう(重農派)。一(第一)名(事)そのこと。しょうのう(仕座)名(じん)じんのざ(陣座)。しょうのう(小月)名(陽)陽暦で、一箇月の日數三十日以下の月。陰暦で、一箇月の日數二十日、即ち陽曆の二月・四月・六月・九月・十一月の五箇月。

しょうのう(笙笛)名(しやう)笙。しょうのう(簫笛)名(しやう)簫。しょうのう(小蟲)名(しやう)蟲。一を殺して大の蟲を助ける(句)大きい物事を保護する爲に、小さい物事を犠牲にする。

しょうのう(衝破)名(ちやう)つちやぶる。まなみ。しょうのう(小派)名(こ)小さいわかれ。小さい。しょうのう(笑罵)名(わらひ)のしること。しょうのう(請罵)名(せめ)のしること。

じょうば(上馬)名(よ)走る馬。じやうめ。じょうば(乘馬)名(ま)馬に乗ること。一乗るべき馬のりやう。一せん(乘馬戰)名(軍)騎兵が乗馬で行ふ肉搏戰。一たい(乘馬隊)名(名)乗馬に乗つた隊。一騎兵・砲兵・騎重兵の如く乗馬を必要とする部隊。一ふく(乘馬服)名(袖)乗馬に用ひるスゴーツ服。上衣は存軍形で丈長く袖を細くし、ズボンもキョットズボンにて尻隠し、膝から下は密着させるやうにしたもの。



乗馬服

じょうば(金庫)名(金)入資者若しくは入資團體に與へる記号。多きは金庫でつくる。メダル。じょうば(賞金)名(善)善行又は功勞の賞與として與へる。金・銀・銅・木・漆等の種別がある。じょうば(小敗)名(ち)ちまげ。勝負。じょうば(小輩)名(身分)身の卑しいもの。じょうば(看板)名(看板)「小身もの。じょうば(招牌)名(あ)あきなひ。よりかひ。一營業。一結婚などの業。一あがり(商賣上)名(名)以前に、藝妓・茶屋女であった人。一かた(商賣方)名(名)商賣の方面。一かた(商賣氣)名(名)商人特有の氣質。金錢上の利害に明敏な性質。一がたき(商賣敵)名(名)互に自來の商賣を盛大にしようと争ふ同商賣の。職業上の競争者。一がら(商賣債)名(名)商業上の種別。商賣の身柄。商賣によつて養はれた習性。一き(商賣氣)名(名)商賣上の掛ひのみ目をつけ常備しようとする氣分。一にん(商賣人)名(名)或商賣に從事する人。あきんど。一商人物を職業とする人。くろと。一藝妓・結婚などの種別。一むき(商賣向)名(名)商賣に関する事柄。じょうば(上輩)名(名)貴い身分のもの。

じょうば(勝敗)名(ち)ちまげ。勝負。じょうば(小敗)名(ち)ちまげ。勝負。じょうば(小輩)名(身分)身の卑しいもの。じょうば(看板)名(看板)「小身もの。じょうば(招牌)名(あ)あきなひ。よりかひ。一營業。一結婚などの業。一あがり(商賣上)名(名)以前に、藝妓・茶屋女であった人。一かた(商賣方)名(名)商賣の方面。一かた(商賣氣)名(名)商人特有の氣質。金錢上の利害に明敏な性質。一がたき(商賣敵)名(名)互に自來の商賣を盛大にしようと争ふ同商賣の。職業上の競争者。一がら(商賣債)名(名)商業上の種別。商賣の身柄。商賣によつて養はれた習性。一き(商賣氣)名(名)商賣上の掛ひのみ目をつけ常備しようとする氣分。一にん(商賣人)名(名)或商賣に從事する人。あきんど。一商人物を職業とする人。くろと。一藝妓・結婚などの種別。一むき(商賣向)名(名)商賣に関する事柄。じょうば(上輩)名(名)貴い身分のもの。

じょうば(上白)名(名)上等の白米。じょうば(上膊)名(名)生上膊の上部。ひじょうば(上膊骨)名(名)生上膊を形成する骨。四柱状とし、上下端は半球狀の頭があつて、上は肩胛骨に連り、下は尺骨及び橈骨と接する。一てやる小さい骨。ふじ。じょうば(状態)名(名)書状を入れて持つ。じょうば(上旅籠)名(名)食膳夜具持過等の上等な宿籠。

じょうば(正八幡宮)名(名)「神」軍の八幡宮。もと大隅正八幡宮尊皇神社。兒島神社にだけ用ひられた稱であつたが、後その他にも用ひられるやうになつた。じょうば(賞罰)名(名)賞と罰。じょうば(響拔)名(名)そびえぬきんである。じょうば(箱拔)名(名)きりたてぬきんである。

じょうば(蒸發)名(名)Evaporation)液體がその表面に於いて氣化する現象。一き(蒸發氣)名(名)「理」Evaporation)蒸發氣を指す。一けい(蒸發計)名(器)「理」Evaporation)蒸發量を測る氣壓觀測器。圓筒形の淺い鋼製のバケツの上縁を刃狀に溝切したもので、その内に一定量の水を容れて、一定時間の蒸發量を算出する。一ざ(蒸發皿)名(器)「理」

じょうば(松栢)名(名)まつとかしほ。一とき(松栢の四時色)名(名)かへぬきを據守して變てなくして堅へる用語。一か(松栢科)名(名)「植」顯花植物種子類の科。大抵は常綠木。葉は針狀若しくは披針狀。花は單性で雌雄異花。花被はない。果實は椀果で、種子を突出する。椀果温帯に産する。いちろ科、いねが科、すき科、ひよこ科、まき科、つた科などの總稱。

じょうば(白栢)名(名)「人」はたなかしはく(牡丹花栢)。

じょうば(上膊)名(名)生上膊の上部。ひじょうば(上膊骨)名(名)生上膊を形成する骨。四柱状とし、上下端は半球狀の頭があつて、上は肩胛骨に連り、下は尺骨及び橈骨と接する。一てやる小さい骨。ふじ。じょうば(状態)名(名)書状を入れて持つ。じょうば(上旅籠)名(名)食膳夜具持過等の上等な宿籠。

じょうば(正八幡宮)名(名)「神」軍の八幡宮。もと大隅正八幡宮尊皇神社。兒島神社にだけ用ひられた稱であつたが、後その他にも用ひられるやうになつた。じょうば(賞罰)名(名)賞と罰。じょうば(響拔)名(名)そびえぬきんである。じょうば(箱拔)名(名)きりたてぬきんである。

じょうば(蒸發)名(名)Evaporation)液體がその表面に於いて氣化する現象。一き(蒸發氣)名(名)「理」Evaporation)蒸發氣を指す。一けい(蒸發計)名(器)「理」Evaporation)蒸發量を測る氣壓觀測器。圓筒形の淺い鋼製のバケツの上縁を刃狀に溝切したもので、その内に一定量の水を容れて、一定時間の蒸發量を算出する。一ざ(蒸發皿)名(器)「理」

じょうば(松栢)名(名)まつとかしほ。一とき(松栢の四時色)名(名)かへぬきを據守して變てなくして堅へる用語。一か(松栢科)名(名)「植」顯花植物種子類の科。大抵は常綠木。葉は針狀若しくは披針狀。花は單性で雌雄異花。花被はない。果實は椀果で、種子を突出する。椀果温帯に産する。いちろ科、いねが科、すき科、ひよこ科、まき科、つた科などの總稱。

じょうば(白栢)名(名)「人」はたなかしはく(牡丹花栢)。







いって、武器に用いた。山城國八幡の神宮が内職に染めたものと、いふ。一きり(高蒲切)一名昔五月五日の節句に子供が印地打をした後に、高蒲刀で切合った遊戯。一くわがた(高蒲蹴り)一名史の蹴形の上端が、横がらないで、高蒲の葉のやうに眞直の状態なすもの。一ざけ(高蒲酒)一名高蒲の根を剝んて浸した酒。五月五日の節句に邪氣をはらふて飲んだもの。一すくりのかたな(高蒲作刀)一名鍛造の刀が高蒲の葉に似てゐる刀。

一すつみり(高蒲包)一名端午の節句に高蒲を包じ用いた菱形状の紙。一だたき(高蒲叩)一名(しゅうぶうち)。一だち(高蒲太刀)一名あやめがたな。

一ゆ(高蒲湯)一名五月五日の節句に、高蒲の根葉を入れて沸かした風呂の湯。邪氣をはらふ爲にすといふ。一ゆかた(高蒲浴衣)一名昔五月五日の節句に着た浴衣。



【高蒲酒】

しゅうぶ(勝負)一名かつとまけると。かちま(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

解けてへたへた。一といふ。しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。

しゅうぶ(勝負)一名かちまを決すること。しゅうぶごと。一こと(勝負事)一名かちまを争ふわざ。か(勝負)一すく(勝負盡)一名勝負にまつ事を決すること。一なし(勝負無)一名勝負の決しないこと。あひ(勝負)一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。一は(勝負)勝負の決(勝負)勝負を決すること。



「たかなこと。」

じやうほうじやう 一種豊(名) 農作物のみのりのゆ  
じやうほうじやう 乗法(名) 数或数を他の或  
数のあらはす度数だけ加へ合はせる算を避けるため  
の簡便法。これを行ふには乗算九九を用ひる。或数  
を被乗数、他の或数を乗数といひ、又この算法で得  
た數値を積といふ。かけざん。

じやうほうじやう 條法(名) おきてのり。  
じやうほうじやう 狀貌(名) みめかたち。  
じやうほうじやう 淨房(名) 便所。かはや。  
じやうほうじやう 小水(名) ちひさい、水。  
じやうほうじやう 小僕(名) 年の小さいしもべ。  
じやうほうじやう 焦墨(名) 墨氣正沙のない墨。こ  
れで書ける墨のかすれた所を生ずる。

じやうほうじやう 昭穆(名) 支那で宗廟の輩位の  
席次。中央を太祖とし、その左を昭、その右を穆と  
し、相交互して配置するもの。  
じやうほうじやう 上木(名) 圖書を版木にほると  
。圖書を出版すること。上梓。「範」。

じやうほうじやう 繩墨(名) 〇すみなは。〇規則。軌  
じやうほうじやう 濃墨(名) 濃色の墨。〇うす  
墨(の對)。

じやうほうじやう 上北面(名) 院の昇殿  
を許された四位上への諸大夫の北面の武士となつたもの。(下北面の對)。

じやうほうじやう 正本(名) 轉寫又は副書の  
原本。〇脚本。〇登記所の番帳。〇文淨瑠璃・説教  
筋・長門等の詞章に曲部に節語を記入した原本。  
じやうほうじやう 證本(名) 證據とすべき書籍。  
じやうほうじやう 抄本(名) 書き抜いた書物。  
じやうほうじやう 善本(名) 書き抜いた書物。  
じやうほうじやう 佛極淨土の最  
上級。更に上下下の三生に區分する。〇じやうほう  
じやうほうじやう 佛極淨土の最  
上級。更に上下下の三生に區分する。〇じやうほう

じやうほうじやう 上品相(名) 美滿國上品  
のきぬ。一のきぬ(上品相)

から産出する絹。一れんたい(上品蓮毫)

佛極淨土の最上級の繻子のてな。  
じやうほうじやう 升塵(名) 種毛虱(の科)の多年生  
草本。高さ九〇釐位。莖に臭氣がある。葉は三出複  
葉で、葉片は卵形に花を開く。刺棘様の鋸歯がある。夏秋  
の頃、長い花軸上になを結ぶ。花は帯黄白色で、圓錐  
狀の總狀花序をなし、花後香莖を結ぶ。根は漢方薬  
に供せらる。

じやうほうじやう 消塵(名) 〇すれへること。すれ  
てなくなること。〇すりけりこと。すりへらすこと。  
じやうほうじやう 正米(名) 〇現在存する米。  
じやうほうじやう 經買(名) 經買の對) 〇いち「正  
米市(名) 經買の對) 〇正米師(名) 正米の取引をする商賣人。一しじ  
米師(名) 正米市場(名) 經買の米の現物買入を行  
ふ市場。  
じやうほうじやう 春米(名) 〇搗いて白けた米。つき  
ごめ。〇昔、諸國で春いて京都に輸送し、大炊寮に納  
められた米。

じやうほうじやう 小殊少妹(名) ちひさい、もうと。  
じやうほうじやう 上米(名) 上等の米。  
じやうほうじやう 城中貯蓄の米。〇  
江戸幕府が、直接米又は諸代の諸藩に命じて備荒の  
爲、貯藏せしめた米數。

じやうほうじやう 鏡前磨(名) 鏡前の修繕をする  
。又その人。一や 鏡前屋(名) 鏡前の修繕  
をする家。又その人。

じやうほうじやう 照魔鏡(名) 〇これに照  
らせば、対象の本性をあらはし出すといふ  
無驗なる鏡。〇社會のかくれた本體をうつし出すも  
じやうほうじやう 小満(名) 二十四氣の一。夏の  
節で、陽曆五月廿一日頃にある。(大満の對)。  
じやうほうじやう 上慢(名) 〇じやうほうじやう 尙  
上慢。〇くだくだしくてしまりのない、こ。  
じやうほうじやう 穴漫(名) 尤長で散漫な、こ。

じやうほうじやう 聯鑿愛染  
會(名) 佛大坂天王寺區夕陽丘の聯鑿愛染、毎年  
六月一日に愛染明王を本尊として行つた開帳。  
じやうほうじやう 正味(名) 〇物の外皮を取去たな  
かみ。内容。〇全體の量目から風袋のかけめを引  
去つたなかみ。〇ほんも。

じやうほうじやう 賞味(名) 賞美して食ひ味はふ  
じやうほうじやう 上巳(名) 〇ちほうじやう 上巳。  
じやうほうじやう 情味(名) 〇あらはひ。おむも。  
じやうほうじやう 定店(名) 一所に定住して一  
定の商品をあきなふ店。  
じやうほうじやう 詳美(名) 〇くはくくまかい  
じやうほうじやう 土美濃(名) 〇美濃紙の中心の  
もの。なかなほし。

じやうほうじやう 靜脈(名) 生循環系統の  
一。身體各部の靜脈血液も毛細管中で瓦斯交換を  
行つた後の老敗血液を心臟に輸入する脈。脈管厚く、  
處處に靜脈瓣を有して血液の逆流を防ぐ。左右兩  
脚から出て心臟左房に開口するものを肺循環の靜  
脈、諸臟器から起りこり心臟右房に還流するものを全身  
或は體循環の靜脈といふ。一かかん 靜脈  
管(名) 生循環血液を輸入する脈管系統。  
細管網に始まり、漸次集合して大管となり、大靜脈幹  
を経て心房に入るもの。一けつ 靜脈血(名)  
生靜脈血(名) 生靜脈が機械的の血行障礙の爲  
に、部分的に怒張するもの。その状態に擴張せらる  
ものを靜脈怒張といふ。〇んこ。

じやうほうじやう 靜脈怒張(名) 生靜脈。  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱  
じやうほうじやう 聲明(名) 佛の梵音を唱

師(名) 佛の聲明の理に精通し、又、その技に巧み  
なる人。〇從ひ正道を通ず。〇正當の命令。  
じやうほうじやう 正命(名) 〇佛出家の法に  
じやうほうじやう 稱名(名) 佛佛の名號を稱  
へること。念佛。

じやうほうじやう 勝妙(名) すぐれてゐる。  
じやうほうじやう 小名(名) 武家時代に名田  
の領地が大なり少かつたもの。  
じやうほうじやう 常命(名) 人間の普通の壽  
命。非業なりや命命。  
じやうほうじやう 淨妙(名) 〇きよくすぐれてゐ  
じやうほうじやう 定命(名) 佛前世の因業  
によつて定まらるるといふ命數。〇一定してゐる  
命數。

じやうほうじやう 稱名(名) 稱名寺(名) 佛神奈  
川縣久良岐郡金澤村にある重寶律宗の寺。文永六年  
金澤實時が、其の采邑の地に阿闍梨堂を創建し、  
又金澤文庫を設立し、ついで孫顯時が七堂伽藍を建  
立し、實時の法名を以てて寺號とした。  
じやうほうじやう 小民(名) 〇びやくしやう。こま  
へもの。細民。

じやうほうじやう 商務(名) 諸商人の事務。一か  
ん 商務官(名) 外務大臣指定の海外權要の  
地に駐在し、商工業一切の情報を本國に運ぶ官吏。  
我が國では現在商務書記官といひ、紐育倫敦上海  
等に駐在する。

じやうほうじやう 官務(名) 各省の事務。  
じやうほうじやう 事務(名) 常務の事務。一か  
ん 常務委員(名) 定まった事務を扱ふ委員。  
一としまりやく(常務取締役(名) 常務  
の處理を擔當する取締役。

じやうほうじやう 定務(名) 定まったつとめ。  
じやうほうじやう 聖武天皇(名) 第  
四十五代の天皇。御名は天國門開闢禮慶(あまのくに  
のくわがらみ)。文武天皇の皇子。佛教を信じ給ふこと  
深く、全國に國分寺・國分尼寺、奈良に東大寺を建て、

じやうほうじやう 定務(名) 定まったつとめ。  
じやうほうじやう 聖武天皇(名) 第  
四十五代の天皇。御名は天國門開闢禮慶(あまのくに  
のくわがらみ)。文武天皇の皇子。佛教を信じ給ふこと  
深く、全國に國分寺・國分尼寺、奈良に東大寺を建て、

じやうほうじやう 定務(名) 定まったつとめ。  
じやうほうじやう 聖武天皇(名) 第  
四十五代の天皇。御名は天國門開闢禮慶(あまのくに  
のくわがらみ)。文武天皇の皇子。佛教を信じ給ふこと  
深く、全國に國分寺・國分尼寺、奈良に東大寺を建て、

大佛を安置し給うた。御在位二十五年、天平勝寶八年崩御。寶算五十六。(二六六)

しょうめつ (名) 全體から風袋の目方を引去つた正味の目方。

じょうめい (上馬) (名) よく走る馬。馬。乗馬 (名) 馬に乗ること。乗用 (名) 馬に乗ること。つらばからにあきりかなこと。詳明 (名) つらばりならぬこと。

しょうめい (正銘) (名) ほんたうのものであつたもの。証明 (名) たゞま。成物事又は物事の眞實を明らかにすること。成物題を根本原理から導き出すこと。しょうごう (名) 一しよ (證明書) (名) 成物事を証明した文書。

しょうめい (鑑銘) (名) つりがれた銘。出づぬの鑿に集くふといふ想像上の小さい蟲。轉じて識見の狭小な人物。

しょうめい (昭明) (名) あきらかなこと。あかりの用ひ方。たい (照明隊) (名) 軍。夜間戦闘に、探照燈で敵軍の行動を照らす部隊。

だん (照明彈) (名) 軍。illuminating shells。夜間敵地を照明する爲めに放つ砲彈。光線 (銃彈) 銃彈 (小銃用照明彈) 爆彈投下照明彈の總稱。

しょうめい (詔命) (名) かのこり。しょうめい (小名辭) (名) 論 (しょうじ) (小説)。

しょうめい (承明門院) (名) 後鳥羽天皇の御孫。源通親の女。土御門天皇の御孫。建仁三年院號宣下。正嘉元年(一九七)薨。年八十七。

しょうめい (生滅) (名) 生するも滅するもいふこと。滅生 (名) 滅すること。一めつ (生滅滅已) (名) 佛。生と滅とがなくなつて共に存せぬこと。即ち現を離れ生死を脱して真如に入ること。

しょうめつ (燒滅) (名) やいてなくなる。しょうめつ (消滅) (名) 消えてなくなる。ほろびること。消してなくなる。ほろぼすこと。

じこう (消滅時効) (名) 法。時効の。權利を一定期間行使せず又は行使する能はざるによつて喪失すること。債權が十年間行使せざるに依つて消滅する類。

しょうめん (正面) (名) まむき。正しく面を向けること。まむきの方向。まむき。一こう (正面攻撃) (名) 正面から正堂堂々と攻撃すること。

じょうめん (上面) (名) 上の表面。うは。じょうめん (定免) (名) 年限をきめて年貢の取立を許すこと。江戸時代の徵稅法の一。五年・十年・二十年の田租額を平均し、その中より幾分を減免して租額を定め、一定の期間内、年の豊凶に關せず、定額を收めたこと。毛見取 (檢見取) の年々作毛を檢て徵收するに比し、簡便なるを以て喜ばれた。若し水・旱・風等の爲災害大なる時は、特に檢見して減免した。之を被免といふ。

しょうめん (靑面金剛) (名) 佛。その形像は、體色青く六臂を有し、手に弓箭、寶劍を執り、頭寶冠を戴り、鬼を足下に踏む。



【靑面金剛】

しょうもう (燒亡) (名) しょうぼう。しょうもう (消亡) (名) 正しくは「せうかう」の消しへらすこと。つかひなくなる。消えへること。つかたてなくなる。一ひん (消耗品) (名) 一回の使用でその質料の消耗する物品。薪炭、紙の類。

しょうもう (睫毛) (名) 生眼險縁に並列してゐるまつげ。一とうせい (睫毛) (名) 睫毛。

しょうもう (腫毛) (名) 眼險縁の裏にまつげを生じ角膜を刺殺し或眼縁に觸れて、常に眼中に砂粒又入つてゐるやうな感があり、涙が出て、角膜の潰瘍又は流涙を來す腫病。かまつげ。

じょうもく (條目) (名) むきがきしたものの箇條を書き連ねたもの。箇條書。條文を書き連ねたもの。規則書。

じょうもく (抄物) (名) じょうもつ。漢詩文佛書等の字義・文義の註釋書。一がき (抄物書) (名) 寺などで、漢字の讀を省略して書き、菩薩をササと書く類。

じょうもん (抄物) (名) じょうもつ。漢詩文佛書等の字義・文義の註釋書。一がき (抄物書) (名) 寺などで、漢字の讀を省略して書き、菩薩をササと書く類。

じょうもん (正文) (名) 上中の書狀。相門 (名) 大臣宰相の家柄。將家。唱門 (名) 將軍の家柄。將家。唱門師 (名) 人の門邊に立つて鐘を鳴らし、鐘を誦して錢を乞ふめる。種のお食僧。貴、元日の寅の刻に、祇園社に使はれた大神人。日華門に懸つて毘沙門經の文句を誦讀して祝の儀をなした。

しょうもん (聲聞) (名) 佛。梵。śrāvaka。佛の説法を聞き、又はその遺教を學び、四諦の理を觀じ、阿羅漢にならぬ目的の佛道修行者。地持。釋尊の直弟子。一じょう (聲聞乘) (名) 佛聲聞に至る修行の教法。一そう (聲聞僧) (名) 佛聲聞に至る修行の教法。「なすもの」。松下村塾。結果に達せぬもの。「なすもの」。松下村塾。

しょうもん (證文) (名) 證據となる文書。或事書。又は債權を證明する文書。證書。一ち (證文地) (名) 江戸時代に、證文に添へて寺院に寄付した田地。一の出し後れ (句) ておくれになつて效力なきに至つた聲。

しょうもん (小門) (名) ちひさい。門。しょうもん (照門) (名) 小銃の照尺にV狀の切缺を設けたもの。れりひを定める爲に用ひる。

しょうもん (蕉門) (名) 文。松尾芭蕉の俳風。又松尾芭蕉の門下。十哲 (名) 芭蕉の門人中の傑出した者十名。即ち榎本共角、服部嵐雪、向井左來、内藤丈草、森川許六、各務支考、立花北枝、杉山杉風、志田野波、越智越人の稱。

じょうもん (城門) (名) 城の出入口。警戒を要する箇處であるから、守衛を設けて警戒を嚴にした。又、王公の邸宅にも用ひられた。

じょうもん (定紋) (名) さきまりの文章。じょうもん (定紋) (名) 家々の目録として用ひられた。一つき (定紋附) (名) 定紋のついた。又、そのもの。

じょうや (庄屋) (名) 江戸時代に、領主が村長の名望家中から命じて、一村又は數村の納稅其他の事務を統轄せしめた村里の長。申古以降の莊園事務を掌つた統制司・莊官の遺稱。むらなま。なぬ。一けん (庄屋拳) (名) さつねい。

じょうやく (請益) (名) せきし。して許しを請ふこと。せいき。

じょうやく (生薬) (名) 動物植物及び其の生産物中の有効成分を抽出して藥品に製して得べき原料。草根木皮、角、鹿茸、規那皮の類。きくす。一り。じょうやく (煎薬) (名) 火薬。一り。

じょうやく (抄譯) (名) 原文の或箇處をぬきだして翻譯すること。

じょうやく (滋養薬) (名) 藥。消化器諸病又は衰弱期の患者若しくは熱性病及び變染不良の人に服用せしめる強壯劑。乳雞卵・肉エキス等の類。

じょうやく (定役) (名) 武士。一ち (定役) (名) 武士の會計・庶務を執る下役。一定の役目。又、役。

じょうやく (條約) (名) 箇條を設けする約定。一ち (條約) (名) 國家間の合意による國際間相





即ち自在無碍なること。淨即ち濁異なく、清淨なること。○凡夫の四顧即ち非常を常とし、非樂を樂とし、非我を我とし、非淨を淨となし、萬有の本性に反すること。「なかく」。

じょうらうくむ(自動)マ四 あくら  
じょうらう(名) 詳見(名) くはくしに見ること  
つゞらかに目を見よ

じょうらん(名) 笑冠(名) わらひながら見る  
じょうらん(名) の見ること 敬稱  
じょうらん(名) 照冠(名) あきらかに見ること  
じょうらん(名) のこらへになること

じょうらん(名) 煙燭(名) 煙燭(名) けけたれなる  
じょうらん(名) 上覧(名) 貴人のごんになる  
じょうらん(名) 上覧相撲(名) 江戸幕府で行はれた臨時の儀。江戸城内吹上御落、將軍が相撲を觀した。中にも寛政三年施行のものが名高。

じょうらん(名) 評覽(名) あらそひ亂れること  
じょうらん(名) 擾亂(名) 亂れること 亂ん

じょうらん(名) 翔鸞樓(名) 平安大内裏八雲院の樓の一。徳天門外西南方に突出し方四間、五葺、屋背に瑞鳳あり、東南方の栢風樓と相

じょうり(名) 掌理(名) つかさどりをさめること  
じょうり(名) 監羅(名) かき。まがき。

じょうり(名) 勝利(名) 争ひ又は戦つて勝つこと  
じょうり(名) 小利(名) 低い階級の官吏。こやくん。

じょうり(名) 捷利(名) かつこと。勝利。  
じょうり(名) 愛理(名) やばらげなまめいこと。  
じょうり(名) 常理(名) 普通の道理。「こと」。

じょうり(名) 常理(名) 普通の道理。「こと」。  
じょうり(名) 定離(名) わかれるにきまつてある

じょうり(名) 條理(名) すぢみち。すぢ。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條理(名) すぢみち。すぢ。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。

じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。  
じょうり(名) 條里(名) 市街の區劃。



蝗(飛草蠶)









しよくいん(食飲)名 くふむのむ。しよくいん(職印)名 職員・公吏等の資格をあらはす印。

しよくいん(職員)名 職務を擔當する人。官吏待遇のもの。かいきび(職員會議)名 公衙學校などの職員が集まつて開く會議。

しよくいん(職員名簿)名 職員の名簿。しよくいん(職員録)名 法國家の官職に現在就任してゐるの官職・官等・俸給・氏名等を記載したるもの。毎年内閣印刷局で編輯發行。

しよくえん(處遇)名 處遇と待遇。しよくえん(觸穢)名 汚穢の身に著き目に觸れること。死穢市塵産穢穢月經等のけがれに觸れること。古昔は神事と興かことを得なかつた。

しよくえん(燭影)名 としむのかけ。しよくえん(食悦)名 食ひたいと思ふ物又は旨いものを食ふよご。しよくえん(屬壓)名 色あきる程十分に馳走にならうこと。

しよくえん(食鹽)名 化食用の鹽。その主成分はクロロナトリウム。岩鹽又は海水中に存在し其の溶解度温度の高低によつて換して變化しない。人體の發育に必要な食品で、又防腐力を有するから、諸種の食品を漬けて貯蔵するに用ひ、工業上苛性曹達・炭酸曹達・鹽酸等の製造原料とする。

しよくえん(食鹽水注射)名 食鹽水を皮下組織又は膀胱内に注射し、血脈を通じて毒素の稀釋・水分補充の目的の爲に行ふもの。しよくえん(食鹽泉)名 地中千分中食鹽形成分一分以上を含有し、クロール・イオン・ナトリウム・イオンを主成分とする泉類の總稱。地下底岩別層・鹽原・海成層・修善寺・登別・有馬等之に屬し、浴用として慢性リウマチス・痛風・血管硬化症等に効果があり、飲用として慢性消化器病に有效である。

しよくえん(職敵)名 色同じ職業に従事するものが互にこみあふと、又その相手・商賣がたき。

しよくがはえ(食蛟蟻)名 動物の一種。體長約一五センチ。頭部は半球狀體に粗毛なく、脚は短し。幼蟲は好蟲(か)を食ふ。

しよくがはえ(職蟻)名 食物の變性動物。翅は退化し、體は狭く、生殖器の發達不完全なもの。幼蟲の養育・營養・食糧等に従事する。蟻群の中女王及び雄蟻以外のものに屬し、我がの普通に見る蟻はこれである。はなはだ。

しよくがはえ(職業)名 一定の生活地位に於いて、精神的又は體的勤勞を繼續的に營み、所得を得得する業務。人間が社會の分業的地位に於いてそれぞれ個性を顯現し、社會的要求する各種各様の文化財に貢獻すること。日常従事する業務。生計を立てる爲の仕事。あんな(職業)名 求職者の爲に、勞務募集の廣告を集め掛けた案内。いがつこう(職業學校)名 教育課程・訓練・刺茶・アルバイト・速記・簿記・通信・鐵道・圖算・測量・整骨・美術・助産・看護等を專修する學校。職業指導によつて設けられた中等程度一種の實業學校。職業指導によつて入るべき職業生活の方向の定まらぬものに、職業生活上必要な技術及び其の技術に基く理論を教授し、職業家としての適當な人格の陶冶をするもの。しよくがはえ(職業指導)名 青少年の職業選擇に關して指導と助言とを與へること。個人に關する正確な知見と職業に關する正確な調査とに基づいてなされるもの。しよくがはえ(職業紹介所)名 就職希望者の爲に適應する地位を紹介し、職業を與へ、雇主の爲に所要の勞務者を供給し、その需要を充たさめめるを目的とし、自治團體又は保甲官廳の設立した取扱所。しよくがはえ(職業紹介)名 法職業紹介事業を國家の事務とし、その設置・經營・職員定數等によつて規定した法律。大正十年七月一日實施。しよくがはえ(職業心理學)名 心の(Vocational psychology)各種職業に於ける人間力の利用に於いて、心理學的に研究し、その能率進歩を計る應用心理學の一部門。

しよくがはえ(職業政治家)名 政治界に於ける諸種の職業に關與すること。職業として生活するもの。しよくがはえ(職業講堂)名 職業意識障礙の患者が、自己の職業に關する強勁作業を無意識に行ふこと。大工の患者が木を削る如き學問をなす類。しよくがはえ(職業團體)名 社會職業の種別によつて組織せられた團體。しよくがはえ(職業病)名 醫職業の特殊性質によつて特に發見し易い病氣。生醫工手指露癬癩炎を起す類。いふ(職業婦人)名 一定の職業に就きその職業から受ける結核によつて獨立の生計を營み、または家計を補助する器。女子停給生活しよくがはえ(食具)名 食食用の器具。食器。しよくがはえ(食器)名 物に強く觸れあたるもの。しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。

しよくがはえ(職原)名 官職の起原。しよくがはえ(職原抄)名 歷北島親房の著。二卷。漢文で官職の沿革補任の次第を記述した書。興國二年、常陸國小田城で著作した。慶長十三年刊行。







決で、區裁判所の管轄に關する。民事訴訟法第七編七百六十四條乃至七百八十五條の規定。

しよこ 〔略鼓〕(名) よあけを報する太鼓の音。

しよこ 〔書買〕(名) 書籍を南ふ人。書肆商。

しよこ 〔書孤〕(名) 多くのみなし。

しよこ 〔諸孤〕(名) 多くのみなし。

しよこ 〔助語〕(名) じよげん。〔文法〕助詞と助動詞の併稱。

しよこ 〔聖語〕(名) 多くどしどしいことば。親し。

しよこ 〔初更〕(名) 五更の第一、今の夜の八時頃。

しよこ 〔初校〕(名) 最初の校正。〔再校三校〕(名) 三校。

しよこ 〔曙光〕(名) あげほのひかり。

しよこ 〔初號〕(名) 號数を追ふもの第一。

しよこ 〔初號活字〕(名) 活字中の最大のもの。

しよこ 〔諸豪〕(名) もろもろの豪傑。群雄。

しよこ 〔助攻〕(名) 助勢して攻撃すること。又、本攻勢を助ける爲の攻撃。

しよこ 〔女皇〕(名) 女子の皇帝。

しよこ 〔女工〕(名) 女子の職工。

しよこ 〔女功〕(名) 女子のしごと。

しよこ 〔除號〕(名) 數除法の符號。即ちしよことうがい。

しよこ 〔初航海〕(名) 初めての航海。

しよこ 〔諸國〕(名) もろもろのくに。一、まき。

〔諸國牧〕(名) 昔兵部省の所轄で、騎西園以下七箇國にあつた。馬牧二十七箇所、牛牧十五箇所、牛馬を牧長が毎年引連れて左右馬寮に進めつた。

しよこ 〔筋骨〕(名) 骨の骨。

しよこ 〔勤骨〕(名) 〔肯骨〕(名) 骨推動物の頭蓋床を形成する骨。魚類、兩棲類の骨を有する。哺乳類では、兩側癒合し、無對の鈣化骨となり、鼻中隔の一部をなす。

しよこ 〔初婚〕(名) はじめての婚姻。

しよこ 〔初獻〕(名) 酒奠で初めて盃をさすこと。

しよこ 〔初言〕(名) 初まひ。

しよこ 〔助言〕(名) じよげん。

しよこ 〔所作〕(名) じよしやう。ふるまひ。おこなひ。

しよこ 〔所作師〕(名) 所作に巧みな役者。

しよこ 〔所作無し〕(名) 形一てまひまがらぬ。さうまがぬ。一、ぶたし所作舞臺(名) 芝居狂言で、所作をなす時、足拍子のよく響くやうに舞臺の上に設けた板。一、る(名) 所作(名) 自動ラ四しよこくる。所作事をなす。

しよこ 〔處裁〕(名) 處置をなすこと。さばくこと。

しよこ 〔所在〕(名) 存在する所。ありが。すみか。こころ。に。到る所。と。する。しよこ。しよこ。一、なげ(名) 所在無け(名) しよさいないこと。一、なざ(名) 所在無き(名) しよさいないこと。又、その程度。一、なし(名) (形) しよさいないこと。無し(形) しよさいないこと。一、ない(名) (形) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無け〕(名) しよさいないさま。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。又、その程度。一、なし(名) (形) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無け〕(名) しよさいないさま。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。又、その程度。一、なし(名) (形) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無〕(名) しよさいないこと。

しよこ 〔如才無き〕(名) しよさいないこと。

しよさい (名) (論語) 八佾篇に「祭如也」とあるに基つて、神を祭るに、眼前に神のいますやうになつてしまふこと。

しよさい (名) 罪をゆるすこと。

しよさい (名) 〔初齋院〕(名) 昔、卜定せられた齋王が野宮に入るまで、深齋の爲、宮城内に便宜な地を定めて移居せられたこと。

しよさい (名) 〔所在地〕(名) 或人や或物の存在する土地。

しよさい (名) 一、ほうし所在地(名) 〔法國際私法に於ける準據法の一。一定法律關係を定めるに於て、目的物の所在する地の法律を適用し、目的物の法律關係を定める主義。

しよさい (名) 〔定齋屋〕(名) 賣藥行商の一。

しよさい (名) 中散といふ。昔齋の掛衆。一、對の大きな黒又は朱塗の藥箱に入れ、黒帯は白の半纏に股引を著けた人が、藥箱の縦ならしなから賣りあること。

しよさい (名) 〔初作〕(名) はじめての製作又は著作。

しよさい (名) 〔書札〕(名) 名刺。しよさい。

しよさい (名) 〔書札禮〕(名) 書札の形式等に関して規定したもの。例へば位位資格等によつて、文言葉を變へ、又は眞行草の書方を異にする等の書禮式。弘安八年に制定せられた弘安禮式に明示せられた。武家禮式は鎌倉幕府以來その定めがあつた。

しよさい (名) 〔書禮〕(名) 書禮の本。

しよさい (名) 〔初三〕(名) 三月初三。一、のひ。

しよさい (名) 〔初參〕(名) さんさん。

しよさい (名) 〔書算〕(名) 書道と算数。

しよさい (名) 〔諸山〕(名) 多くの山。一、のひ。

しよさい (名) 〔助産婦〕(名) 産婆。

しよさい (名) 〔初志〕(名) 最初のかんがへ。初のおもひたち。もとのこと。

しよさい (名) 〔處士〕(名) 民間にあつて仕官せぬ人。

しよさい (名) 〔處子〕(名) むすめ。しらぬ。

しよさい (名) 〔書簡〕(名) ほんぶ。かき。

しよさい (名) 〔書肆〕(名) 本屋。書店。

しよさい (名) 〔書史〕(名) 書道に連した人物。

しよさい (名) 〔書官〕(名) 書道に連した人物。手習師匠。て「かき。」

しよさい (名) 〔書紙〕(名) 書札。書面のかけつけ。

しよさい (名) 〔所司〕(名) 鎌倉時代の侍所の次官。室町時代の侍所の長官。僧侶の職名。上座。寺々。都部。の番。三綱。一、だいし所司代(名) 室町時代に侍所の所司の職名が、所司の代理として事務を取扱つたもの。攝關時代以後、保元平治時代に、京都の警衛・西園寺氏の監督・京都諸役人の事務を處置し、五畿内・丹波・近江・播磨の訴訟を掌つたもの。

しよさい (名) 〔諸司公解田〕(名) 官田又は乘田を割いて諸司の公解田となし、不檢租田の一。一、てん諸司田(名) 諸司の雑用に給した田。

しよさい (名) 〔諸士法度〕(名) 江戸幕府の旗本諸士の守るべき法令。寛永九年に定む。忠告を勤み、軍役を怠らす。武事を嗜み、奢侈を戒め、信義を重んずる等のこと。

しよさい (名) 〔諸子〕(名) 支那の春秋戰國時代に、一家の學說を樹立した人とその著書。學問學派。一、ひやうかやうの學派。孔子。管子。老子。孟子。莊子。墨子。韓非子。尹文子。孫子。鬼谷子等。

しよさい (名) 〔所思〕(名) 思ふこと。おほひ。

しよさい (名) 〔諸子〕(名) 諸氏。一、しよさい。

しよさい (名) 〔處事〕(名) 事を處理すること。事をとりは

しよさい (名) 〔庶事〕(名) 多くのこと。





じょしよく(じょ)女性(名) 婦人の容貌。婦人の色香。①いろ。②しよ。

しよしん(書信)(名) 手紙のたより。

しよしん(所信)(名) 信する所。

しよしん(諸臣)(名) もろもろの臣下。

しよしん(初心)(名) はじめのかんがへ。①まだ物事に慣れぬこと。未熟。②世なれぬこと。世間になれぬこと。うま。③こうが(初心講)(名) 運來などの初心者の備す會。④も(初心者)(名) 未熟な者。うまもの。

しよしん(初審)(名) 法第一回の審判。はじめ

しよしん(庶人)(名) 庶民。人民。

しよしん(諸人)(名) もろもろの人。多くの人。

しよしん(女眞)(名) 歴遼洲に起こつた民族の名。唐代に契丹といひ、唐末に女眞といひて、黒龍江地方に散在してゐた。一一一五年、完顔部の首長阿骨打、金國を建て、ハルビンの東南、會寧府に據る。後蒙古に滅ばされたがその雄才女漢から清朝が起つた。

じょしん(女神)(名) 女性の神。めがみ。

じょじん(女)(名) 女。なんにょ。

じょじん(除燧器)(名) 煙筒の頭端に取付け、細い鐵網を用ひて煤煙の飛散するを速り、煙のみを通過せしめる装置のもの。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

文章又は詩歌へのべらばす。①序文をかく。はしがきを書く。②次第を追つて陳述する。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょ(自動)サ變(名) 處す。とどめる。おく。①きめる。②きりりする。とりまはく。

じょせい(助勢)(名) 力を添へること。又、そのもの。かせ。すたけ。

じょせい(助成)(名) 助けて成就させること。力を添へて成功させること。①ひん助成(名) 生産物を助成する物品。即ち肥料、薬品の類。

じょせい(女)(名) 女子の生徒。

じょせい(女婚)(名) 女が結婚すること。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

じょせい(女性)(名) 女性性質。女の性狀。

(名) 法 權利の存在を限定する期間。盜取又は遺失物同復歸請求權、婚姻取消權、廢房取權等の除斥期間等がある。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

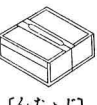
じょせき(除籍)(名) じしょく。

じょせき(除籍)(名) じしょく。

しよぞう **「所蔵」**(名) 所有物をなまめおくこと。なまめおく所有物。  
 しよぞう **「序奏」**(名) 【音】(Introduction) 後続の樂曲を一冊興味深からしめる準備としての前奏。  
 一きく **「序奏曲」**(名) 【音】(Introduction) 序奏の獨立した樂章。  
 じよそちう **「女装」**(名) 男が女のよまひをなすうちかへして雜草を生せしめぬこと。一きく **「除草器」**(名) 農家の爲の用具、搦手の類。  
 じよそちう **「助葬事業」**(名) 【社】費用で葬儀を察み難いものにして、代つて之を行ひ、或は助力をなす施設及び事業。救護法、工場法、健康保險法中に葬儀費支出を明示してある。  
 しよぞく **「所屬」**(名) 從屬又は附屬してあること。又、そのもの。  
 しよぞく **「庶族」**(名) ①別家。②平民。庶民。  
 しよぞく **「除族」**(名) 華士族の身分を除去せしよそつ **「諸卒」**(名) 多くの兵卒。「れること。  
 しよそん **「書損」**(名) かまき、なび。  
 しよそん **「庶孫」**(名) 庶出のもの。嫡孫以外の孫。  
 しよぞん **「所存」**(名) 心中に思ふ所。おもはく。かんがへ。  
 じよそん **「女孫」**(名) むすめの子の生んだ孫。  
 じよそん **「女尊男卑」**(名) 女の地位がたふて、男の地位が低いといふこと。  
 しよたい **「書體」**(名) 文字の體裁。書風。③文字のかきかた。書法。  
 しよたい **「所帯」**(名) 一身に關する所有。資産。身代。領土。②戸を構へて營む獨立の生計。  
 しか **「所帯崩」**(名) 一旦一家を構へた後、家族と離れて孤獨で世渡りするもの。③ **「みぢぢぢ」** (みぢぢぢ) **「所帯染みる」** (自動) 「まじ」所帯を持つた爲に苦勞が身にしんでおとなびて見える。一どらぐ **「所帯道具」**(名) 一家を構

へて生計を立てるのに必要な道具。軍前・普所道具の生計を立てること。又、その體裁。  
 しよたい **「諸隊」**(名) 多くの部隊。「の人の時代。  
 しよたい **「初代」**(名) 或系統の最初の人。又、その體裁。  
 しよたい **「書題」**(名) 文字をかきかた。一きく **「女隊」**(名) 女子の組。  
 しよたい **「除隊」**(名) 軍軍隊に入營した現役兵が一定期間の經過によつて服役解除と共に、豫備役に編入され歸郷すること。一きく **「除隊式」**(名) 軍除隊の日、隊長が除隊の兵士に對して別辭訓示をなす儀式。  
 じよたい **「序題序代」**(名) はがき。序言。  
 じよたい **「退避機」**(名) 【軍】(Muster attack) (Muster for interference) の後座を利用して、自動動作を行ふ機關銃又は機關砲の發射速度を高める爲に後座速度を速める機構。  
 しよたい **「諸大夫」**(名) 昔の四位五位で非侍從たるもの稱。②中世以後、親王攝關・大臣家など家の司に補せられ、格別の功によつて昇殿を許される家柄のもの。③武家で五位の通稱。一け **「諸大夫家」**(名) 諸大夫に補せられる家柄。即ち四條、勳傳系・粟室・大江の福壽寺・日野・親安の家・平忠盛の餘流・官外記・醫陰兩道・伊勢齋主等の家の稱。一江戶幕府時代に諸大夫の詰所にて、虎岡・鶴岡・櫻間を之に充てた。一ほうし **「諸大夫法師」**(名) 門跡家の法師。  
 しよたい **「みよ」**(名) 諸大夫の對面。  
 しよたい **「初対面」**(名) 初めて多對面はつた。いめん。  
 じよたい **「序出」**(名) 書きはじめ。まへおき **「發本」**(名) 最初に切りつける本。  
 じよたい **「除脱」**(名) のぞくこと。  
 しよたい **「書棚」**(名) 書物を載せる棚。

しよだん **「初段」**(名) ①はじめの段。②柔道勲章・團扇・將葵・聯珠等の段階の最初のもの。「あつてき  
 しよだん **「處斷」**(名) 處決・裁斷の意。まいてき  
 じよだん **「庶男」**(名) ぬかわけらの男子。  
 じよだん **「助炭」**(名) 紙を張つた火鉢の上をおぼつて、火氣を散らさぬやうにする具。  
 しよちち **「處置」**(名) はからひ。  
 しよちち **「所知」**(名) 所領。知行所。一いり所知 **「入」**(名) 知行を受けた諸侯が、始めて自分の知行所に入ること。②安居の継子の名。大名行列の出る場などに用ひ、三提の三味線を用ひて奏すること。  
 じよちち **「舒運」**(名) ゆるやかな。のり。い。  
 じよちち **「一こうえん」**(名) 除地公園 (名) 地割の都合上、他に利用の途なくして取殘された都市の地を公園にしたもの。「書物」  
 しよちち **「書厨」**(名) ①和本を蔵ふ布製の具。②齊書の陸澄傳に「陸公、書厨とあるに基づく」徒らに讀書で活用を知らぬ人。  
 しよちち **「書中」**(名) 書籍又は文書。手紙に送べてある文の中。  
 しよちち **「暑中」**(名) 夏の暑さの間。②夏の土用十八日の間。一きく **「暑中休暇」**(名) 學校など、暑中に休業させ又は特に學科を研究させる目的で、教員及び學生生徒に與へる一定期間の休業。なつやすみ。一やすみ **「暑中休」**(名) 暑中休暇。  
 じよちち **「女中」**(名) ①婦人。女。②仕官又は奉公せぬ女子。③はしため。下女。一いこと **「女中詞」**(名) 御歌など。女房。いこと **「除蟲菊」**(名) 一種の菊科の多年生草本。アメリカの原産。高さ約六〇〇。葉は五生して羽狀分裂をなす。夏日、莖頭に白色臭



【んたよ】

は赤色の頭狀花を著ける。花を乾かして粉狀となし、蛋取粉或取粉等の驅蟲劑の原料とする。  
 しよちち **「所長」**(名) 所と稱するところの事務を總理するもの。  
 しよちち **「署長」**(名) 署と名づくるところの事務を總理するもの。②警察署長。  
 じよちち **「公長」**(名) たすけておたすけに基づく急速に生長させようと思つて、強ひて力を添へて却て之を害するもの。「上う」(書書狀)。  
 しよちち **「初陳狀」**(名) (しよちち) **「燭架」**(名) 燭臺。  
 しよちち **「燭火」**(名) としひ。  
 しよちち **「食貨」**(名) 財貨をなすこと。  
 しよちち **「食穀」**(名) 米穀と食糧。③民食を掌る官と金貨を掌る官と。一し **「食貨志」**(名) 財政に關する記録。  
 しよちち **「寄食」**(名) ①自分の家に養つておく浪人。②門下に寄食する人士。③寄食する人。あまふ。  
 しよちち **「觸角」**(名) (觸) (触覚) (触覚) 節足動物中、蜘蛛類・節足類・若脚類等以外のものの頭部にある感覺器。通常長い體狀をなし、數多くの關節から成り、多くは觸覺を掌り、食物を探し、外敵を防ぐ用をなす。甲殼類には二對、昆蟲類には一對を存する。  
 しよちち **「觸覺」**(名) (觸) (觸覚) (觸覚) (觸覚) 皮膚面が外物に接觸するによつて生ずる感覺。痛覺・壓覺・溫覺・痛覺の作用。生理的には皮膚層に於てその各に對應する神經末梢部の刺激による興奮過程で、物の存在を柔軟等感覺する官能。空間の測定に用ひられる器械で、皮膚上の任意の二點を察するもの。「覺」。  
 しよちち **「觸感」**(名) (觸) (觸覚) (觸覚) (觸覚) 觸覺の建つた國。四川を中心とし、北は陝西の南部、南



しよとろ 諸道(名) ちろもろのみち。多く  
のわさ。えよつこのこ。諸事。萬事。ちろもろの  
學藝。各種の方面。

しよとろ 所動(名) はたならきかけられること。  
けみ。えん(受動)。「女としてのみち。  
しよとろ 女童(名) 女子のふみ行ふき道。  
じよとろ 女童(名) なんのこども。

しよとろ 助動(名) 文法にじよとろし  
(助動詞) 名 文法を獨立して使用せられず、動  
詞又は形容詞、名詞等について意義を添へる語、  
多くは語尾の變化を有する。受身可能(る)ら  
定(なり)たり。推定(らん)めり。ましし  
し。打消(ふ)まじ。けん(ない)時(つ)め  
「たり」に「けん(ない)時(つ)め」を  
望(なん)まほし(し)況(じ)ことじなどに分つ。  
之を助詞の一種と見る説がある。

しよとろ 諸道具(名) 種種の道具。  
しよとろ 初答状(名) 鎌倉・室町  
時代に於ける原告の訴状に對する第一回の答状。初  
問狀に對する最初の陳狀。

しよとろ 書讀(名) てみ。香蘭。  
しよとろ 書讀體(名) てみ。用ひる文體。一ふん「書讀  
文」(名) 書讀體の文。従來は假體の文であつたが、  
今は多く口語體の文を用ひる。日用文。表簡文。候文。

しよとろ 所得(名) 身に身に得る所のもの。  
しよとろ 經濟生活(名) 身を身に得る所のもの。  
しよとろ 所得金(名) 所得  
得となる金銭。收入金。一ころじ「所得  
控除」(名) 課税所得高から法定の金額を差引  
くこと。我が國所得税法に於いて、第三種所得總額  
一萬二千圓以下の場合に限り勤勞所得につき、その  
十分の一又は十分の二を控除する。又三千圓以下の  
所得者には、老幼不具疾の家族一人につき百圓  
を控除する類。一せい「所得税」(名) 法直接

關稅の一。個人又は法人の一箇年の所得額を標準とし  
て賦課するもので、我が國の租稅收入中首位をな  
してゐる。第一種は法人の所得、第二種は公債社  
債、銀行預金の利子及び貸附信託の利益、第三種は第  
一種、第二種以外の個人の所得に對し、一箇年千二  
百圓以上の所得者に異動的に賦課する。一ちよ  
さい「所得調査委員」(名) 法所  
得調査委員會を組織する委員。該當稅務署所轄内に  
居住し、前年第三種の所得稅納めたものから公選  
し、稅務署長の諮問に應じ、納稅義務者の申告につき  
第三種所得の金額之種資本利子金額・個人の營業純  
收益額を調査する。任期は四箇年、定員はその  
地方により四人乃至十三人。

しよとろ 諸徳(名) 諸語の道徳。多くの高  
しよとろ 初七日(名) 佛人の死後、七日目  
にある日。しちに。

しよとろ 自動(名) 自動、力四) なまめかしく  
いふな様子をする。い、に運入ふる。「る英難  
じよとろ 女難(名) 男が女の事に關して受け  
じよとろ 序二段(名) 相撲番附で、最下段序  
口の一段上に記された地位。

しよとろ 初日(名) 初めの日。物事を始めた日。  
しよとろ 除日(名) けいけい(に)ち「除利日」。  
しよとろ 初乳(名) 生母産中及び産後初  
期に乳腺から分泌する水様透明液。  
しよとろ 誣語入糞(名) いろいろの入糞  
しよとろ 庶人(名) しじん。人民。しじも。  
しよとろ 諸人(名) もろびと。人民。しじも。  
しよとろ 初職(名) 初めて官職に任ぜられること。  
しよとろ 意地のわるいさま。ぶあいさう  
なさま。  
しよとろ 敘任(名) 位に敘し、官に任ぜられる  
しよとろ 暑熱(名) 夏にあつさ。炎熱。  
しよとろ 初年(名) はじめのとし。一へい「初  
年兵」(名) 軍入營後未だ一年を経過せぬ兵士。

しよとろ 初念(名) はじめに思ひこんだこと。  
しよとろ 所念(名) 思ひこんだこと。  
しよとろ 諸念(名) もろいのおもひ。  
しよとろ 序口(名) はじまり。はつたんん發  
聲。序幕。相撲番附で最下段に記名せられた地  
位。又その力士。  
しよとろ 序舞(名) 能樂の舞の一種。  
大鼓・小鼓及び太鼓・太鼓等の囃子が附く。芝  
居の囃子の一種。御殿の場で、主君に譚言する時又  
人物の出入する場合に用ひる。「文の書面。  
しよとろ 序破念(名) 舞臺の形式。  
序は一曲の最初の部分で、太鼓を以て太鼓の拍子  
を定める外は無拍子で、舞人は之に従つて舞臺にあら  
はれてその位置を定める。發は一曲の中間の部分  
で、括拍子の曲を用ひ、緩徐な拍子に従つて舞人は徐  
かに舞ふ。急は最終の部分の早拍子の曲で、急速な  
拍子に従ひ、舞人は急拍子で舞ふ。能樂に於ける  
歌出上の順序、緩急の表現の推移を律する基礎原則。  
序一段・發一段・急一段などといふ。講談などで  
談話の順序又は聲音の緩急などいふ稱稱。はじ  
めとなかとはり。

しよとろ 初發(名) 始めて發すること。はじま  
り。お。こと。  
しよとろ 處罰(名) 刑罰に處すること。罰する  
しよとろ 除伐(名) 林・林業上、幼齡林の  
手入れの一。不用の樹木又は過密の枝葉を伐り除く  
こと。多く間伐者手前に行ふ。兎賊・狹徒などう  
ちほるほること。  
しよとろ 諸波羅密(名) ちろもろの  
波羅密。六波羅密・十波羅密などの總稱。  
しよとろ 諸般(名) いろいろ。さまざま。  
しよとろ 初版(名) 書籍の最初の印行。第一版。  
しよとろ 初判(名) 宇宙がわかれて初めて天

地に現はれること。●物事ははじめ。最初。  
しよとろ 初犯(名) 犯したての犯罪。  
しよとろ 初番(名) 初めにあたる番。●順番  
のはじめ。最初。  
シマン(FredERIC FRANÇOIS CHOPIN) (名)  
「フアン」の世界的音樂家、ピアノの名手。ポー  
ランドに生る。作曲はピアノ曲に限られたが、その  
獨特の技巧による響感のなまなまといふ情熱的なリズ  
ムとは、水底に滅ぶの光を放つて、多くの名曲が遺  
つてゐる。(ハハハ)

しよとろ 書皮(名) 書物の表紙。  
しよとろ 諸費(名) ちろもろの費用。諸入費。  
しよとろ 控帳(名) 諸控帳(名) 備忘の  
爲、諸事項をししおく帳簿。  
しよとろ 初筆(名) 初めに書くこと。しよとろ。  
しよとろ 助筆(名) 他人の文に書き加へて文章  
をよくなること。加筆。  
しよとろ 諸病(名) ちろもろの病氣。萬  
病氣をよき言ふ延べること。  
しよとろ 序開(名) はじめ。發端。  
しよとろ 諸品(名) 多種の品物。  
しよとろ 諸父(名) 多種のちろもろ(諸母の對)  
しよとろ 諸部(名) 全部署する所。管轄の範圍。  
しよとろ 書風(名) 書きぶり。書體。  
しよとろ 書幅(名) 文字を書いたかげもの。書  
しよとろ 初伏(名) 三伏の一。夏至の後三十日  
間。(申伏未伏の對)  
しよとろ 除服(名) 喪の期間が終つて喪服を  
ぬくこと。中古公の公稱は、河原門前・家内等、  
其の儀式を行つ。忌かた。しよとろ 除服  
出任(名) 服忌中の人が、除服の命を待てて出任  
すること。









てない紙。はくし。一てがた「白紙手形」(名) 貸主が借主に借用證書を取る時、白紙に借主の名印のみをおまかせておき、後に金額等を記入し、不當の利を得んとするもの。江戸時代に盛衰せられたが、ひそかに行はれた。

しらかみさきき「白神岬」(名) 地 北海道本島の最南端をなす岬角、津軽海峡を隔てて津軽半島の龍飛岬と相對し、海峡の西口を扼する。同稱紅白光の燈臺が設けられてゐる。

しらかゆ「白濁」(名) 白米のかけ。

しらかわが「白川」(名) 地 京都東山に接する町又川の名。川は南河野の西から右折して賀茂川に入る。一藤本川は四ツ木の川。阿蘇岳の南麓に發源し、熊本市の南方を過ぎて海に注ぐ。流程約七〇軒。一いし「白川石」(名) 京都白川から産出する花崗岩の一種。白色の地に黒色の筋を帯びる。石燈籠、手水鉢等に用ひる。

しらかわが「白河」(名) 地 昔の陸奥國の舊郡。今は今の東白河、西白河、石川の三部に亘つた地。福島縣西白河郡の町。西郡數軒の地に軍馬補充部支那がある。古來、關東から奥州に入る一門戸。◎京都市の鴨川(賀茂川)以東、東山との間の地域。白河原(六勝寺)の所在地として名高い。一いし「白河石」(名) 粗粒の凝灰岩。一般に淡灰色を呈する。福島縣西白河郡西郷村に産し、建築、庭園用の石材となる。一きたたの「白河北殿」(名) 白河大炊御門殿とす。白河法皇の御所。保元亂に戰場となつた所。今の京都市丸太町新道東入、鍾淵紡織會社上京工場前のその遺蹟。一どの「白河殿」(名) 藤原良房以後の別業。白河天皇之を齋宮とし給ひ、後法隆寺となる。◎京都市東區二條北、今の京都市岡崎の地にある。一のせき「白河關」(名) 地 關、蝦夷の醫國の名に反天皇の域、設けられた。能因法師の歌で有名。福島縣の西白河郡古川村大字族宿は舊關址といふ。一よふね「白河夜船」(名) 京を見たふりするものが、京の白河の花之間に川の名と思つて、夜船で過

たから知らぬと答へたいふ。「毛吹草」に見ゆ熱睡しつて前後知らぬこと。一白河天皇」(名) 第七十二代の天皇。御名は貞仁。後三條天皇の第一皇子。御在位十五年で御謀位の後、落胤、法皇と稱し、初めて院政を開かれ、堀河、鳥羽、嵯峨の三朝、四十二年に亘つて政を臨められた。大治四年崩御。寶算七十七。(一七七三)

しらかわしりのり「白川義則」(名) 人 元帥陸軍大将。男爵。松山市の生。幼名は誠一郎。大正十四年大將に陞進。陸軍大臣、軍事參議官を経て、昭和七年上海事變の突發するや、上海道清軍司令として出征し、四月二十九日同地の天皇節祝賀會場で、兇弾の爆彈に中つて負傷、五月癸、年六十五。

しらかわらけ「白川原毛」(名) 馬の毛色の一。白色のまじ、川原色。

しらかんば「白楸」(名) 植 白楸科の落葉喬木。高山の陽地に自生。高さ三〇米位に達し、樹皮は白色で紙狀に剝離する。

しらこ「白木」(名) あら皮を去り白く削じたまま、で塗り飾らぬ木地のままの材。しらきゆみ「植 大盛蓮」(名) 科の落葉喬木。葉は、一五厘程の大型楕圓形で先端尖り、葉縁が、全縁で、紅紫色の長葉柄によつて互生する。六月頃、枝頂に長花穂を出し、上部に多くの雄花を、下部に少數の雌花を著ける。秋三果皮ある球形の果實を結ぶ。一し「白木與

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。



【はんからし】

しらき「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらき「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらき「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。



【とござりし】

しらき「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらこ「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらこ「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらこ「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらこ「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらこ「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。しらか「しらこ」(名) 花の形が、しらかと似たもの。

しらす (白登) (名) 常ならぬ聲。かなざり

しらすこかし (名) おためこかし。

しらすこし (白興) (名) しらすこし。

しらすごしらえ (白橙) (名) 白登のしらす白羽

しらすごて (白小袖) (名) しらすごて。

しらすごばと (白子鳩) (名) 動。鳩科に属す。

しらすこはな (名) 動。脚は紫赤色。頭頸部と

體の下面は灰白色。後頭には幅広い黒色の頸輪を有

する。頭以下の背面は灰褐色、風切羽は黒褐色。尾

は中央の二枚以下は基部が黒く、先端が白色である。

すずかけは。

しらすさき (白登) (名) 動。鷓鴣科の鳥。(古語)

しらすさき (名) 動。鷓鴣科の鳥。全身純白色。後

頭部に長羽を生じ、背に黄毛がある。「し」。 (古語)

しらすさくも (白雲) (名) 白く見える雲。しらすく

しらすさやまき (白鞘巻) (名) 金具などを銀で包

んだ鞘巻の刀。

しらすじ (名) (名) 五又は陶器などのまだ

焼かぬ生土のもの。(名) 何も書いてない白い紙

面。①染めてない白い布帛。②處女のまだ男子に接

せぬこと。う。③すりばち。④いにんにじょう

ないで、たが署名捺印のみある委任状。⑤うら

がき (白地裏書) (名) 法。手形書方式の

裏書人(譲受人)の氏名を記載せしむる無記名式の手形及

び有價證券。無記名式裏書。⑥こきよって (白地

名捺印のみをして他人に交付する手形。之を振出す

ことを白地振出たよ。

しらすしげどう (白重簾) (名) 重簾の弓の一種。

しらすしほり (白橙) (名) 白胡麻の種子から搾り

取った油。

しらすしめ (知らしめ) (名) 知らしめる爲の事情。

しらすしめす (知食す) (他動) サ四。お治

めなす。しらすしめ (古語)

しらすしめゆ (白絞油) (名) 菜種油を精製した淡

黄色の油。又大豆油、桐実油の精製油。

しらすしら (白) (名) 副。あがるなりゆくさま。

夜の明けゆく頃。拂曉。②「あけしら」(名) 夜の

次第にあけゆく頃。拂曉。

しらすしら (白) (名) 副。しらしら。③「白

く見える。④「白」がさる。⑤知てて知らぬさま

をす。⑥「白」しらす (名) しらすしらいや

う。⑦「白」しらす (名) しらすしらいこ

と。又その程度。

しらすしらす (白洲) (名) 白い砂の洲。②邪宅の玄關

前など白い砂の敷いてある所。③能の舞臺と觀覽

所との間。④昔・新聞所の路上に磔が敷いてあつた

からいふ訴訟を裁斷し、又は罪人を執問する場所。

しらすしらす (名) 動。鯨科の硬骨魚。白魚に類似

して小さく、體長約九〇程に達する。體は長くてやや

側扁し、頭は短く、尾は短く切つた。全身に鱗なし

く、體半透明で、腹側に一列の黒點があり、色彩は

黄味を帯びた水色であるが、死後白色となる。海岸

しらす (白) (名) しらす (名) 生のまじり。又は蒸

乾した干し食品。

しらすしらす (知らす) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすしらす (知り給ふ) (自動) サ四。知り給ふ。

しらすたま (白玉) (名) ①白濁の玉。②しんじき

珠。③動。あわび。④白濁の玉。水で冷やし砂糖をかけて食

す。⑤又(汁粉の質、甜餅の質)の心などに用ひられる。

⑥「昆」の一種。米買長、筑前屋、畿内中

國地方に栽培され、牡丹、大粒である。⑦

「玉粉」(名) 糯米。又は糯米と種米との

粉とを混ぜ、寒中の三十日間毎日冷水で洗滌、これ

を日に乾かして挽いた粉。又は、初め粉末にした

ものを寒中の水に浸し、その沈澱をとって乾し固め

て製する。⑧「玉粉」(名) 種百花の

咲く時。⑨「ひめま」(名) 種。かすり。

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)

しらすたみ (白) (名) 醫。せんき(疝氣)。(古語)











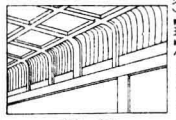
しりよら (紙料) (名) 製紙の原料。②パル  
 しりよら (寺領) (名) 寺院の領地。③ア  
 しりよら (土力) (名) 土の氣力。兵士のいきほひ。  
 しりよら (死力) (名) 一命を惜しまず盡くす力。必  
 死の力。  
 しりよく (資力) (名) ひととなる力。原動力。②  
 資本の實力。財産の能力。一ほしよりうら  
 ……實力保證料 (名) 〔經〕商品の受託買者  
 に代金支拂を保證させる爲に、委託者が欲する資  
 先保證の手數料。

しりよく (視力) (名) ①生物體の形状を認識する  
 眼の能力。眼の物を得る能力。視力の單位は國際眼科  
 學會の協定で、五米の距離から直經七・五毫米太  
 さ及び切れ目の幅が各一・五毫米のランドルト環の  
 切れ目を視分せ、それ以下の小さいものを視分ける  
 ことの出来ない視力を強り、これを「〇」と定める。

しりよく (視力検査) (名) 視力の健否を調べ  
 ること。普通、萬國式視力表によつて検査する。日  
 本人の健康視力は二・一—二・五である。(しりよく  
 じりよく) (事力) (名) じりよき。(じりよき) 参照。  
 じりよく (磁力) (名) 〔理〕Magnetic force。磁氣  
 の相斥力相引く力。磁場の強さ。一けい(磁)力  
 計(一)けい(Magnetic) (名) 磁力の強さを計る  
 器機。主として水不磁力を測る装置のもの。一せん  
 磁(力) (名) 〔理〕磁氣の磁力の作用する方向  
 を示す線。じきりよくせん磁氣力作用線(名) せん  
 せんこうほう(じきりよくせん磁氣力作用線)(名) せん  
 磁物の磁性を利用して之を識別する法。

しりよくせん(指力線)(名) 〔理〕Lines of fo  
 り(名) 磁場又は電場に於いて、  
 磁力電力の流動する方向を  
 示す線。

じりり(支輪)(名) 〔建〕日本  
 建築の軒蓋又は通風(名) 又又は通し天井と丸桁の間、或  
 は折上扉の縁縁間等、垂直



(輪支)

と水平とを異ならしめた横架材間を斜に連絡する壁  
 水。②四方の四方。③前後左右の人人。  
 しりん (四鄰) (名) 四方のとなり。あたりきん  
 しりん (四輪) (名) 〔佛〕大地の下にあって世界を  
 支持してゐるといふ四箇の大輪、即ち金(名) 輪水輪  
 風輪・空輪。 一人・二人の仲間。文人社會  
 しりん (詞林) (名) 〔文〕詩文を集めた書。②詩  
 しりん (絲綸) (名) 〔禮記〕の補衣章に「王言如絲  
 其出如綸」とあるに基くところのり。編管。  
 しりん (齒輪) (名) 〔機〕歯輪の仲間。僧侶の仲間。  
 しりん (齒輪) (名) はるま。

しりん (字林) (名) 漢字を集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。  
 しりん (辭林) (名) ことばを集めて解釋したもの。

〔和〕忍辱の佛のやうにわだかまりがない。知ら  
 んが爲に我信す(句) (Credit intention)  
 (ス) 古哲學の創始者サセムラの句に爲す。あ  
 (ス) 更に進んでその眞理をなせとら人が爲す。あ  
 一者は言はず、言ふ者は知らず(句) (老子  
 の語) 深く知りぬいてゐる人は是りに發言しなが  
 能く知らぬものは、喋喋と論辯するものである。  
 しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

明。マルセル化糖絲。糖糖絲。  
 しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。

しる(名) (自動) (下二) 愚痴にな  
 る。おろかななる。





しろ(子路)(名)孔子の弟子。下(へ)の人。姓は仲、名は由、子路は一に季路といふ。性勇な好み、過を聞く喜び、孝を以て知られた。魯に仕へ、後衛に仕へ、戦に出く、驢を斬られ、轡を結んで死した。
しろ(磁路)(名)理(Magnetic circuit) 磁力線の一束を通ずる管状の空間。

しろ(地塩)(名)地上に設けたるろり。
しろ(白藍)(名)うすい藍色。みついろ(白藍)を還元して得る白色の結晶質。アルカリ液に溶解し、藍染を用ひる。
しろ(白青)(名)うすいあめ色。
しろ(白濁)(名)表裏共に濁はなだ色のもの。
しろ(白濁)(名)表裏共に濁はなだ色のもの。
しろ(白濁)(名)表裏共に濁はなだ色のもの。
しろ(白濁)(名)表裏共に濁はなだ色のもの。

しろ(白豆)(名)種小豆の一種。種子が稍、小さくて圓く、白色に紫褐色を帯びたもの。
しろ(城)のあつた葛絲。
しろ(白胡麻)から採取した油。
しろ(白胡麻)から採取した油。
しろ(白胡麻)から採取した油。
しろ(白胡麻)から採取した油。

しろ(白蠟)(名)昆虫の一種で、等翅目の通稱。家族組織をなして築巢し、生殖作用を有する雌蟻(女王)・雄蟻(王)の外に職蟻・兵蟻があつて大集團をなしてゐる。雌は翅を有しない。職蟻は多く白色で、兵蟻は頭部黄褐色で、共に翅を有しない。雌は體肥満し、群中に一匹で、春日空中を飛んで雄と交尾し、雌は地中又は朽木中で産卵して、翅を脱する。兵蟻は顎を武器として之を腐敗せしめ、又家屋に大害を加へる。
しろ(白蠟)(名)しらあわ。



〔りあろし〕

しろあん(白臈)(名)白小豆の澱粉に白砂糖と水飴を混して製した餡。
しろい(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

紋附(名)和服の禮装。白襟に紋附を著用すること。吉凶共に用ひる。婦人の白は、吉襟には襷袢の色(白)黒地、長者は黒その他の地色に吉襟は又は色無地(黒を著く)或は地模様のものなど、明りい色彩を選び、凶事には襷袢は白無地、長者は黒の無垢を著用する。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。
しろ(白)の(形)しろの口語。

しろきつね(白狐)(名)動物狐の一種。夏季は灰色又は褐色で、冬季に純白となるもの。北極に産し、我が國千島に産する。びやく。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきぬ(白衣)(名)白色の衣。びやくと。

しろきーしろつ

漣する。全身純白色。冬はクリーム白色、爪は黒く、毛密生し、體にも長毛を有する。水泳頗る巧みで滑行し亦巧妙。海邊の洞窟又は岩石の罅所に棲息し、獸類、魚鳥類又時に植物を餌と攝取する。北極熊、しろくま(白熊)(名)前脚(後脚)に銀を張った。馬を牽かせるもの。

しろぐるま(代車)(名)代駕に用ひる車。牛しろくね(名)白紅(名)牛。半白、半紅。染めなつひき。

しろくろ(白黒)(名)白と黒と。よしめし。

しろこうじ(白麴)(名)米で製した乳白色の粉。

しろこそ(白小袖)(名)白無地の小袖。しろこま(白胡麻)(名)種子の白色の胡麻。

しろサントメ(白棧留)(名)純白色の棧留草。

しろさもんひな(次郎左衛門雛)(名)江戸時代幕府から作り出された京都の雛屋次郎左衛門の作つた古代繪巻に見るやうな雛人形。

しろさくら(白櫻)(名)櫻の色の白。表白裏赤。又表白裏赤は紫。

しろさけ(白白酒)(名)濃厚な白色の國産純成酒。甘味弱くて辛味強、一種特有の香氣がある。米又は米と麹と清酒・味噌・焼酎或は酒糟とを混和して五十分日間放置し後に濾す。

しろさと(白砂糖)(名)精製した白色の砂糖。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

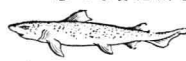
しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。

しろさめ(白鮫鱈)(名)動物。



しろさんご(白珊瑚)(名)動物珊瑚の一種。群體は樹状となし骨格は堅く密で動い。しろし(白磁)(名)形。白色である。白である。しろじ(白地)(名)白色の織地。地質の白いもの。

しろした(白下)(名)甘蔗から製した蜜糖の一種。糖蜜中に微細の結晶を混じった半流動性の砂糖で、樽入りにして販賣する。マスキット(Masking)糖液を結晶糖で濃縮した混状のもので、糖蜜と結晶との混合物。

しろしつくい(白漆喰)(名)上塗用の白色の漆喰。顔料を加す。二層目石灰・二層目腐蝕灰・上塗粉(生石膏)を混合する。

しろしほり(白控)(名)しらほり。

しろしめす(白知ろし食す)(他動、サ四)しろしめすの敬語。知り給ふ。占め給ふ。治め給ふ。(以上古語)

しろしよん(白書院)(名)江戸城内及び諸侯の城中の一室。金襴極目を用ひ一切塗料を用ひない書院造。正装。白木書院(黒書院の對)

しろじょうえ(白淨衣)(名)純白の淨衣。公家装束の一種。束帯の下に白装束(名)中古。公家装束の一種。束帯の下に白装束(名)中古。

しろじ(白)副(名)大層白いさま。

しろす(白)知ろす(他動、サ四)お知りになる。領をあげる。治められる。(以上古語)

しろすぎ(白杉)(名)紫雲を加へぬ杉。

しろすぎ(白杉)(名)杉の林業品種。鹿丸太として上等の建築に用ひられ、又、時として杖等の美なる爲、庭園樹にも用ひられる。京都府野村郡地方から産し、北丸太といふ。

しろすき(白搗)(名)玄米を白くつきしらげ

シロスダツト(Coolstat)(名)機天體から来る光線を一定方向に反射させる器械。天體物理学の観測に用ひる。

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、比較的均等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろすみ(白炭)(名)炭。石を積み重ねた窯内で燻の木材を炭化し最後に樹皮部を燃焼し、九百度千四百度位に高熱し、消粉と稱する土灰。炭粉の混合物を結びかぶる等の温度を保持するから、煎餅焼、落焼、鋳造等に通する。石灰で白く染めた枝炭。茶

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

しろだすき(白漆)(名)白布でつくった。

混じて飲用とする。〔ある。しろつとくまき。しろつつめいさ(白詰草)(名)種。豆科の多年生

植物性草本。葉は長柄を具て互生し、倒卵形の三

箇の小葉からなる掌状複葉。夏、葉腋から長梗を出

し、白色の蝶花を輪形に著ける。花後線形の繭を結

ぶ。縁肥として用ひる。オランダげんげ。オランダ

うまこやし。

しろぐみ(白手組)(名)黒手組に對抗して組織さ

れた意匠深染團。

しろと素人(名)しろつと。〔ととまき。しろとどり(白鳥)(名)動(名)はくろつと。〔ほ

しろとり(白鳥)(名)城郭を構へ設けること。又

その設計構造。〔實の色は白く、且、大きい。しろなす(白茄子)(名)種。なすびの一種。果

代金にかへる。しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

しろなすび(白茄子)(名)種しろなす。

家は繁昌するとの傳説からいふ主人に忠實で、その

家の繁榮を計る功勞多し、番頭の異稱。

しろねり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろねり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

しろのり(白練)(名)白、いれりきめ。

白く濁つたもの。米のとぎつ。物の垢を洗ひ去る

に用ひる。

しろみそ(白味噌)(名)帯黄白色で、光澤がある

上等な味噌。麴の使用量多く、甘味に富み、特殊の芳

香がある。

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

しろみつ(白蜜)(名)砂糖蜜に對して蜂蜜の稱

島市にある丘陵。鐘嶺とも稱する。明治十年、西南

の役の際、西郷隆盛決戦の地で、又、白刃の地。

しろやまぶき(白山吹)(名)種。薔薇科の灌木。

葉は短毛で互生し、卵形鋭頭、縁に歯牙狀鋭密が

あり、下面には絹毛を密布する。托葉は披針形、葉柄

と共に淡褐色の毛がある。初夏の候、枝端に一箇の

白色の四瓣花を生ずる。花後、黒色滑澤の球状果を

結ぶ。〔を著けるに對して。〕淫淫結。

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しろゆもじ(白湯文字)(名)遊女が赤湯文字

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

しわく

がらる。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

①(經簿記) 數計科目を設け、各科目別にしるすこと。一ちやう(し)。(仕譯帳)(名)●(經簿記)の簿記で、原簿記に入しせられた取引を貸借に分けて記入し、原簿記の用に供する帳簿。一につき

ちやう(し)。(仕譯日記帳)(名)●(經簿記で、仕譯帳と日記帳とを兼ねた帳簿。即ち日頃の取引を仕譯して記入する日記帳。一ぼ(仕譯簿)(名)●(經簿記帳。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

しわけ(仕譯、仕分)(名)●しわけること。區別。

●老人のきばらしとする事。

しわばら(皺腹)(名)●しわのよつたはら。●老人の腹。一を切る。

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しわ(子)苦しむ。(古語)

しん(心)(名)●ころ。●心臓。●むね。●中央。●中心。●心。●根柢。●基礎。●しんちゅう(心打)。

しん(信)(名)●欺かぬこと。言をたがへぬこと。忠實なこと。●疑はぬこと。●歸依すること。●信仰すること。●音信。●しんじし。●効驗。●わりふ。●符契。●二夜の宿宿。再宿。

しん(神)(名)●かみ。●神明。●神靈。●靈妙なこと。●神聖なこと。●組織した威力あること。●ころ。●神道。

しん(紳)(名)●支那の昔、禮服着用の際、腰で結び、その餘を垂れて飾とした幅廣帯。おほおび。一に書す。(古語)の衛の靈公賢に子張書諸紳ことあるに基く(備忘の爲に、紳に書すつけお書。轉じてよくおぼえぬを忘れず、常にかんがみる。しん(臣)(名)●君に仕へる者。けい。一こと。まこと。●まじりないこと。天然自然。●常性。不變。●眞實の道理。●妙理。●原質。●悟書。眞書。●一を保つ(句)●(楚辭)の卜居賢及び漢書の藝文志に出)天から付與せられた自然のまゝを失はぬ。

しん(眠)(名)●佛い自分のおもひに違反した事物に對して恨ること。●眠る。●かき。●に。●くみ。●らみ。しん(新)(名)●新しいこと。●新しい。●の(舊)の對)●今年の收穫。●しんれき(新積)。やうれき(陽曆)の對)●しんか(新株)。●(歴)支那の國名。前漢と後漢との間に、王莽が篡奪して天子と號した時代。●西暦一八三。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(秦)(名)●(歴)支那春秋時代の列國の一。●姬姓侯爵。●周の成王の弟叔虞の封せられた國。●汾水の流域を中心とし山西を領有し、後、河北省の南部、河南省の北部に及んだ大國。●前三七六年、家臣に滅ぼされた。

しん(清)(名)●(歴)明と中華民国との間の支那の國號。その始は滿洲族の奴酋哈爾(ヌル)の明の萬曆四十四年(一六一六)金國汗の位に即く。宣統三年(一九一三)滅ぶ。

しん(親)(名)●したしみ。●父母。おや。●親族。みょうち。みより。一はは(立寄(句)みよちのものに不意に際して、實意と同情を寄せ哀悼の爲に集まること。

しん(珍)(名)●車の床邊(し)の上の横木。●木の椗を繋ぐためにつくられたりする用具。●二十八宿の一。南方の宿。

しん(疹)(名)●(醫)皮膚に生ずる膿狀物。その色澤隆起の状態によつて、斑疹・水疱疹など、種種の名稱がある。ほろ。れぶと。

しん(震)(名)●八卦の一。三を以てあらはす。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。

しん(箴)(名)●れること。やまみ。●れど。





じんおく (八屋) (名) 人の住む家屋。人家。  
じんおし (陣押) (名) 運軍。  
じんおめし (新御召) (名) 絹絲と強張綿絲との交織の御召絹。天保年間、足利で創製したもの。

しんおん (新音) (名) 新しい音調又は音楽。  
しんおん (新音) (名) 氣息が上下兩聲間で破裂し又は摩擦し若しくは坪と上顎歯との間で、狹窄を作て發する音。バ行・フ行の音等之に屬する。

しんおん (心音) (名) 生(獨 Hærotone) 心臟が收縮し擴張し心臓が平衡を回復する爲、緊張せんとする際、擴張する結果として起る音。  
しんおん (仁恩) (名) めぐみ。なまけ。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんおーしんか

との説。一八五九年、イギリスの生物學者ダーウィン(Darwin)の創見。此の説はたび出て、進化は生物のみなならず、凡ての物質精神兩界にも存在せざらぬ、貴重な世界觀を構成するに至つた。ダーウィニしが「新芽」を新しい芽、しんか。しんか。「人家」(名) 人の住む家屋。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。  
しんか (眞價) (名) 眞實の價值。

しんが (侵害) (名) をかしたること。  
しんが (律理) (名) わたし。  
しんが (震駭) (名) おそれおどろくこと。  
しんが (心外) (名) 一心の外。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。

しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。  
しんが (意外) (名) 意外のこと。



貝

學陽明學の教。我が國で、神儒佛三教を調和綜合し、平易な言語と通俗な譬喩とを以て、知心見性の本旨を説き、善心を啓發し、道徳を進揚するを目的とする實跡道徳の教義。享保の頃、石田梅庵の唱へて石門心學を聞き、之を手爲場、中澤道二に傳へ更に柴田城壽に至つて大いに擴張せられた。我が國社會教育の先驅とも稱すべきもの。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。

しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。  
しんが (新學) (名) 新らしい學問。











しんげん(信言) (名) 信實のことば。  
しんげん(震言) (名) 意見を申し上ること。  
しんげん(震源) (名) 地下又は地表に於ける地震の起點。  
しんげん(申殿) (名) かされて殿戒すること。  
しんげん(森殿) (名) ぞつとるほどおごそかなこと。秩序正しくおごそかなこと。

しんげん(入権) (名) 法人類の生まれながらにして享有する自由平等の權利。天賦人權。人格權。①債權。②じゅうりんと③(入權蹂躞) (名) 法官が國民の人權を無視し、その自由を束縛して無法の行爲をなすこと。④せんげん(人權宣言) (名) 西曆一七八九年八月、ラファイエットの動議によって國民議會の名によって發布せられた國民の自由平等の人權に關する宣言。全文十七箇條より成る。フランス革命の發端で、民主主義運動の動機をなした。

しんげん(入相) (名) 入道相の略。  
しんげん(入言) (名) 世人のことば。世人のうはし。  
しんげん(盡言) (名) おもひのたげないひつくりなこと。

しんげん(身言書判) (名) 支那唐代官吏用的人物試験の四種。身は體貌豐偉なるを要し言は辯正なるを要し書は楷法遒美なるを要し判は文理優長なるを要した。こと。

しんげん(信玄流) (名) 甲州流。  
しんげん(糝粉) (名) 白米を日光に乾かし石臼で挽いた粉。①しんこもち。②さいく(糝粉細工) (名) 糝粉、花鳥人物等の形をつくること。又その細工物。③もち(糝粉餅) (名) 糝粉を水で捏ね蒸して搗いたもの。④うもの。⑤つもの。

しんこ(新香) (名) あたらしい香物。①か  
しんこ(新古) (名) あたらしいとふるい。  
しんこ(新戸) (名) あらたに一戸をなしたものを。

しんこ(振古) (名) おむかし。太古。  
しんこ(眞箇) (副) まことに。全く。  
しんこ(神語) (名) 神のおことば。神のおつげ。①は。未來記のことば。豫言。  
しんこ(讖語) (名) 未來の吉凶禍福を説いたこと。  
しんこ(新語) (名) 新しくできたことば。①文前漢の陸賈が、高祖劉邦の爲に進獻し新政治道徳・文物制度に關する著書。二卷十二篇。  
しんこ(身後) (名) 死んだ後。死後。歿後。  
しんこ(人戸) (名) 人家。民家。人民。  
しんこ(神戶) (名) かん。

しんこ(神座) (名) 神社の寶物ぐら。  
しんこ(座) (名) 座。座席。座において紙屏風を入れた方形の容器。貴族用のは、脚張にして提手をつけ、すかしを掛け、蒔繪漆塗などに  
しんこ(壬午) (名) みづのえうま。  
しんこ(一人後) (名) 他人のし。他人の下風。  
しんこ(一人後) (名) 他人のし。他人の下に立つ。  
しんこ(一期) (名) 他人のし。他人のし。  
しんこ(盡期) (名) 物事の盡くる時期。  
しんこ(陣) (名) 陣。陣。陣。  
しんこ(陣) (名) 陣。陣。陣。  
しんこ(陣) (名) 陣。陣。陣。

しんこ(政イキョウ) (名) 政治イキョウに於いて、野黨的國民主義に通用される俗語。又他國を侵略して領土を擴張せんとする主義。軍國主義。  
しんこ(新香) (名) しんこ。  
しんこ(進行) (名) すすみゆくこと。すすめること。はかむこと。①がかり(進行掛) (名) 集會又は議事で、行事の進捗を計畫する任務を擔當するもの。②(政)帝國議會で、時機に應じて



【籠座】

討論終結議會略日程變更等の動機を提出して議事の進行を圖ることを掌る議員。  
しんこ(深坑) (名) ふかいあな。  
しんこ(深根) (名) 深く耕すこと。念を入れて耕すこと。  
しんこ(深巷) (名) おくふかくいりこんだ。  
しんこ(深更) (名) よふ。深夜。  
しんこ(神幸) (名) 神選宮又は祭禮に際し、神輿が神宮又は御船代に乗御して、新殿又は御旅所に渡御せられること。  
しんこ(信仰) (名) 宗教思想の客體たる神又は佛を崇めたつとむ、之に歸依して奉事すること。①信じたこと。②かじよう(信仰) (名) 信仰の要旨又は教義の全況を示すもの。③しんこ(信仰心) (名) 信仰する心。④てつが(信仰哲學) (名) 信仰(Christiantheology) 主知說に反對する哲學。感情乃至信仰によつてのみ實在乃至神を直接に感知し、一般的真理の標準及び手段を捉へ得るとなし、信仰を基礎として樹立せんとする哲學。十八世紀末にドイツに起る。⑤りよう(信仰療法) (名) 精神療法の一。信仰によつて疾病を治療する法、即ち精神の作用を身體に及ぼして疾病を治療せんとする。科學的のものと迷信的のものがある。祈禱・呪禁・加持等によつて治療するものはこれ。⑥學說を講義するもの。  
しんこ(進講) (名) 貴人の前で、書籍又は法軍艦が海上で、海賊船と認められたり又は戦時に臨戦の必要ありと認められた船舶に、英國信標を用ひ、或は自ら國旗を掲げて空砲二發を發射して停止を命ずること。⑦進向(名) すすみゆくこと。⑧しんこ(親幸) (名) 君主が親しみ近づけて寵愛せられること。  
しんこ(親交) (名) ししたしまじはり。  
しんこ(親好) (名) ししたしまじはり。

しんこ(深交) (名) 深い交際。  
しんこ(晨光) (名) あさみのひかり。  
しんこ(神光) (名) 靈妙不思議な光。  
しんこ(神功) (名) 神の事業。神の功徳。靈妙な功効。  
しんこ(神工) (名) 鬼神の製作。靈妙な製作。  
しんこ(新功) (名) あたらしいこと。新規な功効。

しんこ(慎厚) (名) つしみをよく篤實なこと。  
しんこ(新興) (名) あらたにおこること。①かいきゆう(新興階級) (名) 社會の新たに興起る階級。②労働階級の特稱。「おこること」。  
しんこ(振寇) (名) おくひおたること。  
しんこ(進攻) (名) すすんで攻めること。  
しんこ(進貢) (名) たてまつるつぎ。  
しんこ(進貢使) (名) 貢、琉球から支那に朝貢の禮を修むる爲に派遣した使者。①せん進貢船(名) 貢。琉球から進貢使が乗つて支那に向つて出た船。  
②室町時代に遊覧の名目で支那の明と貿易して多大の利を得た貿易船。

しんこ(鐵孔) (名) はりのあな。  
しんこ(深紅) (名) はくし。絳紅。  
しんこ(深紅) (名) はくし。絳紅。  
しんこ(深厚) (名) ふかあつこと。  
しんこ(神懸) (名) 神祕の別名として加へ稱する名號。皇大神・明神・天神・地祇權

しんこ(親交) (名) ししたしまじはり。  
しんこ(親好) (名) ししたしまじはり。



〔んせうこんし〕

しんこ(深交) (名) 深い交際。  
しんこ(晨光) (名) あさみのひかり。  
しんこ(神光) (名) 靈妙不思議な光。  
しんこ(神功) (名) 神の事業。神の功徳。靈妙な功効。  
しんこ(神工) (名) 鬼神の製作。靈妙な製作。  
しんこ(新功) (名) あたらしいこと。新規な功効。

しんこ(慎厚) (名) つしみをよく篤實なこと。  
しんこ(新興) (名) あらたにおこること。①かいきゆう(新興階級) (名) 社會の新たに興起る階級。②労働階級の特稱。「おこること」。  
しんこ(振寇) (名) おくひおたること。  
しんこ(進攻) (名) すすんで攻めること。  
しんこ(進貢) (名) たてまつるつぎ。  
しんこ(進貢使) (名) 貢、琉球から支那に朝貢の禮を修むる爲に派遣した使者。①せん進貢船(名) 貢。琉球から進貢使が乗つて支那に向つて出た船。  
②室町時代に遊覧の名目で支那の明と貿易して多大の利を得た貿易船。  
しんこ(鐵孔) (名) はりのあな。  
しんこ(深紅) (名) はくし。絳紅。  
しんこ(深厚) (名) ふかあつこと。  
しんこ(神懸) (名) 神祕の別名として加へ稱する名號。皇大神・明神・天神・地祇權



●佛(高)雄山神護寺。眞言宗別格本山。京都市右京區梅ヶ畑高雄町にある。和氣清原の創立。延暦中清原、河内國に神護寺を建てたが、後奏請して此地に移した。大同二年、空海勅によりてここに住し、天長元年神護國師眞言寺と改め、勅願寺とした。安永三年、文仁の荒廢を以て四方に勧請して再興した。

しんこじき(神今食)名 じんこんじき

しんごしゅうい(新後拾遺)名 文 文後伏見天皇の正安三年、後宇多上皇の院宣によつて、二條爲世撰し、嘉元元年奏覽す。二〇巻。二十一代集の一。

しんごせんわか(新後撰和歌集)名 文 文後伏見天皇の正安三年、後宇多上皇の院宣によつて、二條爲世撰し、嘉元元年奏覽す。二〇巻。二十一代集の一。

しんごつ(心骨)名 心とはれと心のおくそ。しんごつ(心)心のおくそにきさぐつけておく

じんこつ(人骨)名 人骨のほね。忘れない。

じんこつ(人骨)名 人骨のほね。忘れない。

じんこつ(人骨)名 人骨のほね。忘れない。

しんごてん(新古典派)名 文 獨逸の二十世紀初頭ドイツにあらはれ、自然主義によつて破壊された文藝の形式を再び古典的端正に歸せしめようとする一派。パウエル、エルンスト、ウーヘルム等はその代表である。

しんごばん(新小判)名 新たに鑄造した小判。江戸幕府が、萬延元年發行した新貨。

しんごばん(新御番)名 しばん(新番)。

しんごばん(心根)名 ころね。

しんごばん(神魂)名 たましひ。に徹す。

しんごばん(深く身にしみて)。

しんごばん(新婚)名 新たに荒地を開墾すること。

しんごばん(新婚旅行)名 新婚の夫婦が

りよごう(新婚旅行)名 新婚の夫婦が

共に旅行すること、相互の愛情をこまやかにする爲とふ。

しんごん(晨昏)名 朝と父母に仕へつこと。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんごん(眞言)名 佛の眞言の語の音語。法身の說法。梵文 Mantra の譯語。秘密の意。呪文。

しんさ(審査)名 審査員(名) 或物事の審査に當る人。帝國美術院審査員の略稱。いかに審査官(名) 或物事の審査を專らつた者の官名。しんさ(長砂)名 砂(砂)の一種。砂の成分は酸化鉄、六方晶系であるが、塊状として産すること多し。水銀製成、赤色轉具の主原料。支那本朝時代、輸出した磁器。銅で着色した血紅色の釉を用いた。

しんさ(神座)名 神座のいす場所。その鋪設は、内陣の中央に濱床を置き、上に厚敷を敷き、更にその上に御帳臺を安置し、正中に御向を設け、上に靈代を奉安し、御被を以て覆ひ奉る。

しんさ(新座)名 能の演技團體の本座に對して新しき。しんさ(新座)名 能の演技團體の本座に對して新しき。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。しんさ(眞宰)名 宇宙の主宰者。造化の神。

參者(名) 新參の人。

じんさん(名) 陣參(名) 陣風に參者すること。

じんさんくし(名) 身三口四意三(名) 佛干羅中、殺生、偷盜、邪淫の三業は身に屬し、妄語、惡口、綺語、兩舌の四業は口に屬し、貪、瞋、癡の三業は意に屬すること。

しんし(名) 襪(名) 布帛を洗滌し又は染めるとき、布帛の兩縁に刺留めて弓形に挽め張り、收縮しないやうにする爲に用ひる具。我が國で古來用ひられたものは竹製の串で、その末端を細く尖らしたもので、洋式のものは種類が頗る多い。一は「ばり」伸子張(名) 伸子を利用して洗滌した布に糊をつけ、または染めた布の皺を伸ばす法。

しんし(名) 神使(名) 神の使者。多くはその神に緣故ある鳥獸、蟲魚の類を以てする。八幡神の鳩、春日明神の鹿の類がかみのかき。つかばしめ。

しんし(名) 神祠(名) 神のやしろ。ほこら。

しんし(名) 宸旨(名) 天子のみこと。天皇のおほせ。宸意。

しんし(名) 臣子(名) 臣たりたるもの。

しんし(名) 親子(名) 法(名) 方が他の一方に對して直系一親等の血縁關係又は準血縁關係にある者。おやこ、おや。

しんし(名) 震死(名) 雷にうたれて死ぬこと。

しんし(名) 浸死(名) 水にひたされて死ぬこと。

しんし(名) 侵使(名) 水につかひ、使者。

しんし(名) 心思(名) こころ。おほひ。

しんし(名) 心思(名) こころ。おほひ。

しんし(名) 慎思(名) つつしみ思ふこと。

しんし(名) 深思(名) ふかいかんが。

しんし(名) 新紙(名) 新聞紙。

しんし(名) 新紙(名) 新聞紙。

しんし(名) 眞筆(名) 實直で、事に當って挽まぬこと。まじめ。

しんし(名) 浸漬(名) ひたすこと。つけること。ひたす。

しんし(名) 脣脂(名) くちべい。

しんし(名) 脣齒(名) ちくち。

しんし(名) 進止(名) すすむこととどまること。

しんし(名) 進止(名) すすむこととどまること。

しんし(名) 進士(名) 官途に出て仕へる。

しんし(名) 進士(名) 信義にあつた士人。

しんし(名) 進仕(名) 官途に出て仕へる。

しんし(名) 信士(名) 信義にあつた士人。

しんし(名) 信士(名) 信義にあつた士人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

しんし(名) 紳士(名) 性行正しく禮儀に厚く學識ある人。品格があつて禮儀にあつた人。

じんしん(名) 八士(名) 教育又は地位ある人。

じんしん(名) 迅駛(名) 教育又は地位ある人。

じんじん(名) 仁慈(名) いづくしみ。なまげ。めぐみ。

じんじん(名) 神事(名) まつり。かみこと。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。

じんじん(名) 人事(名) 人間社會にあらはれる事件。人世の事實。個人の身分能力に關した事項。人のなし得ることから、おくりもの。しんもつ。





講義の題目として有名である。

じんじゆ(八壽)(名)人間の壽命。「い」こと。

じんじゆ(仁壽)(名)仁徳があつていぢがなが

じんじゆ(神州)(名)我が大日本帝國の美

んじ(神州男兒)(名)日本男兒。「月の橋」

んじ(新秋)(名)秋の初。「陰曆七

んじ(新修)(名)文書を新しくし

んじ(新愁)(名)あたらなうれ

んじ(深愁)(名)ふかいうれ

んじ(眞宗)(名)浄土の異義を説

んじ(眞宗)浄土の一派。詳しくは浄土宗

無量壽經無量壽經阿彌陀經を所依とし、阿彌陀

佛の本願を以て成佛を期するを宗旨とする。親

鸞を開祖とし、浄土宗より出でて一派をなす。親鸞

の没後法眼相承によつて、本願寺派、大谷派、高田派、

佛光寺派、眞宗正派、木部派、誠照寺派、出雲寺派、三

門徒派、山元派の十派に及び、寺院の傳統は血脈相承

による。門徒宗。一向宗。

しんじゆ(新衆)(名)新參の人人。

しんじゆ(臣從)(名)臣下としてつき従ふこと。

しんじゆ(心中)(名)人に對して義理を

立てること。●相愛の男女が、その眞實に相示に示

す證據。放瓜、入墨、斷髮切指情死の類。●相愛の

男女が情愛のかほらぬことを相示に示す爲に合意の

死を遂げること。情死。相対死。一だて(心中

立)(名)人と交つたことを守りとはすこと。●一だ

ん(心中物)(名)●文男女の情死を主題とした淨

瑠璃瓶の歌集狂言。心中狂言。よし(心中

中善)(名)心氣衰ほよいこと。情の厚いこと。義

理固いこと。

しんじゆ(新拾遺和歌集)(名)文藝叢書。二〇巻。後光嚴院の貞治

二年、藤原爲朝が編纂を奉じて撰したるが、未完成のまま

没したるに、頼朝が後を繼ぎて完成した。二十

一代集の一。

しんじゆ(神智教)(名)宗神道

の一派。天竺中主神・高皇產靈神・神皇產靈神・伊弉

諾尊・伊弉冉・天照大神・天孫降臨・天降神國津神を

主神とし、物忌法・祓除法・神事法・鎮魂法を修し、之

を通じて惟神の大道に到達致せんとするを本旨と

する。明治十五年、芳村正東の創始。木部を東

京に置き、神教大教團とし、

しんじゆ(新自由主義)(名)

しんじゆ(New Liberalism)自由主義に於ける自由放

任主義を修正せんとする思潮。即ち労働階級保護の

爲に、國家的保護干渉を増大せんとするもの。ジョ

ンヌ・テューアト・ル・土田貞次郎博士等の主義。

しんじゆ(新重商主義)(名)New mercantile system)國際間の

商業競争が益、激甚するに鑑み外國との通商貿易を

個人に制限し、國內の需要を他國に仰がず、競争上の

優者たるに努力する主義。その行ふ政策の重商主

義に似てゐるか。

しんじゆ(辰宿)(名)星宿。ほしやどり。

しんじゆ(新宿)(名)左傳莊公三年に「凡諸一

宿爲一舍、再宿爲宿」とあるに基つて、二ばんとより

再宿。

しんじゆ(振廬)(名)衰へたなふるおほこと。

しんじゆ(森廬)(名)なび立つておごそかな

しんじゆ(伸縮)(名)のびるとちぢむこと。のび

しんじゆ(伸縮開)のびるとちぢむこと。伸縮開

行政官廳の権限で行ひ、不當廉價に對抗せんとする

こと。大戦後、米國に採用せらる。

しんじゆ(新宿)(名)●地東京市の北西隅にあ

る地名。東京市現官區・淺橋區に亘る。正しくは内藤

新宿町。新宿驛前と新宿前は、中央の銀座に比べ

盛り場で、山手銀座の稱がある。●一えき(新宿

驛)(名)東京市淺橋區にある省線の名。昇降客東

京線を凌ぐ。山手線と中央線とが交叉し、小田原急

行電鐵、京王電鐵、西武電鐵等が此の驛を中心と

放射狀に出てゐる。乗降客の多いことは我が國第一

と稱せられる。●きよえん(新宿御苑

)●東京市四谷區新宿にある宮内省所管の御苑。も

と内藤侯の下屋敷。明治二十九年、宮内省所管とな

る。春季は櫻櫻、秋季は観音の御會を催され、内外大

官を召させらる。「語」。

しんじゆ(新熟語)(名)あたらたにつくつた熟

しんじゆ(進出)(名)すすみでること。

しんじゆ(滲出)(名)じみでること。しみ出

ること。一えき(滲出液)(名)●内部から表面

にしみ出る液。●腎血管壁に異狀を來した爲、血

管外に滲出する血液の性状。

しんじゆ(浸出液)(名)●薬液を水・エリテル・酒精等

の溶劑に浸してつくつた薬液。

しんじゆ(心術)(名)こころだて。こころは

●(智)行爲の發する源泉。動機の一。奮闘する根柢。

災者等に金を施與すること。一きん(賑恤金

)●賑恤の爲に支出する金錢。●下士以下の軍人

で、賤賤又は公務の爲に負傷し又は疾病に罹り、現役

を離れるものに、政府から給與する金員。

しんじゆ(神術)(名)●微妙な術。

しんじゆ(鍼術)(名)●銀・白金・鐵等の金屬

病を治療し、仁徳を施す術。即ち醫術。

しんじゆ(きぼつ)(名)●神出鬼没(名)鬼神の如

く忽ちあらはれ忽ち隠れること。出没の變幻自在な

ること。

しんじゆ(仁壽殿)(名)じょうでん(仁壽

殿)●神道と儒道と佛

道と。

しんじゆ(新春)(名)●曆の改めたる年頭の春。

はつはる。新年。●(文)徳富蘆花の小説的感想。

著者の人生期間に對する小説的論文。大正七年刊行。

しんじゆ(眞純)(名)眞實でまじりけのない

こと。純眞。

しんじゆ(浸潤)(名)●しみとほつて濡れる。

●(天)次第にしみこむこと。●(語)●(句)●(論

語の韻調に出づ)●水が物を次第にぬらすやうに、漸

を追ひてなすこと。

しんじゆ(心緒)(名)心の動くこと。おもひ

しんじゆ(臣庶)(名)臣下と庶民。けいらし。

しんじゆ(眞書)(名)眞體の文字。楷書。●眞

しんじゆ(信書)(名)個人間の音信。意思などを通

する文書。てがみ。書狀。●(一)の秘密(特)法律

信者が秘密にする意思を有する信書は、特に法律に

規定した場合の外、これが秘密を侵されぬこと。憲

法上で保障せらる。

しんじゆ(識書)(名)●未來の豫言記。未來記。

しんじゆ(新書)(名)●新たに發刊された書物。

しんじゆ(親書)(名)●みづから書くこと。●自

筆でてがみ。

しんじゆ(親署)(名)●天皇が親ら御名を署し給ふ

しんじゆ(神所)(名)●神を祀るところ。神社のあ

しんじゆ(神書)(名)●神に關すること。記した

しんじゆ(深阻)(名)●おこふかへだたること。

しんじゆ(神助)(名)●かみのかたづけ。●んしつ

しんじゆ(寢所)(名)●ねど。ふしど。し

しんじゆ(寢書)(名)●歴二十一年史の一。唐の太











しんそろう(心相) 心ころ。おもひ。おもはく。

しんそろう(心喪) 賢明は終つたが、なほ心悲を痛んで喪にあるが如くなき思ふこと。

しんそろう(心操) 心に守るまな。

しんそろう(申奏・進奏) 天子に申し上げること。奏し。

しんそろう(哀聴) 天子のおきき。敬聞。

しんそろう(進送) 名。おくりまゐらること。送呈し。

しんそろう(心像) 名。心過去に意識に映じた外界の像が、外的刺激とは關係なく再び意識中に現出したもの。①感覺から直接生ずる意識。

しんそろう(神像) 名。神の肖像。神のみすがた。崇拝の對象とする神の神像。神像又は繪畫にあらはしたるもの。

しんそろう(新造) 名。あらたにつくること。①二十歳前後の女。嫁入り前の女。②よめ嫁。③遊藝で、始めて妓になつて客をともの。④昔、江戸吉原で御馳女郎につき従つて向角を辨じた女。

しんそろう(深造) 名。深く造詣すること。

しんそろう(心臓) 名。①血管系統の中樞器官。人間の左手掌大で、圓錐形の傘状をなし、筋肉質から成り、健康な日本人成人では、重量一九六・九一二・五五。胸腔内の前下部に位し、身體の正中線より前、左側に偏し、横膈膜上にある。内腔は隔壁によつて左右に分れる。その左右兩腔は瓣膜によつて、各上下に分る。全血管ここに集り、血液の伸縮と瓣膜の作用によつて、靜脈管から歸り、た血液を動脈管に押し出す作用を営む。①びょうり(心臓病) 名。②(醫) 心臓の疾患の總稱。心臓の作用を失ひ、動悸頻數、脈遅の不整齊になる。心臓内膜炎、心臓實質炎、心臓腫瘍、心臓炎、心臓神経痛、心臓破裂等がある。



〔心臓〕

しんそろう(心臓麻痺) 名。①(醫) 心臓が麻痺して、動作の停止するところ。その結果は多く死に至る。②よろい(心臓萎) 名。③(種葉脚) が、葉柄の出る部分に於いて内方に彎入し凹形をなす卵状の葉。

しんそろう(新艘) 名。新しく造つた船。①おろし(新艘下) 名。おろし。

しんそろう(迅速) 名。はやく進むこと。疾走。

しんそろう(陣痛) 名。室町時代に、大将が陣中に伴つて文章の用を辨せしめた作。

しんそろう(腎臓) 名。①(動物) 尿の排泄を掌る器官。人類では腹腔の後部の上部で、脊柱の兩側に位し、豆形をなし、左右一對あつて、皮質及び髓質から成り、脂肪に富む結構を以て擁護せられる。血液の中から尿を濾過してこれを膀胱に送り、體外に排出する作用を営む。

しんそろう(腎臓炎) 名。②(醫) 腎臓の炎症で、急性と慢性及び老齡腎の種類がある。前二者は、水腫及び尿の變化をその徴候とし、後者は尿量を増加するを徴候とする。③(けつせき) 腎臓結石(名) 腎臓に尿管に類する結晶又は重碳酸結石を生ずる疾患。痙攣を感じ、血尿、結石を排泄するを徴候とする。肉食に慣れた老人には尿酸鹽石多く、肉食を常とする兒童には尿酸鹽石の發生することが多い。

しんそろう(腎臓病) 名。④(醫) 腎臓の疾患の總稱。腎臓炎・腎臓結石・腎臓腫瘍・血腎・腎光血・腎腎血尿・尿毒症等がある。

しんそろう(人造) 名。人間が製造すること。人工品で造ること。又、その造つた物。①(あいか) (人造藍) 名。②(化) 人工によつて製造した藍色素。天然染料の藍の主成分たるインディゴチンを人工的にインディール誘導體から合成したものを。パイヤーが一八六八年以來十數年間研究の結果、一八八〇年始めてインディゴチンの合成に成功した。天然藍に比して染色に堅牢ではないが、染色鮮麗で、且價格が低廉。品質均一であるから、今日では殆ど天然藍を壓倒するに至り、最近戰國でも大規模に生産するやうになつた。③(あさいと) (人造麻絲) 名。④(紡絲) 油系シルクやセルロースに膠着剤・蛋白質・糊粉・澱粉等の混合物を附着させて、麻絲に類するやうにしたもの。⑤(きん) (人造金) 名。⑥(化) アルミニウム・銅・鉛・マグネシウム・酒石等を用ひて合成した金屬。黄金の光澤を有し、且延長性に富む。

しんそろう(けん) (人造絹絲) 名。⑦(佛) 天然絹絲に模した纖維素の絲。即ち、棉花や木材紙料等の纖維素を原料とし、纖維素のコロイド性を利用して之に溶解剤及び凝縮するコロイド變化を行はしてその纖維組織を改造したるもの。外観は天然絹絲に似て、光澤ある。一八八四年、フランスのシルドネがその工業の基礎を築いたのに、つづいて種種の改良を経て今日に至り、我が國でも全国的に流行するやうになつた。人絹。⑧(こおり) 名。⑨(人造氷) 名。⑩(清) 清な蒸留水を人工的に低温に冷却水結せしめたもの。その冷却せしめる方法に、壓縮した瓦斯を急に膨脹せしめて熱を奪ふものと、液體の氣化する時に周囲の熱を奪ふ原理によるものと二方法がある。⑪(じやう) (人造麴) 名。⑫(化) 人工によつて製した麴香に等しい、香氣を有する化合物。黄白色の針狀結晶物で、原料はアランデー等の中に存する一種の炭化水素。化粧料又は服袋の香料に供せられる。⑬(しやう) (人造樟腦) 名。⑭(化) 樟腦油の成分ヒネンを種種の方法で酸化して製した天然樟腦と同一の化合物。⑮(せき) (人造石) 名。人工で製造した石材。ホルトランドセメントに砂・石膏等を加へて種種に製し、天然石の仕上に類した外觀をたしめたもの。⑯(せり) (入りよう) (人造染料) 名。⑰(化) 天然染料の動植物色素たる天然染料に對して人工的に製造した染料をいふ。即ちセルロース染料・礦物性染料の二種がある。⑱(にんげん) (人造人間) 名。⑲(化) 硝鹼石灰・鹽酸加里・炭酸加里・鹽酸等々の化學藥品を用ひて、之を工業的機械力によつて製造し



〔腎臓〕

た肥料。糞素肥料・堆肥肥料・加里肥料の類。①(り) (人造林) 名。人工林。

しんそろう(ん) (人造岩) 名。②(深造岩) 名。③(造火成岩) 名。④(造) 深造岩の深所に冷却凝固して成つたもの。結晶は完全で、粒狀組織をなす。花崗岩・閃綠岩・斑岩等の類。深成岩。

しんそろう(しん) (神足) 名。ふしきには、脚の力。

しんそろう(つ) (神く) 名。佛前に應じて自在に身を現し、思ふままに山海を飛行し得る通力。

しんそろう(しん) (神速) 名。不思議なほど迅速なこと。

しんそろう(しん) (臣屬) 名。臣下として謙屬すること。臣下。

しんそろう(しん) (真俗) 名。佛出世間と世間と。①(眞) 眞實と俗人の理と世俗の差別の理と。②(佛) 佛法と世法と。俗僧と俗語と。③(眞) 眞實で眞理のないものと世論(俗) 眞實でないもの。

しんそろう(しん) (親族) 名。④(み) より。縁家。親類。親類の總稱。⑤(か) (親族會) 名。⑥(法) 特定の個人又は家の爲に重要な事項を議決する親族の合同機關。本人戸主並見人・親族・檢事・利害關係人等の請求によつて起訴所が召集する。⑦(か) (親族會議) 名。⑧(特) 特定の個人又は家の利害に重大なる關係を有する事項を決定する爲に、親族を集めて催す評議。⑨(法) 親族會の俗稱。⑩(けつ) (親族結婚) 名。親族の關係を有する男女の結婚。血行間では制限を設け、直系血族間又は三親等傍系血行間では制限を禁止してゐる。

しんそろう(しん) (法) 親權) 名。⑪(法) 親權) 親族上の身分に伴ふ權利。即ち親權・夫權・戸主權及び禁中拜禮に関する權利。⑫(は) (親族拜) 名。中古の禁中拜禮の一。役位のない者で、彼等の親族の堂上にある者が、役位の者を行ふ拜禮。⑬(ほう) (親族法) 名。⑭(法) 民法の第一節總則で戸主及び家族・婚姻・親子・親權、後見、親族會扶養の義務等を規定したるもの。明治三十一年公布施行。昭和二十二年一部改正發布。



産債買の媒介又は金銭若しくは不動産の賃借の媒介、公債、社債株式の募集、持込金の受入又は元利金配当金拂の取扱、財産の取得、管理、処分又は賃借、財産の整理又は清算、債権の取立、債務の履行に關する代理事務を附屬業務とし、且固有財産及び信託財産の投資をなす事、一さいいさん(信託財産)(名) (經)委託者によつて定められた一定の目的に従つて、受託者が管理又は処分する財産。一じきようり(信託事業)(名) (經)信託の引受け營業をなす事業。即ち信託會社の取扱ふ事業。一よきん(信託預金)(名) (經)信託會社で取扱ふ預金。

しんたけ(新竹)(名) 今年はえた竹。ことしだけ。

しんたつ(進達)(名) 官廳への上申などを取次いで達する。しよ(進達書)(名) 進達の書状。即ち上申書の添紙。

しんたつ(侵奪)(名) おかしうばふこと。

しんたて(陣立)(名) 軍勢を整へ、隊伍を列ねること。軍隊の配置又は編制。

しんたん(震旦)(名) 地支那の異稱。印度人が支那をチーナ、スターナ(Cathiana)又はチニスターン(China)と呼ぶに基づくといふ。振旦。

しんたん(心膽)(名) こころ。きまたま。

しんたん(深潭)(名) 正しくはしんしんじふか。いふ。深潭。

しんたん(新炭)(名) たきぎとすま。しよ。

しんたん(新炭商)(名) 薪炭のあきなひ。又、そのしんたん(神壇)(名) 神靈を祀る壇。祭壇。「人。」

しんたん(宸斷)(名) 天子の御裁斷。

しんたん(診斷)(名) 醫師が患者を診察して病狀を判斷すること。しよ(診斷書)(名) 醫師が病人又は健康人を診斷してその斷定を證明するために作る文書。

しんち(新地)(名) 新たに開いた土地。新開地。

しんち(新開の地に散るからいふ)くわ遊郭。

しんち(がよい)新地通(名) 遊郭に通ふこと。一ぐるい(新地狂)(名) 遊郭の遊女におぼれて遊蕩すること。

しんち(新地)(名) 新しくしいりあひ。しんち(新地)(名) 新地。

しんち(心地)(名) こころ。ころもち。心境。

しんち(神地)(名) 宗廟・山陵及び神社の所在地。神の鎮座する土地。神社の境内。

しんち(侵地)(名) おかしうた土地。

しんち(真知)(名) 眞誠の知識。眞人の知識。しんち(眞智)(名) 眞理なき根本智(眞智)。

しんち(深智)(名) おくふかいち。

しんち(神智)(名) 靈妙な智慧。一がく(神智學)(名) (智)(Theology)人間に、神祕的靈智があつて、これによつて直接に神を見るを得ると説く宗教家。一きようり(神智教)(名) (近世)靈通すれば眞智を授けられるとす宗教。一八二二年アラバッキ夫人等が之を創始した。

しんち(人知)(名) 人類の知識。

しんち(陣地)(名) 軍と交戦する目的で戦闘部隊の據れる戦場内の地域。攻撃・防禦の準備をなす場所。防禦陣地。掩護陣地又は砲兵陣地。機關銃陣地。歩兵砲陣地。高射砲陣地等の種類がある。しんち(陣地戰)(名) 軍堅固な陣地を設けて行ふ攻勢。

しんち(新竹)(名) 今年はえた竹。ことしだけ。

しんち(新竹市)(名) 福島縣新竹市の首邑。臺北市を距る南約六、七里。全島中稀有の健康地。

しんち(新築)(名) 新たに家を造ること。又、新たに造つた家。「しんちを嘲つていふ語。」

しんち(人畜)(名) 人と畜類と。「人情に乏しい新しい知識。」

しんち(新茶)(名) 新芽を摘んで製した茶。香氣殊に高き茶葉を以て賞獎する。はしりち。しんち(新茶) (名) 新芽を摘んで製した茶。香氣殊に高き茶葉を以て賞獎する。はしりち。しんち(新茶) (名) 新芽を摘んで製した茶。香氣殊に高き茶葉を以て賞獎する。はしりち。

て出た遊女(元祿時代の語)。「その物。しんちやく(新茗) 新打に到着すること。又、しんちやく(進茗) 茗を進んで座に著くこと。しんちちゆう(神壽) 靈妙なばかりのこと。すぐれたばかり。神樂。

しんちちゆう(真鏡)(名) 化銅と亞鉛との合金。帯赤黄色で、展延性に富んで細線又は板とする。とを得られ、鑄打して箔とする。又、容易に侵蝕せられぬが、諸種の用に供せらる。(おうどう)(黃銅)。一さ(真鏡座)(名) 江戸時代に於ける幕府直轄の鑄造した鏡の明和五年鑄造の寛永通寶錢の類。一ろう(真鏡總)(名) 亞鉛を包む眞鏡。磨け易いから、銅、眞鏡などの接合に用ひる。はんだ。

しんちちゆう(宸衷)(名) 天子のまごころ。

しんちちゆう(臣忠)(名) 臣下の忠義。

しんちちゆう(神注)(名) 神にささげらるまごころ。

しんちちゆう(新注)(名) 新たな注釋。

しんちちゆう(身中)(名) からだのうち。からだ。

しんちちゆう(善心)(名) 善いこと。まごころ。

しんちちゆう(蓋忠)(名) 忠義を盡くすこと。

しんちちゆう(入中)(名) 色んな人。一のしし。

しんちちゆう(賢蟲)(名) 動線蟲類の寄生蟲。大猿鼠等の食肉獸を宿主とし、腎臓或は膀胱内に寄生する線蟲。牛、馬又は人體にも寄生する。體は著しく長く、鮮紅色を帶ぶ。雌蟲は體長一三〇(一〇〇)ミクロンに餘り。交接囊を有し、雌蟲は體長二〇(一〇〇)ミクロンに餘り。卵は長圓形で、殻は厚い。又、中間宿主は魚類であらうといはれる。

しんちちゆう(陣中)(名) 陣屋のうち。戦争中。一ようむれい(陣中要務令)。

しんちちゆう(陣中) (名) 陣屋のうち。戦争中。一ようむれい(陣中要務令)。

(名) 軍陣中に於ける諸勤務の規定。即ち職開序列。軍隊区分。命令通達。補充。報告。捜索。讓渡。警戒。行軍。警備。通信。給食。補給。衛生。戰場掃除。鐵道輸送。船舶輸送。陣中日誌。留守日誌等の細目に亙る。しんちちゆう(陣中勤務)(名) 軍軍隊の行軍間或は駐軍間に於ける諸勤務。しんちちゆう(新茗)(名) 新らしい茗。新らしい書。

しんちちゆう(伸長)(名) のびること。のびる。しんちちゆう(伸張)(名) のびること。のびる。しんちちゆう(伸張)(名) のびること。のびる。しんちちゆう(伸張)(名) のびること。のびる。

しんちちゆう(身長)(名) 身の長さ。しんちちゆう(身長)(名) 身の長さ。しんちちゆう(身長)(名) 身の長さ。しんちちゆう(身長)(名) 身の長さ。

しんちちゆう(深重)(名) おちつておもしろい。しんちちゆう(深重)(名) おちつておもしろい。しんちちゆう(深重)(名) おちつておもしろい。しんちちゆう(深重)(名) おちつておもしろい。

しんちちゆう(慎重)(名) つつしんで慎重いふる。しんちちゆう(慎重)(名) つつしんで慎重いふる。しんちちゆう(慎重)(名) つつしんで慎重いふる。しんちちゆう(慎重)(名) つつしんで慎重いふる。

しんちちゆう(清朝活字)(名) 活字の一種。楷書體のもの。現今は、招待狀年賀狀等の如き特殊の場合に多く用ひる。しんちちゆう(清朝活字)(名) 活字の一種。楷書體のもの。現今は、招待狀年賀狀等の如き特殊の場合に多く用ひる。しんちちゆう(清朝活字)(名) 活字の一種。楷書體のもの。現今は、招待狀年賀狀等の如き特殊の場合に多く用ひる。

しんちちゆう(晨朝)(名) あさ。あした。しんちちゆう(晨朝)(名) あさ。あした。しんちちゆう(晨朝)(名) あさ。あした。しんちちゆう(晨朝)(名) あさ。あした。

しんちちゆう(亂勢)(名) おかかはること。しんちちゆう(亂勢)(名) おかかはること。しんちちゆう(亂勢)(名) おかかはること。しんちちゆう(亂勢)(名) おかかはること。

しんちちゆう(申牒)(名) 文書で通告すること。しんちちゆう(申牒)(名) 文書で通告すること。しんちちゆう(申牒)(名) 文書で通告すること。しんちちゆう(申牒)(名) 文書で通告すること。

しんちちゆう(入聽)(名) ひときき。しんちちゆう(入聽)(名) ひときき。しんちちゆう(入聽)(名) ひときき。しんちちゆう(入聽)(名) ひときき。

しんちちゆう(腎腸)(名) 腎臓と腸と。しんちちゆう(腎腸)(名) 腎臓と腸と。しんちちゆう(腎腸)(名) 腎臓と腸と。しんちちゆう(腎腸)(名) 腎臓と腸と。

しんちちゆう(沈丁)(名) 種(種)しんちちゆう。しんちちゆう(沈丁)(名) 種(種)しんちちゆう。しんちちゆう(沈丁)(名) 種(種)しんちちゆう。しんちちゆう(沈丁)(名) 種(種)しんちちゆう。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。しんちちゆう(沈丁花瑞香)(名) 瑞香科の常緑灌。

殿

しんちちゆう(殿)(名) 朝。しんちちゆう(殿)(名) 朝。しんちちゆう(殿)(名) 朝。しんちちゆう(殿)(名) 朝。

木。支那の果實。高さ約二〇呎。葉は無柄革質で、楕圓狀又は長楕圓狀披針形。先端尖り、全縁で光澤を有する。冬、葉間に花蕾を突出し、春分前後に十乃至十五六花を頭狀花序に配列して開く。花は無梗で、花被は盆形。内面は白色外面は紫赤色。香氣烈しく、恰も沈香に似る。通常果實を結ばない。

しんちやうくみ(新微組)名 江戸幕府が、文久三年、浪士の動亂に堪へる者で以て組織した警備隊。隊士中、名を漢表に藉りて凶暴の行をなすものがあつたから、元治元年廢止した。

しんちやく(神助神救)名 神託の敬稱。神のおつげ。天照大神が皇孫現世降尊を我が國に降し給ふ時に、八咫鏡と共に降られた勅。

しんちやく(眞直)名 少し曲つてゐないこと。ますぐ。

しんちやくせんわかしゅう(新勅撰和歌集)名 文二十一代集の一。第九番目の勅撰和歌集。後堀河天皇の勅にて、貞永元年、藤原定家の撰述したもの。二〇巻。

しんちん(深沈)名 ①おちついて物事に動ぜぬこと。沈著。②夜のおちゆくこと。夜がふけて物音の聞えぬこと。

しんちん(新陳)名 新らしいとふるい。①たいしゃ(新陳代謝)名 ①ふるいものが次第次々に去つて、新しいものが之に代ること。②生( metabolism) 生物體に於ける化學作用によつて體内の生活物質が攝取せられ、排泄せられる現象。生物體は生活現象を斷斷なく行ふ爲に、絶えずエネルギーを消費して陳舊物質を體外に排泄し、その缺乏を補給する爲外、新鮮な物質を攝取し、之を同化して自己の成分として生活を持續すること。

しんつう(心痛)名 心のいたみ。心配。

しんつう(心痛)名 言語状態以外に含まれた意識を心中に會得すること。

しんつう(陣痛)名 ①分娩に際し、子宮の收縮によつて、定期的な反覆して起る腹部の疼痛。即ち胎兒排出力の主要部分となすので、初期

は徐徐に起り、次第に強烈となる。之を漸進期、期と稱す。又時期によつて、前驅陣痛、開口期陣痛、後産期陣痛、後陣痛に別する。

しんつうがわ(神通川)名 ①地、岐阜縣飛騨郡高池から高山平野に下り、富山縣に注ぐ川。岐阜縣の宮川と高山川とが之に合流し、水勢が急である爲舟楫の便があるのは、下流だけであつたが、その河谷を通ずる道路は、岐阜・富山間の主要な交通線である。全長約二二八軒。

しんてい(震手)名 ①經、震手形の略。

しんてい(心底)名 ①心のそと。②心。③心。④心。⑤心。⑥心。⑦心。⑧心。⑨心。⑩心。⑪心。⑫心。⑬心。⑭心。⑮心。⑯心。⑰心。⑱心。⑲心。⑳心。㉑心。㉒心。㉓心。㉔心。㉕心。㉖心。㉗心。㉘心。㉙心。㉚心。㉛心。㉜心。㉝心。㉞心。㉟心。㊱心。㊲心。㊳心。㊴心。㊵心。㊶心。㊷心。㊸心。㊹心。㊺心。㊻心。㊼心。㊽心。㊾心。㊿心。

しんてい(進呈)名 ①さしあげる。②進上。

しんてい(新帝)名 新たに即位せられた天子。

しんてい(新訂)名 あらたに訂正すること。

しんてい(新定)名 新たに定められたこと。

しんてい(眞諦)名 眞しく作つた邸宅。

しんてい(眞諦)名 眞しく作つた邸宅。

しんてい(眞諦)名 眞しく作つた邸宅。

しんてき(清笛)名 ①音清樂に用ひる横笛。竹製で、長さ六六釐位、下部に象牙又は黒木で裝飾される。吹口、管孔、二の指孔がある。體笛。

しんてき(眞弟子)名 ①しんてい(眞弟)。

しんてつ(沁徹)名 しみとほること。

しんてら(Cherelia)名 ①文、佛蘭西畫の主人公の、小さい、ガラスの靴によつて美姫を探し當てるのが話の素地で、これに類似の說話は各民族にあり、これを素地をシテラ型の童話といふ。

しんてん(親展)名 ①名宛人自身にひらきさるべし。②手紙の封筒の裏附の一。名宛人の外、開封すべからざる意をせらるるもの。③電報で、受信人の外、披見すべからざる意を示すもの。その略符は、和文「ニカ」歐文「C」。④「しよ」親展書(名)親展と封筒に記し書面。親展を要する手紙。

しんてん(進展)名 すすみあはること。ひらくこと。⑤のびひろがること。進歩發展すること。

しんてん(進轉)名 進めうつこと。

しんてん(振天)名 ①音響の天空にひびくこと。②武名を天下に掲げること。③「振天府」(名)宮城門内吹上御所の白に建設せられた、明治二十七八年戦役及新幕府の役の戦利品又は戦死者の寫眞を蔵め給へる機日本造の御府庫。

しんてん(新田)名 新たに開墾した田地。

しんてん(新田)名 新たに建設した御殿。

しんてん(神田)名 神社に附屬して、祭祀、造營等の諸費に充てる不換租田。おほみだ。かみだ。みとのし。社田。一びき(神田引)名 江戸時代に神田の田租を減免したこと。

しんてん(神傳)名 神から傳へられること。神。しんてん(深殿)名 ①おふかい御殿。②宮中三殿の一。警所の東にあつて、舊八神殿の祭神並びに天神地祇を禊祓し給ふ殿舎。③「舊八神殿祭」と天神地祇とを祀らるる一春分秋分の日に、舊八神殿祭と神傳の主要な建築物。主人が居住し、又客賓に應接した處。おとてざし。④「すくり」(寝殿造)名 ①中古の貴族住宅の形式。一家一楹の中央に南面して寝殿を建て、其の左右及び背後に對屋の二(家内眷屬の住居)を設け、寝殿と對屋は廊を以て連絡し、寝殿の南、中庭を隔てて池を穿ち、中島を築き、池に臨んで釣殿・飛殿を設ける。東西に門を築き、中庭と門との間に中門を設けて、來客出入の門に供する。室内は全部板敷とし障子・簾戸等を用ひない。室内の裝飾には、障子・几帳・上懸・簾等を用ひた。今尚宮殿建築の一形式の興隆すること。②「電報」。

しんてん(親電)名 天皇の御名で發せられること。かみなりといふづま。

しんてん(八天)名 ①人天と天界と。

しんてん(信天翁)名 ①動、あほうどり。

しんてん(神都)名 ①神州の都。②地伊勢皇大神宮所在地たる宇治山田市。③の教團に屬するもの。

しんてん(信徒)名 ①宗、一定の宗教を信仰し、その物。古渡(中波)の對。②新設の渡船場。

しんと(津渡)名 ①わたしば。渡津。

しんと(身圖)名 ①身の上のはかりこと。







總次郎など義賊と稱せられるもの名を籍りて水滸傳風に綴つたもので、白浪物中の無二の大作。  
**じんどうろふく** 陣道服 (名) 陣中で、禮の上に着る道服。

**しんとく** 神徳 (名) 神の功徳。神の威徳。  
**しんとく** 眞徳・信讀 (名) 佛典の文句を著略せて全部が丁寧實讀に讀むこと。(神讀の對)  
**しんとく** 眞讀 (名) 大學に明徳を詳説して、「君子必慎其徳也」と、又中庸に「君子慎其徳也」とあるに基りて、自分とて、他人の居らぬ處でも己の身を慎むこと、又自分だけが知つてゐる自分の心中に任意で雜念の起らぬやうにする。  
**しんとく** 身毒 (名) (shinduk) 支那の書籍に見えたる印度の毒藥。

**しんとく** 進讀 (名) 貴人の前に進み出て、書物を讀むこと。  
**しんとく** 仁篤 (名) なまけぶかくなことなる。  
**しんとく** 仁徳 (名) 仁愛の徳。  
**しんとく** 入徳 (名) その人におつと備へた徳。  
**しんとく** 後取 (名) 昔宮中で、新年の御齋園に酒家のものが選ばれて何れか天蓋の餘瀝を飲んだ侍臣。

**じんとり** 陣取 (名) ちんとること。ちんども。ちんども。子供の遊戯の一。二組に分れ、互に定めた陣地を攻めてうばひあふ。  
**じんた** 陣取 (名) 陣取の他動、ラ四。  
**じんた** 陣取 (名) 或處所に占有する。  
**しんた** 署名 (名) 署名の時、名案を書くこと。本式の署名 (草名の對)

**しんた** 親和 (名) しんわ親和。一ぞめ親和染 (名) 寛文の頃に行はれた一種の染模樣。唐様書寫の三井澤之尤の筆跡を模樣として、染め出したもの。  
**しんない** 心内 (名) 心の中。内心。  
**しんない** 新内 (名) しんないが、一ぶし (新内) (名) 音・浮瑠璃の一種。宮古陸路摩祿の(門人)越賀新内岡田五郎次郎が寶曆の頃所出したもの。最盛時は安永前後で、心中進行物を主とし、

しんとしんの

艶麗な歌詞と滑柄の曲節とで聞く者を魅了した。  
**じんない** 陣内 (名) 陣内うち。  
**しんない** 心無 (名) しんを入れぬもの。内部の空虚なること。  
**しんなり** 名劇 (名) かながたなやか。一すまやがて強。(劇) まこと。實に。

**しんにほんおんがく** 新日本音楽 (名) 新音楽の邦楽(淨瑠璃・長唄・華曲等)の流儀に倣ふ、新らしく作られた樂曲を總括した名稱。從來の日本音樂の如く流儀に束縛されないので、作曲家自身の主観から生まれた作品で、和洋樂器を併用した變奏曲・幻想曲・組曲・協奏曲・管絃合奏曲が作曲された。

**しんにゆう** 浸入 (名) ひたし入ること。  
**しんにゆう** 侵入 (名) おかし入ること。  
**しんにゆう** 進入 (名) すすみ入ること。  
**しんにゆう** 新入 (名) あらたにはひつて来たこと。しんいり。  
**しんにゆう** せい (名) 新入生 (名) 新入學。  
**しんにゆう** 深入 (名) しんくもむこと。  
**しんにゆう** 入 (名) しんに入ること。一を掛ける。(句) 物事の一段落だし、いよいよ、おほげさなる。

**じんにゆう** 人乳 (名) 分娩後、分泌される乳汁。  
**しんにゆう** 眞如 (名) 佛・梵陀陀陀陀陀陀眞實如常の義。宇宙萬有の眞體、現實在に平等無差別なる總體眞理。變化して止まない現象の假相に對して、ふ語。一いちじき(眞如)一色(佛)一眞如縁起(名)佛一切の萬有は縁に隨つて眞如から顯現すること。一のつき(眞如月)(佛)眞如の理が衆生の迷妄を破ることを、明月が夜の闇を照らすに譬(一)ふが。  
**しんにゆう** 神女 (名) めがて。てんによ。  
**しんにゆう** 信女 (名) 佛(傳婆夷)(せ)の譯語)

**しんにん** 新任 (名) 新たに官職に任命せられたと認めること。  
**しんにん** 信任 (名) 信じて事を任せること。一信任状 (名) 法に差遣國の元首又は外務大臣が、その外交使臣を信任する意思を表示して、駐劄國の元首又は外務大臣宛てた外交文書。全權大使・全權公使及び辨理公使に於ては差遣國の元首から駐劄國の元首宛て、代理公使に於ては差遣國の外務大臣から駐劄國の代理公使宛て。公使たるべきものの官職・氏名・勲位勲等及び差遣の目的及び權限を記載するを例とする。外交使臣が國際法上の地位を取得し、その保護を受けるのは、駐劄國に於いて、その元首又は外務大臣に信任状を奉呈する時に始まる。一とうじょう(信任)答狀 (名) 法に信任答狀。一とうひょう(信任)投函書 (名) 政府の政府に信任する否かを決定するに於て、時の政府に信任する否かを提出するに於て、その政府が同意しない修正を加へる等の方法によつて不信を表示することが行はれてゐる。一もんだい(信任問題) (名) 政議。内閣又は大臣に對して信任を置くか否かの問題。世人が、或人に對して信任するかが否かの問題。  
**しんにん** 親任 (名) 法に天皇が親署によつて官に任じ給ふこと。一親任官。一かん(親任官)(名) 法に天皇が親署によつて御署を許し、内閣總理大臣が年月日を記入し之に別署した辭令書によつて任命せられたる場合、親任式を舉行せられたる例とする。内閣總理大臣・各省大臣・宮内大臣・内大臣・陸海軍大將・憲法監督・朝鮮總督・樞密

院顧問官・大審院長・檢事總長・會計検査院長・行政裁判所長・關東長官・特命全權大使等。一しき(親任式)(名) 法親任官を任命せられる儀式。天皇出御して任官者に勅語を賜ひ、内閣總理大臣が官記を授與する儀式。一たいぐう(親任待遇)(名) 法親任官であつて親任官の待遇を受けること。  
**しんぬり** 眞塗 (名) 墨塗で塗ること。及びその漆塗り。一りあふ。しめやにかふるまか。しんぬつたいく(新熱帶區)(名) 動物地理學上の區域。メキシコの南部から中央アメリカ南アメリカ全部及びその附近の島嶼を包含する地域。哺乳動物發達地の中心地である。一ありかひ(ありかひ)を産する。  
**しんぬり** 粘着 (名) 粘着があらつて離れ難い。ねり強し(形) ねばりつよい。一むつつり (名) ねばりけきせずして、多くのものをいねること。又その性質なり。

**しんねん** 信念 (名) 信仰心。自信の心。  
**しんねん** 信念 (名) 天子が御心にかけさせられること。うれしき。心。おぼけ。  
**しんねん** 信念 (名) 天子の御心。  
**しんねん** 深念 (名) ふかきおもひ。  
**しんねん** 新年 (名) あたらし。改まった年。はつはる。一えんかい(新年宴會)(名) 法宮中で、一月五日に天皇親明殿に出御し、皇族大勲位親任官勲位及び外國使臣を召して宴を賜ふ儀式。新年の祝賀に倣ひ宴會。一じよ(新年状)(名) 新年の祝賀狀。年賀狀。  
**しんねん** 念 (名) 俗界の名利を思ふ心。  
**しんねん** 念 (名) 一體せん(能樂で、本體能のシテ及びウツテ)の最初に連吟する一聲誦。又、役者が出一聲誦を誦しに先んじ、その登場に對して、大小鼓(笛あは)の合奏の種子事。  
**しんねん** 心囊 (名) 心袋 (Pericardium) 心臟及びそのらから出る大血管の基部を包む膜性の囊。内

しんとしんの





止の位置から振動を起して、その右又は左の極點に至る距離。  
 しんぶく(震幅)(名)地震盤の震動の地盤計にしんぶく(神佛)(名)神と佛と。◎神道と佛とと。いこんちう(神佛混淆)(名)◎(亦)本地垂迹説に基づく、神道と佛とを混淆し、神と佛とを配祀すること。いどうたいせつ(神佛同體説)(名)佛はほんすいじせつ(本地垂迹説)。  
 しんぶつ(真物)(名)まこともの。いづはりでなしんぶつ(心佛)(名)心と佛と。◎菩薩の修行完成した佛境界行境の十佛の一。◎心中に現はれる佛。  
 じんぶつ(人物)(名)人と物と。人事と萬物と。  
 ◎人が。人語。◎夜に立の人。すぐれた人。人物。◎人のすが。いかに(人物畫)(名)送人物を主題として描いた繪巻。官僚より廣い意味に用ひられる。

しんぶつせんそう(清佛戦争)(名)  
 「歴」一八八四年から一八八五年に亘る清國とフランスとの戦争。印度支那半島前に於ける利害の衝突に關して起り、天津條約を結んで講和を締結した。  
 しんぶふち(新舞踊)(名)日本舞踊の型を脱して、西洋舞踊を加味した新しき舞踊。いげき(新舞踊劇)(名)舞舞踊による舞踊劇。坪内逍遙の劇唱にかり、明治、大正の劇界の舞踊劇となった。  
 しんぷラト(新學派)(名)「哲」(Neo-Platonic school)西暦二三世紀から六世紀に亘り、プラトンの説を典拠として、宗教的思辨の影響の下に、新ピタゴラス學派、アリストテレス學派、ストア學派等の學說を折衷し、キリストの多神教を承認辯護し、禁欲神祕的脱魂、魔術的音韻を神人合一の手段とした學派。  
 シンプリアイ(Simplicity)(英)動詞。簡単にす。  
 ライフ(Simple life)(英)簡單な。簡単にす。  
 じんぶれ(陣幕)(名)陣中での布告。軍幕。

シンプロン(Simpson)(名)地スウイスイスター一兩國境に跨るアルプスの山地にナポレオンが約六年間を費して開設した峠。この下を穿たぬ鐵道トンネルは世界最長で、長さ約二〇軒。  
 しんぶん(眞文)(名)未來を豫言した文書。未來しんぶん(眞文)(名)新しく開いた話。新らしい知らせ。新しく見聞。ニュース。◎新聞紙。  
 いがく(新聞學)(名)新聞紙とふ文化科の對象とする文化科學。即ち新聞紙の編輯印刷販賣發行等に關して研究する學。いがん(新聞眼)(名)人の氣づかぬ所に著眼してニュースを見出す機敏な眼識。いさしや(新聞記者)(名)新聞紙の記事の蒐集執筆編輯に従事する人。いさゆるかんじつ(新聞休刊日)即ち一月一日。神武天皇祭翌日。秋季皇靈祭翌日。いこうこく(新聞廣告)(名)新聞紙に掲載する廣告。新聞紙は最も廣く一般民衆特に商業用に盛んに利用せられる。いしや(新聞社)(名)新聞紙を發行する社。いしやせつ(新聞小説)(名)新聞に掲載する小説。多くは通俗小説である。いしやれい(新聞辭令)(名)新聞紙上で、任命前に或人が或官職に任命せられたと報道されること。噂だけで遂に任命されぬこと。いせりやく(新聞政略)(名)◎政新聞社又は新聞記者を味方として、自己に有利な言説、報道をなすための政略。いだね(新聞種)(名)新聞紙の記事の材料。いだね(新聞電報)(名)郊外住宅地に配達する朝刊新聞を輸送の爲普通の送電車後に運轉する電報。  
 てんぼう(新聞電報)(名)新聞紙に掲載する目的で發信する電報。低廉な料金を取扱はれる。内國新聞電報は五十字以内、二十五錢乃至三十五錢。外國新聞電報は、一語八錢乃至四十五錢。い(新聞屋)(名)新聞を販賣する家。新聞店。  
 や(新聞記者に對する卑稱)。

じんぶん(人文)(名)◎人類の文明又は人物。◎人物と文物と。◎易经の繫辭山火貞の語人倫の序。いしやく(人文主義)(名)哲(Humanism)文藝復興期のイタリーに興つた精神運動。十四世紀の末から十六世紀に亘つてヨーロッパ諸國を風靡した學說。即ちギリシヤ・ローマの文化を研究して人間性の善導と文化の發達に資せんとしたものである。いしんわ(人文神話)(名)神(Culture)主義。いしんわ(人文神話)を中心として、社會集團生活が産出若しくは經驗した種種の文化的價値物を敘述し又はその起源を説く神話。(自然地理學)いぢりが(人文地理學)(名)地表面に分布する人文現象即ち國家、經濟、交通、人口、聚落等を自然と人類との關係に於いて考察し、その中に存する法則を定める科學(自然地理學の對)は「人文派」(Humanistic)人文主義の學派。  
 じんぶん(入贅)(名)人間の贅。  
 じんぶん(塵金)(名)俗界のけがれた氣。  
 じんぶん(眞文)(名)元元元年、改稱の金貨。年號の「一字文」の字を眞書で標記せられてゐるからいふ。◎「眞」主として自然主義以後の文藝。  
 しんぶん(新聞紙)(名)新聞の表現の文報。及び批判を迅速且普遍的に傳達する定期刊行物で多くは日刊發行せられる。週刊、旬刊等の外新聞・日新聞・遠近新聞を我が國新聞の嚆矢とする。いほう(新聞紙法)(名)法出版物の一たる新聞紙の取締を目的とする保安特許規定で、明治四十二年五月、法律第四十一號で公布制定せられた法律。  
 しんぶん(新文字)(名)文政二年、改稱の金貨。銀の一字文の字を草體で標記し、元文年間(眞書)の「文」の字と區別する爲に名づく。  
 しんぶん(眞分母)(名)數(Proper fraction)分子が分母より小さい數。(假分數の對)しんべ(名)新妻の少女。小さい。いぢり(名)新妻の少女。小さい。いぢり(名)新妻の少女。小さい。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。

しんべい(親兵)(名)◎隣國として手近に備へた禁衛の兵士。聖年廢せられた。◎天皇陛下御護衛の兵士、即ち近衛の兵士。  
 しんべい(新兵)(名)新妻又は新入營の兵士。  
 しんべい(神兵)(名)神の擡選し給ふ兵士。神の家傳ある兵。  
 じんべい(基平)(名)丈は羽織位で、僅かに膝を蔽つて前で合はせ、附紐を添へた衣。多くは麻で作り、夏季、關西地方で用ひる。  
 しんべいか(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。  
 しんべい(新平價)(名)輕本位貨幣の純金分量を變更した際の、新價幣の金價値。いせんか(新平價金解禁)(名)輕平價切下を行つて、金輸出の禁止を解除すること。



黨となり、後、憲政本黨と改稱し、四十三年解消して  
立憲國兵黨に合流した。「立會」に、新に出る先物。  
しんぼ (新市) (名) 經取引所用語。月の初日の  
しんぼ (新補) (名) 新たに補任すること。●承  
久の亂後、宰相府が没收した朝臣の領色に於ける  
地頭として、成功の上を補任したること。(本補の對)  
しんぼ (親補) (名) 天皇親或官職に補任し給ふ  
こと。●かんい(親補官)(名) 法。天皇が  
親ら補任の命を下し給ふ官吏。大審院長、檢事總長、  
參謀總長、教育總監、東京警備司令官、朝鮮軍司令官、  
臺灣軍司令官、軍令部總長、麻守府司令官、聯合艦隊  
司令官長官の類。

しんぼ (棲房) (名) れや。ふしじ。  
しんぼ (深房) (名) おくふかいや。  
しんぼ (辛抱) (名) 辛らへし。のぶこ。  
しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (辛抱) (名) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●  
辛抱強(形) 辛抱強きこと。●辛抱強  
い(形) しんぼうすよしの口語。●

しんぼ (新法) (名) 新定の法令。●新法  
明の方法。●支那末の神宗の朝、宰相王安石が制定  
した法令。富國強兵の政策であったが、改革の急激  
と施行上の煩雜のため反対するもの多く、遂にそ  
の目的を達するを得なかつた。  
しんぼ (眞法) (名) 佛。眞如眞相の法。  
しんぼ (心法) (名) 心を修練する法。  
しんぼ (親法) (名) 親しい友だち。  
しんぼ (進奉) (名) すすめたること。  
しんぼ (神封) (名) 神領たる封戸。神戸(名)。  
しんぼ (入望) (名) 或人に對して、多くの  
人が崇敬を信する。  
しんぼ (陣亡) (名) うちじに(討死)。  
しんぼ (陣法) (名) 戦に望んで陣を布く法。  
しんぼ (神法) (名) キリスト教信徒の男の  
專稱。神のしんぼ。

しんぼ (神木) (名) 神社の境内にあつて、神  
社に縁起のある樹木。注連を引き纏を設けなす  
も、或は之を神體とするものもある。●神社境内  
の樹木の總稱。●かすがの神木。●じゆらく神  
木(動座) (名) 中古以後、奈良興福寺の衆徒が春日  
神社の神人と共に朝夜に歌謡し、する時春日の神  
木なる神を捧持して京都に入つたこと。  
しんぼ (臣僕) (名) 親しむつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。  
しんぼ (親陸) (名) 親しみつていへば。

しんぼ (新發意) (名) 佛。發心してあらたに  
佛門に入つたもの。出家して聞かないもの。しんぼ。  
いまだうらたの(今道心) 眞宗で一寺の住職の子の  
僧となつた青年。  
しんぼ (陣夜) (名) うちじに。戦死。  
しんぼ (新佛) (名) 佛。佛葬されて未だ日  
數を經ぬ死者。  
しんぼ (新堀) (名) あらたに掘つた堀。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。  
しんぼ (象徴主義) (名) シンボル主義。

しんぼ (新町) (名) 地。大阪市西區新町橋の西  
にある遊郭の總稱。寛永年中、幕府から新たに地を購  
はつて、郭を開き、諸方の遊女を集めたのを起原と  
する。●都花街の名物と稱せられ、揚屋・茶屋の繁華  
他に比すべきものがなかつたが、維新後衰頹して、昔  
の盛衰を失つた。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。

しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。  
しんぼ (新主義) (名) 新主義。





シムセレーション。惹起する詩歌・音楽等の韻致。  
しんらゝい 神類(名) 神の聖。◎経大な感樂を  
しんらゝい 新類(名) 新たに来たこと。  
しんらゝい 信類(名) 信じてなること。  
しんらゝい 入類(名) 人の吹き鳴らす鳴物の聲。  
即ち笛尺八等。  
しんらゝい 迅雷(名) 色烈しい雷鳴。一耳を掩ふ  
に連れあらず(句) 事變が餘りに急に之  
を遮るる暇のないこと。

しんらゝい 迅瀾(名) 流の急な瀾。はやせ。急瀾。  
しんらゝい 眞類(名) 自分も相手もその他の萬人  
も俱にうけるはたのしみ。(二宮尊徳の用語)  
しんらゝい 辛疎(名) ◎味の甚だしくからい。  
◎極めてさびしいこと。◎「すること」  
しんらゝい 進寛(名) すまぬらせて御覽に供  
しんらゝい 親覧(名) しだしくみえなすこと。  
しんらゝい 親覧(名) 浄土眞宗の開祖。日野  
有範の長子。幼名は松若丸。幼にして父母を失ひ、  
九歳の時、慈願の門に入り、後、法然の弟子となつて、  
名を兼宗と改め、浄土の眞髓を得得した。僧侶の  
肉食禁帯の戒を、在家往生の實を示さんが爲に、  
藤原兼實の妻(五)玉姫、後に累信を娶り、名を善  
信と改む。師法然の念佛停止の事あるや、連坐  
して越後に流されし。この間、惡友と自稱し、名を常  
隆稻田郷にあつて、願淨土眞實教行證文類(六卷)を  
著し、淨土眞宗を開く。弘長、壽九十九。明治九年見  
眞大師の諡號を賜ふ。その著作に「唯信抄文」淨  
土文類聚抄、八出入二門傳等がある。

しんらゝい 眞理(名) 眞の知識。◎眞實の道理。◎對  
象の事實に一致する吾人の知識。◎哲何人にも、いつ知何  
なる場合に妥當なりと認め得られる知識。

しんり(審理) 名 ◎事實を整理をつまびらかに  
すること。◎法裁判官が、判決に要する取調につ  
いての一切の行為。訴訟上の事件の取調。  
しんり(心裏留保) 名 ◎心裏留保。◎「心裏留保」  
表示の不一致な、意思表示者自身が知りつづな  
告げぬこと。

しんり(心理) 名 ◎心の精神の状態。意識の現  
象。◎しんりがく。一がく(心理學) 名 ◎心  
理學。◎吾人の心的經驗、即ち知覚の記憶・感  
情・意識の如きもの研究對象とし、精神生活の特點  
を整理序述する科學。一しゆき(心理主義) 名  
◎「Psychologism」一般の哲學問題を論ずるに  
當つて、心理學的考察を重視する立場。(論理主義の  
對) 一しよせつ(心理小説) 名 ◎「Psychological novel」  
作中に現れる人物の心理推  
移を精細に分析解剖して描寫した小説。自我意識の  
現れて、近代浪漫主義の反動として起つた。一八  
三〇年、フランスのスタンダール作の小説「赤と黒」  
に於いて確立され、アルスト、ドストエフスキ等  
を経て新心理小説に發展した。一じよたい  
の快樂説) 名 ◎「Psychological hedonism」  
吾人の快樂を欲するは心理的事實で、人類の根  
本的欲求であり、又、人類行為の最高目的であるとい  
ふ論理説。一つがく(心理哲學) 名 ◎心  
理學(Philosophy of psychology) 靈魂の本質及び心理學の經  
験の現實内容を研究する學。一ひょうしや  
(心理描寫) 名 ◎「心理描寫」名 ◎「心理描寫」  
心理の経過を描出すること。一ほうかく  
(心理法學) 名 ◎「心理法學」名 ◎「心理法學」  
心理學的立場から説明しようとする學。グントナル  
ド等が成立作用を心理的基礎に、ゲルハルト、  
ノッタ等が國家及び法律の基礎に、ケルン、  
しんりき(信力) 名 ◎信仰の力。信念の力。一した  
しんりき(神力) 名 ◎神の通力。靈驗不思議な

力。◎「植」稻の一品種。晚稻で、實に芒なく、形の圓  
いもの。  
しんりき(人力) 名 ◎人間の力。◎人力車。  
しんりき(人力車) 名 ◎人力車夫  
が人を乗せて行く  
二輪車。ピロー  
D又は革張の腰  
掛座席車輦。  
二輪車。ピロー  
D又は革張の腰  
掛座席車輦。  
二人乗と成り、一人乗と二  
人乗とあり。明治二年、和  
泉要助・高山幸助・鈴木徳  
次郎等が發明し、東京  
府下で開業したに始まる。一  
時は盛んに流行したが、自  
動車・電車・自動車等に壓  
倒せられて衰頹した。脚車。傳。りきしや力車。  
しんりき(人力車) 名 ◎人力車を働くこと。  
燃業とする労働者。くるまき。くるまや。挽子  
しんりき(神理) 名 ◎「神理」名 ◎「神」神道十三  
派の一。明治十三年、佐野經彦の創始。經彦の高祖  
鐵連日金(名)の遺教を奉じ、神理の教義を明瞭  
し、安心立命を旨とし、神氣を呼吸し、神人同體の  
至域に契合し、治癒除災を得るを目的とし、又大義名  
分を明かにし、報本反始の禮を厚くするを目的とす  
る。神理大教團を福留縣金敷郡金取町に設け、教會  
を各地に置く。



【車力人の代時始創】

しんり(深慮) 名 ◎ふかいおもひばかり。  
しんり(振旅) 名 ◎「振」は收、「旅」は軍旅の  
意。軍を収め、凱旋すること。  
しんり(新涼) 名 ◎秋の初を欲する心。  
しんり(神領) 名 ◎神社の領地。神事  
遊樂等の費用に充てる爲のもの。  
しんり(津梁) 名 ◎わたしと橋と。  
しんり(度量) 名 ◎おしほかること。し

しんりつ(震慄) 名 ◎おそれふるひあがること。  
しんりつ(森立) 名 ◎ならびそびえ立つこと。  
しんりつ(新律) 名 ◎あらたに制定された法律。  
しんりつ(新律) 名 ◎「新律」名 ◎「新律」名 ◎「新律」  
政治學最初の刑法典。上は大寶の舊典に則り、下  
は古幕府の法典に參し、傍ら唐明清の諸律を折  
衷したもので、明治十二年二月成る。  
しんりやく(心路) 名 ◎心のはたらき。くふう。  
しんりやく(侵略) 名 ◎侵入して時をなすめ  
ふこと。  
しんりやく(進略) 名 ◎進入してうばひとること。  
しんりやく(侵略) 名 ◎他國に侵入してその土地  
をばひとること。一しゆき(侵略主義) 名  
◎「政治學を侵略して領土を擴張する政策」  
しんりやく(新柳) 名 ◎しんりの萌え出た柳。  
しんりやく(進流) 名 ◎「眞言聲明」の  
一派。大和中、川舟身院の進上人宗親に創まり、そ  
の高弟たる紀伊上川原院の時久安元年、相應院流、  
應福流と共に、眞言聲明三流の一と定められた。  
しんりやく(伸龍) 名 ◎中生代白堊紀の爬蟲類に  
屬する化石動物。體型は蛇に似て長約三米に達す  
る。四肢の強いこと、は斷頭した。  
しんりやく(心慮) 名 ◎おもひばかり。おもひ。  
しんりやく(宸慮) 名 ◎天子の御心。歡慮。聖慮。  
しんりやく(神慮) 名 ◎神のみこころ。◎天子の  
みこころ。

しんり(深慮) 名 ◎ふかいおもひばかり。  
しんり(振旅) 名 ◎「振」は收、「旅」は軍旅の  
意。軍を収め、凱旋すること。  
しんり(新涼) 名 ◎秋の初を欲する心。  
しんり(神領) 名 ◎神社の領地。神事  
遊樂等の費用に充てる爲のもの。  
しんり(津梁) 名 ◎わたしと橋と。  
しんり(度量) 名 ◎おしほかること。し

しんり(深慮) 名 ◎ふかいおもひばかり。  
しんり(振旅) 名 ◎「振」は收、「旅」は軍旅の  
意。軍を収め、凱旋すること。  
しんり(新涼) 名 ◎秋の初を欲する心。  
しんり(神領) 名 ◎神社の領地。神事  
遊樂等の費用に充てる爲のもの。  
しんり(津梁) 名 ◎わたしと橋と。  
しんり(度量) 名 ◎おしほかること。し





する説話若しくは傳説。又、神格を中心とする説話。人智の幼稚であつた時代に、宇宙の事業を神の意思活動であると思惟したに起因する。創世神話、太陽神話、洪水神話、英雄神話、人文神話その他に類別される。一がく「神話學」(名) (Mythology) 神話發生の原理、發達、變化の諸原則等を研究し、個個の神話(例へばギリシヤ神話、ドイツ神話、日本神話)の成立過程と意義を解明し、更に内容形式の異同による分類を試みる科擧。

**しんわら新葎**(名) 刈りたての稻から得たわら。稲田に通する程に生長した、草面に熱湯を注いで乾かしたものを、淺緑色で、女の髪を束れた。

**しんわりびき**「眞割引」(名)「經手」形など、支拂期日前に割引をなす。その時より支拂期日に至るまでの利息の割引をなす。割引料と手取金との合計がその手形面金額となるもの。外割引。

# すず

**す** 五十音圖「ま」行「第三」の音。古語を硬口蓋の前部に接して摩擦する音と母音「う」との複音。「す」の草體の變化。

**す**「巢」(名) 鳥類がこもり棲み、繁殖期に、産卵、育雛する床。歇又は鳥がこもり棲む床。窠。息。群れてある處。ひそんである處。「森賊の」。蜘蛛の吐く絲で、網の如く造つたもの。くものい。一をくふ(句) 鳥が巢を造る。

**す**「懸」(名) 環(く)の意。大根、牛蒡などの心に生じた無數の環。

**す**「簾」(名) 篠竹、兼又は割竹であつて、編んだ席。

**す**「下」(名) 細い物を縦横に編んで、目をすかした。た。あられた處。なす。

**す**「洲」(名) 地土砂が高くなり盛りあがつて、水の上に出た。す。「沙」(名) すな。(古語)

**す**「酢酸」(名)「化」三乃至五%の醋酸を含む酸味ある調味料。清酒を原料とした酒酢、清酒粕を原料とした粕酢、米と麩で造る米酢、わらじが主なるもので、種釋酒精を乾留した酒精粕や全然無酒精作用による、木材を乾留して造られた木酒粕等、醋酸を水で稀釋して、給メノ、酸糖蜜、甘酒等の香味料、カラメル等の着色料又は醸造酢を添加した醋酸又は合成酢等がある。一でも弱弱弱でも(句) (四五の五)を成れて、いたのだからといふ(句) (の)と文句を附けるにも。「一をを仕掛ける」す「馬尾」(名) 馬の尾の毛。

**す**「素」(接頭) 或語に冠して、つくり手師らず、又は平凡な物をもそのまま、若しくは何物をも所持てぬなどの意をあらはす語。「一日」一萬。

**す**「數」(接頭) 或語に冠して、「二」に止とまらぬ意をあらはす語。「一日」一萬。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「つ」の濁音。發音法は「す」と同じであるが、聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「子」(接尾) 或語に添へて、いふ語。「金」「扇」す「子」の濁音。發音法は「す」に同じであるが、摩擦音に聲帶の振動を伴ふ有聲音。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。



ぐれたもの。①發氣。②人情に通じ、世事に明かふこと。③花柳界又は戀人社会などの事情に通じていること。④は身を賣ふ(句) 花柳界や戀人社会の事情に通じ、意氣がすることは、遂に其の道に溺れてその身を滅しめる事。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。

**す**「す」(自動) 下二「いづ」の古語。語。



に變化する一種の畸形現象。やまつじの變形たる金悉羅國に起る類。『雲の異稱』

すいかん(瑞花)(名) 豐年の瑞相となる花の意

すいかん(透垣)(名) すきがきの音便

すいかん(水滙)(名) 水の滙まり

すいかん(水害)(名) 水の被害。一よぼろくみあい

すいかん(水害豫防組合)(名) 『法水利組合』の一。水害豫防に必要なる諸種の施設をなす爲の市町村の組合

すいかん(水界線)(名) 『地』水陸の境界線。満潮最高時のものを水陸線。干潮最低のものを低水線といふ

すいかん(水界地理學)(名) 『地』海洋の分布海流の状態。海水の成分。運動温度。及び生物等を研究する科學。地文學の一部をなし、海洋學とも云ふ

すいかん(粹顔)(名) 粹人ぶるかほつき

すいかん(透垣)(名) すきがきの音便

すいかん(水閣)(名) 水のほとりの樓閣

すいかん(醉客)(名) 水とどれ。よぼらひ

すいかん(水郭)(名) 水のほとりの村

すいかん(透空)(名) 目のあらひあじな空

すいかん(水郭)(名) 水のほとりの村

すいかん(透空)(名) 目のあらひあじな空

すいかん(水郭)(名) 水のほとりの村

を吸ひ取つてしまつた殻

すいかん(吸殻)(名) すいがら。吸殻

すいかん(水干)(名) 洪水とみどり

すいかん(水干)(名) 着用の際、しなやかにする爲に水湿にして乾した絹

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

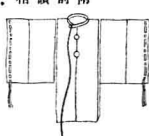
すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ

すいかん(水干)(名) 狩衣の一種。製法は狩衣と同じ



〔水干〕



〔水干〕

酸化するに連する青色の絹を發する。之を酸化絹といふ。細孔端を絹の外側に入れて解かす吹く時は、酸化層を還元するに連する明色を發する。之を還元絹といふ。一ふんせき(吹管分析)(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

すいかん(吹管分析)(名) 吹管分析(名)

承和五年、圓仁、慈覺大師の創建。『時。すみの世。すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。

すいき(衰季)(名) おとろへてすまとなたすいき(衰季)(名) みつつけりけり。



〔水牛〕

埃及その他に於いては飼育して耕作に使役する。野生のものには性勇猛で好んで水邊に棲息す。

**すいきよ** 〔水居〕名 水上のすまひ。ふなすまひ。と。すべん推薦(すまひ推薦)。

**すいきよ** 〔推薦〕名 人を薦めあげること。

**すいきよ** 〔出射〕名 (すい)。

**すいきよ** 〔吹息〕名 (吹)は氣息の急なること。

**すいきよ** 〔吹か〕名 吹きを吹かせること。

●人をすすめること。吹聴すること。

**すいきよ** 〔水魚〕名 水と魚。水と魚との離るべからざる關係。一の親(分)〔杜甫の詩に「自娶水魚親」とあるに基く〕交情の極めて親しいこと。一の交(句)〔魚と水との意。蜀志の劉備の言に「孤有孔明猶魚之有水水魚勿復言」とあるに基く〕交情の極めて親密なこと。

**すいきよ** 〔醉狂〕名 酒に酔って狂ふこと。●このすい。好奇心。

**すいきよ** 〔水郷〕名 水邊にある村。

**すいきよ** 〔睡郷〕名 夢に過の通ふといふ。夢のうち。れむる。

**すいきよ** 〔水鏡〕名 ①蜀志の龐統傳註に司馬德操爲水鏡とあるに基く。水がありのままに物の姿をうつすやうに公平に物事を観察し、その狀を洞見して、人模範となること。②又その人。●(分)みすか(水鏡)。

**すいきよ** 〔醉郷〕名 酔って境界を忘れ

**すいきよ** 〔垂拱〕名 (衣)袖を垂れ手を拱(ご)の意。何事もなまず、他人のなすがまにかせむこと。

**すいきよ** 〔垂教〕名 教なされること。又

**すいきよ** 〔垂玉〕名 ①【數】Emerald。②密度が様で、全く自由に曲がる。水晶等な二點で支へて吊下げる時、これ等の物の重さによつて作られる曲線。

**すいきん** 〔水禽〕名 ①動 水と密接な關係を有して生活する鳥。みつとり。一あるい(水禽

類)名 雁鴨科の鳥類。脚短く體の後方に位置し、趾間には裸(裸)を張る。羽毛は細毛柔軟で保温力に富み、嘴は鋭く、硬くない。概して游泳に巧みで、水中に潜没するものもある。魚介水邊等に、羽毛は薄層の心に實用せられ、排泄物に肥料となるものがある。かん(か)も「あひる」がてう「あひる」が「あひる」。

**すいきん** 〔水金〕名 ①陶磁器に金色を表はす爲の一種のイニシ、鹽化金をテレン油又はパールサムの硫黄化合物と結合させ、セシ油で溶解し、金は遊離して金色の文字は繪が現はれる。

**すいきん** 〔醉吟〕名 酒に酔うて詩歌を吟ずること。

**すいきん** 〔水銀〕名 〔化〕Mercury, Hg。200。常温で液状を呈する唯一の金属元素。多く辰砂を焼いて製する。攝氏三五・二五度で沸騰し、零下三八・五度で固化する。硝酸には容易に溶解し、又金剛と合金を作ると容易である。金の精練、炭酸設計、各種の水銀鹽の昇昇、甘灰等、火柴薬水、硫化水銀(赤色顔料)等の製造に用いられる。一かんたんけい

**すいきん** 〔水銀寒酸設計〕名 ガラス球に水銀を入れた寒酸設計。一うらうらうら

**すいきん** 〔水銀硬膏〕名 寒酸設計と脱水アノリンとをすりませ、他の材料を混和した硬膏。軟硬性を調節等に貼布す。

**すいきん** 〔水銀劑〕名 ①水銀の有毒する殺菌作用を利用しての如き、水銀エモール、水銀エモール、水銀エモールの如き、水銀注射劑、水銀硬膏、水銀軟膏の如き、微毒性消毒や寄生蟲による皮膚病等に貼布する外用薬等。一しんしん

**すいきん** 〔水銀振子〕名 重錘として硝子管内に水銀を入れた振子。一せいらいけい

**すいきん** 〔水銀雨計〕名 晴雨計の中、最も精密なものは水銀を硝子管に入れて槽中に倒立し、その重量と氣壓との相約合ふ原理を應用して、管内水銀柱の高さを尺度で測りて之を以て氣壓を表すもの。一ちちちち

**すいきん** 〔水銀中毒〕名 ①水銀劑を内用又は

外用することによつて起る病的狀態。急性中毒・亞急性中毒・慢性中毒に分ち、主なる症候は、心臓及び血管の麻痺による虚脱、腎臟障礙、胃加管腸潰瘍、急性大腸炎、膀胱炎又は口腔炎、炎、寒毒過敏症等。一う

**すいきん** 〔水銀燈〕名 〔理〕Mercury lamp。水銀燈を用ひた装置。電氣の兩端を水銀中に置くと、電氣と共に多量の水銀蒸氣を發生し、之を通過して電氣が生ずるので、水銀蒸氣のスペクトルを發する。この光は紫色で、化粧室に富むか、寫眞術及び紫外線療法(水銀燈療法)に用ひる。石炭燈。一なんこう

**すいきん** 〔水銀軟膏〕名 藥水に豚脂、牛脂、脱水アノリン等を混和した軟膏。一ポンプ

**すいきん** 〔水銀ポンプ〕名 水銀ポンプの真空の理によつて、水銀を使用し、器中の空氣を排除する装置のもの。ガイスター、アル、スプレー、ゲル、ゲル、ゲル等種の式がある。一りようほう

**すいきん** 〔水銀療法〕名 ①水銀劑によつて、皮膚を治療する法。塗擦法、注射法、内服法、燻蒸法等がある。

**すいきん** 〔養軀〕名 おとろへよつた身體。

**すいきん** 〔炊具〕名 炊事の道具。

**すいきん** 〔吹口〕名 煙管などの口に當る部分。①煙煙の口に當る部分に、別に厚紙をつけた一端。②煙煙を草に入れて吸ふ具。③吸物に添へて芳香を添へる。④即ち抽子・木芽・露草(い)などの類。かふと(吹口)。

**すいきん** 〔水軍〕名 水上のいく。ふない

**すいきん** 〔水雞〕名 水鶏。

**すいきん** 〔垂簾〕名 水簾。

**すいきん** 〔水系傳染〕名 飲料水が汚染せられた爲に傳染病の流行すること。

**すいきん** 〔水系網〕名 ①地 河川湖沼の平面分布の形態。②武術の形の一。雙方は

**すいきん** 〔水決〕名 理をおしきり、水にうつる月影。③武術の急所。④武術の形の一。雙方は

近して眼みあふもの。一かんのん(水月觀音)名 佛 官位財寶を得る。ひ、又旅行中の危難を免る爲に祈願する。⑤(觀音)。

**すいきん** 〔水月場〕名 兩軍相對して、主將の命下らば、まに刃を交へんとする場合。

**すいきん** 〔水血症〕名 〔醫〕(癩)血液中に水分及び酸素の増加する症狀で、多くは肺癆、腎炎の浮腫發生期又は浮腫消失初期に起る疾病。

**すいきん** 〔水圈〕名 〔地〕Hydrosphere。氣圈と岩石圈の間に介在する地球構成の一要素。海洋と陸水即ち湖沼・河川・地下水・水河との稱。一が

**すいきん** 〔水圏學〕名 〔地〕Hydrography。水圏を研究する學。その對象によつて、海洋學と陸水學即ち湖沼學・河川學・地下水學・水河學に分つ。

**すいきん** 〔水源〕名 ①地 水流の流れ出る、みなみ。一かんとりん

**すいきん** 〔水源〕名 ①地 雨水を吸收し、水源の枯渴を防ぎ、かたて水流の一時に河川に集つて洪水を起すこと。を防ぐ爲の森林。一水源地

**すいきん** 〔瑞臉〕名 あらたかなるし。

**すいきん** 〔出巻〕名 中古に於ける一種の消費貨幣。官府又は私人が、積聚貨幣を貸出して利息を収めたこと。

**すいきん** 〔推占〕名 昔の事跡をおしきり考むこと。往古。③庭園などの若葉して奥ゆかしく閑靜なこと。

**すいきん** 〔酔狂〕名 酔狂の號。



〔水月觀音〕







〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無



〔序花狀穂〕

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無

すいしーすいせ 〔穂状花序〕(名) 〔穂〕(名) 花序の一種。長い一箇の花穂の周圍に、無



〔器運推〕

動機によって同轉せられ、之を装置した船舶飛行機等を推進する器。現今の船舶に一般に使用せられてゐるものは螺旋推進器で、水面下に装置せられるから、一名之を暗室とす。

すいしん 〔水心〕(名) 水面の中央。すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ

すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ すいじん 〔水浄〕(名) 水のほ



〔身隨〕



〔神水〕

冠を戴き、開帳の袍を著し、兵仗を帯びた神像を安置したものの、この二神は關帝(關公)と、又、看香長(香長)の像。世俗に、矢大神と矢ふ、とも佛寺の仁王門の二天王に敬て稱へたものとす。

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

スイス Switzerland (瑞西) 〔地〕中央ヨーロッパの一小共和国。ドイツイ

徑は五萬軒乃至二十四萬軒。一度出現してから再び一定の週期を以て復歸するものと懸らざるものとがある。支那及び我が國の昔には、これを妖怪と稱し、そのあらはれるのは凶兆とされた。ほうきとす。

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ

すいせい 〔水制〕(名) 〔水〕(名) 河川の水勢緩和河身整正の爲に設ける工作物。みづはれ



すいすい(水程)一名水路の距離。ふなち。

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいすい(水底)一名河海湖などの水底に沈

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。

すいてい(水亭)一名水邊のあづま。



水天

と空と一つづきになって、そのまが目が知れず、青

水と空と一つづいて見ればつのかげごと。

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

すいてん(水田)一名水のたまた田。み

ち。水流のかよふ筋路。上水を引く道。市町村住民に飲

用水を供給する目的施設。水源。水道。沈澱池。

きょうり(水道橋)一名工河川の上を越える

水道の導水管を支へるために架した橋梁。上じよ

うれい(水道條例)一名法上水道の經

営管理に関する法律。明治二十三年法律第九號を以

て公布。てつかん(水道鐵管)一名

工上水道の導水路として、地下に敷設した鐵管。

すいどう(陸道)一名地中を穿てて通した道。

あなみち。トンネル。

すいとう(水頭症)一名腎臓水

腫れをいふ。蜘蛛膜腔内又は腦室内に腎臓液の

溜る病変。

ずいとくじ(隨徳寺)一名すいととそのま

まはする意なき名めかしていった語。後の事など

構はずに通げ出すこと。

すいとりがみ(吸取紙)一名インキで紙

に書いた痕跡が乾かぬのを、上から押しつけてその水分

を吸ひとらせる紙。おしがら。吸取紙。

すいとる(吸取)一名吸取る(他動カ四)

●吸ひ出して取る。吸ひ込ませて取る。●あつめとる

●吸ひ出す。●他人の金銭・利得等を自分の方に

取込む。せびりとる。むさびりとる。

すいとん(水團)一名圓錐形の水でこれ、團子

大いに、汁で煮た食品。支那人の常食。

すいなん(水難)一名洪水の災難。●水に

原因する諸種の災難。即ち沈没船・沈没橋・沈没等

●きゆうじ(水難救護)一名社土上に於

ける人命及び財産の免脱を救助すること。又その

事業。●きゆうじ(水難救護)一名社土上に於

丑の日、金星の人は庚戌の日、水性の人は癸丑の日。  
すいにん 推任 名 他の推挙によつて官に補せられること。  
すいにんてんろう 垂仁天皇 名 第十一代の天皇。崇神天皇の第三子。御名は活目入彦五十狹茅尊。都々大和國磯路五城宮に遷された。並に記り、城路を陸路に建てしめ、殞死を禁止し、諸國に約八百の池澤を開かしめ、農事の獎勵等を行はれた。在位九十九年にして崩御。寶曆百三十九年(五三〇)。

すいねい 緩寧 名 世のやすらかなこと。  
すいのう 水囊 名 底を馬尾又は針金の網で張つた、水筒。一、なげ(水囊投)に外にははれ出し易い。  
すいのう 遊戯 名 底の弾力の爲に外にははれ出し易い。  
すいのう 籠籠 名 籠を入れてある籠。  
すいのう 田納 名 田(すい)と園(な)と。  
すいのう 髓腦 名 髓(すい)と腦(な)と。  
すいのう 脊椎動物の原腦胞の最後部。極めて肝要な部分。  
すいのう 文學學上の用語。歌の法則奥義等を述べた書。「新撰」。

すいは 水破 名 髪黒い羽で剃いだした。  
すいは 水波 名 水と波と。  
すいは 翠波 名 緑色の波。  
すいは 酸漿 名 種々の多胚生草本。葉は直立し縱溝を有し、往往紅紫色を呈する。莖葉は互生、輪輻圓狀披針形或は長橢圓形で節節。雌雄異株。初夏、梢に枝を分ち圓錐花序をなし、淡紫色の六瓣片花を開く。果實は卵形で鋭稜を有し、翼は球形である。山野に自生し、嫩葉・嫩葉は共に食用となる。すかんぼ。すかんぼ。  
すいは 馬 名 水中で馬を取する法。馬を水中に乗り入れ、馬脚の立たない所に至つて、馬を下り、鞭を操つて泳がせ、馬の脚の立つ所に至つて、再び馬を操る。江戸幕府の年中行事の一。毎年六月隔田川に渡られた水馬、將軍の臨檢したのも、すいは(醉舞)名 酒に酔つて人を罵るも。

すいはい 義殺 名 おとろへやぶれること。  
すいはい 義廢 名 おとろへすたれること。  
すいはい 義徳 名 おとろへつかれること。  
すいはい 隨伴 名 したがひへること。  
すいはい 水媒花 名 水中に生活する顕花植物で、水を花粉運送の媒介とするもの。  
すいはい 推排法 名 支那古代に行はれた田稅整理法。國民の貧富によつて税率を高下し、納稅の公平期したも。  
すいはい 水伯 名 神・水の神。「ある箱」  
すいはい 透箱 名 黄金で造つたすかしほりの長さ一米五釐乃至一米〇五釐位の桐材の板で、中央に長い切口を作り、掛針を上とするやうにしたも。または其の形を琵琶の楕圓に似せたといふ。  
すいはい 垂簾 名 たれがみ。ちらしがみ。  
すいはい 形原 名 すきはは。  
すいはい 水畔 名 みづぎは。  
すいはい 水飯 名 昔、乾飯を冷水に浸したも。又、後世には、柔く炊いた飯を冷水に浸したも。のみづめ。  
すいはい 推判 名 事理を推考へて判斷すはい 水盤 名 陶器又は鐵器で作つた淺い器。中に水を盛つて花を生け、又は盆石などを置くもの。  
すいはい 推挽 名 車を後より推し、前かへひきよめること。人を推挙するがこと。とすいはい 隨伴 名 つきしたがふこと。とすいはい 水半球 名 地アランチボアス群島を中心とする南半球。全面の八一%が海洋であるからこの名がある。(陸半球の對)  
すいはい 水盆 名 陶土調整の一工程。粘土粉を水中に入れて細粉は浮き、粗粉は沈む。かたくして粗粒を分け、同時に夾雑物を砂・石灰・酸化鐵等)を除去する。こと。

すいはい 水肥 名 分すこと。  
すいはい 炊婢 名 めしたきの女中。  
すいはい 翠眉 名 みどり眉。  
すいはい 翠微 名 純粋で美しいこと。  
すいはい 山の中庭 名 遊山の薄緑色。  
すいはい 義微 名 衰へてかすかなること。  
すいはい 水筆 名 穂に心を入れず、その全部に墨汁をふくませて文字を書き筆。  
すいはい 醉舞 名 酒に酔つた時、書畫を書くこと。又その書畫。  
すいはい 隨筆 名 何くれとなく筆にまかせて記しつけた文章。遊筆。隨筆。  
すいはい 水浮 名 穂(すい)とまき(うき)と。  
すいはい 水水 名 動(すい)と静(じ)と水の凍結して成生した水。學術上で雪水(陸水の對)すいはい 水換 名 佛(すい)と院(じ)と水を盛つて佛前に供へる。形は種種あり、灌頂の時にはその水を受戒者の頭にそそぐ。  
すいはい 隨兵 名 隨行する兵士。  
すいはい 武家時代に、將軍出行の時、武装して騎馬し、兜を從者に持たせて、其の前衛を警備した兵士。  
すいはい 水漬 名 みづのほとり。みづのすいはい 琵琶 名 音支部音樂の十二律の(陰)除五月の異稱。  
すいはい 義殺 名 ねげ落ちて少なくなったがすいはい 水大 名 船船乗組員中、甲板部に屬し、運用等の雜役に従ふ下級船員。か。ふすいはい 水府 名 海底にあるといふ水神の宮殿。龍宮城。地(すい)府(すい)府の異稱。一は(水府葉)名 水月庵の煙草の葉。品質優秀で、黃褐色香氣高い味は豊軟。一りゅうり(水府流)名 泳法の一流。元祿年間水月の住人島村孫左衛門正廣の創始した流儀。

すいはい 炊夫 名 男のめしたき。  
すいはい 炊婦 名 女のめしたき。  
すいはい 緩撫 名 なでやすんずること。なすいはい 醉舞 名 酒に酔つて舞ふこと。  
すいはい 推服 名 推挙して従ふこと。  
すいはい 吸皿 名 醫(すい)中空の硝子燗の一端にゴム球を取りつけた用具。皮膚に吸着せしめて内部の膿血や膿疔その他を吸ひ取るに用ひる。すい(すい)か。  
すいはい 水風呂 名 すい風呂のこと。  
すいはい 水分検査 名 棉花と羊毛・毛絲・綿絲・絹絲の水分を檢査し商品品の正味を決定するもの。  
すいはい 身分相懸 名 身分相懸。  
すいはい 水兵 名 みづへ。  
すいはい 水兵服 名 水兵の軍服を模倣した服。セーラー服ともいふ。男女兒の學校制服などに多く用ひられる。  
すいはい 水車運動 名 水車。普通。なみ。  
すいはい 水角 名 角の二邊が、何れも水面上にある角の稱。仰角(俯角の對)一きり(水水平)名 距離(すい)んき(水車)に於ける二點間の距離。しや(水水平)名 水車運動達成の目的で設立された社。大正十一年三月、京都市で創設せられた。一結ん(水水平)名 水車と平行する直線。普通以上と以下の線

すいはい 水風呂 名 すい風呂のこと。  
すいはい 水分検査 名 棉花と羊毛・毛絲・綿絲・絹絲の水分を檢査し商品品の正味を決定するもの。  
すいはい 身分相懸 名 身分相懸。  
すいはい 水兵 名 みづへ。  
すいはい 水兵服 名 水兵の軍服を模倣した服。セーラー服ともいふ。男女兒の學校制服などに多く用ひられる。  
すいはい 水車運動 名 水車。普通。なみ。  
すいはい 水角 名 角の二邊が、何れも水面上にある角の稱。仰角(俯角の對)一きり(水水平)名 距離(すい)んき(水車)に於ける二點間の距離。しや(水水平)名 水車運動達成の目的で設立された社。大正十一年三月、京都市で創設せられた。一結ん(水水平)名 水車と平行する直線。普通以上と以下の線

すいはい 炊夫 名 男のめしたき。  
すいはい 炊婦 名 女のめしたき。  
すいはい 緩撫 名 なでやすんずること。なすいはい 醉舞 名 酒に酔つて舞ふこと。  
すいはい 推服 名 推挙して従ふこと。  
すいはい 吸皿 名 醫(すい)中空の硝子燗の一端にゴム球を取りつけた用具。皮膚に吸着せしめて内部の膿血や膿疔その他を吸ひ取るに用ひる。すい(すい)か。  
すいはい 水風呂 名 すい風呂のこと。  
すいはい 水分検査 名 棉花と羊毛・毛絲・綿絲・絹絲の水分を檢査し商品品の正味を決定するもの。  
すいはい 身分相懸 名 身分相懸。  
すいはい 水兵 名 みづへ。  
すいはい 水兵服 名 水兵の軍服を模倣した服。セーラー服ともいふ。男女兒の學校制服などに多く用ひられる。  
すいはい 水車運動 名 水車。普通。なみ。  
すいはい 水角 名 角の二邊が、何れも水面上にある角の稱。仰角(俯角の對)一きり(水水平)名 距離(すい)んき(水車)に於ける二點間の距離。しや(水水平)名 水車運動達成の目的で設立された社。大正十一年三月、京都市で創設せられた。一結ん(水水平)名 水車と平行する直線。普通以上と以下の線

すいはい 炊夫 名 男のめしたき。  
すいはい 炊婦 名 女のめしたき。  
すいはい 緩撫 名 なでやすんずること。なすいはい 醉舞 名 酒に酔つて舞ふこと。  
すいはい 推服 名 推挙して従ふこと。  
すいはい 吸皿 名 醫(すい)中空の硝子燗の一端にゴム球を取りつけた用具。皮膚に吸着せしめて内部の膿血や膿疔その他を吸ひ取るに用ひる。すい(すい)か。  
すいはい 水風呂 名 すい風呂のこと。  
すいはい 水分検査 名 棉花と羊毛・毛絲・綿絲・絹絲の水分を檢査し商品品の正味を決定するもの。  
すいはい 身分相懸 名 身分相懸。  
すいはい 水兵 名 みづへ。  
すいはい 水兵服 名 水兵の軍服を模倣した服。セーラー服ともいふ。男女兒の學校制服などに多く用ひられる。  
すいはい 水車運動 名 水車。普通。なみ。  
すいはい 水角 名 角の二邊が、何れも水面上にある角の稱。仰角(俯角の對)一きり(水水平)名 距離(すい)んき(水車)に於ける二點間の距離。しや(水水平)名 水車運動達成の目的で設立された社。大正十一年三月、京都市で創設せられた。一結ん(水水平)名 水車と平行する直線。普通以上と以下の線





紀の意) 菊の一種。花の淡紅色のもの。

すいよく 水浴(名) 水があがること。  
すいよす 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(一) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(三) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(四) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(五) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(六) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(七) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(八) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(九) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十一) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(十二) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十三) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十四) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(十五) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十六) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十七) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(十八) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(十九) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(二十一) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十二) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十三) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(二十四) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十五) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十六) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(二十七) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十八) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(二十九) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(三十) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十一) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十二) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(三十三) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十四) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十五) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(三十六) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十七) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(三十八) 吸寄(名) 他動。す下

すいよす(三十九) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(四十) 吸寄(名) 他動。す下  
すいよす(四十一) 吸寄(名) 他動。す下

などで作り、表裏よりきしこんだ物。●鰓が卵をかへすために果につく。●水。

すいり 酔煎(名) 脂防強く味しつこい魚類など煮る時酔煎を加へて淡味にし腥氣を去つた料理

すいり 水利(名) 水の上運搬の便利。●水の利用。即ち水を飲料又は灌溉などに用ゐること

すいり 水利組合(名) 法に水利土木事業を一定地域内の土地所有者又は土地家屋所有者を以て組合しする團體。灌漑排水事業を目的とする。●ほうがうがいさい

すいり 水利妨害罪(名) 法他人の水利権を侵害するに於て成立する犯罪。既知の事實から未知の事實を推知すること。既知の事實を前提推知の事實を断案といふ

すいり 水入(名) おまくり泳ぎをする。●おまくり泳ぎをする。●おまくり泳ぎをする。●おまくり泳ぎをする

すいり 推理(名) 事理を推して考へること。●(論) (Inference) 或断定から他の断定を推知すること。既知の事實から未知の事實を推知すること

すいり 二個以上の場合は間接推理といふ。●三段論法(推理式) (名) (論) (Inference) 三段論法

すいり 酔(名) 酒に酔つて醒めるまでの間。●酔(名) 酒に酔つて醒めるまでの間

すいり 圏入(名) 圏の挿入してあること。●圏入(名) 圏の挿入してあること

すいり 水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と。●水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と

すいり 水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と。●水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と

すいり 水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と。●水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と

すいり 水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と。●水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と

すいり 水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と。●水陸(名) 水面と陸地と。水路と陸路と

に瑞龍山がある。水戸家累代の墳墓の地で、傍に朱甌水の墓がある。

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

すいり 水量計(名) 水の量を量る。●水量計(名) 水の量を量る

するが爲に、皇太后などが群臣にわはれる際はその前に簾を垂れた。●(一)の政(句) (漢書)に「太后垂簾聽政」とあるに基く。天子幼少の時、皇太后や皇太妃が代つて政を聽き給ふ。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。

すいれん 暈蓮(名) 蓮の花を形して水中に沈下し、葉を水上に浮かべ、葉は圓形或は卵形、全縁又は鋭齒があり、裏面に光澤を有する。七八月頃、根莖から花梗を抽出し、頂端に蓮の如き一花を開く。花は水面に浮かがり、直徑四厘五釐、多くは白色で、花梗は螺旋状をなして短縮し果實を水中に没する。



(勳)水



スーデルマン (Hermann Sudermann) (名)

「アドイックの小説家。戯曲。東プロシヤの生田世作。愛慕夫人(八七八七年)を始とし、「名譽」「故郷」「ヨナナ」等の著作あり。その他性格劇・高貴劇・社會劇・歴史劇・象徴劇等の作がある。(一九一八)

すうてい (崇徳) (名) 京都の人名。俗性は一色氏、字は以心。前神寺の長老となり、後、駿府に出て家康の爲に諸寺を管し、外國文書を掌る。又慶長十六年清波殿を賜つて「預轉寺」の方丈とし、その間、公家武家の法度を始め諸寺諸宗の法度を作り、諸寺の總録となる。寛永三年、後水尾天皇から圓照本光國師の號を賜ひ、十年(三九三)寂。年六十五。

すうてんせい (超電性) (名) (生物) Galvanotaxis (名) 生物の電流に對する趨性。アメーバが陰極に、甲殻類が陽極に集まるが如きこと。「ん」。

すうにん (數人) (名) 三四人又は五六人。すに

すうねん (數年) (名) 三四年又は五六年。

すうねつせい (趨熱性) (名) (生物) Thermotaxis (名) 生物の熱に對し趨向する性。カマリ蟲が二十五度以上の時は熱源から遠ざかり、二十五度以下の場合は熱源に向ふ類。

すうはい (禮拜) (名) おもむいて拜謝すること。

すうはい (崇拜) (名) あがめやまふこと。◎「宗教的對象を崇敬し、心に歸依する心的態度と外的表現の總稱。信仰すること、歸依すること。」

すうふん (數犯) (名) 數回を犯すこと。

すうふん (數府) (名) 政權の異稱。

スープ (Soup) (名) 西洋料理の總稱。食事の初に供す。牛肉・玉葱・人參・香料・水・砂糖で製したスープ・ストック。スープ・ストックを灰汁煮(じ)して鹽と胡椒で調味したクレープ・スープ、ストック・ストックに牛乳・メーケイン粉等の材料を加味して濃厚な風味を持たせた牛乳スープ等がある。

すうほう (崇奉) (名) あがめ敬くこと。

すうぼく (芻牧) (名) 草を刈り牛馬を飼ふこと。又、その人。

すうまつ (獨株) (名) かいば。まぐさ。

すうみつ (樞密) (名) 樞要の機密。政治の機密。

すうごん (樞密顧問) (名) (注) 天皇の最高の顧問。重要な國務の諮詢に奉答し、大權の行動を輔導する憲法上の機關。但し施政上には與らぬ。樞密院顧問官。一し「樞密委任」(名) 支那宋朝の樞密院の長官、概ね宰相が之を兼任した。

すうみつ (樞密院) (名) (注) 法・天皇の顧問機關。直接に天皇に接し、重要な國務に關し天皇の諮詢に應ずべく、元勳・練達之士中より選ばれた諸大臣・閣員各一名及び顧問官若干名を以て構成される合議機關。その職務權限は皇室關しは、憲法條項及びそれに附屬する法令に關する草案及び疑義、戒嚴の宣告、列國交渉の條約及び約束等を審議する。支那宋代の軍務を總括した官署。中書省と相對し、文書權を分掌した中央官廳。一「きちよう」(名) 樞密院議長(名) 法樞密院會議の首席者。樞密院一切の事務を總轄し、兼ねて皇族會議に參列する。

すうみつ (樞密院顧問官) (名) 法樞密院を組織し、樞密顧問の職責に當る親任官。定員二十四人。その任用資格は年齢四十歳以上、元勳及び學識達なるもの。

すうもく (數目) (名) 區別の簡條。

すうよう (數學) (名) 數學の理論。算數の道理。一「の」。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

すうり (數理學派) (名) (Mathematical school) 數理の研究法を他の學問に應用する學派。

一食はぬは男の恥(旬)女から眺まれてこれに應じぬのは男の面目を汚すものである。

すえだ(楚)名(すゐ)。すえだくみ(末工)名(後の計畫)。

すえつつかた(末つ方)名(末の頃)。

すえつさ(末)名(陶器のつぎ)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

すえつき(末附)名(垂髪)。

長)を主とした。弘治四年(一五五五)毛元就に殿高に攻められ、敗れて自殺。年三十五。

すえはん(据判)名(かきはん)。

すえはん(末番)名(川柳)。

すえびと(末人)名(しものもの)。

すえびと(陶人)名(すゐつくり)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

すえひろ(末廣)名(次第)。

もの。おきもの。昔刀の利を試みる爲に、土壇に据えておいた罪人の死骸。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

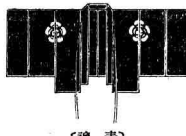
すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。

すえよし(末吉)名(江戸時代の初期)。



〔襦素〕

襦脱(名)猿樂の能の時、観客から纏頭として、役者に襦脱して與へること。役者は若しそれをその人なまらして取り返し、金を與へたり。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。

はかま(素襦袢)名(素襦袢)。





水に薄め、砂糖を加へて飲料にする。レモンスカッシュの類。  
スカッパー [Scupper] (名) 船の舷甲板の上の隅すかと、数箇度(名)たびたび。數回。五六度。  
すかなし (名) 〔形〕なり。たよりない。おぼつかない。心細い。淋しい。(古語)

すかぬい (名) 〔縫〕すかすかといつて、布目(名)を一つおきに縫ふこと。小袖の紋所、又は半衿の模様などに用ひる。  
すかぬき (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬおと (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬき (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬき (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬき (名) 〔不〕透男(名)けものない男。

すかぬく (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。

すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。  
すかぬか (名) 〔不〕透男(名)けものない男。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。  
すがめ (名) 素根(名)すづきのかめ。

すがわらみちさね (名) 香原道真(名) 人政治家、文學者。小名阿保。學識は著しく、勲を率して、頼朝に仕へた。宇多院朝の兩朝に歴仕し、右近衛大將、右大臣に進んだが、延喜元年、藤原隆平に讒せられて、太宰権帥に貶せられ、同三年(五六三)配所(名)に。年五十九。後世其の徳を景慕して、菅公又は菅丞相といふ。村上天皇の天曆年間、その靈を北野に祭り、天滿天神と稱する。詩文(名)菅家文章、菅家後集に收められてゐる。  
スカンク [Skunk] (名) 動物食肉類の猫大の獸。北アメリカに産する。外形、いならに似、全身に長毛を有し、體黒色、鼻から顔に互ら背部に於て左右に分れ、後方に走らざれば臭いがある。尾は長毛を發せし、上面は黒色、下面と先端は白色。肛門腺より液體を分泌し、猛烈なる悪臭を放ち、外敵警防防禦の具とする。毛皮は防禦用に供せられる。●競技用語。零敗。  
スカンジナヴィヤ人(名) 一半島(名) 地(名) Scandinavia) コロラッ北部の大半島。長さ約千八百海里、幅最大約八百海里、面積約八十萬方海里。フィンランドの國北端から西端に延び、バルト海と大西洋との間に横たはなり、東部はスウェーデン、西部はノールウェーとなつてゐる。  
ずかんそくねつ (名) 頭寒足熱(名) 健康法に於いて、頭部をひややかにし、足部をあたかにすこと。  
ずかんびん (名) 素菜食(名) 極めて貧乏なこと。  
すかんぼ (名) 酸模(名) 種すべ。  
すき(村)(名) 朝鮮の古昔(名) こと。古語  
すき(禰)(名) 子供を負ふ帶。(古語)  
すき(主)(名) 大嘗祭で、西方の祭場(名) 熊基の對



〔ク〕スカス

すがわらみちさね (名) 香原道真(名) 人政治家、文學者。小名阿保。學識は著しく、勲を率して、頼朝に仕へた。宇多院朝の兩朝に歴仕し、右近衛大將、右大臣に進んだが、延喜元年、藤原隆平に讒せられて、太宰権帥に貶せられ、同三年(五六三)配所(名)に。年五十九。後世其の徳を景慕して、菅公又は菅丞相といふ。村上天皇の天曆年間、その靈を北野に祭り、天滿天神と稱する。詩文(名)菅家文章、菅家後集に收められてゐる。  
スカンク [Skunk] (名) 動物食肉類の猫大の獸。北アメリカに産する。外形、いならに似、全身に長毛を有し、體黒色、鼻から顔に互ら背部に於て左右に分れ、後方に走らざれば臭いがある。尾は長毛を發せし、上面は黒色、下面と先端は白色。肛門腺より液體を分泌し、猛烈なる悪臭を放ち、外敵警防防禦の具とする。毛皮は防禦用に供せられる。●競技用語。零敗。  
スカンジナヴィヤ人(名) 一半島(名) 地(名) Scandinavia) コロラッ北部の大半島。長さ約千八百海里、幅最大約八百海里、面積約八十萬方海里。フィンランドの國北端から西端に延び、バルト海と大西洋との間に横たはなり、東部はスウェーデン、西部はノールウェーとなつてゐる。  
ずかんそくねつ (名) 頭寒足熱(名) 健康法に於いて、頭部をひややかにし、足部をあたかにすこと。  
ずかんびん (名) 素菜食(名) 極めて貧乏なこと。  
すかんぼ (名) 酸模(名) 種すべ。  
すき(村)(名) 朝鮮の古昔(名) こと。古語  
すき(禰)(名) 子供を負ふ帶。(古語)  
すき(主)(名) 大嘗祭で、西方の祭場(名) 熊基の對

すがわらみちさね (名) 香原道真(名) 人政治家、文學者。小名阿保。學識は著しく、勲を率して、頼朝に仕へた。宇多院朝の兩朝に歴仕し、右近衛大將、右大臣に進んだが、延喜元年、藤原隆平に讒せられて、太宰権帥に貶せられ、同三年(五六三)配所(名)に。年五十九。後世其の徳を景慕して、菅公又は菅丞相といふ。村上天皇の天曆年間、その靈を北野に祭り、天滿天神と稱する。詩文(名)菅家文章、菅家後集に收められてゐる。  
スカンク [Skunk] (名) 動物食肉類の猫大の獸。北アメリカに産する。外形、いならに似、全身に長毛を有し、體黒色、鼻から顔に互ら背部に於て左右に分れ、後方に走らざれば臭いがある。尾は長毛を發せし、上面は黒色、下面と先端は白色。肛門腺より液體を分泌し、猛烈なる悪臭を放ち、外敵警防防禦の具とする。毛皮は防禦用に供せられる。●競技用語。零敗。  
スカンジナヴィヤ人(名) 一半島(名) 地(名) Scandinavia) コロラッ北部の大半島。長さ約千八百海里、幅最大約八百海里、面積約八十萬方海里。フィンランドの國北端から西端に延び、バルト海と大西洋との間に横たはなり、東部はスウェーデン、西部はノールウェーとなつてゐる。  
ずかんそくねつ (名) 頭寒足熱(名) 健康法に於いて、頭部をひややかにし、足部をあたかにすこと。  
ずかんびん (名) 素菜食(名) 極めて貧乏なこと。  
すかんぼ (名) 酸模(名) 種すべ。  
すき(村)(名) 朝鮮の古昔(名) こと。古語  
すき(禰)(名) 子供を負ふ帶。(古語)  
すき(主)(名) 大嘗祭で、西方の祭場(名) 熊基の對





鉢なども混用するようになった。文政年間、京都西陣の宮本某が、徳川十日町で創製したものである。

**すきや** 数寄屋(名) (も) 湯水の扇状に、数寄の二字を掲げたからいふ茶の湯を行ふ小座敷。茶形、勝手水屋、廣間等の様子を備へた建物。茶室、一がしら(数寄屋頭)(名) 数寄屋坊主を統轄するもの。一がた(数寄屋下駄)(名) 数寄屋で用ひる下駄。一たび(数寄屋足袋)(名) 草足袋は茶會に用ひながら、木履足袋。一は(数寄屋橋)(名) 江戸城外濠の京橋数寄屋町への通路上架した橋。一ほうす(数寄屋坊主)(名) 江戸幕府の茶事を掌った小吏。若年寄の所管。

**すきやき** 鋤焼(名) 鳥獸肉に煮豆腐などを添へて煮焼する鍋料理。惟新前天獣肉食が盛盛された頃、ひそかに耕作の黽の上で載せて焼いて食したからいふ。

**すきや** 杉板(名) 杉板の上に魚肉などをのせて焼く。杉の木香を移した料理。又、箱に詰めて焼くこともある。

**スキヤップ** (名) (名) 社同盟體業の基切者。すきやまんぼう(杉山杉風)(名) (人) 西蕪門下の俳人。通稱市兵衛。別號採茶亭、蕪林。杉の魚商人。開吟二十五首を合せて西蕪の列をしたものを「常盤屋の句合」といふ。その著に「杉のしほり」(編輯座談)がある。享保十七年(三三九)度。年八十六。

**すきやまたんごのじょう** (杉山丹後掾)(名) (人) 江戸幕府浄瑠璃の祖。名は七郎左衛門。京都の人。漁野塚について浄瑠璃を習得し、元和二年、江戸に下り操演席を起して浄瑠璃を語る。將軍秀忠之を賞して紫地に蕪の紋を附けた幕を賜ふ。承應元年、京都に歸り、受領した。天下「杉山丹後掾」譽原清澄と稱す。その子に足前節の祖、江戸丹後家があり、高弟に近江大塚清家がある。天和三年(三三四)歿したといふ。

**すきやまりゅう** (杉山流)(名) 鉦術の一派。元禄年中、江戸の槍杖杉山和一が創始したもので、おもに菅鉦用を用ひる。

**すきやれがみ** 襪破紙(名) 襪きこゝなつて破れた箇所のある紙。

**スキヤンダル** (Sandall)(名) 靴聞。  
**スキヤン** (Scan) (名) 區画。わるもの。  
**すきやく** (すきやく) (動) 通行(自動、力四)とほって行く。越えてい。時が移り行く。

**すきやう** 足恭(名) 時が移り行く。  
**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。(古語)  
**すきやう** (修行者)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語

**すきわら** (杉原)(名) 杉の生えたる野原。(名) すきはら  
**すきわら** (杉原)(名) 杉の生えたる野原。すきはら



**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行者)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語

**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行者)(名) 佛(し)きやう。古語  
**すきやう** (修行)(名) 佛(し)きやう。古語

に作ったものもある。方圓種種で、九頭巾、魚頭巾等、種種名稱を異にする。一と見せて煩かぶら(句) 表面を立派に見せかけて、内實のことに伴はない。じま。

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すきんすきん** (名) 頭や剣などの強く強く痛く、秀句(名) (し)きん。(古語)

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。

**すくすく** (天竺)(名) (動)(み)すく。一にゆう(木菟入)(名) みみづくのやりに思濡してよくよく坊主頭の人のくわのしていふ。







地方に産する細半の毛、又その毛著しくは毛織物。  
**スコット** (Sir Walter Scott) (名) 〔イギリスの小説家、詩人。スコットランドのエディンバラの人。その詩に「湖上の美人」(一八二〇年)小説に「アイダアホー」(一八二〇年)等がある。その小説集をウエグアリー小説叢書といふ。その小説は地方的を豊富に採擇し、繪畫的美觀的對話に長じ、詩的想像力に發揮の同情に於いては、シェークスピア以來の天才と稱せられる。(一八三三)〕

**スコットランド** (Scotland) (名) 〔地〕英國大西洋に、東部に北海、南部はトラワード河及びチエヒオット丘陵によってイングランドに、一部はソルウェー湖及びアイスランド海の一支流に隔れてゐる。牧畜業・工業が盛んである。面積約七萬九千方軒。  
**一がくは** 〔一學派〕(名) 〔哲〕 (Scottish school) イギリス啓蒙學派の一派で、トマス・ヒュームとトマス・バークレーの後生、スコットランドに發達した學派。眞實の判斷評價をなす根原的能力に常識そのものであるとなし、之を根本原理として、知識及び道德の基礎を立つべしとする學派。常識學派。

**スコップ** (Scoop) (名) 〔器〕 掘りシャベル。  
**すこびる** (Scoop) (名) 〔自動、バ上〕 甚だしくこぼる。こぼしつゝ。いかにまよへる。  
**すこぶる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこぶる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。

**すこむ** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこむ** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこむ** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこむ** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。

三階ありながら、透路なき死石。  
**すこもる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこもる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこもる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。  
**すこもる** (類) 〔動〕 ややく。少しく。すこし。ややく。(古語) おびたし。はなはた。ほどほど。

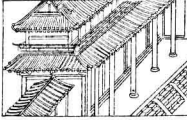
**すこやか** (健) (名) 〔勢〕 勢が盛んで餘かぬこと。○ 行跡が速かどことほらぬこと。○ からだの丈夫なこと。無類。  
**スコラ** がく 〔一學名〕 (名) 〔哲〕 (Scholasticism) 十三四世紀に於ける教會の教理を學問的體系として確立し完成しようとする哲學と神學。キリシヤ哲學。就中アリストテレス哲學を唯一の權威として採用し、その代表者は、その祖アベンセラム・ボナヴェントゥラ・ウィヤヤム等、煩瑣哲學。  
**すこざく** (動) 〔動〕 〔字〕 簡と遊戯具とする。二人盤を隔てて對座し、黒白の駒石各十五を式の如く置く、二箇の采を竹又は木の筒に入れて振出し、その出た目の數だけ駒石を送り、早く敵陣に入ったものを勝とする。○ 室内遊戯の一種。紙面に多くの區劃を設け、始めの區劃を振出し、終りの區劃を上りと稱し、振出しから始め、數人で順に一箇の采を振り、その出た目の數だけ區劃を進み、早く上りに達したのを勝とする。○ 又その人。  
**ばん** (雙六盤) (名) 雙六を行ふ盤。中間に横に一條の間地を設け、縦に左右各十二の線を設け、その厚さ四寸、長さ八寸、長さ一尺二寸。  
**スコラ** (名) スカンクの詠。零敗。  
**すさ** (寸沙) (名) 壁土に雜へて龜裂を防ぐつなぎとするもの。普通瓦壁には刻んだ瓦、上塗には刻んだ麻又は紙を海苔の煮汁にまじへて用ひる。かへする。つた。



(四) くるごす)

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。



〔人もくざす〕

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。

**すさ** (朱砂) (名) しんじ。辰砂。(古語)  
**すさ** (從者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさ** (儒者) (名) じやう。とも。(古語)  
**すさい** (秀才) (名) しやうさい。(古語)  
**すさい** (醉菜) (名) さいひたしたも。(古語)  
**すさい** (徒罪) (名) 名告の五刑の一。洗罪より軽く杖罪より重い。年限を定めて役使されたもの。二年から三年まで、半年を增す毎に一等を加へ、凡てで五等ある。  
**すさ** (洲崎) (名) 洲が長く海中にまじし出て、崎となつたこと。  
**すさ** (朱雀) (名) しやくじく。一 おおじ。朱雀大路の(名) 昔、平安大内裏の南面朱雀門が、羅城門として南北に通する大路。この大路の東を左とし、西を右とし、長さ二百八十八丈、長さ一千二百九十三丈。今の京都の千本通。  
**朱雀門** (名) 昔の平安大内裏外郭十二門の一。大内裏南面の正門。内は應天門、外は朱雀が、羅城門に對し、朱雀大路が宮城に入る入口。南門。重開門。



青銅等有名なものがある。

すず(竹)(名) ①種)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

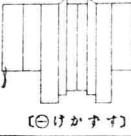
すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い

すず(籠)(名) ①籠)の竹。まき。(古語) ②細い



【きのけかすす】



【けかすす】

は間形で五〜七中葉し、裂片は卵状で尖り、縁透に粗

網目を有し、葉柄の基部に小托葉を具ふ。春葉腋に

花梗を出し、淡黄緑色の頭状花を生じ、晩秋球形の

堅果を結ぶ。材質器具用に供せられし。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

すずかぜ(涼風)(名) ①初秋の頃の涼し風。

上方暗青色、下方淡白色、體の上部及

び春鱗に黒帯小點を散布してゐ

る。口大きく開き、上顎骨に剛

骨を有する。鱗は小さい。胸鰭、

側線の上に百個を數ふ。海草近く

に棲息し、河の上流へも溯る。

肉は美味。

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)

すずきあぐ(滑上)



【すずき】

花を著ける。その蕾は圓く、鈴に似てゐるので此の

名がある。

すずし(鋤師)(名) 鋤で茶壺などの器具を造る人

すずし(生絹)(名) 練らぬ生絲の織物軽く薄い

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである

清らである。③いさぎよい。潔白である。④

すずし(形)(名) ①程よく冷や

かである。暑さ少くて心地よい。②さわやかである











を求める若い女。

すてつすまふ(拾鼓)(名) 王朝時代に、時を頼する鼓を打つ場合に、まづ注意を與へる爲に定數以外に打鳴りした鼓の音の時數に加へぬもの。

ステツセル [Anatoli Michaelovitch Stessel] (名) ロシアの將軍。露土戰爭及び北清事變に從軍して陸軍中將となり、明治三十七八年服役に旅順要塞司令官として奮戦したが、同三十八年一月二日降服した。歸國後軍法會議の結果、禁錮刑に處せられ同四十二年釋放。(一八九六)

すてつち(素丁種)(名) 丁種を專しめていふ稱。スタツプ(Stap) (名) 地盤部の東南部。スタツプの西南部等に見る無木の草原地帯。等の階級。

スタツプ(Stap) (名) 足り。歩調。○汽車電車すてつち(名) ○ソノ下の一稱。該股を少し長くしたやうなものをいふ。すてつち(名) ○おどりしたやうなもので一節(名) 明治十三年頃から流行した踊り音曲の舞踏。鼻をつまんで捲る風似をして踊つたから名づける。

すてつと(捨所)(名) 捨てるべき處所又は時。すてつと(名) 既に己に(副)以前から。早くから。とくに。○のら。○こ。○古語。○は。○は。○すん。○の。○に。○して(既に)して(接続) さうかうしてゐるに。さる程に。

すてつね(捨値)(名) 捨賣の値。すてつね(名) まるく(素手)の孫六(名) 何等の所有物をもつ男の一人を名めかしていふ語。ある柱。

すてつばしら(捨柱)(名) 床下の直接地面に達してすてつばしら(捨柱)(名) 自暴自棄。やけと。すてつばしら(捨柱)(名) 三味線を弾く時、定まった曲の筋又は後に、調子づけに便し。

すてつび(捨火)(名) 昔、けがれのある火を捨てて用ひなかつた。

すてつびと(捨人)(名) すてつびと(古語) すてつぶ(捨歩)(名) 田地測量の歩入の際、不良の土地の歩歩を數ふこと。

すてつふだ(捨札)(名) 武家時代に、罪人を刑に處

する時、その氏名・年齢・罪状などを記して街頭に立て、刑の執行後尙存置した高札。

すてつぶち(捨扶持)(名) 武家時代、由緒ある家の老婦などな救助する爲に與へた少數の扶持米。

すてつぶね(捨舟)(名) 乗る人もなく、捨ておいてすてつぶね(捨舟)(名) 捨てて。すてつぶね(名) 役に立たぬものに與へる扶持米。

すてつぼら(捨坊主)(名) 宿もなく流浪する坊主。世を捨てた僧。

すてつぼり(捨撥)(名) 土居も崩も設けぬ城外のほすてつぼり(捨撥)(名) 生命を捨てての覚悟で、著手する。○自己の危険を顧みないで突進すること。

すてつむち(捨鞭)(名) 馬に乗って駆け去る時、馬の尻を鞭打つこと。

すてつり(捨利)(名) 元金に算入せぬ利子。すてつり(名) 捨てる。捨てる(他動) 捨下(一)すてつり(名) 捨てる。捨てる(他動) 捨下(一)すてつり(名) 捨てる。捨てる(他動) 捨下(一)

ステレオタイプ (Stereotype) (名) 鉛版。ステレン (名) 樹脂入がすばりなどして細く倒れるステンシル (名) ステンションの説。『さま。ステンシル (Stencil) (名) 捺り込み版。紙製版。合版版。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

すてつと(名) 副)急に倒れまらぶさま。すてつと(名) ストライキの略。

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

【たふてす】

神論。その倫理學に於いては、人間の理性はその本質に於いて世界理性に同一のものとして、人間の道徳的義務は、この理性によって欲望を抑制し、安穩且無感情的な平靜に達することである。理性の支配は人間關係の善を構成する。故に徳は知であると主張する。後ローマに入つて多量の信衆を得た。即ちセネカエピクテタス等はこの有名なものである。

ストイシズム (Stoicism) (名) 倫) ストア學派の主義。○節) ない。○きた。○牛可通。

すどろふ(酢豆腐)(名) 生豆腐に酢をかけた食料である。○節) ない。○きた。○牛可通。

ストローヴ (Strove) (名) 燃料を焚いて室内を暖める具。又は料理用器具。鑄鐵・煉瓦・タイル等で造る。使用燃料によって、石炭ストーヴ・瓦斯ストーヴ・石油ストーヴ・電氣ストーヴ等の種類がある。燧燧。

すどおし(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

ストーム (Storm) (名) 嵐。暴風雨。○學校寄宿舎などで消滅して一撃に暴行なすこと。

すどおり(素通)(名) 立寄らずに通る。○節) ない。○きた。○牛可通。

ストロリー (Story) (名) 物語。小説。○節) ない。○きた。○牛可通。

すどおる(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

すどくろ(素通)(名) 通る者なくして先方の見えること。○度) ない。○眼。

主膳から縦り取られた牛島及び鳥の上に誇り、風光麗しく、北方ケニスと呼ぶところ。○寫眞用語で、絞。○ウオッチ (Stop watch) (名) 競技用學術研究用等で精密な時間計る時計。任意に針を止め得る装置になつてゐる。記時時計。

すどんぶし(すどんとん節)(名) 流行歌の一大正十三年春から大正末期にかけて流行。ストントーンといふ響き詞の軽い滑稽味が、上下の好尚に迎合されて、廣く流行した。

すどもん(藤戸門)(名) 竹戸を附けた門。

ストライキ (Strike) (名) 罷) 労働者が、資本家又は企業家に対して或要求の貫徹又は意思表示の爲に、團結して労働を停止すること。同盟罷業。○學生生徒が團結して休學すること。同盟休校。○野球で、投手の投球が本塁の上を通過し、高さは打者の肩と膝との間を通るもので、打者がそれを打つと肩と膝との間にすどんぶしといふ。○空挺。○ファウルチップ。○ファウル線外に出たアウト等もストライキといふ。○ぶし(名) 明治三十三年頃にはじめた流行歌のこの節。○アアウ (Strike out) (名) 野球用語。三振でアウトになる。

ストラグル (Struggle) (名) 争闘。葛藤。

すどり(洲島)(名) 洲にふる島。(古語) ○動) ずどり(動) 取取(名) 物の形を圓に取ること。

ストリート (Street) (名) 街路。車道。市街。○ガル (Street) (名) 街路。公園。盛り場等に出現して、男の袖を引く淫賢。街の女。



【んもどす】



使。ストリート・エンジェル。

ストリマキーン [Strichme] (名) 【毒】 まちん  
トのマキーン (種) 樹皮中に含有されるアルカロイ  
ド。白色結晶性の毒物。少量は神経刺激として有  
效であるが、多量に用ひる時は、甚だしい毒性を有す  
るが爲に、中樞神経の麻痺、痙攣等を起して  
て窒息を。ストリキーノ。

ストリンデンベリー (August Strindberg)  
稱され、同國の近代文學の權威。自然主義作家と  
して認められ、ニイチエの影響を受けて神祕主義に  
轉向し、晩年はカトリック教徒として終る。深刻な精  
神生活の告白者。女性に對する辛辣な批評家として  
知られ、「ある魂の發展」痴人の告白「地獄」等の  
小説、「父」ユイエ嬢「ダマスクス」(「死の舞踏」  
等の戯曲その他各方面に互る夥しい、勞作を遺した。  
(名)

ストリート (Street) (名) 眞直。直線。①速  
戦連勝。特に野球に二回を連勝して勝を決すること。  
②野球で直球。(カーブ・ドロップ等の對) ③拳闘で  
相手の左手又は右手を一直接に突く打撃。④イー  
ス (Straight course) (名) 直線競走路。  
ストリンジャナ (Stranger) (名) 外國人。異邦人。  
ス知らぬ人。

ストロー (Straw) (名) 麥稈。蘆管。①ハット  
[Straw hat] (名) 麥稈帽。  
ストローク (Stroke) (名) 清艇で、オールの一  
漕ぎ。また一定時間内のオールの運動回数が及調整  
のこと。②ゴルフではクラブで球を打つこと。③庭  
球ではラケットでボールを打つこと。④水泳ではク  
ロールの場合などに水を掻く動作。

ストロベリー (Strawberry) (名) 【植】 莓。  
西洋莓またはオランダ莓と呼ばれるもの。またはそ  
の果實をいふ。オランダいちい。

ストロファンツス (Strophantus) (名) 【植】  
夾竹桃科の常緑灌木。アフリカの産。葉は楕圓形で  
對生。花色は鮮麗。花冠の先端は絲狀に下垂す。萼

果を結び、種子は芒を有し、専らストロファンツス下  
機の原料となる。①さいり【一】 齋。通常下  
ロファンツスの種子より製造される薬剤。通常下  
として用ひらる。帶糖黄色澄明の苦味の液で、強  
心利尿尿劑に供される。【さばいん】 (齋齋)。  
ストロパスコフ (Stroboscope) (名) 【化】 波  
色の金屬元素。記號は、原子量八七。六三。天然に  
はストロンチウム鹽として産出する。カルシウムに  
似て、常温に於いて水を分解し、水素を發生する。其  
の鹽類は硝に深紅色を興へるから、赤色火花を翳す  
るに用ひる。①こうりく【一】 鑛 (名) 【鑛】 スト  
ロンチウムの銀石。射灯光澤を有し、色は黄緑白、  
は脆軟。狀をなす。結晶品系で、結晶は層、針狀又  
は塊狀となす。灰黃褐色で、條痕は白色。

ずとん (名) 【副】 物のぶつかり、又は割れる音。  
ずどん (名) 【副】 各種物の細片。各細片は小豆大  
り小さい。細粒から成り、温つても密着した固體に成  
り得ないもの。①あそび【砂遊】 (名) 幼兒が砂を  
なすつ地上にもらして描いた繪。①がき【砂  
書】 (名) 書にした砂を少しつ地上などにもらして  
文字を書くこと。又その文字。①けむり【砂煙】  
 (名) 砂の立ちあがって煙のやうに見えるもの。馬鹿。  
①【砂子】 (名) すな。まじこ。②金銀箔の粉  
末で、時時又は機械に吹きつけるもの。③ジュース  
【砂子石】 (名) 砂金石。④【砂洗】 (名) 桶  
に滑り砂を入れ、これを透して水を濾すこと。又  
その濾した水。⑤【砂地】 (名) 砂の多い土  
地。砂分の土地。⑥【砂摩】 (名) 砂の多い土  
地の下の層をたたくこと。⑦【砂摩擦】 (名) 魚  
の腹の下の層をたたくこと。

【せちん】 (名) 【砂雪隠】 (名) 茶の湯で、露  
地口の内に設けて糞の用に供する雪隠。時どき砂  
に用を便し、終れば糞をかくくも。①てほん  
【砂手本】 (名) 指先などを砂の上に書いて文字を教  
えること。①どけい【砂時計】 (名) (時計)

小孔を通して砂を落下せしめ、一定量の砂の落下す  
る時間を以て時間を測定  
する装置。通常二箇の硝  
子球を小管で連絡して砂  
を封入したもので、砂を  
一球に集め、を上にして  
て地の球内に落下せしめ、全部落下の後は、倒立  
して用ひる。十四分計、廿八分計等から、數分測定  
のものまである。砂漏。①どめ【砂留】 (名) 砂の  
くづれ落ちるのをとめる装置。①は【砂場】 (名) 砂  
②庭園及び公園の一部に設けられた幼児のための砂  
地の遊場。①すな。すなばら。①はいよう  
【砂培養】 (名) Grand culture (名) 細菌の保存法  
石灰砂を鹽酸で煮沸し、水で洗滌し、乾燥したものを  
試験管に盛り、その中に液體培養の細菌を入れて保  
存する。①ばち【砂鉢】 (名) やき方の粗末な  
砂色の鉢。①【砂引草】 (名) 【種草】 (名)  
科の多年生草本。海濱地に地下莖を曳いて自生す  
る。全株に白毛を密生し、葉は莖の上部に茂り、廣披  
針形で無柄。全葉。夏日、白色五瓣の花を總狀花序に  
頂生する。花冠は筒形で五深裂、裂片は全縁で小間  
果實は核果で球形や肉質。①ぶら【砂風呂】  
 (名) 温泉に加熱した砂に全身を浴し得る装置の  
室。②温度場。多くは温泉の熱氣を利用して、そ  
の上に坐臥せる人の身體を温める装置の室。③砂風  
呂を設備した料理場。多くは暖味屋にいふ。①ぼ  
ち【砂路】 (名) 砂の道。①めり【砂滑】  
 (名) 【砂滑】 滑器の小形のもの。①【砂滑】 (名) 米内外  
多く單履生活をない。膝はしない。脚語は殆ど中部形  
突出し、吻圓く癖はない。體態ない。胸語は殆ど中部形  
背部には、胸の邊から肛門線に連する一帯の隆起が  
有する。體色黒色。上唇と喉とに一箇の紫色の斑紋  
がある。①やつめ【砂八目鱈】 (名) 【サメ】 や  
つめうなぎの一種。體長一八單位。背部は黃褐色、  
腹部は白。①やま【砂山】 (名) 砂から成立し



【計】 砂時計

た山。砂丘。①わら【砂原】 (名) 砂地の野  
原。①【す】 (接頭) 非の同音の低い方の稱。大【砂】  
の對) ①おももの【す】 (少辨) ①少辨  
 (名) 少納言の古稱。  
 (名) 少納言の古稱。

スナイデル (Snijder) (名) 【人】 オランダ  
系のアメリカー人。スナイデル銃の發明者。(名)

スナイドル (Snider) (名) 【人】 アメリカー  
人。スナイデル銃の發明者。(名)

すながし【洲流】 (名) 紙などに砂  
子を散らしたものを。紙又は幕などに、  
正直。①おたかやか【人】 人さからぬこ  
と。從旅。采和。

すな【洲】 (名) 砂洲。に滿潮の際にして、車輦など  
を漁獲する網。

すな【無】 (名) 普通の程度を超えて大き  
すなすな【無】 しない。即ち。

すなすな【無】 しない。即ち。

すなすな【無】 しない。即ち。



【ル】 ドイナス



その武力に惹ら四隣を服して前六世紀の後半には  
ペロポネソス半島の覇權を握つた。前二七一年、レウ  
クララの會戰に、テーベのエパミノンダスに破られ  
て以來、その勢力を失墜し、前四一六年、ローマに  
征服された。一きよういしく「**教育**」  
〔名〕古代イタルタで行はれた嚴格な教育法。動  
物向武の士風を養成し、義勇軍公の精神を發揚する  
な目的とし、男子は滿七歳に達すると國家の養育所  
に入られ、嚴格なる規律の下に訓練された。

**スバルタクス**〔名〕獨 **Spartakus**  
**Band** 〔名〕ドイツ社會民主黨左翼からなり、後に  
ドイツ共産黨を形成した一派。一九一六年成立。  
**スピーカー**〔名〕話者。辯士。演説  
者。①議長。會長。②雄辯術書。③擴聲器。  
**スピーキング・ガール**〔名〕話者。辯士。演説  
者。①議長。會長。②雄辯術書。③擴聲器。  
話相手となるに足る比較的々教養あるカフェーの女  
給等。(和製英語)

**スピーチ**〔名〕話。演説。  
**スピード**〔名〕速度。速度。  
**スピードアップ**〔名〕交通速度や生産速度を  
加速する。一ウエー **Speedway** 〔名〕自  
動車のトラックに連た立派な道路。一じだい  
〔時代〕(名) 速度尊重車時。スピードなモットー  
とする時代。一メーター **Speedometer** 〔名〕  
自動車などの速度計。

**すびき**〔素引〕(名) 矢を射がすに、弓の弦の分  
を引き張ること。①外面には強弓を誇るが、實際  
の技は役に立たぬ。  
**すびき**〔名〕(名) 漁りなを捕へる法。竹笥  
を水上に浮かべて、その上に跳り上  
るを捕へる。①「**可羅を育てること**」  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

**すびき**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すびき〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

紙面に膠液を塗布し、牛皮製の紙一きをかき、  
引機械(名) 機械 建築土木作業に必要な器具。製  
圓板、三角定規、丁字定規、コンパス、島口、兩脚等。

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

〔名〕  
**すび**〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作  
すび〔名〕(名) 飼鳥が食害や弱病中で、巢を作

**スフィンクス** **Sphinx** 〔名〕(名) 獅子、女神話  
の怪獸。上半身は女子の姿、下半身は翼を生じた  
獅子の形。テーベ市附  
近の岩に置して、行人に  
朝は四足は踏して、二足は  
三足のもの何か」と  
いふ難をかけ、解き得な  
い者を殺してゐたが、英  
雄エジプスに、それは  
人間であると答へられて海に投して死んだ。①上古  
エジプトやアフリカ等で王宮神殿墳墓等の入口  
に裝飾の爲に設けた人面獅身の石像。①謎問。  
**すふうい** 〔頭風〕(名) (つう) 頭痛。  
**スプーン** **Spoon** 〔名〕匙。①コップ用  
匙。クアラの頭彫形になるもの。②人前で  
じらうく人。一レース **Spoon-race** 〔名〕匙  
の上に乗せて走らぬりして走る競走。  
**すずすず** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔素札〕(名) 花ガルトで、一通りの筒模様  
のみで動物その他のものを書き添へぬ札。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**スプリンター** **Sprinter** 〔名〕短距離競走選手。  
**スプリント** **Sprint** 〔名〕陸上競技で、短距離競  
走。一般に五〇米・一〇〇米・二〇〇米競走をいふ。  
**スプレーヤー** **Sprayer** 〔名〕噴霧器。  
**スプレケリヤ** **Sprekela** 〔名〕(名) 石蒜  
〔SP〕科の多年生草本。地下に楕圓形の球根を有し  
晚春に花茎を抽出して紅赤色六瓣の花を開き、花後線形  
の葉を生ずる。本種は俗に「アマリス」と呼ばれるも  
の一種で、觀賞用にとして栽培される。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔名〕  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。  
**すぶた** 〔名〕(副) 水に沈み入るさま。①古語  
流れるさま。②鋭いので突くさま。

〔スクリンクス〕



〔ドース〕







すみえ…(墨繪) (名) 墨の黒さ、施したる色を「すみえ」といふ。  
すみか (住處) (名) 住むところ。すみま。すみまの精。  
すみかき (炭埃) (名) 炭の埃。埃をかきよせよ。かきよせる具。鋸で、先端鋭形をなすもの。  
すみかき (墨書) (名) 墨で書いた。墨書はかりで繪を描くこと。又その繪。

すみかき (墨掛) (名) すみかりがく (隅切角)。  
すみかき (墨掛) (名) 大材から小材を木取る場合に、大材の断面に必要な小材の形をなすこと。  
すみかき (炭塊) (名) 木炭を小出しに入れておこ籠、炭取。

すみかた (澹方) (名) 事の清じこと。事件の落着。  
すみかた (墨形) (名) 墨で書いた模様。  
すみかた (墨金) (名) 墨がかりがれ。曲。  
すみかた (建機) (名) 建機部の實物大の圖にあらはしたものの。規矩 (法) かなばかり規矩。

すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。

すみかむら (角倉船) (名) すみのくらはぶれ。  
すみくろ (墨黒) (名) 墨色の黒いさま。  
すみけし (炭消) (名) 炭を消すこと。  
すみくろは (炭消) (名) 炭消。  
すみこみ (住込) (名) 住こむこと。主家に住み込んでの使用人。  
すみこむ (住込) (名) 住こむこと。主人に又奉公人となつて、主の家に暮らすこと。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみき (炭木) (名) 焼いて炭とする木。炭材。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。

すみえ (墨繪) (名) 墨繪畫の手法のこと。畫面に陰影を有るとき、又は黒い部分の濃淡を現す時に

すみくら (墨黒) (名) 墨色の黒いさま。  
すみけし (炭消) (名) 炭を消すこと。  
すみくろは (炭消) (名) 炭消。  
すみこみ (住込) (名) 住こむこと。主家に住み込んでの使用人。  
すみこむ (住込) (名) 住こむこと。主人に又奉公人となつて、主の家に暮らすこと。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみかた (澹方) (名) 事の清じこと。事件の落着。  
すみかた (墨形) (名) 墨で書いた模様。  
すみかた (墨金) (名) 墨がかりがれ。曲。  
すみかた (建機) (名) 建機部の實物大の圖にあらはしたものの。規矩 (法) かなばかり規矩。

すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。

すみかむら (角倉船) (名) すみのくらはぶれ。  
すみくろ (墨黒) (名) 墨色の黒いさま。  
すみけし (炭消) (名) 炭を消すこと。  
すみくろは (炭消) (名) 炭消。  
すみこみ (住込) (名) 住こむこと。主家に住み込んでの使用人。  
すみこむ (住込) (名) 住こむこと。主人に又奉公人となつて、主の家に暮らすこと。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみき (炭木) (名) 焼いて炭とする木。炭材。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。

すみえ (墨繪) (名) 墨繪畫の手法のこと。畫面に陰影を有るとき、又は黒い部分の濃淡を現す時に

すみせり (墨掃) (名) 版木に墨のみをつけて掃る。  
すみそ (酢味) (名) 酢を加へた味噌。  
すみぞめ (墨袋) (名) 墨の袋。  
すみぞめ (墨袋) (名) 墨の袋。  
すみぞめ (墨袋) (名) 墨の袋。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみかた (澹方) (名) 事の清じこと。事件の落着。  
すみかた (墨形) (名) 墨で書いた模様。  
すみかた (墨金) (名) 墨がかりがれ。曲。  
すみかた (建機) (名) 建機部の實物大の圖にあらはしたものの。規矩 (法) かなばかり規矩。

すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。

すみかむら (角倉船) (名) すみのくらはぶれ。  
すみくろ (墨黒) (名) 墨色の黒いさま。  
すみけし (炭消) (名) 炭を消すこと。  
すみくろは (炭消) (名) 炭消。  
すみこみ (住込) (名) 住こむこと。主家に住み込んでの使用人。  
すみこむ (住込) (名) 住こむこと。主人に又奉公人となつて、主の家に暮らすこと。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみき (炭木) (名) 焼いて炭とする木。炭材。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。

すみえ (墨繪) (名) 墨繪畫の手法のこと。畫面に陰影を有るとき、又は黒い部分の濃淡を現す時に

すみちがいがい (隅達) (名) 隅から隅へわたした。輪角線。  
すみつき (住著) (名) 住みつくこと。  
すみつき (墨附) (名) 墨のついた。  
すみつき (墨附) (名) 墨のついた。  
すみつき (墨附) (名) 墨のついた。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみかた (澹方) (名) 事の清じこと。事件の落着。  
すみかた (墨形) (名) 墨で書いた模様。  
すみかた (墨金) (名) 墨がかりがれ。曲。  
すみかた (建機) (名) 建機部の實物大の圖にあらはしたものの。規矩 (法) かなばかり規矩。

すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。  
すみかま (炭籠) (名) 炭を盛る籠。

すみかむら (角倉船) (名) すみのくらはぶれ。  
すみくろ (墨黒) (名) 墨色の黒いさま。  
すみけし (炭消) (名) 炭を消すこと。  
すみくろは (炭消) (名) 炭消。  
すみこみ (住込) (名) 住こむこと。主家に住み込んでの使用人。  
すみこむ (住込) (名) 住こむこと。主人に又奉公人となつて、主の家に暮らすこと。

すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみごころ (墨衣) (名) すみごころ。  
すみさけ (清酒) (名) せいしよ。清酒。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。  
すみさき (墨刺) (名) 墨竹を刺すこと。

すみき (炭木) (名) 焼いて炭とする木。炭材。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。  
すみきり (隅切) (名) すみかりがく。

すみえ (墨繪) (名) 墨繪畫の手法のこと。畫面に陰影を有るとき、又は黒い部分の濃淡を現す時に



【頭角】



【墨】

生町の名産。一ぞめ(墨流染)名すみながし。  
**すみなす**(すみなす(住成す)自動、サ四)すまひなる。住む。  
**すみななる**(すみななる(住慣る)自動、ラ下二)住んで年月を經る。住んで居心地がよくなる。  
**すみななる**(すみななる(住慣れる)自動、ラ下二)すみななるの口語。  
**すみななわ**は(墨繩)名。墨墨と墨墨。すみなすみぬく(すみなす)(角拔く)他動、カ四)前髪(前髪)の額を生かきには抜いて角かをつくる。すみなすみぬくのおしき(角折敷)名。四隅を切つた折敷。  
**すみのえのかみ**(墨江神住吉神)名(神)庭(簡男命中庭簡男命表庭簡男命)縁神海上の守護神。又、和歌の神。住吉神社の祭神。  
**すみのくらぶね**(角倉船)名。御朱印船。江戸時代の初期角倉了以が安南・東京下等と通商する爲、朱印状を交けた貿易船。  
**すみのくらげん**(角倉本)名(文)江戸時代の初期、角倉了以の子、光吉が出版した伊勢物語源氏物語・平家物語等の古書。一説に了以の出版ともいふ。戦後本。  
**すみのくらげりゅう**は(角倉流)名。角倉了以の子、久光を祖とする書道の一派。奥一は書を本阿闍梨悦に學んで一家を成した。  
**すみのくらげりょう**(角倉了以)名(名)「八本姓は吉田氏。幼名與七。名は光好。後了以と改む。洛西嵯峨に住む。算數地理を學び、慶長九年から十八年に至る間、安南・東京に御朱印船を派遣して貿易を營み、嵯峨の大堀川・富士川・天龍川の水路を開闢し、又京都に高麗川を開鑿した。慶長十九年(一二四四)歿。年六十一。」

**すみのやま**(須彌山)名(佛)しりみせん。  
**すみはさきみ**(墨括)名(すくすく)墨括。  
**すみはなる**は(住場所)名。住む場所。  
**すみはなる**(すみはなる(住離る)自動、ラ下二)すみかを離れる。世間を離れる。男女の愛情が失せてよくかえらぬやうになる(古語)。  
**すみはる**(墨判)名。小判金の表面に極印を打たないで墨書したも。  
**すみひ**(炭火)名。炭でせしむた火。前髪。  
**すみひたつ**(角額)名(すみなまが)角すみひたつ(角袋)名。角額にかぶせる袋の如く書く筆。  
**すみぶと**墨筆(名)墨と筆と。墨をうけてすみぶと(墨本)名。文字の墨附がたい。  
**すみまえがみ**は(角前髪)名。前髪のは大きには少し剃り込み、やがて服することを表した風俗。「敵が寄り集まって、場所一ぱいに住む」  
**すみみつ**(住満つ)名(自動、タ四)多人すみむね(隅棟)名(建)方形造又は脊棟造の屋根で、兩渡兩方の斜面の相する所。  
**すみや**炭屋(名)炭を賣る家。又はその人。  
**すみや**炭焼衣(名)炭を焼いて造ること。又、その業の人。かま(炭焼籠)名。すみがま。  
**すみや**速(名)早いこと。ひまらぬこと。すみや(速)はやく。急に。  
**すみや**炭焼衣(名)炭を焼く人の着る衣服。黒く染めた着物。「いらだつ。古語」  
**すみややくら**(角槍)名。城郭の隅角にあるやぐら。  
**すみや**墨塗(名)一)文字の墨塗。二)地名。もとすみのえといふ。仁徳天皇の朝、海上の守護神住吉の神を勧請して、墨江と稱した。  
**すみやよし**(住吉)名(地)大阪府南部の住吉町。住吉神社・住吉公園の所在地。うたあわせ(住吉歌合)名(文)墨塗天皇の大治三年、住吉神社の社頭で行はれた神祇伯願軒一家の歌合。  
**すみどり**は(住吉踊)名(大阪府住吉區

住吉神社の御田植行事に行はれる踊。薺の縁に薺葉をつけた花笠を冠ひ、腰に墨の腰衣、白の手甲附脚絆、素足に草鞋を穿き、白布で口の上を覆ひ、一人が、長柄の傘の上に御幣を附けたものの柄を、右手の刺竹で打ちつつ唄を歌ひ、同服装の四人の踊子は團扇を持って踊る。踊りを録しての玩具。「じんじや住吉神社」名(神)大阪府住吉區奉祝町にある官幣大社。すみのえの神と神功皇后を奉祀する。すくり(住吉造)名(建)神社建築様式。本殿は拜殿から離れ、正面は直線となし、棟上干木を交するが、破風衣と風通しになつてゐない。住吉神社の社殿がその代表例。一にんぎょう(住吉人形)名(昔、住吉で舞はれた土製の人形)住吉は(住吉時代)名(美)大和神の一派。土佐派の一分派。江戸時代の初期の住吉廣通知度(名)と、倭舞の舞風を特色とする。



(造吉住)

く住む(古語)  
**すみわたる**は(澄互る)自動、ラ四)一すみわたる(澄互る)住渡る(自動、ラ四)水つむつ住む。住んで思ひなやむ。  
**すむはる**(住む)住む。住居を定める。果ななく。女女の許に通うて語らふ。住めば都(句)住みなれば、どんな僻地でも住みよくなる。  
**すむひらぬ**(澄ひ)自動、マ四)にりにりがなくなる。曇りがなくなる。明かになる。音色が消える。おちろむ。自動、マ四)終る。残る所がなくなる。定まる。きまる。他人に對して言談が立つ。(多く否定の形に用ひる)。  
**すむひらぬ**(統む)自動、マ四)統ぶ。平平に流暢な。  
**すむひかり**(酢憤)名。御大豆を加へ、酢醤油をかけた食品。又、人妻油揚等を取ること。初年の喜劇に道祖神に掛け、又、自家の食用とする。  
**すむやけし**(速けし)速(けし)形、二)すみやすめ(皇)接頭(終)の意、天神又は天皇の御上の物事の名に添へて敬意を表するに用ひる(古語)。一)おのがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の敬稱(古語)。すめがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神(古語)。一)おおや(皇)皇祖(名)神。皇祖の神(古語)。一)あみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の御子孫。皇孫。(古語)一)むつ(皇)皇大神の御脚、皇靴。(古語)  
**すめ**(皇)接尾(接尾)或語に添へて中に詰め入れる意をあらはす語。或語に添へて、おしつける意をあらはす語。「理屈」。或語に添へて、つづけてやめぬ意をあらはす語。言ひ(或語)に添へて、よに勤めてゐる意をあらはす語。派出し(或語)に添へて、それに近い意をあらはす語。「構」。

すみるる(古語)すみわたる(澄互る)澄互る(自動、ラ四)一すみわたる(澄互る)住渡る(自動、ラ四)水つむつ住む。住んで思ひなやむ。  
**すむはる**(住む)住む。住居を定める。果ななく。女女の許に通うて語らふ。住めば都(句)住みなれば、どんな僻地でも住みよくなる。  
**すむひらぬ**(澄ひ)自動、マ四)にりにりがなくなる。曇りがなくなる。明かになる。音色が消える。おちろむ。自動、マ四)終る。残る所がなくなる。定まる。きまる。他人に對して言談が立つ。(多く否定の形に用ひる)。  
**すむひらぬ**(統む)自動、マ四)統ぶ。平平に流暢な。  
**すむひかり**(酢憤)名。御大豆を加へ、酢醤油をかけた食品。又、人妻油揚等を取ること。初年の喜劇に道祖神に掛け、又、自家の食用とする。  
**すむやけし**(速けし)速(けし)形、二)すみやすめ(皇)接頭(終)の意、天神又は天皇の御上の物事の名に添へて敬意を表するに用ひる(古語)。一)おのがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の敬稱(古語)。すめがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神(古語)。一)おおや(皇)皇祖(名)神。皇祖の神(古語)。一)あみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の御子孫。皇孫。(古語)一)むつ(皇)皇大神の御脚、皇靴。(古語)  
**すめ**(皇)接尾(接尾)或語に添へて中に詰め入れる意をあらはす語。或語に添へて、おしつける意をあらはす語。「理屈」。或語に添へて、つづけてやめぬ意をあらはす語。言ひ(或語)に添へて、よに勤めてゐる意をあらはす語。派出し(或語)に添へて、それに近い意をあらはす語。「構」。

く住む(古語)  
**すみわたる**は(澄互る)自動、ラ四)一すみわたる(澄互る)住渡る(自動、ラ四)水つむつ住む。住んで思ひなやむ。  
**すむはる**(住む)住む。住居を定める。果ななく。女女の許に通うて語らふ。住めば都(句)住みなれば、どんな僻地でも住みよくなる。  
**すむひらぬ**(澄ひ)自動、マ四)にりにりがなくなる。曇りがなくなる。明かになる。音色が消える。おちろむ。自動、マ四)終る。残る所がなくなる。定まる。きまる。他人に對して言談が立つ。(多く否定の形に用ひる)。  
**すむひらぬ**(統む)自動、マ四)統ぶ。平平に流暢な。  
**すむひかり**(酢憤)名。御大豆を加へ、酢醤油をかけた食品。又、人妻油揚等を取ること。初年の喜劇に道祖神に掛け、又、自家の食用とする。  
**すむやけし**(速けし)速(けし)形、二)すみやすめ(皇)接頭(終)の意、天神又は天皇の御上の物事の名に添へて敬意を表するに用ひる(古語)。一)おのがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の敬稱(古語)。すめがみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神(古語)。一)おおや(皇)皇祖(名)神。皇祖の神(古語)。一)あみ(皇)皇大神(名)神。皇祖の神の御子孫。皇孫。(古語)一)むつ(皇)皇大神の御脚、皇靴。(古語)  
**すめ**(皇)接尾(接尾)或語に添へて中に詰め入れる意をあらはす語。或語に添へて、おしつける意をあらはす語。「理屈」。或語に添へて、つづけてやめぬ意をあらはす語。言ひ(或語)に添へて、よに勤めてゐる意をあらはす語。派出し(或語)に添へて、それに近い意をあらはす語。「構」。



すてあがる。①少しづつ上って、高い地位に  
到る。②印刷をなはる。

**すりあく** [すりあく] (刷上ぐ) (他動) 方下(一)  
すりあげ [刷上] (名) すりあげる。すりあげ  
た工合。②「磨く」の類。

**すりあげたい** [すりあげたい] (刺上額) (名) そりあげ  
すりあげる [すりあげる] (刷上上げる) (他動) ガ  
下(一) すりあがるの口語。「リしづかある」とも。

**すりあし** [すりあし] (名) 足をなするやうにして、疊さは  
すり [すり] (名) 足なするやうにして、疊さは  
物。③織造の枕木。④履車。⑤アメリカ合衆國に於  
ける稱。

**スリー・ペースヒット** [Three-beat hit] (名)  
野球用語。三塁まで進むに出来る安打。暴打。

**すりうち** [すりうち] (名) 山芋を叩いてすりおろし、  
醤油・酢などを差して味をつけた食品。

上下二箇の間筒形の臼か成り、兩臼の摩擦面に強  
粘土に食鹽を混じしたものや塗り、それに摩擦を極ま  
つる。上臼の同轉につれて、磨盤の間で粉粒が除去ら  
れるやうにしたもの。又、穀粉・挽茶等の製粉に使用  
するものもある。

**すりえ** [すりえ] (名) 染草を布にすりつけて出  
すり [すり] (名) 小鳥を飼ふ人工的飼料。  
はや餅・洗粉等の川魚・糠新粉と野菜などをまぜて  
搗たもの。「なま」の類。

**すりえび** [すりえび] (名) 蝦を煮て乾し、皮を剥ぎ、頭  
すり [すり] (名) 蝦を煮て乾し、皮を剥ぎ、頭  
すり [すり] (名) 蝦を煮て乾し、皮を剥ぎ、頭  
すり [すり] (名) 蝦を煮て乾し、皮を剥ぎ、頭

**すりかえ** [すりかえ] (名) 摩替へる。「他  
動」(ハ下) (一) すりかへるの口語。「磨」の類。

**すりかたき** [すりかたき] (名) はんぎん版木。(古  
すり [すり] (名) 磨きかたき。

**すりかね** [すりかね] (名) 磨きかたき。銚子。

**すりからし** [すりからし] (名) 昔摺にした狩衣。

**すりからきぬ** [すりからきぬ] (名) 昔摺にした狩衣。

(古摺)

(古摺)

**すりき** [すりき] (名) 挿粉水。

**すりきず** [すりきず] (名) 擦り剥けた膚の疵。

**すりきぬ** [すりきぬ] (名) すりこごも。

**すりきる** [すりきる] (名) 磨き切る。「他動」ラ四。①  
すり [すり] (名) 磨き切る。「自動」ラ下(二)  
すり [すり] (名) 磨き切る。「自動」ラ下(二)

**すりくず** [すりくず] (名) 金銀の細工の際、磨れ  
すり [すり] (名) 金銀の細工の際、磨れ

**すりくたく** [すりくたく] (名) 磨りこむ。「他動」カ四。摩  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ四。摩

**すりこ** [すりこ] (名) すりこむ。「他動」カ四。摩  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ四。摩

**すりここ** [すりここ] (名) すりこむ。「他動」カ四。摩  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ四。摩

**すりこばち** [すりこばち] (名) 挿粉鉢の小袖。

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりこみ** [すりこみ] (名) 挿粉鉢。「他動」カ下(二)  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりころも** [すりころも] (名) 染草で種種の模様を摺り  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりさがる** [すりさがる] (名) 滑下る。「自動」ラ四。す  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりすい** [すりすい] (名) 摺水干。「名」摺水の  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりすく** [すりすく] (名) 摺水干。「名」摺水の  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりぞめ** [すりぞめ] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

**すりだし** [すりだし] (名) 摺染。「名」摺染。

ドレスの裾よりも少し短く短く仕立て、リボンや共布  
の細紐等で肩から吊る。「の物」。

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)

**すりつぶ** [すりつぶ] (名) すりつぶすこと。又、そ  
すり [すり] (名) 磨りこむ。「他動」カ下(二)





(名) 野球で緩慢な速度で投げた球をいふ。—  
モーション [Slow-motion] (名) ①高速度撮影  
より、減速し、映寫の際畫面的人物その他がの  
るのと動くこと。②緩慢な動作。

スローイング [Throwing] (名) ①投擲競技、  
即ち面投げ、槍投げ、ナイフ投げ、丸投げの總稱。  
スローガン [Slogan] (名) (スコットランド高地  
人の唱へる號決) から轉じた語) 標語。宣傳標  
語。合言葉。

スロース [Drawers] (名) 英語のドロアーズの  
スロップ [Slops] (名) 傾斜、こぼれ(句配)  
スロツク [Slog] (名) 拳闘用語。首減法に強く亂打  
す。

スロット [Slot] (名) 溝。間隙。①舞臺の揚  
重。切孔。②一種の飛行機安裝装置。主翼の前縁に  
少しの間隙を置いて小翼を装置したもの。—マシン

すわわ [驚破] (感) 自動販賣機。聲。さあ。  
すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する  
すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する

すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する  
すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する

すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する  
すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する

すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する  
すわわ [驚破] (感) 突然の出来事に驚いて發する



【にがいわす】

スワビヤ [Swabia] (名) 地) 南ドイツの古公國。  
今のツルンテン、ムルタ、バーテン及びバイリヤの西  
南部に當る。

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)

スワラジ [Swaraaj] (名) 元來は印度語で自己支  
配の意、印度獨立運動の主要標語で「完全なる自  
治」の意。—スラム [Slum] (名) 印度のガ  
ンヂ一派の提唱する反英獨立運動の主義。

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)

すわわ [驚破] (感) すわわに感動詞を添  
すわわ [驚破] (感) 驚く聲。さあ。吃驚(古語)  
すわわ [驚破] (感) 魚肉を細く割いて乾  
したものを。そり(古語)



【調坐】

すんおん [寸陰] (名) 暫しの光陰。わづかの時間。  
すんか [寸暇] (名) わづかばかりの思慕。  
ズンガル [準噶爾] (名) Zunghar, Zungar (名)  
スンガリヤともいふ。支那新疆省天山北路の別稱。  
天山の南、天山脈の北に位置する。もと蒙  
古軍閥部の所在地。現に住民の大部分は元の遺民  
たる蒙族で遊牧者が多い。

すんかん [寸簡] (名) みじかい手紙。  
すんきり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんきり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんきり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。

すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。  
すんざり [寸切] (名) 横まにたちること。







費を支持して正貨(金)を輸送した方が有利となる限  
界點)をいふ。金貨流出點。(正貨輸入點對)——  
じゅんび「正貨準備(名) (Cash Reserve) 中央銀行がその準備に備へる紙幣を兌換する爲、必要  
な正貨を積立て置くこと。これに金地金、又は金貨  
替外國爲替手形等を正貨準備と認むる等、種種の制  
度がある。一ゆにゆに「正貨輸入(名) (Gold Import) 外國取引に於て、相手國の爲替相場が低落し、  
遂に正貨輸入點を越えて、正貨が輸入されること。  
一ゆにゆに「正貨輸出(名) (Gold Export) 爲替相場が騰貴し、外國正貨が輸入される  
に至る限界。金貨流入點。(正貨現送點の對)

せいか「(星河) (名) あまのがは。銀河。  
せいか「(聖河) (名) 天子のおりもの。  
せいか「(聖莪) (名) 薛蕙小雅の菁菁者莪篇の序に  
「菁菁者莪、樂育材也。君子能長育人材則天下喜  
樂之矣」とあるに基づく人材を教育すること。  
せいか「(清雅) (名) きよらかでみやびやかなこと。  
せいか「(清華) (名) 公卿の家格の名称。攝家の  
次、大臣家に上り住する家。官は太政大臣を先達と  
し、大臣、大將を兼ねる家格。久我・轉法輪三條・西園  
寺・徳大寺・花山院・大炊御門今出川の七家。後、廣  
轉院の二家を加へて九清華といふ。英雄・華族。  
せいか「(清華門跡) (名) 清華子弟の入室  
せられた寺院。

せいか「(政界) (名) 政治の社會。  
せいか「(政海) (名) あなづめ。あなづなばら。  
せいか「(青海) (名) 大鹹湖海抜三  
〇二〇米の高原上り位し、長さ一〇五斤、幅六五斤。  
せいか「(青海海) (名) 地 (Tianhai) 支那新設の省。甘肅の西南、四川省の西  
北、西康省の北、西藏の東北、新疆省の東南を占め、  
面積約六十六萬方浬。

せいか「(正解) (名) 正しい解釋。  
せいか「(精解) (名) 詳しい解釋。  
せいか「(制戒) (名) 禁制。はつと法度。  
せいか「(聖會) (名) 神事に関する會合。  
せいか「(盛會) (名) 盛大な會合。『教育  
せいか「(風雅) (名) 風雅な集會。『はが。  
せいか「(制外) (名) 制度の範圍外。おきて  
せいか「(制法) (名) 法律 (The Law) 海上を支配する權利。  
せいか「(海權) (名) 海軍の權。平時と戰時とを問は  
ず常に優越な海上武力を以て國防は勿論、國家の權  
益擁護、居留民の保護等に、海上の交通、貿易を  
確保し得る海上制權權に、軍事の勢力のみに限らず、  
更に平和の商業及び航海をも包含し、その消長は、國  
運の盛衰に關聯する。

せいか「(靑蓋車) (名) 靑、皇太子及び皇  
子の御乗りに用ひられた母衣(靑)の朱色の車。  
せいか「(靑海波) (名) 『音雅樂曲。唐樂  
に屬し、聲調調の二入下調。舞  
人は常裝束を用ひ、その下調は靑  
海の波の模様、袍には千鳥の模様  
をつけ、又、千鳥の模様の太刀を帯  
びる。『靑海波の舞曲に用ひる衣  
服の染模様。又、それと同じき染  
模様。『模様の一、代表的な波模様で、元祿頃から  
流行し、靑海波七の技に優れてゐた。

せいか「(生化學) (名) 化 (Biological chemistry) 生體學の一分科。生體の生活現象を化  
學的方面から研究する學。生物化學。  
せいか「(靑化加里) (名) 化 (せい) せい  
せいか「(靑化加里) (名) 靑化加里。  
せいか「(正確) (名) 正してしたること。  
せいか「(精微) (名) くはしくしてしたること。  
せいか「(精熟) (名) くはしくしてしたること。  
せいか「(誠懇) (名) まこと。まこと。  
せいか「(正格) (名) 正しいのり。ただしい

せいか「(文法活動的) 活用の規則正しいこと。變  
格の對) ①文法活用法上、純句律等に於て、  
初の句の第二字が仄字を以て起されたもの。變格の  
對) ②かつよう。『正格活用 (名) 文法  
法) 國語活動用の一種。文語の四段、上二段下二  
段上二段下二段各活用の五種、口語の四段上二段下  
二段各活用の三種の總稱。(變格活用の對)  
せいか「(正角) (名) 數 (Right angle) 三角  
法で、同稱する直線が、時計の針と反對に移動して生  
ずる角。(眞角の對)  
せいか「(性格) (名) (しやうせき)。①  
②(心) (Character) 意志發動の方向を規定する個人  
の根本的性質。一いじやう。『性格(異常)  
③(習) (Abnormal) 精神の不充實状態の。主に  
感情や意志の方面に缺陷あるもの、即ち變質者意志  
薄弱症放逸症等ないふ。一がく(性格) (名) ①  
②(獨) (Character) 人間の性格に究明する  
學。近代をならゆる方面から科學的に究明する。  
一げき「性格劇 (名) 文主人公の特殊な性格  
の活動を特に鮮明に表現せしめ、それが根本とな  
つて悲喜の事象を展開した戯曲。一業の「遊君」の類。  
一はいゆう「性格俳優 (名) 或人物の性  
格を巧みに印象的に表現する天稟を有する俳優。  
せいか「(清客) (名) 俗ならぬ風雅な客人。①  
梅の雅稱。

せいか「(政客) (名) 政治になづまはる人。  
せいか「(政敵) (名) 政敵の客。『入ること。  
せいか「(製革) (名) 生皮をなめして皮革に製造  
せいか「(生獲) (名) いきながらとらへる、  
せいか「(聖學) (名) 聖人の説いた學問、特に儒  
せいか「(正樂) (名) がく(雅樂)。  
せいか「(西樂) (名) 西洋の音樂。  
せいか「(西遊) (名) 地支那五嶽の一。華山。  
せいか「(聲樂) (名) 音 (Sound) 詩歌を  
人間の音樂的表現力によつて藝術的に表現するも

の。女聲は高音(ソ)次高音(ソソ)下高音(ソソソ)に、  
男聲は次中音(ソ)上低音(ソソ)低音(ソソソ)に分つ。聲  
樂の對) 一か(聲樂家) (名) 専門的藝術的の獨  
唱家。  
せいか「(星學) (名) てんもんがく(天文學) 天文  
文を觀て吉凶を占ふ人。  
せいか「(説客) (名) 遊説する辯者。  
せいか「(星學家) (名) 天文學者。天文家。天文  
文を觀て吉凶を占ふ人。  
せいか「(稅額) (名) 租税の額。  
せいか「(正歌劇) (名) 音 (Grand Opera) 大  
規模の歌劇。歴史的事件を題材にしたものが多い。  
せいか「(淨荷重) (名) 工荷重の一。  
せいか「(正斜) (名) 數 (Right angle) 三角函數の  
一。直角三角形の斜邊と一角に隣る邊との比の、そ  
の角に對する稱。(餘弦)。  
せいか「(生活) (名) いくてゐること。生  
存して活動すること。一せいせき。『生活(意) (名)  
『習生活を欲求する本能。一か(せい) (生活) (名) 生活  
改善 (名) 社社會教化の一活動で、複雑な生活  
様式を矯正し改良する運動が中心に事業。經濟的に充  
實を節減し、能率を増進せんが爲に、衣食住の様式を  
簡單にし、社會慣習中、冠帯祭装及び贈答の虚儀を廢  
し、送迎會等の虚儀を廢し、時間的風行をなせしめ  
ることと主眼とする。一きのう(生活機能) (名) 生  
物が生活する爲の機能。一きょう(生活) (名) 生活  
教育 (名) 教育が實行し、生命生活を力説す  
る思想及び實行。一しりょう(生活) (名) 生活資料  
(名) 生活上に必須な物質。一そ(生活素) (名) 生活  
に於ける要後後先端の兩個にある呼吸中樞。一  
なん(生活難) (名) 物質が匱乏して生活の困難に  
がたまること。一てん(生活點) (名) 生活點。一  
は(生活派) (名) 狹義的には、短  
歌に於て、現實的に切實な生活を業材として、人間生  
活の痛痒、一方面的歌々、一活を業材として、人間生  
活の痛痒、一方面的歌々、一活を業材として、人間生  
活の痛痒、一方面的歌々、一活を業材として、人間生



〔いはい〕



派。低價派に對し、自然主義作家を指す。一ひ(生活費)(名)生活に要する費用。生活の爲に、生存の安樂でないこと。

せいにか(背恰好)(名)すがた。かた。かた。せいにか(西華堂)(名)平安火内蔵に於ける豐樂院九堂の一。清華堂(名)平安火内蔵の正北東華堂と相對した殿堂。

せいにか(漂白法)(名)Grandbleaching(漂白式精練法)の一。金及び銀が銅、青化アルカリ液に溶解する性質を利用し、金銀からこれらを抽取出すは。

せいにか(井幹)(名)あけた。井桁。せいにか(星漢)(名)天の御座。せいにか(聖鑑)(名)天の御座。せいにか(清鑑)(名)くもりなき鑑。せいにか(成漢)(名)くもりなき鑑。

せいにか(西漢)(名)魏晉に漢は後蜀と稱し、後漢は洛陽に都したが、長安は洛陽の西にあったから西漢といふ。

せいにか(清濁)(名)清い流のたがは。せいにか(製鑑)(名)軍艦を製造すること。せいにか(擠閉)(名)おしおすこと。せいにか(閉閉)(名)おしおすこと。

せいにか(閑閑)(名)きよくもりのしづかなこと。せいにか(閑閑)(名)きよくもりのしづかなこと。せいにか(閑閑)(名)きよくもりのしづかなこと。

せいにか(世世)(名)世襲する官職。せいにか(世世)(名)世の中うれへ。せいにか(世世)(名)世の中うれへ。せいにか(世世)(名)世の中うれへ。

せいにか(生選)(名)生命を全うて還る。せいにか(生選)(名)生命を全うて還る。せいにか(生選)(名)生命を全うて還る。

ホームイン。せいにか(盛観)(名)盛大なみもの。せいにか(盛観)(名)盛大なみもの。せいにか(盛観)(名)盛大なみもの。

せいにか(成歎)(名)地朝鮮清津浦道天安郡の邑。牙山に属する邑。明治二十八年戦役の野頭大島軍團が奮戦した古戦場。

せいにか(敵敵)(名)まご。まご。まご。せいにか(正眼)(名)星眼(名)御道の構へ方の一切先を敵の眼に對してしめるもの。上段下段に對して中段の構といふ。

せいにか(青眼)(名)阮籍の故事に出づ人をもて迎へる意のあらはれた眼と。白眼の對。せいにか(聖眼)(名)天子の御座。龍眼。せいにか(征雁)(名)ちかひ願ふこと。誓を立てて願ふ。を立てること。ごらんがけ。せいにか(佛誓)(名)佛誓する念力。

せいにか(佛誓)(名)佛誓する念力。せいにか(佛誓)(名)佛誓する念力。せいにか(佛誓)(名)佛誓する念力。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

より、電信局を新設すること。創設費の全部、維持費の一部を町村で負擔するを要する。れい(請願令)(名)天正六年四月勅令第三十七號。請願に關する手續範圍義務一切を規定したるもの。

せいにか(税関)(名)法開港場又は陸接國境に於て輸出入貨物の取締をなし、關稅徵收等の事務を掌る官廳。大藏大臣の管理に關する。我國では横濱神戸大阪長崎門司南前川に設置せられた。必要な場所に税關支署を設置する。うちわや(税關上屋)(名)法税關で輸出入赤羽の貨物を貯蔵する建物。かりおきは(税關假置場)(名)法税關で、陸揚した外國貨物を假に蔵めおく所。ちちや(税關長)(名)法税關の長官。大藏大臣の指揮を受け税關に關する事務を統理する。めんじょう(税關免狀)(名)法税關から發する免狀。税關經由の貨物と船舶に對し、その輸出入船積向清港への出入等を許可して交付するもの。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。れがひ出る。せいにか(請願)(名)こひがふこと。

物の純粹な氣。精靈。靈氣。せい(正氣)(名)至公至大至正なる天地の元氣。正し氣象。元(元氣)(名)宋末に文天祥が、元軍と五坡嶺に戰つて破れ去り、元の大都の獄中で作つた歌。石戸暮末に藤田東湖が作つた歌。當時の士氣を鼓舞し、尊王の氣分を發し力があった。

せい(征騎)(名)征討に従軍せる騎兵。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。

せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。せい(生氣)(名)生きてゐる元氣。生存する力。



のといはれてゐる。【精削】。せいぐすり〔精較〕(名) 精力を強くする薬。強せいぐらべ〔精較〕(名) たけぐらべ。せいくる(名) 海象(せい)の上唇にある長い二本の牙。みつぎ。せいくん〔聖君〕(名) 徳のすぐれた君主。せいくん〔聖訓〕(名) 聖人のいしましめ。せいくん〔正訓〕(名) 正しいよみかた。せいくん〔請訓〕(名) 外国駐在の使臣が政府に訓令を請ふこと。

せいくん〔盛勳〕(名) さかんな功勳。せいくん〔青訓〕(名) 青年訓練所の略。せいくん〔青群〕(名) (Morning circle) 空間に若干の星が集まつて一群をなし、同一方向に共通な運動をしるるもの。せいけい〔盛京〕(名) (Shingking) 滿洲國奉天に對する前清時代の稱呼。

せいけい〔聖經〕(名) 聖人の述作した書。聖人の言行を記した書。○萬世の典據たるべき書。せいけん〔聖經賢傳〕(名) 聖人述作の書と之に對して賢人が述べた書。せいけん〔誠敬〕(名) まいごころからやまふこと。せいけい〔西經〕(名) 地(West longitude) 西方の經度即ち本初子午線を經度として、その西方百八十度の間。(東經の對)。

せいけい〔正系〕(名) 正しい血筋。正しい系統。せいけい〔正刑〕(名) 政治と刑罰と。せいけい〔生計〕(名) くちぎ。くらしかた。すきほの。活計。一いしう〔生計費指數〕(名) (Index number of living) 特定の社會的階級に一定家族を一定の標準に於て維持する爲に必要な貨幣的代表的なものに就て、その小賣價格を蒐集分類及び平均した結果を一定基準時に對する指數として表したるもの。

せいけい〔世系〕(名) 血統。○系圖。せいけい〔精系〕(名) 血統から腹盤に走る小

指大の扁平柱狀の索條。中に輸精管、淋巴管、神經、副腺、靜脈等を含む。せいけい〔整經〕(名) (Wiring) 製機準備工程の一。總物を纏るに、必要な長さの總線線數を取揃へ、製機に必要な線と同一の工程。せいけい〔姓系〕(名) 姓氏と系統と。○系圖。せいけい〔成形型〕(名) 陶磁器の形をつくるに用ひる模型。石膏製、素焼製、金屬製の三種類がある。

せいけい〔整形外科〕(名) (Plastic Surgery) 外科から分派獨立した専門學科。機能障礙と形狀變化とを研究し、豫防し、治療する學科。せいけい〔井陘口〕(名) 地、支那河北省井陘縣東北の井陘山中にある隘路。用兵上の要地。前二〇四年、楚漢分争の時、韓信が趙軍を破り、趙王歇を擒にした處。

せいけい〔整形手術〕(名) (Plastic Surgery) 整形外科の手術。ワッサージ、熱氣、熱氣療法等の非殺血的手術と、縫及び皮膚の移植等の殺血的手術とがある。せいけい〔星形圖法〕(名) (Star-shaped projection) 便宜圖法に屬する地圖投影法的一種。星形狀の輪郭内、一つの極を中心として世界全圖を表す法。

せいけい〔齋景樓〕(名) 不安大内裏に於ける豐樂院二樓の。豐樂殿の西、栖霞樓と相對する。せいけい〔正劇〕(名) 舊劇に對して壯士芝居俳優が自ら構構する稱呼。せいけい〔靜劇〕(名) (Static drama) 動作を主とせず、氣分又は無意識上の情調を重視し、臺詞を以て内面的な寫眞を表現する劇。近代劇の特徴で、イフセ、テーテルリ等々のものはその代表作。

せいけい〔生血〕(名) 色のない。なまぢい。せいけい〔清潔〕(名) これのないこと。きよま。せいけい〔清濁法〕(名) 法、衛生上、

家屋内外の大掃除を行つて病菌の蔓延を防ぐこと。せいけい〔腥血〕(名) なまぢい。せいけい〔聖血〕(名) 帶紫黒の鮮色。せいけい〔聖〕(名) (Kobalium) キリスト教で、聖餐式に、キリストの血にならへて用ひる葡萄酒。せいけい〔生狀〕(名) うまひかれ。生別。せいけい〔生月〕(名) うまひつぎ。せいけい〔政權〕(名) (政治) 政治上的權力。○臣民が政務に參與する權利。參政權。一爭奪(句) 政權のうばひ。

せいけん〔政見〕(名) 政治上の意見。一發表(句) 自己の政見を公衆に發表すること。せいけん〔生絹〕(名) きぬ。すしきのきぬ。せいけん〔生絹〕(名) 面會を請ふこと。しやうけせいけん〔請見〕(名) 面會を請ふこと。しやうけせいけん〔靖獻〕(名) (書經) の微子篇に「自靖、人自獻于先王」とあるに基づく。義に安んじて、先王にその志を致すこと。先王の靈に誠意をささぐること。一いけん(靖獻遺言) (名) 淺見綱齊の著。支那の屈原、孔明、陶淵明、顏真卿、謝靈運、方孝孺等、志士仁人の遺文を撰集し、その小傳を附記し、君臣の大義を明らかにした書。二卷。せいけん〔聖賢〕(名) 聖人と賢人と。智徳の最も傑出せる人。○清酒と濁酒。せいけん〔成憲〕(名) 成文の國憲。せいけん〔勢〕(名) 成文の國憲。せいけん〔勢〕(名) いさひ。けんりやく。権せいけん〔勢〕(名) 天晴れて暖いこと。せいけん〔旌旗〕(名) 人の善行をあらはして世に示すこと。

せいけん〔西諺〕(名) 西洋のことわざ。せいけん〔聖言〕(名) 聖人の言。せいけん〔誓〕(名) ちかひのことば。せいけん〔正法〕(名) 數の二の三角函數の一。直角三角形の一角に對する邊と斜邊との比のその角に對する邊。

せいけん〔世諺〕(名) 世のことわざ。

せいけん〔聲言〕(名) いひらすこと。節減。せいけん〔省減〕(名) はぶぐへらすこと。節減。せいけん〔界限〕(名) 定められた境界。○かきりなだめること。一うらがたき〔制限裏書〕(名) (總) 手形の裏書人が、裏書を中止する文句を明記するが、又は償還請の責に任ぜらる旨を記載し、爾後、其の手の流通を中止せしむること。制限の範圍外。一がいはいはつら〔制限外發行〕(名) (Overissue) 兌換準備で發行より日本銀行が必要の場合に、制限額が發行より十億圓以外に、公債證券手形を保證として、兌換券を發行すること。○限外發行。一くしんほく〔制限屈伸法〕(名) (Elastic method) 兌換券兌換發行法の一。保證準備で發行し得る兌換券の最高額を法定し置き、それ以上の發行額に對しては、正貨準備を要するを原則とし、なほ非常の場合には、一定の發行額の納付に依り制限外の發行を許し、その金融平常に復し金利低下すれば、發行者は租税を負擔することが不利なるを以て、制限外發行の兌換券を同收して平常の發行額にする。我が國の現制は此の方法を採用してゐる。一ししよくしゆき〔制限證據主義〕(名) (法) 探査方法に就き法則を設け、裁量なきして之に準據し、事實の眞否を判斷するの主義。(自由心證主義の對) 一せんきよ〔制限選舉〕(名) (法) (Restrictive election) 選舉法の一。選舉權の資格に、財産納税額又は教育等の制限を設ける制度。普通選舉の對) 一はつらうほう〔制限發行法〕(名) (Limited issue) 兌換券發行法の一。兌換券の發行を銀行の自由に任ぜず、法令で一定の制限を設け、之に準據して發行せしめる法。(自由發行法の對) 一ぶつけん〔制限物權〕(名) (法) 一切の物權中から所有權を除いたもの。地權、地上權、水小作權、地役權、質權、賃權、無用の地權、一類。せいけん〔稅源〕(名) (經濟) 租稅の支拂はれる源泉となる所得又は財產。營業稅の稅源は營業收益、相

せいけん〔西諺〕(名) 西洋のことわざ。せいけん〔聖言〕(名) 聖人の言。せいけん〔誓〕(名) ちかひのことば。せいけん〔正法〕(名) 數の二の三角函數の一。直角三角形の一角に對する邊と斜邊との比のその角に對する邊。

せいけん〔世諺〕(名) 世のことわざ。

せいけん〔聲言〕(名) いひらすこと。節減。せいけん〔省減〕(名) はぶぐへらすこと。節減。せいけん〔界限〕(名) 定められた境界。○かきりなだめること。一うらがたき〔制限裏書〕(名) (總) 手形の裏書人が、裏書を中止する文句を明記するが、又は償還請の責に任ぜらる旨を記載し、爾後、其の手の流通を中止せしむること。制限の範圍外。一がいはいはつら〔制限外發行〕(名) (Overissue) 兌換準備で發行より日本銀行が必要の場合に、制限額が發行より十億圓以外に、公債證券手形を保證として、兌換券を發行すること。○限外發行。一くしんほく〔制限屈伸法〕(名) (Elastic method) 兌換券兌換發行法の一。保證準備で發行し得る兌換券の最高額を法定し置き、それ以上の發行額に對しては、正貨準備を要するを原則とし、なほ非常の場合には、一定の發行額の納付に依り制限外の發行を許し、その金融平常に復し金利低下すれば、發行者は租税を負擔することが不利なるを以て、制限外發行の兌換券を同收して平常の發行額にする。我が國の現制は此の方法を採用してゐる。一ししよくしゆき〔制限證據主義〕(名) (法) 探査方法に就き法則を設け、裁量なきして之に準據し、事實の眞否を判斷するの主義。(自由心證主義の對) 一せんきよ〔制限選舉〕(名) (法) (Restrictive election) 選舉法の一。選舉權の資格に、財産納税額又は教育等の制限を設ける制度。普通選舉の對) 一はつらうほう〔制限發行法〕(名) (Limited issue) 兌換券發行法の一。兌換券の發行を銀行の自由に任ぜず、法令で一定の制限を設け、之に準據して發行せしめる法。(自由發行法の對) 一ぶつけん〔制限物權〕(名) (法) 一切の物權中から所有權を除いたもの。地權、地上權、水小作權、地役權、質權、賃權、無用の地權、一類。せいけん〔稅源〕(名) (經濟) 租稅の支拂はれる源泉となる所得又は財產。營業稅の稅源は營業收益、相

せいけん〔聲言〕(名) いひらすこと。節減。せいけん〔省減〕(名) はぶぐへらすこと。節減。せいけん〔界限〕(名) 定められた境界。○かきりなだめること。一うらがたき〔制限裏書〕(名) (總) 手形の裏書人が、裏書を中止する文句を明記するが、又は償還請の責に任ぜらる旨を記載し、爾後、其の手の流通を中止せしむること。制限の範圍外。一がいはいはつら〔制限外發行〕(名) (Overissue) 兌換準備で發行より日本銀行が必要の場合に、制限額が發行より十億圓以外に、公債證券手形を保證として、兌換券を發行すること。○限外發行。一くしんほく〔制限屈伸法〕(名) (Elastic method) 兌換券兌換發行法の一。保證準備で發行し得る兌換券の最高額を法定し置き、それ以上の發行額に對しては、正貨準備を要するを原則とし、なほ非常の場合には、一定の發行額の納付に依り制限外の發行を許し、その金融平常に復し金利低下すれば、發行者は租税を負擔することが不利なるを以て、制限外發行の兌換券を同收して平常の發行額にする。我が國の現制は此の方法を採用してゐる。一ししよくしゆき〔制限證據主義〕(名) (法) 探査方法に就き法則を設け、裁量なきして之に準據し、事實の眞否を判斷するの主義。(自由心證主義の對) 一せんきよ〔制限選舉〕(名) (法) (Restrictive election) 選舉法の一。選舉權の資格に、財産納税額又は教育等の制限を設ける制度。普通選舉の對) 一はつらうほう〔制限發行法〕(名) (Limited issue) 兌換券發行法の一。兌換券の發行を銀行の自由に任ぜず、法令で一定の制限を設け、之に準據して發行せしめる法。(自由發行法の對) 一ぶつけん〔制限物權〕(名) (法) 一切の物權中から所有權を除いたもの。地權、地上權、水小作權、地役權、質權、賃權、無用の地權、一類。せいけん〔稅源〕(名) (經濟) 租稅の支拂はれる源泉となる所得又は財產。營業稅の稅源は營業收益、相

せいけん〔聲言〕(名) いひらすこと。節減。せいけん〔省減〕(名) はぶぐへらすこと。節減。せいけん〔界限〕(名) 定められた境界。○かきりなだめること。一うらがたき〔制限裏書〕(名) (總) 手形の裏書人が、裏書を中止する文句を明記するが、又は償還請の責に任ぜらる旨を記載し、爾後、其の手の流通を中止せしむること。制限の範圍外。一がいはいはつら〔制限外發行〕(名) (Overissue) 兌換準備で發行より日本銀行が必要の場合に、制限額が發行より十億圓以外に、公債證券手形を保證として、兌換券を發行すること。○限外發行。一くしんほく〔制限屈伸法〕(名) (Elastic method) 兌換券兌換發行法の一。保證準備で發行し得る兌換券の最高額を法定し置き、それ以上の發行額に對しては、正貨準備を要するを原則とし、なほ非常の場合には、一定の發行額の納付に依り制限外の發行を許し、その金融平常に復し金利低下すれば、發行者は租税を負擔することが不利なるを以て、制限外發行の兌換券を同收して平常の發行額にする。我が國の現制は此の方法を採用してゐる。一ししよくしゆき〔制限證據主義〕(名) (法) 探査方法に就き法則を設け、裁量なきして之に準據し、事實の眞否を判斷するの主義。(自由心證主義の對) 一せんきよ〔制限選舉〕(名) (法) (Restrictive election) 選舉法の一。選舉權の資格に、財産納税額又は教育等の制限を設ける制度。普通選舉の對) 一はつらうほう〔制限發行法〕(名) (Limited issue) 兌換券發行法の一。兌換券の發行を銀行の自由に任ぜず、法令で一定の制限を設け、之に準據して發行せしめる法。(自由發行法の對) 一ぶつけん〔制限物權〕(名) (法) 一切の物權中から所有權を除いたもの。地權、地上權、水小作權、地役權、質權、賃權、無用の地權、一類。せいけん〔稅源〕(名) (經濟) 租稅の支拂はれる源泉となる所得又は財產。營業稅の稅源は營業收益、相

せいけん〔聲言〕(名) いひらすこと。節減。せいけん〔省減〕(名) はぶぐへらすこと。節減。せいけん〔界限〕(名) 定められた境界。○かきりなだめること。一うらがたき〔制限裏書〕(名) (總) 手形の裏書人が、裏書を中止する文句を明記するが、又は償還請の責に任ぜらる旨を記載し、爾後、其の手の流通を中止せしむること。制限の範圍外。一がいはいはつら〔制限外發行〕(名) (Overissue) 兌換準備で發行より日本銀行が必要の場合に、制限額が發行より十億圓以外に、公債證券手形を保證として、兌換券を發行すること。○限外發行。一くしんほく〔制限屈伸法〕(名) (Elastic method) 兌換券兌換發行法の一。保證準備で發行し得る兌換券の最高額を法定し置き、それ以上の發行額に對しては、正貨準備を要するを原則とし、なほ非常の場合には、一定の發行額の納付に依り制限外の發行を許し、その金融平常に復し金利低下すれば、發行者は租税を負擔することが不利なるを以て、制限外發行の兌換券を同收して平常の發行額にする。我が國の現制は此の方法を採用してゐる。一ししよくしゆき〔制限證據主義〕(名) (法) 探査方法に就き法則を設け、裁量なきして之に準據し、事實の眞否を判斷するの主義。(自由心證主義の對) 一せんきよ〔制限選舉〕(名) (法) (Restrictive election) 選舉法の一。選舉權の資格に、財産納税額又は教育等の制限を設ける制度。普通選舉の對) 一はつらうほう〔制限發行法〕(名) (Limited issue) 兌換券發行法の一。兌換券の發行を銀行の自由に任ぜず、法令で一定の制限を設け、之に準據して發行せしめる法。(自由發行法の對) 一ぶつけん〔制限物權〕(名) (法) 一切の物權中から所有權を除いたもの。地權、地上權、水小作權、地役權、質權、賃權、無用の地權、一類。せいけん〔稅源〕(名) (經濟) 租稅の支拂はれる源泉となる所得又は財產。營業稅の稅源は營業收益、相

續税の税源は相續財產なる類。

せいけんじ(清見寺)(名) 佛野間縣度原郡興津町字清見寺にある臨濟宗妙心寺派の寺。白鳳年間

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

せいこう(晴好)(名) 空の晴れて晴のよいこと。晴好(名) 晴天にも、雨天にも、山水の景色が各、その趣を異にしてながめのもの。

由な立場から新説を唱出し「伊勢物語」研究史上、特筆すべき著述。享和二年刊。「相等しい五角形。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。



〔球青〕

或時刻に於ける星座の位置を知るに用ひる装置。北半球で使用するものは天の北極を中心とした星座の周ある圓盤に極を取附けたもので、圓盤の縁に記した日と極に取附けた時刻とを一致せしめれば、その時刻の星座の位置を知ることができる。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。せいご(世故)(名) 世故。

せいさつ(生殺) 名 いかすとこうすと。一、よ  
だつ(生殺與奪) 名 いかすとこうすと、與  
ると奪ふ。

せいさつ(制札) 名 禁令の簡條を記して、賭傍  
又は神社の境内などに張られ。たてふだ。一、せ  
ん制札(名) 職團の頃、兵士の狼藉を免れんが  
爲に、寺社郡村から將師に制札を要求し、その代に  
差出した報酬。一、ば(制札場) 名 制札を立て  
る場所。

せいさん(靑酸) 名 化(Hydrocyanic acid) 主  
にアミダリンなる配糖體となり、苦扁桃、梅桃枇  
杷等の果實の核仁に含まれる。之を搗碎して水を加  
へ置すれば、酸素の作用で、加水分解を起して生  
成せられる揮發性ある無色の液體で、適量は呼吸吸  
醉劑となるが、猛毒を有し、その大量は、數分時に  
て大人を倒す。シアン化水素。一、えん(靑酸鹽)  
(名) 化(Cyanides) シアンと金属との化合物。一  
カリ(靑酸加里) 名 化 Potassium cyanide  
白色板狀の潮解し易い結晶物。猛毒を有し、よく水  
に溶解して反應を呈する。化学工業・冶金等に融劑  
及び還元劑として用ひられる。黄血鹽を強熱すれば  
分解して生ずる。シアン化カリウム。

せいさん(聖算) 名 天島の御年齢。寶算。  
せいさん(成算) 名 成し遂げるのみ。かたて  
のいさむらひ。

せいさん(星散) 名 星の天空に散布せるが如く  
ちらばること。[な]しむこと。

せいさん(悽慘) 名 いたましいこと。いたみか  
せいさん(生産) 名 生活のたよりとなるべき  
産業。①出產(産) (名) Production 人が自然に人  
力を加へて、人の欲求を充足するべき能力即ち財  
物の效用を作り出し、若しくは増加すること。自然  
若しくは土地と資本と努力の三要素より成立する。  
これを分けて農業・工業と製造業・工業と商業・運  
搬業とする。一、かかく(生産價格) 名 (經  
典) Production price マルサス經濟學に於ける術  
語。總ての商品の買値を規定する中心價格。即ち、

商品生産に費した不變資本(工場設備等の固定資  
本)を可變資本(労働賃金)と餘剰價値の合計をいふ。  
①かじょう(生産過剰) 名 (經典) Over-  
production 社会の購買力を超過して商品が生産さ  
れること。一、かかく(生産課程) 名  
②法内國消費稅賦課の方法。原料製造工程製品に  
課す租稅。一、がっこう(生産學校) 名  
③「社会經濟的生产力を統制する教育上の思想及び實行。  
ロシヤのアロンスキー、ドイツのカウフェンベル  
ライヒ等の主張。一、かんけい(生産關係)  
④名 (經典) ルクス經濟學用語。社会の經濟を作りあ  
げている生産と人間相互間の關係。一、きんぎょ  
⑤(生産業) 名 (經典) 生産の事業。産業。一、きんぎょ  
⑥(生産金) 名 (經典) 生産業の設備互至經費を  
目的とする金銀。商業金融工業金銀。農業金融の總  
稱。一、くみあい(生産組合) 名 (經  
典) 組合を以て生産に従事し、その剩餘は規定の方法  
に従つて組合員に分配する組合。一、こうざい(生  
産公債) 名 (經典) 生産的目的の經費を擔保する爲  
に募集する公債。即ち鐵道・官業等の創設擴張の爲  
に發行する公債の類。一、せきり(生産制限)  
⑦名 (經典) 資本家、商品過剰と利潤率の低下を防ぐ  
爲に、一時的に生産の一部休止又は操業時間の短  
縮(操短)等を行ふこと。一、ひ(生産費) 名  
⑧(經典) 財物の生産者に要する費用。一、りよく  
⑨(生産要素) 名 生産に必要不可欠なものを  
土地・労働・資本及び地代・勞賃・利潤。一、りよく  
⑩(生産力) 名 (經典) 財物を生産し得る力。

せいさん(精算) 名 精密な計算。①すること。  
せいさん(清算) 名 ②法)の相互間の債權・債  
務を牽引して、受渡關係の結了すること。③  
④(liquidation) 會社が組合等が破産又は解散する  
場合に、從來の法律關係を結了する爲に行ふ各種の  
手續ないし。即ち現務の結了債權の取立債務の辨

濟液財産の引渡及び分配等。⑤「經典」取引所用語。  
同一人の同一品目、同一條件の取引に關する取分  
出方を相殺すること。⑥過去の關係事項の結了をつ  
けること。⑦物事に對する理解を内省によりて更改  
決算すること。一、しじょう(清算市場)  
⑧名 (經典) 買賣取引の一時期清算取引と長期清  
算取引との二種があり、何れも買賣約定になした實  
物の受渡を要せず、差金の授受によつて決済し得る  
もの。⑨(貨物市場の對) ①しよとくせい(清算  
所得稅) 名 (法) 法人が解散又は合併した場合に  
課せられる所得稅。一、にん(清算人) 名 (法)  
⑩民法・商法の規定により、會社又は組合等の清算事務  
の管掌に選任せられた人。

せいさん(靑衫) 名 靑色の單衣。  
せいさん(聖餐) 名 宗敎儀式に於ける食事。  
パンをキリストの肉に、葡萄酒をキリストの血に擬  
し、キリストの犠牲の前後を記念する儀式。  
せいさん(聖餐式) 名 宗敎儀式に於ける食事。  
パンをキリストの肉に、葡萄酒をキリストの血に擬  
し、キリストの犠牲の前後を記念する儀式。そ  
の弟子に葡萄酒とパンを分與した記念として、キリ  
スト敎で隨時施行する儀式。

せいさん(青山) 名 樹木の靑靑と茂つた山  
せいさん(遺骸) 名 死した者に遺つた骨  
あるに基づく、埋骨の地。墳墓の地。③昔の琵琶の  
名器。

せいさん(生徒) 名 いまのこ。いたこ。  
せいさん(棲山) 名 ①山に棲むこと。②僧侶な  
どが山に籠つて修行すること。③僧侶な  
せいさん(西山會議) 名 (歴  
一九二五年十二月北京郊外西山碧雲寺で、黨内共産  
派の驅逐を目的として開かれた那國民黨最右翼の  
謝持・唐正強・鄧魯等の會合。此の會合の爲に、國  
民・共産兩派を對立させた。

せいさん(西山派) 名 ①(佛)淨土宗の一派。  
講堂(西山土)を祖とし、京都府乙訓郡粟生野光明  
寺を總本山とする。靈空が法然に師事して奥義を傳  
へ、山城國西山の善壽寺に住して宗風を發揚したか

ら西山派といふ。②(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。③(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。④(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑤(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑥(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑦(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑧(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑨(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。⑩(政)支那國民黨最右翼の稱。西  
山會議派といふ。

せいし(生詞) 名 死後を待たず、生きてある中  
から人間を神とて察した詞字。「こころざし。  
せいし(聖志) 名 天子のおほしめし。②聖人の  
せいし(聖志) 名 たふといすがた。神聖なすがた。  
せいし(聖使) 名 一、使徒。二、貴族。  
せいし(聖世) 名 貴族の嫡子。諸侯のよ  
せいし(世世) 名 世世つづくまつり。  
せいし(世世) 名 世世つづくまつり。  
せいし(姓氏) 名 かねとちうと。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。  
せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(静思) 名 しづかに思ふこと。  
せいし(静止) 名 こととまつて動かぬこと。  
せいし(静) 名 或基準標準を對して物體がその位置を  
變げないこと。「安否」が「かた」を  
せいし(省視) 名 ①かへりみること。②兩視の  
せいし(正視) 名 ①まをすこと。②兩視の  
せいし(正矢) 名 (砲) (true line) 三角兩數  
の二一の間の定直徑と與へられた角をなす半徑の  
端から定直徑に下した垂線の足と、定直徑の端との

せいし(聖志) 名 天子のおほしめし。②聖人の  
せいし(聖志) 名 たふといすがた。神聖なすがた。  
せいし(聖使) 名 一、使徒。二、貴族。  
せいし(聖世) 名 貴族の嫡子。諸侯のよ  
せいし(世世) 名 世世つづくまつり。  
せいし(世世) 名 世世つづくまつり。  
せいし(姓氏) 名 かねとちうと。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。  
せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。

せいし(靑紫) 名 歴史的の漢代で、公侯は  
紫・九龍は靑色の印綬を用ひたからいふ。公卿。公卿  
の地位。公卿の衣服色。



距離の半徑に對する比。

せいし〔正視〕(名) まっすぐに視ること。一が

せいし〔正視眼〕(名) 生調節せずして平行光線を網

膜に集せしめて結像する眼。

せいし〔正史〕(名) 歴史の正確な事實を記載した歴史。

せい〔正史〕(名) 後漢書帝紀に「正史」の語あり。

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に

せいし〔正史〕(名) 正史の略。隋書經籍志の記載に



〔つさばしいせ〕

字で、赤は俗字なる類。(俗字の對) ●昔、支那で書

籍の文字の格字なき者。一きん〔正字金〕

(名) 安政六年に改鑄した小判金。一分別金。正の

字を打出したもの。一つう〔正字通〕(名) 支那

音韻の字書。明の張自烈の著。十二卷。清の鄭文英が

兩腋の白鳥調子、旅行した。一ほうじ〔正字法〕

(名) 一國語を文字にあらはす正の方法。

せいし〔省字〕(名) ●點畫を省いた文字。一文章

中ではふた文字。

せいし〔政事〕(名) 政治上のこと。政治の事。せいし

せいし〔政事〕(名) 世の中のこと。處世の事。せいし

せいし〔政事〕(名) なしとげられたこと。成就し

たこと。

せいし〔盛事〕(名) まかんな事業。盛大な事柄。

せいし〔盛時〕(名) 血氣の盛んな時。●國運

の盛んな時。●運勢の盛んな時。●星のやどり。

せいし〔青磁青瓷〕(名) 鐵分を含有した青緑色

又は淡藍色の釉をかけた磁器。支那で唐代に

製出せられ我が平安朝時代に傳來されたといふ。

せいし〔政治〕(名) 政治の事。●國家の主權

者が、其の領土、臣民を權力によつて統治すること。

まうこと。一か〔政治家〕(名) ●政治を施

行する人。政治に長じた人。一か〔政治界〕

(名) ●政治上の議論、活動の行はれる社會。一

がく〔政治學〕(名) ●Political Science。政治

現象を研究する社會科學。一きせき〔政治季

節〕(名) 帝國議會の閉期中の如き、政治界の最も緊

急活動する時期。一きようしやう〔政治狂〕(名)

政治上の事件に熱中して狂喜し、恐懼憤慨などする

もの。一きよういく〔政治教育〕(名)

●政府、教育機關、公法人、文化團體等、言論又は

し、又はその走狗となつて報酬を受けて生活するも

の。一しやかいけい〔政治社會〕(名) ●政

治者と被治者の權力關係にある社會。●政治界。

一しやつかんけい〔政治借款〕(名) ●政

治上の費用に充てる目的の借款。一しやうせ

い〔政治小説〕(名) ●文。政治界の事件又は政治

家を脚色した小説。矢野龍渓の『経國美談』、『東海散

士』の佳人の奇遇の類。一だんたい〔政治團體〕

(名) ●政治上の事務に關して結合した團體。

一體。一がく〔政治哲學〕(名) ●哲學國家及び政

治に關する最高原理を研究する學で、政治の本質價

値方法を論ずるもの。一はじめ〔政治始〕(名)

●一月四日に行はれる公事。當日、天皇正殿に出

御あらせられ、皇族、諸大臣、樞密院議長等參内して

神宮の御事を奏して、各政の政務を奏す。まつり

ことばに、御用始。一はん〔政治犯〕(名) ●法

によつて人國事犯。

せいし〔筆仕〕(名) ●昔、支那で、最初任官する時そ

の吉凶を占つたからいふ、始めて仕官すること。

せいし〔贅字〕(名) ●むだな文字。

せいし〔正式〕(名) ●正式な方式。簡略ならぬ制

規の方式。一さいばん〔正式裁判〕(名) ●花

ざん〔刑事訴訟手續に於いて、罰金又は科料の略式命

令若しは警察廳裁判官に對する御決不服あるも

その請求期間は、その原本の送達を受けた日から七

日以内である。一じやうやく〔正式條

約〕(名) ●政規定の前文と條約の目的と元首の稱

號と全權委員の官職、位勳、氏名などを記載して、調印

の後、批准せられた條約。一つうちやう

〔正式通牒〕(名) ●政。正式の手續によつてする

通牒。

せいし〔性質〕(名) ●まればつき。もちまへ。

固有の性質又は性狀。●質。●質の質の本來

固有する特性で、之によつて他の事物と種類とを區

別せられ得るもの。一正業。●つよき。●續子

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいし〔正室〕(名) ●おんざしき。●本業。

せいじやく(腕弱) (名) しろくよいこと。

せいしゆ(聖主) (名) 聖徳ある君主。

せいしゆ(清酒) (名) すんだ日本酒。純良な酒。

せいしゆ(聖酒) (名) 我が國固有の酒。白米に麴と水を加へて製した醸造酒で、特有の香味あり。

せいじゆ(聖書) (名) 天子の御書命。

せいじゆ(征伐) (名) 遠地の守備に赴いた兵士。

せいじゆ(世儒) (名) 世俗の儒者。世世家學を傳へる儒者。

せいしゆう(西周) (名) 歴支那、周の武王から幽王までの時代。その都都京は、東遷後の洛邑の西にあつたから。

せいしゆう(静修) (名) しづかになまめること。心身をしづかにして修養すること。

せいしゆう(西岫) (名) 西方の山の洞のあう。

せいしゆう(西牧) (名) 西は秋に當るからいふ秋季の作物の收穫。

せいしゆう(腥臭) (名) なまぐさいにほひ。清らかな秋。

せいしゆう(清秀) (名) 清く秀でたこと。

せいしゆう(世襲) (名) その家に屬した財産、爵位、職務等の子孫傳へること。

せいしゆう(世襲財産) (名) 世襲せられたる財産。所有者の自由處分を許されぬ財産。華族にのみ此の制度が認められる。

せいしゆう(世襲親王) (名) 明治維新時、皇族の嫡流相承けて世世親王たるもの。伏見宮、桂宮、有栖宮、閑院宮等。

せいしゆう(生聚) (名) 生産して資財を集め貯へること。人民を養ひ兵を強くし國を富ますこと。

せいしゆう(製絨) (名) 毛織物を製造すること。

せいしゆう(西戎) (名) 古代支那人が西方の異民族を指した稱。青海附近黄河の源流域から甘肅省の東部に互る地域に住したチベット種乃至トルコ種の諸部族の民族。

せいしゆう(正十二面體) (名) 正十二の五角形を面とする立體。

せいしゆう(青州從事) (名) 青州今の山東省の地名。昔青州齊郡に派遣せられた官吏が、酒を好んでその美味勝にまで及ぶ飲程人だといふ故事。世説新語に「出づる酒々平原野都の野」。

せいしゆく(星宿) (名) 天のほしのやどり。星座。

せいしゆく(静肅) (名) しづかにつつしんであること。しづかにしてゐること。

せいしゆく(静淑) (名) ものしづかでしややかなこと。ひつしづかにしてゐること。

せいしゆく(棲宿) (名) やどりすむこと。すむこと。未熟と成熟。

せいしゆく(成熟) (名) よくみること。よく煮えてあること。熟練すること。よくなれたこと。よくと達すること。

せいしゆく(成熟兒) (名) 七五七五歳十箇月後に分娩されし嬰兒で、身體各部及び内臟機能が生活ななし得る程度に發育し、體重二八〇瓦—三〇〇瓦、身長四八釐—五〇釐位に達してゐるもの。

せいしゆく(精熟) (名) 物事によくし熟練すること。

せいしゆく(生熱) (名) 青春期に達すること。

せいしゆく(正出) (名) 法に必要の腹から生まれの子。嫡出子。

せいじゆん(正閏) (名) 平年と閏年と。

せいしよ(正書) (名) 字體を正しく書くこと。

せいしよ(清書) (名) 丁寧に書いたもの。きよきよ。淨書。

せいしよ(盛暑) (名) まかりの暑き。暑氣の甚だしい。

せいしよ(聖書) (名) 聖人の述作した書籍。

せいしよ(聖書) (名) 聖約の文書。舊約、アル。

せいしよ(整除) (名) 数の整数を他の整数で除する時、商が整数となつて殘餘の生じぬこと。

せいしよ(齊女) (名) 淮南子天文訓に出づる。齊を降らすといふ女。

せいしよ(旌賞) (名) 功勞をあらはしほめること。

せいしよ(齊唱) (名) 齊に唱へしめること。

せいしよ(齊勝) (名) 齊地を破滅すること。

せいしよ(制詔) (名) みことり。

せいしよ(聖詔) (名) 聖の詔勅。

せいしよ(清背) (名) 聖の清らかなまひ。

せいしよ(清背) (名) 性質と心情と。うまればき。こゝろまで。きたて。

せいしよ(聖浄) (名) きよいこと。けがれないこと。しやうじやう。

せいしよ(正條) (名) 法に正確な條文。

せいしよ(制條) (名) 制定せられた條規。

せいしよ(正焦點) (名) 理軸に平行な直線が、反射の後、赤く軸上の一地点に集まる場合。主焦點。

せいしよなごん(清少納言) (名) 清原朝時代の女流文學者。清原元輔の女名。不詳。才學共に秀で、紫式部と名を齊しうした。一條天皇の皇后定子に仕へて寵遇を受け、皇后崩後はその終る所を詳かにし、隨筆「枕草紙」の外に歌集、清少納言集がある。

せいしよく(正色) (名) 昔、支那でまじりけなく正しいと定められた色。五色、即ち赤、黃、白、青、黒の類。(問色の對) 顔色を正しくすること。

せいしよく(青色) (名) あわいし。しやし。

せいしよく(聲色) (名) 聞くことと見ること。

せいしよく(生殖) (名) うまれかゝること。

せいしよく(生殖) (名) 受精又は受粉若しくは分裂等の作用によつて自己と同種類の生物を新たに生ずる現象。その目的は種族維持進行の手段で、老衰せる細胞はこれによつて若返り、新しく活力を得て、次代の生存を完する。

せいしよく(生殖細胞) (名) 生物の體内にあつて、生殖を掌る細胞。異性と合して、新生物となす。

せいしよく(生殖素) (名) 生殖細胞内の物質で、親の形質をその子に遺傳すべき特殊の能力を有するもの。

せいしよく(生殖慾) (名) 生殖を欲する生物の本能。

せいしよく(世職) (名) 世襲の官職。世襲の職業。

せいしよく(聖職) (名) 神聖なる職の意。キリスト教會の宣教師。

せいしよく(生殖器) (名) 生物の有性生殖を掌る器官。高等動物では、雄は睾丸、雌は子宮、卵巣、輸卵管、精囊、攝精腺等の内生殖器と陰莖、尿道、陰囊



せいすい 精水(名) せいすい 精液。

せいすい 静水(名) 静して動かぬ水。

せいすい 青翠(名) あないろとみどりいろと。

せいすい 西塵(名) 國の西のほこり。西邊。

せいすい 盛衰記(名) 文「けんべい」。

せいすい 醒睡笑(名) 文「話」の面白さに睡なると笑ふ意。睡古の睡本。一。淳土宗西山流の曾安樂庵傳の者。作者が幼年時代から聞いてゐた笑話を京都所司代飯倉重宗の所望によつて、滑稽味を加へて書き下した書。八卷。寛永年間刊。落語の源流とせられてゐる。

せいすう 正数(名) 数【Positive number】自然数123...等を始めとし、これらの加減・乗除によつて算出せられるすべての数。特に符號十を前に置くことがある。(負数の對)

せいすう 成數(名) 數によその數。概略の數。

せいすい 精製糖(名) 糖を精製して純白とした砂糖。即ち三益白の類。

せいせい 生成(名) できること。生じてゐること。

せいせい 整齊齊整(名) ひとの整つてゐること。

せいせい 整齊花冠(名) 各種の花冠の形が大小が同一で、規則正しく放射状に配列した花冠。花萼薄 鈴蘭の花冠の類。

せいせい 正聲(名) 正調の音樂。正しいふし。

せいせい 濟世(名) 世人をすくふこと。

せいせい 聖世(名) 聖天子のめでたく治め給ふ

せいせい 盛清(名) さかんなみよ。

せいせい 清静(名) さっぱりとしてしづかなこと。

せいせい 精誠(名) まじりけのないまこと。

せいせい 星星(名) 白色の點點とちかばるる。

せいせい 世世(名) 副「だいたい。よよ。

せいせい 世世(名) 副「だいたい。よよ。

せいせい 濟濟(名) 勢多しうちた。

せいせい 樓樓(名) 副「かなしみいたむさま。

せいせい 凄凄(名) 副「雲雨の起るさま。

せいせい 凄凄(名) 副「さびし。

せいせい 妻妻(名) 副「草水のしげるさま。

せいせい 生生(名) 副「いきいきと。

せいせい 生生(名) 副「いきいきと。

せいかく 生生化育(名) 萬物を育て、字画を經營すること。

せいせい 棲棲栖栖(名) 副「いそがし。

せいせい 井井(名) 副「秩序正しく整つた。

せいせい 清清(名) 副「よらかなさま。

せいせい 青青(名) 副「あななとした。

せいせい 正正(名) 副「どうとく。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

せいせい 堂堂(名) 副「堂々たる。

左傳莊公六年にある語を傳傳すること。悔いごと。

せいせい 贅増(名) いりむこ入増。

せいせい 稅政(名) 稅務に関する行政。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 稅制(名) 法租稅の制度。

せいせい 精切(名) こまかざらな。

せいせい 凄切(名) 身にしみ。

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり

せいせい 性説(名) 倫理に於ける人の性に關する論說。性善説・性惡説・善惡混濁説等があり





うばん(一)「世代交替(Altération)」或種(Generation)或種の生物が同一種で有性生殖を行ふ有性世代と無性生殖を行ふ無性世代と、交互に反覆する現象。植物中では「すきけ」「せにこけ」、動物では「ヒドコ蟲類」「水母」等がその例である。

一りん(一)「現代輪廻(名)(生)(せ)いたい(一)はん」(現代交替)。

せいでい(一)「聖代」(名)聖主のしるしなりて聖世。正しくは「正大」(名)正しくおほひなること。中て「正しく正大なること」。

せいでい(一)「盛大」(名)盛んに大なること。極め「正しく正大なること」。

せいでい(一)「西太后」(名)支那清朝の皇太后。滿洲の名家那拉(李)氏の女。咸豐帝に仕、同治帝の尊生を致し、慈禧皇太后といふ。光緒帝の時、政權を専らにし、暴法自強の策を採った。孝欽皇后と諡した。(ハニ)

せいでい(一)「西大陸」(名)即ち西北アメリカ、南北アメリカ。

せいでい(一)「背高」(名)身の丈の普通人よりも高いこと。又その人。

せいでい(一)「制吒迦・勢多迦」(名)佛(梵)の音。又「勢多迦」を譯す。我理羅(シ)童子と共に不動明王の脇立。童子は左蓮の色をなし、頸は五輪に結び、左手に縛目(五)な、左手に金剛杵を執る。嗚心(五)性のものであるから、疑義を著し得る。一併して「制吒迦童子」(名)佛(梵)の音。背高の人。

せいでい(一)「正多角形」(名)數(數)の角と各邊が皆等しい多角形。「てん」。

せいでい(一)「聖澤」(名)聖上の御恩澤。天子のおめ曲と善と惡と。善人と惡人と。君子と小人と。世の治亂。文法は清く濁く。一併して呑む。(史記)に出づ。度量廣く、善人と惡人との別なく、來がままに受け容れて程よく待てること。

せいでい(一)「資澤」(名)無量の消費。分限に過ぎたおこり。實用以上のものを買ふこと。無駄消費

用の過ぎかゝること。生活上の必要でない高價な品限と多くかかること。一併して「資澤品」(名)分限を過ぎかゝるもの。好む人。資澤品を賣る家。

せいでい(一)「背丈」(名)みのだけ。身長。せいでい(一)「正多邊形」(名)數(數)の邊がかくけい(一)正多角形。「所」(一)むだだまり。

せいでい(一)「勢多」(名)軍勢の集まるところ。中て「勢多」の面が相等しい正多角形をなし、且邊での立體角の相等しい多面體。

せいでい(一)「近多林」(名)須達長者が釋迦に獻じた、一畝園精舎の所在地。も連多木が所持してゐたから名づける。「支那の演劇でたておやま」。

せいでい(一)「正旦」(名)正月元日の朝。元日。せいでい(一)「時」(名)時の政治に關係ある議論。時の政治、裁たりに關する話。一併して「時」。

せいでい(一)「時」(名)時の政治に關係ある議論。時の政治、裁たりに關する話。一併して「時」。

せいでい(一)「時」(名)時の政治に關係ある議論。時の政治、裁たりに關する話。一併して「時」。

せいでい(一)「時」(名)時の政治に關係ある議論。時の政治、裁たりに關する話。一併して「時」。

せいでい(一)「時」(名)時の政治に關係ある議論。時の政治、裁たりに關する話。一併して「時」。

せいでい(一)「浮世を離れ、名利を離脱した談話」(清談の黨錮の端に、高節の士が多く横死して以來、達達之士は生命を亂世に免げざらん。酒に耽り、老荘の空理を談じて自ら思を暫し、世事を這却し放逐を事としたこと。魏晉六朝時代、老莊學の流行と共に、清談の徒の輩出盛んで、その著はれたるもの、竹林の七賢即ち阮籍、山濤、嵇康、阮咸、向秀、王戎、劉伶があった。

せいでい(一)「天子の御裁斷」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

せいでい(一)「聖壇」(名)神を祭る壇。神聖な壇。

るやうにする準備作業。①「聖地」(名)神聖な土地。神佛、聖人などに關係ある土地。聖場、聖地。②「宗」キリスト教の發祥地パレスチナの稱。ここにキリストの墳墓及び聖場がある。③「聖地巡拜」(名)「宗」宗教の義務観念又は加護恩恵を求める目的で、聖地又は本山所在地を順次に乗参する。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

せいでい(一)「生地」(名)生れた土地。出生地。①「生地」(名)生れた土地。出生地。②「生地」(名)生れた土地。出生地。③「生地」(名)生れた土地。出生地。

を管分得る形態に至つたもの。完全變態のものであるが、如幼蟲體の時代を経て成蟲となる。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

せいでい(一)「精忠」(名)私意を交へ純粋の忠性を示すもの。高等動物のものは、雌性體の果丸に生じて射出せられ卵子に向かつて游泳する爲、液體中の進行器たる尾狀突起と剛毛形の頭部を具ふ。異形接合を行ふ下等植物の小配偶子のDikaryonなども精忠と稱する。

- せいじょう (性徴) ① sex characters ② 性的特徴。男女両性の生殖器が発達し、男性らしく又、女性らしく體性するやうになること。即ち女性の月経、両性の皮下脂肪沈着、骨盤・喉頭・聲音・筋等の相異及び精神の方向の相異等。【調の對】
- せいじょう (正調) ① ただしいてうし。【調の對】
- せいじょう (聲調) ① ふしまはし。こゝろのしづみ。
- せいじょう (青島) ① 青島(名)の来たのを見送り、東方面が、西玉母の使者だといつた故事、漢武故事に出づ。つかひ。
- せいじょう (清朝) ① しんちょう。② 飛び行く鳥。
- せいじょう (聖朝) ① 當代の朝廷を尊んでいふ稱。めでたいのみ。聖代。
- せいじょう (整調) ① 親清用語。ポートで舵手の前に相對して、漕手の漕調を統制する漕手。
- せいじょう (正長石) ① 鑛(KOOLITE) ② 単斜晶系に屬する加里及び矽土の珪酸鹽。質脆く、無色、時に淡黄、淡紅、淡褐色又は綠色を呈し、玻璃光澤を有する。肥料の原料、陶器・玻璃製造に用ひらる。
- せいじょう (制勅・制敕) ① 名 ひとりの。紹勅。
- せいじょう (聖勅・聖敕) ① 名 ひとりの。詔勅。
- せいじょう (正直) ① 名 だしたくなほきこと。性質や行動の誠直。【直】
- せいじょう (誠直) ① 名 誠實や正しいこと。
- せいじょう (精通) ① 名 くしくはしく通すること。つまびらかに知る。よくく通すること。【のみかど】
- せいじょう (聖帝) ① 名 聖徳の天子。聖天子。びじり
- せいじょう (青帝) ① 名 春の神。
- せいじょう (蜻蜓) ① 名 蜻蛉(とんぼ)。【とんぼ】
- せいじょう (成丁) ① 名 成年に達した丁。
- せいじょう (井戸) ① 名 井戸のそば。狹小な場所。【の蛙】 ② 蛙(蛙)の見もの。井の中の蛙。【みさめ】
- せいじょう (制定) ① 名 おきてを定めること。つく
- せいじょう (制定法) ① 名 【法】

人為法成文法ともいふ。慣習法の如き不成文法に對し文章で正された法律のこと。

せいじょう (正妻) ① 名 本妻。正妻。正室。② 本妻から生まれた嫡子。③ 宗家。本家。

せいじょう (世嫡) ① 名 よき。嫡嗣。

せいじょう (清通) ① 名 多手紙の文に用ひる。他人が無事で健康なこと。

せいじょう (性的生活) ① 名 性慾方面から見た人間及び動物の生活。【かな人】

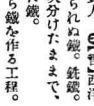
せいじょう (西哲) ① 名 智識の生活。【かな人】

せいじょう (聖哲) ① 名 西洋の賢人。② 【哲】西洋哲學。

せいじょう (生鐵) ① 名 鐵礦から吹分けたままで、鐵から精製し若しくは鐵で器具・器械等を製造すること。① じょう (製鐵所) ② 名 【工】製鐵をなす所。

せいじょう (清徹) ① 名 清くすきよはること。清く無罪となったこと。【はくじ】

せいじょう (青天白日) ① 名 よく晴れた日和。【はくじ】



せいじょう (旗日白天青) ① 名 清くすきよはること。清く無罪となったこと。【はくじ】

せいじょう (青天白日旗) ① 名 中華民国の國旗。空地の中央に白く太陽を模倣し、太陽の周圍に十二の三角形の光輝を添附したものに。

せいじょう (霹靂) ① 名 雷の音。【はくじ】

せいじょう (霹靂) ① 名 雷の音。【はくじ】

せいじょう (典範) ① 名 盛大な儀式。盛典。

せいじょう (正殿) ① 名 おもて御殿。【紫宸殿。神社の本殿。】

- せいじょう (井田) ① 名 歷支那の夏・殷周三代の田制。丁年(周では有年)の男子に田を耕地を使用せしめる制度で、周では一里平方の田に耕字を劃して九等分し、中央の一分を公田とし、周囲の八分を八家に分ち、八家共同して公田を耕し、その收穫を租とした。而して中央の公田百畝の中、二十畝は宅地などに使用せられてゐたから、八十畝が八家の耕作すべき土地で、各家十畝づつづの受持となる。故に什一(即ち一割の租)を出したことになる。
- せいじょう (世傳) ① 名 世世相傳へること。【てりょう】
- せいじょう (世傳御料) ① 名 法皇室の世襲財產。宮城赤坂離宮・青山御所・廣瀨宮・二條離宮・桂離宮・修學院離宮・箱根離宮・京都皇宮・正倉院寶殿及び十御料地等。
- せいじょう (星傳) ① 名 急用で走る宿傳の傳馬。
- せいじょう (聖電) ① 名 神を祀る殿舎。【電氣】
- せいじょう (正電氣) ① 名 【理】よんでんき。【陽電】
- せいじょう (靜電氣) ① 名 (static electricity) 静止せる電氣。毛布で摩擦した樹脂の帯びる電氣の類。(電氣の對)
- せいじょう (聖天子) ① 名 聖徳の高い天子。
- せいじょう (生徒) ① 名 學校などで教授を受ける人。【帝國大學の學生及び高等學校・專門學校・中等學校で教育を受ける人。學生・兒童の對。】
- せいじょう (生徒監) ① 名 文部省直轄學校の職員。校長の指揮を受け、生徒の調子を掌り、多く養育教育中から任命せられる。
- せいじょう (聖徒) ① 名 宗教會の會員たる信徒。有徳な信徒の稱。【キリスト教教會の會員たる信徒。】
- せいじょう (星土) ① 名 星屋。星屋。
- せいじょう (星途) ① 名 出世の路。【旅路】
- せいじょう (世途) ① 名 よのなか。世間。世路。
- せいじょう (西都) ① 名 ださいふ(大宰府)。
- せいじょう (成都) ① 名 (Chengde) 支那四川省の首府。大古蜀山氏の國。三國の時、劉備が蜀漢の都城とした所。岷江の支流、錦・涪水に沿ひ、巨大な城郭を築く。

- せいじょう (制度) ① 名 制定せられた法規。國の法則。法制。おきて。
- せいじょう (西土) ① 名 西方の國。西洋。泰西。
- せいじょう (政黨) ① 名 (Political Party) 政治上一同一の政見を有するものが、結成した政治的團體。立憲政治の下に當然起るべきもの。【いんせいじ】
- せいじょう (政黨政治) ① 名 (Party politics) 政黨内閣による行はれる政治。政黨の政見によって行はれる政治。【いんせいじ】
- せいじょう (政黨内閣) ① 名 (Party cabinet) 立憲政治の國家に於いて主として議會多数を制する政黨の組織する内閣。【いんせいじ】
- せいじょう (清黨) ① 名 中華民國に於ける共產黨。護憲政黨。民國十五年(即ち一九二四年)に於ける共產黨。
- せいじょう (正當) ① 名 だたしいこと。道理にたつね。【あつらへ】
- せいじょう (正當防衛) ① 名 【法】 (Just defense) 刑法用語。他から不法な侵害を加はれ、身體生命が危険に瀕した場合に、止むを得ず、自己の腕力を以て之を除く行為。【はうきょ】
- せいじょう (征伐) ① 名 【征討】 (Just defense) 征伐。【征伐】
- せいじょう (精到) ① 名 ことごとく。【はうきょ】
- せいじょう (精糖) ① 名 椰子油・鳳梨油・甘蔗油等の知り合せ含有量のある植物汁液を蒸留し、これを結晶させて砂糖を製造した。
- せいじょう (齊刀) ① 名 支那の戰國時代に齊(田齊)で發行された刀幣。
- せいじょう (青島) ① 名 (Cheong) チンヤオ。【じんせい】
- せいじょう (青島神社) ① 名 清中奉天山東省青島市鶴山西側の山腹に鎮座。天照大神・明治天皇・大國魂神の三柱を奉斎する。大正四年創立。
- せいじょう (盛唐) ① 名 歷代支那の唐の太宗の開元元年から代宗の大暦の初迄で、唐詩の最盛時期。
- せいじょう (青糞) ① 名 (Blue stocking) 藍色

家の命令に、或女流文士が青色の袴下を穿いで出かけたこと(に始まる)自我主義個人主義、自然主義の影響の下に因習を打破して各自の内生命に生きんとする女流文學者。新しい女一は「青袴派」(名)  
十八世紀以後イギリスに起つた婦人參政運動の一派。機關雜誌「清繕」によつて、言論・文藝作品の發表をなす。參加婦人が、青色の袴下を用ひたならいふ。  
明治十四年九月に組織された不塚明子(雷鳥)を中心とする新女流文學者の集團。婦人の解放を叫び、新思想の宣傳に力めた。

**せいとう** (名) 正統 (名) 正しい系統。正當の血統。  
**せいとう** (名) 正冬 (名) 冬の寒いとき。『の雪火』  
**せいとう** (名) 青燈 (名) 背い布や紙を綴つた讀書用。  
**せいとう** (名) 聖統 (名) 天子の系統。『聖王の事業』

**せいとう** (名) 世統 (名) 世世相繼ぐ血統。世傳の血統。  
**せいとう** (名) 政道 (名) 政治の才。施政の方法。  
**せいとう** (名) 清道 (名) けがれない。すぢみ。  
【成りかけ】  
**せいとう** (名) 正道 (名) ただし道。正當な道。  
**せいとう** (名) 世道 (名) 人世上、守るべき道。世上の道德。社會道徳。『朝鮮字彙で、政權又は掃部の稱。』じんしん「世道人心」(名) 世上の道徳と世人の心。  
**せいとう** (名) 正堂 (名) おもてこへん。正殿。  
**せいとう** (名) 聖堂 (名) 聖人の道。  
**せいとう** (名) 孔子を祀つた堂。聖廟。孔子廟。東京市本郷區湯島にある孔子を祀つた堂。寶篋山に江戸幕府設置のち、仰光門へ入禮門。杏壇門を経て中央正面の大成正堂に至つた。最近鐘樓コンクリートの壯麗な堂が再建された。【宗キリスト教の教會堂】

**せいとう** (名) 西堂 (名) 佛(西)は真位なるよりいふ稱、他山の前にて退隱して來て、教化を助けるもの。西庵(東堂の號)  
**せいとう** (名) 聖童 (名) しんとく(神童)。

**せいとう** (名) 十五歳に達した男児。  
**せいとう** (名) 青銅 (名) からかぬ。『げん』の異稱。あなづ。『から』青銅貨(名) 青銅で鑄造した貨幣。『き』青銅器(名) 青銅で鑄造した器具。  
一きじだいの「青銅器時代」(名) (Chouan Age) 人類文化發展の第二次段階。第一次の石器時代について起り、第三次鐵器時代に先行した時代で、青銅器を使用した時代。考古學上、一八三六年アンタルクの學者トムスの提唱に基づく。  
**せいとう** (名) 生動 (名) 文字・繪畫などの生きつた動きをよぶ氣韻。

**せいとう** (名) 精練せぬ鋼。  
**せいとう** (名) 自動車、電車、自動車等の車輛の運転を調節制御する爲の裝置。手用制動機、真空制動機等の種類がある。『東レ』  
**せいとう** (名) 征東將軍 (名) 歴中、古東國地方平定の爲に臨時に置かれた將軍。  
**せいとう** (名) 正統派 (名) (Orthodox) 教義者しくは學說等を最も正しく承継した一派。  
**せいとう** (名) 正統派經濟學 (名) (Orthodox school of economy) ジョーム、ミースから始つたイギリス經濟學の主義。古典經濟學派ともいふ。『マルクス主義』  
**せいとう** (名) 正統派主義 (名) マルクス主義を繼承發展せしめたプロレタリアの革命理論。共產主義。

**せいとう** (名) 齊東野語 (名) (孟子)の萬章上篇の附事理を知らぬ田舎者。『れた智徳』  
**せいとう** (名) 大成人の徳。  
**せいとう** (名) 政成 (名) さかんな徳。廣大な徳。  
**せいとう** (名) 政治上の恩徳。  
**せいとう** (名) 勢徳 (名) 勢力と恩徳。  
**せいとう** (名) 生得 (名) いけどり。とり、生徳。『うまれのつと。しようくと。』  
**せいとう** (名) 生得觀念 (名) ( innate idea) 個個の知覺内容に關係なく、天賦の本性に支配せられ、

其の内生命としての機能によつて發展する觀念。『せつ』  
**せいとう** (名) 賢學上、吾人の知識の大部分が、すべてに本來自有せられ、且つ、すべての人に一様な性質を有せしめるとする説。  
**せいとう** (名) 精得館 (名) 江戸時代に創立された長崎の洋醫學所。明治に入って長崎醫學校となつた。現在の長崎醫科大學の前身。  
**せいとう** (名) 整頓 (名) (頓)は整ふ意」ととのふ、とらる。  
**せいとう** (名) 晴燈 (名) はれともり。

**せいとう** (名) 積果 (名) (積)えこのき。  
**せいとう** (名) 生生活活 (名) 他詩の文章をなすべく、自らの作とする。  
**せいなん** (名) 西南學派 (名) (Pan-Asian) 即ち「がくは」西南學派(名) (Pan-Asian) 學派。一のがく西南の役(名) (Pan-Asian) 學派。一のがく西南の役(名) (Pan-Asian) 學派。一のがく西南の役(名) (Pan-Asian) 學派。一のがく西南の役(名) (Pan-Asian) 學派。

**せいなん** (名) 生肉 (名) 鮮な肉。  
**せいなん** (名) 贅肉 (名) 餘分の肉塊。こぶ。  
**せいなん** (名) 静事 (名) 世のやすらかくなまする。  
**せいなん** (名) 清華天皇 (名) 第二十二代の天皇。雄略天皇の第三皇子。初名は聖尊文(自稱武彥國押日本根子尊。一四〇〇年即位。御在位五年で崩御。寶算四十一。(二〇四)

**せいなん** (名) 生年 (名) うまれど  
**せいなん** (名) 成年 (名) 若人の心身が究まるる發達をなし、完全なる行爲能力を有すとみなされる年齢。我が國の現制では、天皇皇太子皇太孫は滿十八歲、その他の皇族及び一般國民は滿二十歳を以て成年とする。『れ』  
**せいなん** (名) 成年式 (名) 天皇及未開民族の男子成年の儀式で、新生活の儀典について長老の訓示があり、又、改名などもする。  
**せいなん** (名) 成年者 (名) 成年に達した人。  
**せいなん** (名) 重年 (名) わかひの年頃。  
**せいなん** (名) 重ねて來らず (名) 梅酒の雜詩の句のわがわがたり、一生の中に一度と來ないか、その時代を空しく過してはならぬ。

**せいなん** (名) わかひの。十六六歳から二十歳迄の頃の人。『かい』  
**せいなん** (名) 青年訓練所 (名) 町村市町村學校組合等に設置し、中等以上の學校に入學し得ざる者の内滿十六・二十歳の四箇年間心身を訓練し、團體觀念を養はせしめ、國民としての實業の向上を計り、將來社會に於ける優良な人物たらしめる爲の公民教育機關。大正十五年四月發布の文部省令によつて設立せられた。  
【社】義務教育終了後、即ち十五歳から二十五歳又は三十歳以下の青年の修養團體で、心身の修養、體育の奨励、地方改良、社會奉仕的勞役に從事せんが爲に、青年の組織した自治團體。昭和六年に於ける我が國の青年團数は、一萬六千五百三十五。  
**せいなん** (名) 生年 (名) 出生した年月。  
**せいなん** (名) 制動 (名) (制)し、制する。  
**せいなん** (名) 生哲學 (名) (Vitalism) 絕對的現實を非生理的に規定するが或は體驗のみによつて捕捉し得る生理的現實を生として規定するかを研究する學の一傾向。ゲーテ、シャブナー、ベンハクル等の哲學。人間生活の意義及び價值、人生の課題哲學を解明し、合理的な生き方を教へんもの。ブロン・キェロベネカフア學派等の哲學。生命の哲學。  
**せいなん** (名) 青波 (名) あなをなすたなみ。『野









【きいまいせ】

即ち搗白した種皮外胚乳膠質層等を剥落すること。又ついで白けた米。一き(精米機)(名) 櫻桃。從來は桜及び白を用ひ、人力又は水力によつて精白にしたが、現在は蒸汽力・瓦研機・電動力によふ。又別法の方法により、駒搗式・摩擦式・螺旋式・打撃式に分れる。

せいみ(含密)(名) (含密) 化学。(江戸時代末期の語) 一がく(含密素)(名) せいみ。せいみ(正味)(名) 正音の味。まなこ。せいみ(清味)(名) さちまくなま味。清い風味。せいみつ(精密)(名) まかくはしいこと。一がく(精密科学)(名) 数学。及び数学を用ひ、量的に規定したまたは組織し得る科学。物理学の類。一き(精密機械)(名) (機) 公差の甚だ少ない機械、即ち高級の機械。科学機械工作機械・各種兵器の類。

せいみ(生命)(名) せいめい(生命)。せいみ(精妙)(名) くはしくたくみなこと。すなはてたくみなこと。せいみん(生民)(名) たみ。國民。人民。せいみん(齊民)(名) 平民。無位無官の人民。せいみん(濟民)(名) 民の困窮を救ふこと。政治を行ふこと。

せいみ(星露)(名) 天せいりう(星露)。「世事。せいむ(世務)(名) 世の中のとつめ。當世の事務。せいむ(政務)(名) 政治上の事務。行政事務。せいむ(政務上の機務) せいむ(政務委員)(名) 政治上の機務。一い(政務委員)(名) 政治務を調査する委員。一かん(政務官)(名) 「政團務に參與する官吏。議會と交渉を有し、内閣更迭に際して之と連命を共にする行政官吏。國務大臣 政務次官 參與 内閣書記官長。法制局長官等(事務官の對) 一き(政務局)(名) 「法」外交に関する事務を掌る外務省の一局。

一。各省大臣を輔佐して政務に參與し、議會に出席して實議の管轄に當り、政府と議會との交渉に任ずる次官。事務次官の對) 一そうかん(政務總監)(名) 「法」朝鮮總督府の官吏。總督を輔佐して、府政を統理し、各郡下を監督する。せいむ(稅務)(名) 法租稅務に内國稅の賦課徵收に關する行政事務。一かんとくきよ(稅務監督局)(名) 「法」大藏大臣の指揮を受けて、内國稅の事務を指揮監督する機關で、東京大阪札幌仙臺名古屋廣島熊本の七箇所に置く。一し(稅務署)(名) 「法」大藏大臣の指揮を受け、内國稅に關する事務を執行する機關。稅務監督局の管轄内、須要の地に設置する。一ぞく(稅務局)(名) 「法」稅務監督局若しくは稅務署に屬し、上官の指揮を受けて、稅上の事務及び検査に従事する列任官。せいむてんのう(成務天皇)(名) 第十三代天皇。景行天皇の第四皇子。名は稚足彦尊。七十九年即位。御在位六十年。寶曆百七歲(797)薨。せいめい(姓名)(名) かはれと名。氏とよつてその人の運命運業等を判断する方法。多く、白晝の黒色。姓名を墮したの意義。字畫の運數。生年月日の考察等に用ふる。

せいめい(生命)(名) いのち。壽命。生物が生物として存在し得る所以のもの。感覺運動・生長・増殖の如き生活現象から抽出される。一般的概念。生物學の成立・維持せられる唯一の力。生物の要所。大切な部分。一がく(生命學)(名) 吾人の生命を心理學的に分析せる。之を一體として研究せんとする學。一けい(生命刑)(名) 法。死刑。一けん(生命權)(名) 法人格の權。不法に之を奪ふ人の生命を侵害せる權利。即ち生命保護に關する權利。せいせん(生命線)(名) 生きているか死ぬかの境。最低生活線。一ほけん(生命保險)(名) 經營事業者の一方が相手方または第三者の生死に關し、一定の金額を支拂ふことを約した保險。養老保險。終身保險の對) 一ひよう(生

命表)(名) 人類の死亡の定期比率を知りめんが爲に、年齢別・人口別男女別職業別等に類別して製作した生命の統計表。せいめい(性命)(名) 人の性と天命と。いのちの中のよく治まること。二十四氣の第五。春分後十五日。即ち陰曆三月の節。陽曆では四月五日頃。せいめい(精明)(名) 極めてはつきりした。こゝろが。せいめい(精明)(名) 空の晴れ渡つてあきらかなこと。人へのせいめい(安倍精明)。「命令。せいめい(成命)(名) 定まらた天命。たしかませいめい(盛名)(名) 盛んな名聲。りっぱなほまれ。せいめい(聲名)(名) さえ。評判。よきほまれ。せいめい(聲明)(名) 以上の御明徳。せいめい(聲明)(名) 明言すること。公言すること。一しよ(聲明書)(名) 政治・外交等の責任者が、新聞その他の報道機關を通じて公表する意見書。せいめい(誓盟)(名) ちかひ。やくそく。せいめい(旌明)(名) せいひょう(旌表)。せいめい(精綿)(名) 綿絲紡績の長綿紡績。梳綿機から得る一定の長さの平行した綿線紡績の類。せいめい(生面)(名) 新し方面。新生面。初めての面會。(對面)の對) せいめい(正面)(名) せいめい(正面)。せいめい(西面)(名) さいめん。一のぶし(四面武士)(名) 歴代後鳥羽天皇の時に假かれた院の警衛に任じた武士。せいめい(製麵)(名) 麵類を製造すること。一き(製麵機械)(名) 麵類を製造する機械。材料を自動的に混捏する機械。大體切切る麵帶機、更に薄く带状とする延機、之を線狀に切る切出機その懸架を掛ける掛器等の別がある。せいもう(靑)(名) 目はあいてゐながら、物の見えぬこと。あめくら。せいもう(世網)(名) 魚鳥などの網にかかれ

るに譬へていふ俗語のわづらひ。「こと。洗眼。せいもく(淨目聖目) しづかにせだまの目上たに記した九つ黒點。中央にある一點と、その點を上下左右に運する線上を五つ隔てた各一點、即ち四點と、其の四點より、その四點ある線上を五つ隔てた四點の各一點の合計九點。一圓表、技師の勝れた相手に向かふ時、豫め、前條の九點と各一石つづを隔置すること。一ふうりくつき(井目風鈴附目) 圓表で、技師のうりくつき相手に向かふ時、井目石をおいて尚足らない爲に、更にその四點の石の隅につけて放逐の目に、各一つづ石を加へて配置しておくこと。せいもく(稅目)(名) 「法」租稅の種目、即ち地租・所得稅營業稅などの類。せいもつ(濟物)(名) 納め濟す物の意。租稅。れせいもん(省問)(名) 父母の安否をうかがふこと。せいもん(聖問)(名) 孔子の教。靈數。せいもん(聖問)(名) 孔子のおたづね。せいもん(勢門)(名) 權勢ある家格。せいもん(聲門)(名) 生(聲)の聲帶の間にあはれる狭い間隙。安静時吸吐時には開張して三角形をなし、發聲時には狹く裂開となる。せいもん(聲問)(名) おとづね。音信。たより。せいもん(正問)(名) 正面の問。おもしろ。起請文。誓紙。一がため(誓文固)(名) 誓文をとりかへして、その徳言に違はぬことを約束すること。一くされ誓文(誓) 誓文の不用な程に。ちかて。斷じて。一じよう(誓文狀)(名) 誓約の旨を記した文書。一ばら(誓文拂) 陰曆十月二十日に、京都の商人遊女などが四條京橋の官舎殿冠者殿に、年中、商賣上の懸引に騙をついた罪を以て、神罰の救免を請ふ行事。此の日、日興商店は特に安値の賣出となす。せいや(清夜)(名) 夜氣清く静かな夜。夜氣清く

まわりかな夜。  
せいや 晴夜 (名) 空の晴れ渡った夜。  
せいや 静夜 (名) しづかな夜。  
せいや 星夜 (名) 星の光の明らかな夜。ほしよ。  
せいやく (制約) (名) ①物事の成立に必要なる規定又は条件。②一現象の妥當・存在・生起變化等を規定する。

せいやく (製薬) (名) 薬を製造すること。製造された薬類。①製薬師 (名) 薬を製造する人。  
せいやく (製薬者) (名) 製薬して販賣する人。

せいやく (精油) (名) 或種の植物の花・葉・果實・枝・幹・根等から採取し、之を精製した芳香油又は揮發性・典型の時に用い、區別された神聖な香油。  
せいやく (聖油) (名) 香油。キリスト教で、儀式・典禮の時に用い。

せいやく (清友) (名) 交情のよらかな友。  
せいやく (清遊) (名) ①単俗ならぬ風流のある遊。②遊興の欣遊。  
せいやく (清幽) (名) 俗塵を離れ、きよらかにしづかなこと。

せいやく (政友) (名) 政見の同じとむだち。政治の友。①かい (名) 政友會 (名) 政黨の一。伊藤博文が舊自由黨を中絶して明治三十三年九月組織した政黨。極端主義の特色を有する。  
せいやく (政本黨) (名) 政黨。床次竹二郎を總裁とし、大正十三年一月結成された政黨。昭和二年、憲政黨と合同して民政黨を組織、翌年民政黨を脱して大部分は政友會へ入黨した。

せいやく (贅疣) (名) ①ほの如き無用の肉。②無用のもの。無益のこと。  
せいやく (生油) (名) 化 (名) エチレン。  
せいやく (聲譽) (名) ほまれ。聲名。  
せいやく (盛譽) (名) さかんなほまれ。  
せいやく (世譽) (名) 世間のほまれ。  
せいやく (生業) (名) 生計。だてて養ふこと。  
せいやく (静養) (名) 心身をしづかにおちつけて病氣を療養すること。

せいやく (青島) (名) はる(魯)の異稱。  
せいやく (西洋) (名) ヨーロッパ及び南北アメリカの諸國。  
せいやく (西洋) (名) ①あんま 西洋按摩 (名) 西洋に發達した按摩。洋灸。②がた 西洋書 (名) 西洋モロッコで發達した繪畫。洋東洋油。水彩畫。捺筆畫。パステル畫の類。③がた 西洋家具 (名) 西洋風の家具。洋家具。④がた 西洋菓子 (名) 西洋から傳來し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。⑥がた 西洋 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。  
せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。



【刀 剃洋西】

洋種 (名) 西洋原産のものの種。①混血兒。あひのこ。②タバコ (西洋煙草) (名) 西洋から輸入した葉巻煙草。紙巻煙草。刺煙草。③てり化 (西洋手品) (名) 西洋風の手品。多く理化學を應用して行ふ。④てりめく (西洋手拭) (名) 設備性をとるとして、多数のわなを現した縫製の手拭。タオル。⑤てりめく (西洋紙) (名) 西洋風の製本。⑥てりめく (西洋風) (名) 西洋のものに似たさま。⑦てりめく (西洋風) (名) 西洋風の。⑧てりめく (西洋風) (名) 西洋風の。⑨てりめく (西洋風) (名) 西洋風の。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

せいやく (西洋) (名) 西洋より傳播し、又は西洋風に製した菓子。ワッフル・ビスケットの類。⑤がた 西洋風 (名) 西洋風の。鐵又は煉瓦で固く、煙突の後方に附けたもの。西洋へつ。

樂十三年、胡笳等が勳を著して、周子、張子、朱子等諸家の性理、氣の說を集録した書。七〇卷。

せりり(正理)(名) 正し、道理。

せりり(政理)(名) 政事を行ふこと。政治。

せりり(清吏)(名) 清廉な官吏。貪欲ならぬ官吏。

せりり(勢利)(名) 權勢と利益と。

せりり(稅吏)(名) 稅務を執る官吏。

せりり(精力)(名) 力。ほねなり。靈力。力量。

せりり(靜力學)(名) 理力の約含を論ずる力学。力と運動の關係を論ずる動力學と共に、ニュートンの力学の根柢を形成する。

せりり(正律)(名) 正し、規律。

せりり(聲律)(名) 音の調子。音律。音調。四聲の規則。

せりり(成立)(名) なり立つこと。成就すること。一じようけん(成立條件)(名) 成立に必要な條件。いよさん(成立豫算)(名) 豫算の協賛を経て成立した豫算。

せりり(稅率)(名) 租税を賦課する割合。課稅物件の單位に対する課稅の比率。

せりり(生理的)(名) 生理に關した。こーしんり(生理的心理学)(名) [心身] (Psychological reactions) 意識を生理的作用によって説明する心理学。いびん(生理的美人)(名) 骨節、筋肉等よく發達して容貌の美しきない婦人。

いぶんぎ(生理的分業)(名) [生] 生物體の各器官が、各特有の機能を發揮して活動を營み、その生物の生活を繼續發達させること。

せりり(省略算)(名) 多數の近似値を求めるとき、その誤差を豫定の範圍内に止めることを條件とし、計算の手段を簡略にする法。近似算。略算。

せりり(政略)(名) 政治上の策略。はげき(婚姻當事者の家長が、自己の利益の爲に、當事者たる男女の意思を度外視して、專權を以て子女を婚姻せしめること)。

せりり(星流)(名) [天] [星] 恒星の集團的運動。

せりり(清流)(名) 清い流れ。潔い。清い。無用の物。

せりり(養痾)(名) 養痾。無用の物。

せりり(整流機)(名) [電] [機] [機] 交流電氣を變じて直流とする機械。

せりり(精溜機)(名) [機] [機] [機] 蒸気に高い純度の蒸留物を得る爲の装置。

せりり(整流子)(名) [機] [機] [機] 整流電機や電動機同轉子の銅片の上の刷子。交流の電氣を外部に導いて直流とする作用をなすもの。轉向機。

せりり(精慮)(名) 心をこらしてしつかにすること。しつかにおつこと。

せりり(聖慮)(名) 天子のおかんがへ。叡慮。

せりり(聲量)(名) 音聲の分量。音量。

せりり(清涼)(名) 清く涼しいこと。

せりり(清涼)(名) きよくすすしいこと。

すい(清涼飲料水)(名) ラムネストロン。サイダーの如く清涼感を感じる飲料水。いおり(清涼織)(名) 婦人の夏の絹織帶地的一種。表面を絹子組織とし、他の組織を裏とし二重組織。いび(清涼飼)(名) 農畜を飼ふに、火力を用ひて室内の温度を調節し、自然の氣候に任ずること。(溫暖飼の對) いせい(清涼劑)(名) [薬] 氣もちをさわやかにすすしい清涼剤とする薬。

いせい(清涼散)(名) [薬] 前條と同じ。

いせい(清涼山)(名) 支那山西省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那江蘇省南京の城内にある名山。石頭山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

いせい(清涼山)(名) 支那四川省の東北部にある名山。五臺山の別名。

が、棲居寺境内の釋迦堂を一寺とし、清涼寺と稱する勅許を得たのに始まる。本尊は、實然が入宋の際、齎した釋迦如來。俗稱は釋迦堂。いち(清涼地)(名) 佛子すくすく清らかなる。西方淨土。

いせい(清涼殿)(名) 内裏の西の御所。御在所で、四方拜小拜拜位、除目、官奏等の公事を奉行ひ給うた所。近世は常御殿を以て常の御座所とし、清涼殿は儀式のみ用ひられた。仁壽殿の西、校書殿の北にある九間四間の建物。身舎は、南北五間、東西二間で重御座と稱し、御書、御香がある。東南隅は石炭灰で、毎朝神宮侍所以下御拜の所。その他、後御殿待所の戸、弘徽殿上御所、廣宣上御所、御湯殿上、御手水間、朝前間、養老所、鬼門殿上間等の御堂がある。

せりり(靑龍)(名) 靑色の龍。四神相應の地の一方、東方に配するもの。朱雀、玄武、白虎の對。いとうち(靑龍刀)(名) 刀の柄に靑龍の裝飾ある短刀。

せりり(西涼)(名) 唐支那の五胡十六國の。西晉の末、漢人李暠が今の甘肅省敦煌に都して建てた。二代二十二年(四〇〇—四二二)で北涼に滅ばされた。

せりり(精力主義)(名) [意] [主義] (Energyism) 道徳の最高標準たる至善に達するは、個人と社會とを完成するを要する。これを實現するものは各個人の實行に非ならないとする倫理說。

せりり(勢力)(名) 心身の能力又は元氣。

いせい(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。

せいり(勢力)(名) きよまはひ。威勢力。



(清涼殿)

いりく(支精力主義)。いはんい(勢力範圍)(名) (Sphere of Influence) 勢力の行なはる範圍。附近の土地を有効に占領した國が、將來の占領を以て、専ら留保した地帯。一保存(句) エネルギの保存。

せいり(制輪子)(名) [機] 車輛の制動力を爲に同轉せる車輪につけて、その同轉を制止する装置のもの。木製、鐵製、石製等がある。うるる。

せいり(生類)(名) 世のわづらひ。

せいり(世界)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

せいり(聲浪)(名) 世のわづらひ。

り自由に解放せられて存在し得る構構が、物體に宿るとの説。若しくは死者の魂魂が活動なすとの説。

せいれつ(西曆)〔名〕西洋の魂。キリストの誕生を紀元とする。實際はキリストの誕生は西暦紀元前四年であるを誤算したものと云ふ。

せいれつ(成列)〔名〕成し遂げた功業。

せいれつ(整列)〔名〕そろひならぶこと。そろへならはせること。ただしくならへること。

せいれつ(清列)〔名〕まよひやかなこと。

せいれん(聖登)〔名〕聖上のおめしぐる。風聲。

せいれん(清遠)〔名〕きよらかなまなみ。

せいれん(清塵)〔名〕心清くして無慾なこと。潔白。塵掃。

せいれん(精練)〔名〕動物繊維中の雜物を除去し、繊維の性質を發揮せしめて、完全な漂白及び染色をなす準備工程。①よれること。②よく練習せること。

せいれん(精練)〔名〕鑽石その他の原料に含有金属を抽出し精製すること。冶金。①よれりきたるること。②とりたて。

せいれん(稅收)〔名〕租税を徴収すること。租税。

せいれん(正路)〔名〕正しいみち。廣い道。大道。

せいれん(生路)〔名〕生存のみち。生活のみち。

せいれん(世路)〔名〕世わたりのみち。うらたりに。①浪り行く世の中。

せいれん(征路)〔名〕たび。征途。①うらら。②晴れてはがらかなこと。

せいれん(晴朗)〔名〕きよよほらかなこと。

せいれん(井樓)〔名〕並時代以前の職階。適宜の場所に組立て、人々登らせて、敵陣偵察の用に供した。望樓。

せいれん(背樓)〔名〕城樓。望樓。

せいれん(背樓)〔名〕背を渡した。からいふ。美人のある樓。①あやめ。



(井)

女部屋。貸座敷。遊女屋。妓樓。

せいろう(蒸籠)〔名〕釜の上に敷めて、糯米團子、饅頭、茶碗蒸などを蒸す器。木製の框があつて、底を貫し、湯氣を通して蒸す。角形と丸形とがある。

せいろう(蒸籠船)〔名〕軍船の一。荷船の上には木材を蒸籠のやうに積み上げて、その内から敵陣を窺ひ、又は矢を放つてゆくに用いたもの。

せいろうくみ(井籠組井樓組)〔名〕建木材を棟に重ね合せ、隅部に於いて、材を互に組み合せた建築構造。校倉の類。

せいろうくみ(費六)〔名〕主として江戸子か上方者を嘲るに用ふる語。さいりく。オチ。①奥語。

せいろん(正論)〔名〕世間一般の議論。せろん。

せいろん(政論)〔名〕政治上の議論。その時の政治に関する議論。

せいろん(贅論)〔名〕無用の議論。むだな議論。

せいわ(清和)〔名〕世の中のをまよておだやかなこと。①空が晴れて清らかにたまたたいた時節。春の時節。②陰曆四月の異稱。

せいわたんのら(清和天皇)〔名〕第五十六代天皇。御名は惟仁。文徳天皇の第四皇子。天皇に譲り、元暦三年御落飾、同四年洛東栗田山莊開堂等に崩御。寶算三十一。(五三)

せう(兄處)〔名〕勤をすの處。小さい處。(古語)

セヴァストポリ(Sewastopol)〔名〕地。ローバの南部。黒海に突出すクリミア半島にある島嶼。クリミア戦争の古戦場。ソヴエト聯邦に從属するクリミア自治共和国の首府。現在はアヒアル(Chania)と稱す。

ゼウス(Zeus)〔名〕ギリヤの宗教神話に於けるオウノボス十二神の一。ローマのユピテルに當り、ジュピターと知られる。クロノスとレアとの子。天空神。雷電神の外、政治、法律、道德その他社會生活の殆ど總べての部門の神とされる。

セーター(Sweater)〔名〕スウェーターの轉訛。スウェーター。

セーヌがわが(一河)〔名〕地(Senna R.)。フランス国パリ盆地の一大河。コルドールの西端に源を發し、ロヌス河・ロアン河等を合はせて、パリ市を貫き、イギリス海峡に注ぐ。全長七六四浬。流域面積七七八〇平方浬。

セーフ(Safe)〔名〕英形。①安全な。無事な。②競技用語。競技者がアクトを免れること。ーイン

セーフアイランド(Safety Island)〔名〕野島用語。生島。

セーフアイランド(Safety Island)〔名〕路上に設けられた安全地帯。安全島。

セーフティウィーク(Safety week)〔名〕あんぱんしょうかん(安通周)。

セーフティゾーン(Safety zone)〔名〕セーフティアイランドに同じ。

セーフティバント(Safety bunt)〔名〕野球用語。安全打と譯す。球にバットを軽く當つて内野に轉轉させ、その間に打者が一塁に生きたる打法。

セーフティレイザー(Safety razor)〔名〕あんぱんがそり(安全剃刀)。

セーブル(Sable)〔名〕動。黒黃鹿の毛。チンチラ種から生じた褐色の繊維。毛皮用種で、マーテン、セーブルサイア、セーブル等の種類がある。

ゼーマンこうか(效果)〔名〕理(Zeeman effect)強磁場を光源に作用せしめる時に放つ各スペクトル線が、多数の線に分解せられる現象。

セーラー(Sailor)〔名〕水夫。水夫。①水兵服。②水兵服の末裔。

セーリング(Sailing)〔名〕航海。帆船。航海。帆船。航海法。

セーリスウーマン(Saleswoman)〔名〕女販売人。女店員。

セーリスマン(Salesman)〔名〕販売人。店員。

セーロンとう(錫蘭島)〔名〕地(Ceylon

印度の南東にある島。イギリスの直接植民地。面積約六萬六千方浬。島の大部は山地であるが、地味肥え、茶、ゴム、寶石等を産す。首府はコロムボ。

せいお(背負)〔名〕背負。背負。背負。背負。

せいお(背負)〔名〕背負。背負。背負。背負。

せいお(背負)〔名〕背負。背負。背負。背負。

セオリー(Theory)〔名〕理論。學說。論じたる類の人。理論に明らる人。

セオリスト(Theorist)〔名〕理論偏重主義者。理論に類する人。理論に明らる人。

せかい(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。

せいか(世界)〔名〕World。①地球及び地球球上人類。②一切の事物の全體。有限なもの全體。③舊の所産的自然としての階級及び階級事業の全體。④吾等観中に現はれる超絶的要素の全體。⑤世の中。世間。俗世。⑥萬邦。⑦範圍。區域。⑧しき(世界意識)〔名〕世界を對象とする意識。⑨浮世。⑩うろ(宇宙開闢説)〔名〕舊のちかびくろん(宇宙開闢説)。





せきいん(借陰)(名)光陰の空しく過ぎるのを情しむこと。少しの間を惜しんでほげいこと。

せきいん(石印)(名)煙石などに彫刻した印。一ぼん(石印本)(名)煙石などに文字を刻んで印刷せきう(積雨)(名)連日降る雨。【した本】

せきう(積羽)(名)積り重れた羽。一舟を沈む(舟)(名)足取置儀の句羽のやうに軽いものも、多く積れば舟を沈めるやうになる。

せきうつ(積鬱)(名)うつうつとつづいてうたうしつづいて。連日、天気が晴れかでないこと。うつうつとつづいて。【つら】

せきうん(積雲)(名)地雲形の名稱。塊状で結まうた雲。おと夏の炎天に出る。雲の味つみくも。

せきえい(隻影)(名)一つのかけ。かたかけ。

せきえい(石英)(名)【矽】の結晶。鐘状又は柱状の結晶。玻璃光澤を有し、その純粋なものは無色透明で水晶と稱し、酸化鐵を含む紅黃褐色のものは鐵石英、酸化チタンを含むものを螢石、その他綠石英、乳石英等種類が多い。化学成分は無水酸から成る。その分布甚だ廣く、酸性火山岩では花崗岩及び流紋岩中に粒状となつて存在し、燧石作用を受けて崩壊する。河床や海岸に堆積し、高壓力を受けてと砂岩となる。又、水成岩の多くは石英から成る。【しや】

せきえい(石英砂)(名)【Silica sand】天然產は白時灰色乃至褐色で、その大部分は石英粒から成る砂。少量の長石、雲母、磁鐵等を混入する。之を水洗して純粋なものにし、硝子の製造原料、陶器の釉原料とする。【そめんが】

せきえい(石炭)(名)【Anthracite】非晶質石炭。【石炭】(名)【Anthracite】非晶質石炭。【石炭】(名)【Anthracite】非晶質石炭。【石炭】(名)【Anthracite】非晶質石炭。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

せきえい(赤衛軍)(名)【Red Guard】少量の鐵母や角閃石を含有する。

ロシアの革命政府が、防禦警衛の爲に設置した武裝せきえい(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

せきえん(石壁)(名)【壁】がらんえん岩壁。

通稱は志津三郎。美濃國養老郡志津山村の一人。正宗の門人。興永二年(二〇〇四)歿。年六十一。

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

せきがら(關ヶ原)(名)【關ヶ原】岐阜縣不破郡の町。伊吹山の東南麓に位し、東海道關ヶ原驛の所在地。昔は中山道、北國街道の分岐する交通上の重要な地點で、鈴鹿關、愛發關と共に不破關を此の地に置いて三關と稱し、京都防禦の外郭線の門戸とした。今、關址を存する。【徳川】

年八十六。大成算經「算法括要」の著がある。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。

せきこみ(急込)(名)【急込】せきこみ。



【當 石】



せきしん〔赤身〕(名) まるはたか。あかはたか。すはたか。

せきしん〔赤心〕(名) いはりのない心。まこと。いを推して人の腹中に置く(句) 後漢書の高紀に出づるにまことに置くを以てし。いさかひのたてなにおかぬにいふ。

せきしん〔尺進〕(名) 一尺進む。わづかの距離を進む。一尺進む。一ひる退く。

せきじん〔昔人〕(名) わかしの人。古人。せきじん〔昔人〕(名) 石で彫刻した人體像。支那で墓道に立て、我が國も古く、古墳の外に守護せざる意で立てられた。

せきじん〔精基〕(名) 名聲のまかに世にひらまると。感にうはせせられた。しんじん。

せきすい〔積水〕(名) あつまりたたへた水。青山・青海などの形容。水。海。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきすい〔積雪〕(名) ふりつりした雪。わづかの水。積雪。

せきずる〔關故〕(名) 軍陣で用いた故の種。故に關を巻き、之に漆を塗ったの。伊勢國岡町から産した。

せきすい〔寸寸〕(名) わづかばかり。すこし。いなき心。ありのままで眞實なること。

せきせい〔寂靜〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきせき〔寂寂〕(名) しづかなこと。靜寂。目録科の小鳥。春青鸚鵡(名) 動社牘類合羽に黒點り、類には青色の點斑一對を有する。腰・胸腹は綠色で、尾の中央の二枚は藍色を帯ぶ。飼育が簡單であるため一般に飼養され、多くの種から。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきそら〔積送〕(名) 積んで送ること。一ひん(積送品) つみおくりひん。製のやり。

せきたい〔石臺〕(名) 石つゝの臺。石(箱籠)。

せきたい〔席代〕(名) 席料。せきこじ。

せきたぐる〔自動〕(名) 自動、ラ四。せきあげる。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。

せきたつ〔急立つ〕(名) 自動、夕四。いそあせ。



〔ろぞきせ〕



〔帶石〕

すれば水池を生じ、内服すれば毒性を現す。殺菌力強きを以て、通常五十倍位の水に溶解したものを防腐劑又は消毒劑として使用する。―タール(石灰)層(名)〔瀧澤〕と云ふ。―タール(石灰)層(名)〔瀧澤〕と云ふ。―タール(石灰)層(名)〔瀧澤〕と云ふ。

せきち(赤地) 名 作物の收穫のない土地。不毛せきち(瘠地) 名 草木の莖分の少ない土地。やせせきち(石地) 名 石の多い土地。いしち。せきちち(石地) 名 わづかな土地。尺土。寸土。せきちち(尺地) 名 植支那産の石竹科の多年生植物。葉は鋭形、高さ二〇センチ内外。葉は野生し、抜針線形で、銳頭全邊無柄。五月頃、茎頂枝端に紅色白色又は緑色で、線邊の齒牙狀に網鑿する五瓣花を單生又は簇生する。からなでし。

せきちちゅう(脊柱) 名 生人類及び高等動物の軀幹の支柱をなす骨髄。上下三十二乃至三十五の椎骨の連鎖より成り、之を七箇の頭椎、十二箇の胸椎、四箇の腰椎、五箇の高椎及び三乃至五箇の尾椎に區分す。―こらわん(脊柱後彎) 名 〔醫〕脊柱が彎曲して後方に突出せる病症。せむしの類。

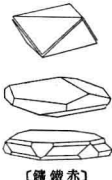


〔う〕ちきせ

せきちよ(積儲) 名 つみたたくはへること。蓄積。せきちよ(尺格) 名 手紙。書狀。せきちよ(尺書) 名 せきちよ(尺書) 名 手紙。書狀。せきちよ(尺書) 名 せきちよ(尺書) 名 手紙。書狀。せきちよ(尺書) 名 せきちよ(尺書) 名 手紙。書狀。

圍に膿瘍を形成し、皮膚を破つて外方に膿汁を排洩する。―カリエズ(脊椎動物) 名 動物動物中最盛の一門をなすもので、脊柱を身體の中軸として體軀を支持する動物。體は左右相稱體制は、頭、頸、尾、四肢で覆つたものもある。頸中には、頭、頸、尾、四肢で覆つたものもある。頸中には、頭、頸、尾、四肢で覆つたものもある。

せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。



〔鐵礦赤〕

せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。せきて(關手) 名 せきせき(關鎖)。

に輝つて塔を建て、牛塔、猪牛塔、迦葉塔と稱した。せきて(釋迦寶鬘) 名 (禮記玉制の釋迦寶鬘) 名 (禮記玉制の釋迦寶鬘) 名 (禮記玉制の釋迦寶鬘)。

せきて(赤土) 名 酸化鐵の鑛物質を多量に含む赤色の土壤。植物がこの鑛物質に害される爲に耕作には適しない。あかつち。

せきて(赤土) 名 酸化鐵の鑛物質を多量に含む赤色の土壤。植物がこの鑛物質に害される爲に耕作には適しない。あかつち。

球上にて、地磁氣の鉛直成分の零なる點を連ねて得たる曲。曲りつた線。且よく變動する。―赤緯儀(名)〔儀〕赤緯儀(名)〔儀〕赤緯儀(名)〔儀〕。



〔儀赤〕

せきてん(積田) 名 支部の古宮。宗廟の祭服用の穀物を君主親耕作せられた儀式。我が國にも行はれたことがあった。

せきてん(積田) 名 支部の古宮。宗廟の祭服用の穀物を君主親耕作せられた儀式。我が國にも行はれたことがあった。





その宿に何某が泊ると記した札。

せきぶつ(石佛)石材で彫刻した佛像。いし

せきぶね(赤流石)赤色の流石。流石

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきふん(積憤)石積み。積憤。古世界の動物

せきほん(夕梵)佛塔の修行。打鳴り鐘の音。

せきま(席末)席の末。末席。一を汚す。

せきま(責務)責任と義務。せめ。つとめ。

せきむ(昔夢)むかしのゆめ。返。古語。

せきむかえ(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきめん(赤面)恥て顔をあからる。返。

せきやま(關山)關所と山。關所のある山路。

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油

せきやち(石油)石油。Rock-oil, Petroleum。各種炭化水素の混合物。その成分に就ては、炭灰や油



〔ろんこひきせ〕

乳劑(名)化石油に石鹼と水を加へ攪拌又は

振盪して乳劑として用ひる。植物の害蟲除や不潔

な場所の消毒劑として用ひられる。一はせつら

せき(石油發動機)名)機)Petrol motor石油

機)一ベンタン石油)名)Petroleum

機)石油揮發油の一種。ガソリンを六〇―八

〇度の温度で蒸溜して得た無色快香の液。創傷面の

消毒の毒疹や毛虱等の驅除に用ひられる。一ラ

ンブ石油洋燈)名)石油を燃料

とするランプ。金銀若しくは硝子製の

油容器口金物。ほやや笠

等よりなり、容器

を破せしめて油

を吸せしめてその先端に點火

し、適宜なる通風を與へて燃焼發光せし

めるもの。

せきゆう(昔遊)むかしあそびだ。こも

せきゆう(夕陽)ゆふひ。いりひ。夕日。

せきゆう(施行)うへる様。うへへ。顧

せきゆう(取容)うへる様。うへへ。顧

せきゆう(修行)僧侶貧民などに物を

與へ善根功徳に充てること。命令をほどこし

行ふこと。室町時代に、管領から守護へ與へた命

令を「施行書」名)勅旨院宣などを承

り、下に命令を執行した文書。一ぶら施行風

呂(名)くも(功徳風呂)一まい施行風

米(名)ほどここの米。

せきよう(世業)名)代たつてきた。た生業。

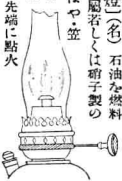
せきよう(雙翼)名)片方のつばさ。一つの翼。

せきら(赤裸)名)まるはだか。一つみかく

せきら(赤裸)名)まるはだか。一つみかく

せきら(赤裸)名)まるはだか。一つみかく

せきら(赤裸)名)まるはだか。一つみかく



〔アンラひきせ〕











【名】(塊) 炭酸石灰等の一類。白色緻密の粒状の集合塊で、岩壁石灰岩等に伴うて層をなす。良質のものには裝飾用彫刻材として使用する。「むこ」。せつか【折花】(名) 花を折ると。◎女色を樂しむ。せつか【絶佳】(名) すてくてよいこと。すてくて美しむ。せつか【百福】(名) 護者の舌端から受けるわざはひ。◎演説演説などの内容を、法律や禁令に觸れて受けるわざはひ。

せつかい【石階】(名) 石造の階段。いしだん。せつかい【石地】(名) 石のかたまり。いしじょう。せつかい【切閉】(名) きりりんと。せつかい【切閉】(名) きりりとくんと。◎醫師が疾病治療の目的で、患部の皮膚組織器官等を外科刀で切つて解剖すること。

せつかい【脱戒】(名) 佛戒律を脱ぎ聞かせる。せつかい【石灰】(名) 化(名) 石灰。石灰石。白堊又は貝殻を焼焼して得る生石灰及び之を水和して得る消石灰。◎炭酸カルシウム。一えき【石灰液】(名) 化(名) せいかい。一か【石灰華】(名) 化(名) せいかい。石灰質の水溶液から沈澱した炭酸石灰。一か【石灰漿】(名) 地(名) せいかい。Cement paste。炭酸石灰が、土灰の表面に析出されて生じた堅硬な皮膜。一か【石灰岩】(名) 地(名) せいかい。Carbonaceous limestone。炭酸石灰即ち方解石の集合から成る水成岩。その色は酸化鐵や酸化錳を含めたり赤色或は赤褐色、有機物や炭素を含まねば暗色、粘土を含めば褐色、黄鐵錳の粉末を含めば、藍色となる。建築用材又は石灰及びセメント製造の原料に供せられる。

一か【石灰】(名) 灰(名) せいかい。Lime。meum carbonate。石灰水胡麻油を等分に混合した白色の液。火傷、皮膚粘膜炎の薬劑に塗布する。一か【石灰珊瑚】(名) 動物珊瑚群體の分泌した石灰質の骨體。一す【石灰水】(名) 化(名) せいかい。Quia calcium。石灰を溶かした水。無色透明の液。強アルカリ性反應を呈し、大氣に觸れれば煮沸すれば濁る。消毒殺菌劑。又、嘔吐下痢ジフテリ

ヤ等に内用し、咽喉炎患の含嗽料、火傷の療法材料とする。一せ【石灰筭】(名) 地(名) せいかい。Dolomite。石灰岩地方に生ずる環狀鉄の凹所。石灰岩が水に溶解する爲に生ずる。一せ【石灰石】(名) 地(名) せいかい。がんと。一そ【石灰層】(名) 地(名) せいかい。炭酸石灰が析出し沈澱して生ずる地層。灰白色になつて硬く厚さ一米位あり。一ち【石灰室素】(名) 化(名) せいかい。Carbonic calcium。イトを千度に加熱し、窒素瓦斯を通じて遊離窒素を固定せしめて得たカルシウム・シヤナリド。炭素を混合物、火藥肥料等の原料に供せられる。一ど【石灰土】(名) 地(名) せいかい。多量に含有する土壤。一と【石灰洞】(名) 地(名) せいかい。Cave。Cave。石灰一分に十分の水に溶解し、白色泥状の液。消毒水として、汚汚水便所等に撒布する。一ひ【石灰肥料】(名) 農(名) せいかい。肥料として施す石灰。一モ【石灰】(名) 化(名) せいかい。石灰。硝石灰に砂を加へ、水で攪れ合はせ作つた一種の塗料。

せつかい【切趾】(名) 指趾の内側などついでたのなすり落す。形、飯杓子に擬になつしやうなもの。◎縁計な世話をやくこと。おせ。せつかい【節指】(名) 節(名) せいかい。節(名) せいかい。人を殺すこと。せつかい【絶地】(名) 地(名) せいかい。海を横切る海。

せつかい【絶淫】(名) せりりした。たやうと變えた。せつかい【刺客】(名) せりりした。せつかい【尺樓】(名) せりりした。せつかい【石槌】(名) せりりした。せつかい【石槌】(名) せりりした。せつかい【石槌】(名) せりりした。せつかい【石槌】(名) せりりした。

せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。

せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。

せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。

せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。

せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。せつかい【接角】(名) せりりした。

三線が一點に會する時、中線の、各外線となす二つの角。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。せつかい【折角】(名) せりりした。

て噴水せず、普通袖を用ひない不透明な陶器の相馬  
焼萬古焼常滑焼の類。

せつき(節季)(名)類節。とも。なり。

せつき(節季)(名)除曆十二月の稱。歳末。○盆  
と十二月と。又、數月若しくは一ヶ月の期定期一

つ(え)に(節季聲)名。おちつきのない聲。忙し  
口なきさまにいふ。ーじま(節季)名。節季仕

經(名)節季の結定。ーぞろ(節季)名。節季  
せつき。

せつき(節氣)(名)氣候の分れ目を示す標準點で、  
太陽照構成上重要な要素。小寒・大寒・立春・雨水・啓

春・清明・穀雨・立夏・小滿・芒種・夏至・小暑・大  
暑・立秋・處暑・白露・秋分・寒露・霜降・立冬・小雪・大

雪・冬至の二十四節氣がある。

せつき(殺鬼)(名)人を殺し、物をほろぼす恐しい  
せつき(剝鬼)(名)おに。羅刹。羅刹。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(節季)(名)類節。とも。なり。

せつき(節季)(名)除曆十二月の稱。歳末。○盆  
と十二月と。又、數月若しくは一ヶ月の期定期一

つ(え)に(節季聲)名。おちつきのない聲。忙し  
口なきさまにいふ。ーじま(節季)名。節季仕

經(名)節季の結定。ーぞろ(節季)名。節季  
せつき。

せつき(節氣)(名)氣候の分れ目を示す標準點で、  
太陽照構成上重要な要素。小寒・大寒・立春・雨水・啓

春・清明・穀雨・立夏・小滿・芒種・夏至・小暑・大  
暑・立秋・處暑・白露・秋分・寒露・霜降・立冬・小雪・大

雪・冬至の二十四節氣がある。

せつき(殺鬼)(名)人を殺し、物をほろぼす恐しい  
せつき(剝鬼)(名)おに。羅刹。羅刹。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

せつき(剝鬼)(名)白くきれいな皮。

うろ(人)實證論。ーめいじ(積極名辭)(名)  
【論】(Positive term) 或性質の存在を示す名辭。ー  
だい(「積極命題」)(名)【論】「うていめい  
だい」肯定命題。

せつきよく(折曲)(名)なれまがること。をりま  
せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

せつき(「接近」)(名)ちかづくこと。ちかづく

家柄。鎌倉時代より、藤原氏の近衛・九條二條二條二條  
鷹司の五家を五攝家といふ。清和天皇の時、外祖父  
藤原良房が攝政となり、子孫継之を繼ぎ、光孝天皇の  
朝、基経が関白となり、之を始めて、一もん

せつき(攝家門跡)(名)「佛門跡の一。攝家の子  
弟の入室した門跡。即ち大覺寺・三寶院の類。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。

せつき(攝家)(名)佛が家の攝經。せつき。